西尾市

男女共同参画に関する意識調査

【調査結果報告書】

令和5年3月

西　尾　市

目　次

Ⅰ　調査の概要 1
　1　調査の目的 2
　2　調査の実施概要 2
　3　報告書の見方 3

Ⅱ　調査の概要 5
　1　男女の地位について 6
　2　職場について 6
　3　家庭や地域生活について 7
　4　配偶者や恋人からの暴力について 8
　5　男女共同参画全般について 9

Ⅲ　市民意識調査 11
　1　回答者の属性について 12
　2　男女の平等感に関する意識について 19
　3　職業・職場環境について 23
　4　家庭生活について 35
　5　地域活動について 43
　6　防災・災害時対策について 48
　7　配偶者や恋人からの暴力について 50
　8　困難を抱える女性の支援について 54
　9　ＬＧＢＴＱ等（性的少数者）について 55
　10　男女共同参画全般について 57

Ⅳ　企業調査 65
　1　調査企業の概要について 66
　2　育児や介護に関する制度について 69
　3　女性従業員の活躍促進について 72
　4　男女共同参画全般について 76
　5　防災や災害対策について 81

Ⅴ　若年者調査 83
　1　回答者の属性について 84
　2　男女の平等感に関する意識について 85
　3　将来の働き方について 86
　4　家庭生活について 94
　5　交際相手からの暴力について 101
　6　男女共同参画全般について 106
　7　将来について 109

Ⅵ　西尾市職員意識調査 111
1　回答者の属性について 112
2　職場環境について 116
3　家庭生活について 127
4　配偶者や恋人からの暴力について 130
5　男女共同参画全般について 133

Ⅶ　年齢別比較（参考） 141
1　男女の地位に関する意識について 142
2　職業・職場環境について 150
3　家庭生活について 151
4　配偶者や恋人からの暴力について 156
5　男女共同参画全般について 157

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

本調査は、「第３次西尾市男女共同参画プラン」を策定するにあたり、西尾市民や西尾市内で事業を行う企業、中学生・高校生、市役所職員の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的として実施しました。

２　調査の実施概要

（1）調査の種類と実施概要

区分	対象	実施期間	実施方法
市民	無作為に抽出した市民	令和４年 11 月 14 日から 11 月 28 日	郵送配布、郵送・ＷＥＢによる回収
企業	市内のファミリー・フレンドリー企業※1、または、女性の活躍促進宣言※2を行っている企業	令和４年 11 月 14 日から 11 月 28 日	郵送配布、郵送回収
若年者	市内の中学校及び高等学校に通う生徒　※協力依頼校	令和４年 11 月 11 日から 11 月 30 日	学校を通じた配布・回収
職員	西尾市役所の職員 （医療職、再任用職員、派遣職員、出張・休職中で調査期間中に不在の職員は対象外）	令和４年 11 月 21 日から 12 月 1 日	あいち電子申請・届出システムを利用し実施

※１　ファミリー・フレンドリー企業…男女ともに仕事と家庭の両立ができる様々な制度と職場環境を持つ企業
※２　女性の活躍促進宣言…県が募集する、女性の活躍促進に向けた取組を表明する「宣言」を提出した企業

（2）回収結果

区分		配布数	有効回収数	回収率
市民		3,000	998	33.2%
企業		20	12	60.0%
若年者	中学生	211	211	100.0%
	高校生	257	257	100.0%
職員		1,129	743	65.8%

３　報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。したがって、各選択肢の％に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できます。

●「％」について

グラフ中の「％」は、小数点第２位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（１つだけに○をつけるもの）であっても、合計が 100％にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

・西尾市平成 29 年度実施「男女共同参画意識に関する市民意識調査」
・西尾市平成 29 年度実施「男女共同参画意識に関する事業所調査」
・内閣府令和元年９月実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

Ⅱ　調査の概要

１ 男女の地位について

（１）男女の地位の平等感

市民意識調査、若年者調査では、各分野の優遇感、平等感について、「平等」だと感じる割合は、最も高い分野は「学校教育の場」となっています。若年者調査では、これに加えて「地域活動の場」「家庭生活」でも「平等」の割合が高くなっています。

なお、『男性優遇』が高い分野は、市民意識調査では、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体として」「職場」「家庭生活」となっており、多くの分野で男性が優遇されていると感じられていることがわかります。特に、男性よりも女性でその傾向が強くなっています。若年者調査では、すべての項目で市民意識調査より『男性優遇』の割合が低く、『平等』が高くなっていますが、「選挙や議会などの政治の場」では、中高生いずれも『男性優遇』が 30%を超えて高くなっています。これらは、中高生にとって直接関わるものではないことから、社会環境全体から感じ取っている印象であると考えられます。

また、市民意識調査で平成 29 年度調査と比較すると、すべての分野で『男性優遇』の割合がやや増加しています。特に「政治の場」では、『男性優遇』の割合が 10 ポイント以上増加しています。

２ 職場について

（１）育児休業・介護休業等について

市民意識調査では、育児休業・介護休業等の実際の取得状況いついて、育児休業、子の看護休暇、介護休業、介護休暇のすべてで「取ったことがある」割合が平成 29 年度調査と比較して高くなっていますが、介護休業や介護休暇は１割にも満たない状況です。企業調査における従業員の育児休業の取得状況をみると、女性では 100.0%が取得していますが、男性では 6.7%にとどまっており、平成 29 年度調査と比較して大きな変化はみられません。

市民意識調査では、育児休業等を取得できなかった理由について、「職場に休める雰囲気がないから」「法制度が整っていないから」の割合が高くなっています。また、女性に比べて男性で「職場に休める雰囲気がないから」「経済的に苦しくなるから」の割合が高くなっています。一方で、企業調査では、男性の育児休暇等の取得についての考えについて、「どちらかといえば取得することに賛成」「取得することに賛成」が合わせて 75.0%となっています。従業員自身にとって制度がまだ十分に使いやすい状況にはなっていないことがうかがえます。

（２）女性の働き方について

市民意識調査では、女性が職業を持つことについて、「子どもができても、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」『就労継続型』が 46.5%、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」『再就職型』が 23.2%となっています。平成 29 年度調査と比較すると、『再就職型』が 9.9 ポイント減少、『就労継続型』が 11.3 ポイント増加しており、『就労継続型』を支持する人が増えていることがうかがえます。

企業調査では、女性従業員の働き方として、「育児休業などを活用して仕事を続ける」割合が 58.3%と最も高くなっています。実態としても結婚や妊娠・出産に関わらず継続して働く女性が多いことが

わかります。

若年者調査では、将来的に共働きをすることへの考えについて、「共働きをしたい」が中学生の女性で53.1%、高校生の女性で57.7%となっており、多くの女子生徒が結婚等に関わらず仕事を継続する意向を持っています。しかし、同調査における仕事をする場合に希望する形態をみると、男性が中学生・高校生ともに「正社員になって定年まで同じ会社で勤め上げる」働き方を希望しているのに対し、女性では中学生・高校生ともに「結婚や子育てなど、自分のライフスタイルに応じて働き方を変えていく」割合が最も高くなっており、将来的な希望において、性別による役割分担意識が影響を及ぼしていることが推測されます。

（３）女性の管理職の登用について

市民意識調査では、管理職以上に昇進することへの希望について、女性で「望む」が14.2%、「望まない」が43.2%となっており、男性と比べて「望む」が17.6ポイント低くなっています。若年者調査では、将来の昇進への希望について、男性と比べて女性で「がんばってできるだけ昇進したい」割合が低くなっており、特に中学生で約30ポイントと大きな差がみられます。女性の方が昇進することに対して消極的であることがうかがえます。

また、市民意識調査では、管理職以上に昇進することのイメージについて、男女ともに「責任が重くなる」の割合が最も高くなっています。男女別でみると、男性と比べて女性で「仕事と家庭生活の両立が困難になる」の割合が特に高くなっています。

一方で、企業調査では、今後の女性の管理職への登用について「積極的に登用していきたい」が16.7%、「できるだけ登用していきたい」が75.0%と、合わせて91.7%が女性の管理職登用に前向きな意向を見せています。

３ 家庭や地域生活について

（１）固定的役割分担意識について

市民意識調査、若年者調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという」考え方について、『反対派』が『賛成派』を上回っています。特に高校生では『反対派』が約６割と高くなっています。なお、男女別でみると、中学生では、男性と比べて女性で『賛成派』の割合が高くなっていますが、高校生、市民では、『反対派』の割合が高くなっており、特に市民意識調査で男女の意識の差が大きくなっています。

また、市民意識調査で平成29年度調査と比較すると、『反対派』が増加しており、固定的な性別役割分担に関する意識は改善されていることがうかがえます。

（２）仕事と家庭生活との両立について

市民意識調査では、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間について、男性と比べて女性で「３時間～５時間未満」以上の区分で割合が高くなっています。

生活の中で実際に優先しているものと、理想として優先したいものの乖離をみると、希望していても優先できていないものは、女性で「個人の生活」、男性で「家庭生活」「個人の生活」となっています。特に男性で、仕事に偏重した生活バランスになり、家庭を優先できていない状況にあることがうかが

えます。

若年者調査では、希望する生活のバランスについて、中学生、高校生の男女いずれも「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」とする割合が最も高くなっています。

（３）地域活動について

市民意識調査では、町内会・自治会の活動で役員になることについて、「どちらかといえば、なりたくない」「なりたくない」が合わせて 90.3%となっており、希望者が非常に少ない状況となっています。役員になりたくない理由は、女性で「人間関係がわずらわしい」、男性で「仕事が忙しい」が最も高くなっています。

地域活動の役員など意思決定の場に女性が参画することについての考えでは、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」合わせて 77.6%がその必要性を感じています。その割合は男性でより高くなっています。女性が参画するための方法については、「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が男女ともに最も高くなっています。

（４）防災・災害対策について

市民意識調査では、地域の防災活動における女性の参画状況について、『参画している』が 36.4%、『参画していない』が 33.3%と、二分しています。平成 29 年度調査と比較して大きな変化はみられず、女性の参画が推進されていないことがうかがえます。

企業調査では、防災・災害時対策を行う担当・組織を持つ企業は 58.3%であり、そのうちの男女比は男性 90.6%、女性 9.4%と、男性の割合が高くなっています。

４ 配偶者や恋人からの暴力について

（１）相談窓口について

市民意識調査では、配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度は 46.5%となっており、平成 29 年度調査と比較して大きな変化はみられません。また、若年者調査では、高校生では認知度が 21.0%にとどまっており、相談窓口についてのさらなる周知が必要であると言えます。

（２）被害の状況について

市民意識調査では、配偶者や恋人から暴力を受けた経験の有無について、すべての暴力のうち、精神的暴力を受けた割合が、女性で 32.7%、男性で 19.1%と、ともに最も高くなっています。また、若年者調査では、高校生の交際相手からの暴力を受けた経験では、「友人との付き合いを制限されたり、電話やメールをチェックされたりした」で女性が 16.6%、男性が 12.3%と、ともに最も高くなっています。

市民意識調査では、暴力を受けた際の対応として、「誰にも相談しなかった」が女性で 42.7%、男性で 68.8%と高くなっており、被害が潜在化しているおそれがあります。相談しなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高く、被害を受けた認識が薄いことがうかがえます。また、女性では「相談しても無駄だと思った」の割合が最も高くなっています。

５ 男女共同参画全般について

（１）男女共同参画の認知度や推進状況について

市民意識調査では、男女共同参画という言葉の認知度について、「言葉の意味を知っていた」が 32.5%となっており、平成 29 年度調査と比較して 4.3 ポイントの増加となっています。

この５年の男女共同参画の推進状況に対する評価は、『進んだ』が 19.8%、『進んでいない』が 37.7%となっています。平成 29 年度調査と比較して大きな変化はみられず、推進されている実感は少ない状況です。なお、男女別でみると、女性で男性と比べて『進んだ』が 8.5 ポイント低くなっています。また、「わからない」とする割合が 46.7%と最も高くなっており、男女共同参画そのものについて認識していない人が多いことが推測されます。

若年者調査で、男女共同参画についての学習状況をみると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）に関すること」について中学生の 52.1%、高校生の 69.6%が学んでおり、中学生、高校生ともに「学校の授業で学習した」割合が最も高くなっています。また、男女共同参画について学んだ機会として、中学生では「テレビやインターネットなどを通じて情報を得た」割合が 54.2%と高くなっています。

（２）用語の認知度について

市民意識調査における男女共同参画社会に関する用語の認知度では、「ドメスティック・バイオレンス」「ジェンダー（社会的性別）に関すること」「男女雇用機会均等法」では 70%を超えて高くなっています。平成 29 年度調査と比較比較すると、「ジェンダー（社会的性別）」「ＬＧＢＴＱ等（性的少数者）」で 30 ポイント以上の増加がみられ、認知度が高まっています。

若年者調査では、中学生で「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」、高校生で「男女雇用機会均等法」の認知度がそれぞれ最も高くなっています

（３）役割について

市民意識調査では、男女共同参画社会を実現するための市民の役割について、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が最も高く、男性の家庭生活への参画促進などが引き続き求められています。

企業の役割について、市民意識調査では、「育児休暇や介護休暇を取得しやすい職場環境をつくる」、企業調査では、「研修や能力開発の機会を充実する」がそれぞれ最も高くなっています。企業調査では、次いで「育児休暇や介護休暇を取得しやすい職場環境をつくる」「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が高くなっており、制度利用の気運醸成や女性の再就職支援等が求められています。

西尾市の役割について、市民意識調査では、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が最も高くなっており、男女の仕事と家庭生活の両立を支援するための環境整備などが求められています。企業調査においても、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が最も高く、市民と企業、両方からニーズが高い事項となっています。また、企業調査では、同率で「審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する」が高くなっており、方針決定過程への女性の参画が求められています。

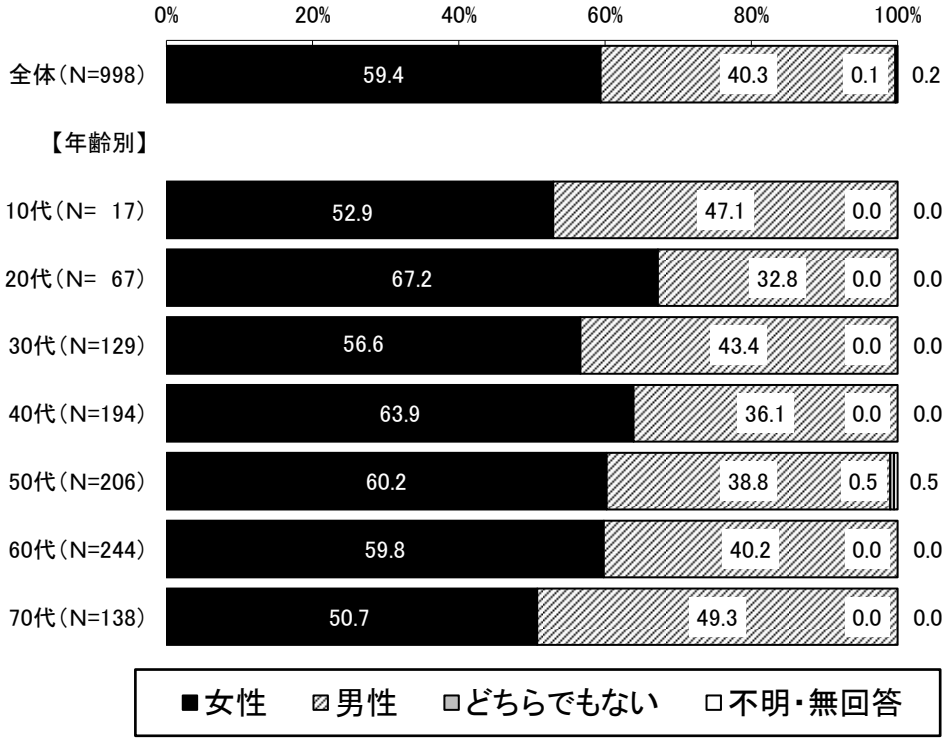
Ⅲ　市民意識調査

1　回答者の属性について

（1）回答者の状況

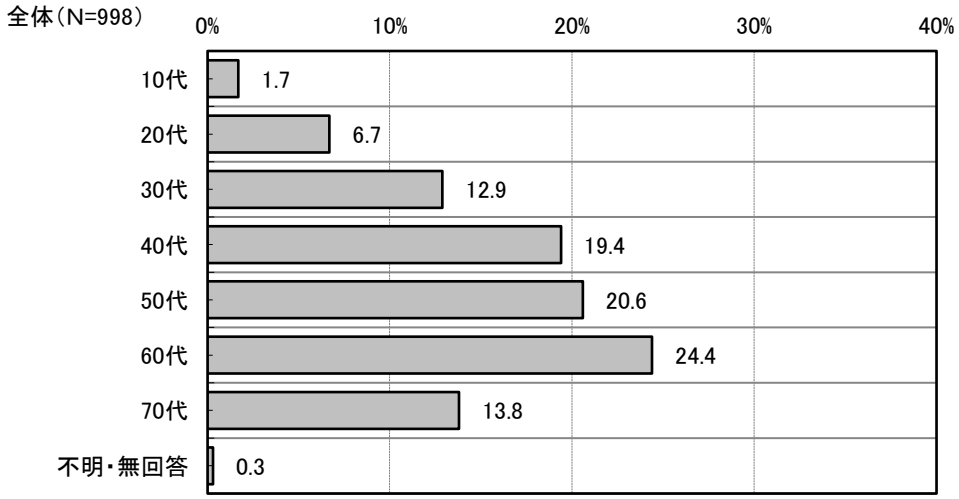
① 性別（単数回答） ※自認する性で回答

回答者の性別は、全体では「女性」が 59.4%、「男性」が 40.3%となっています。



② 年齢（単数回答）

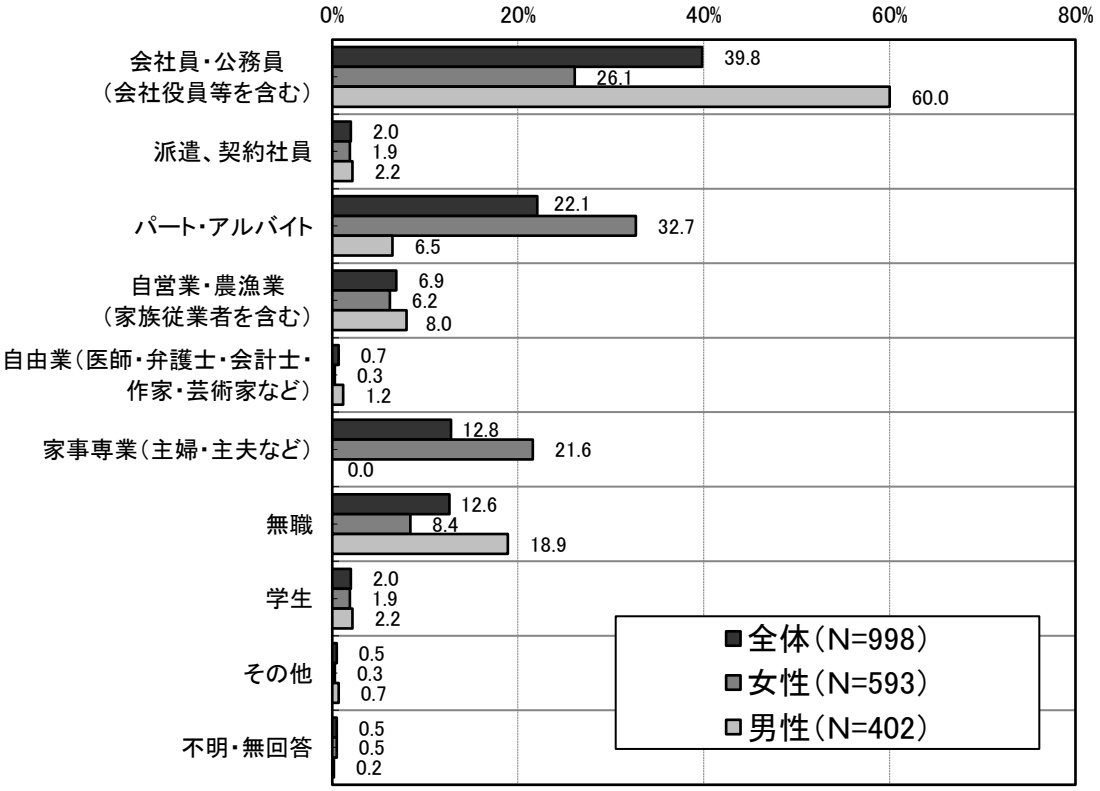
回答者の年齢は、「60 代」が 24.4%と最も高く、次いで「50 代」が 20.6%、「40 代」が 19.4%となっています。



③ 職業（単数回答）

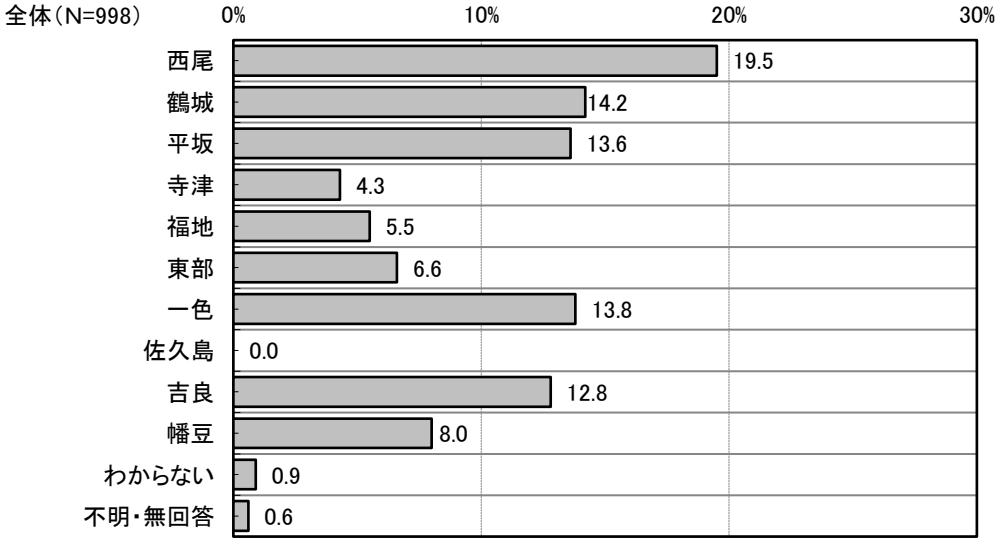
回答者の職業は、全体では「会社員・公務員（会社役員等を含む）」が 39.8%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 22.1%、「家事専業（主婦・主夫など）」が 12.8%となっています。

性別でみると、女性で「パート・アルバイト」が 32.7%、男性で「会社員・公務員（会社役員等を含む）」が 60.0%と最も高くなっています。



④ お住まいの中学校区（単数回答）

回答者が住んでいる中学校区は、以下のようになっています。



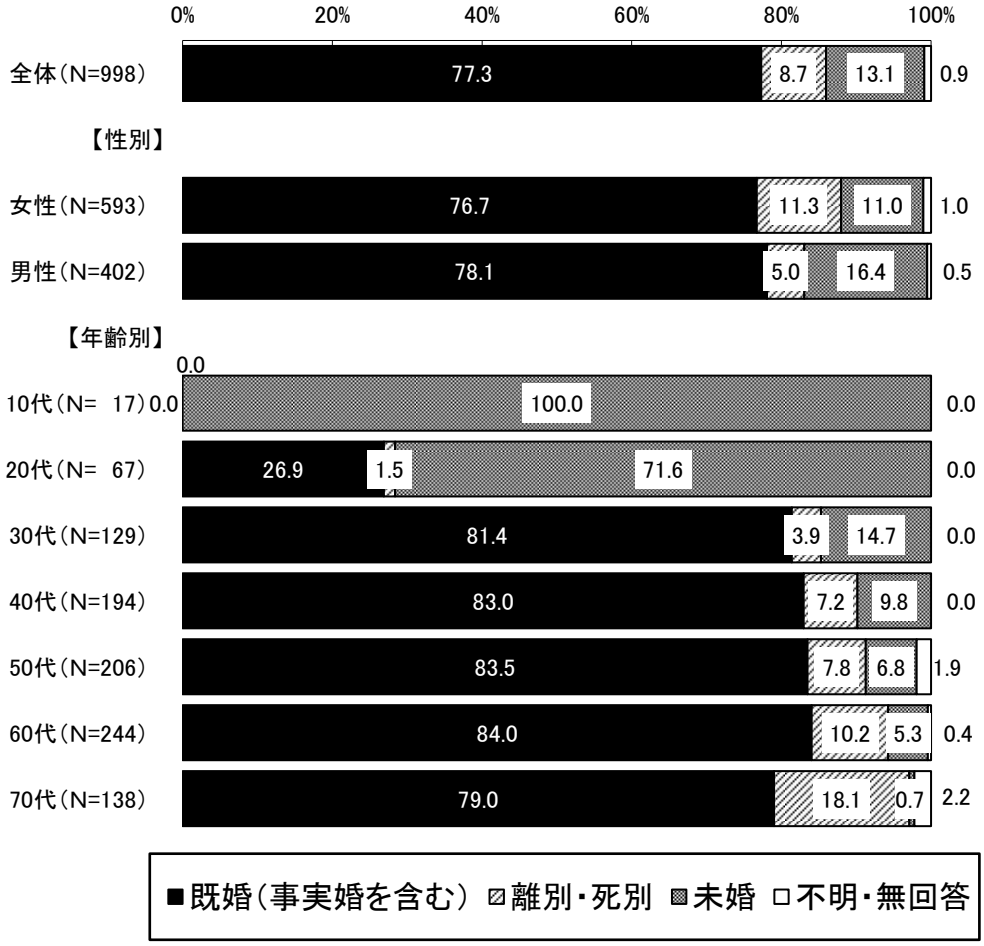
（2）婚姻・家族の状況

① 婚姻状況（単数回答）

婚姻状況は、全体では「既婚（事実婚を含む）」が 77.3％と最も高く、次いで「未婚」が 13.1％、「離別・死別」が 8.7％となっています。

性別でみると、「既婚（事実婚を含む）」が女性で 76.7％、、男性で 78.1％と最も高くなっています。

年齢別でみると、10 代から 20 代は「未婚」が、30 代以上は「既婚」が最も高くなっています。

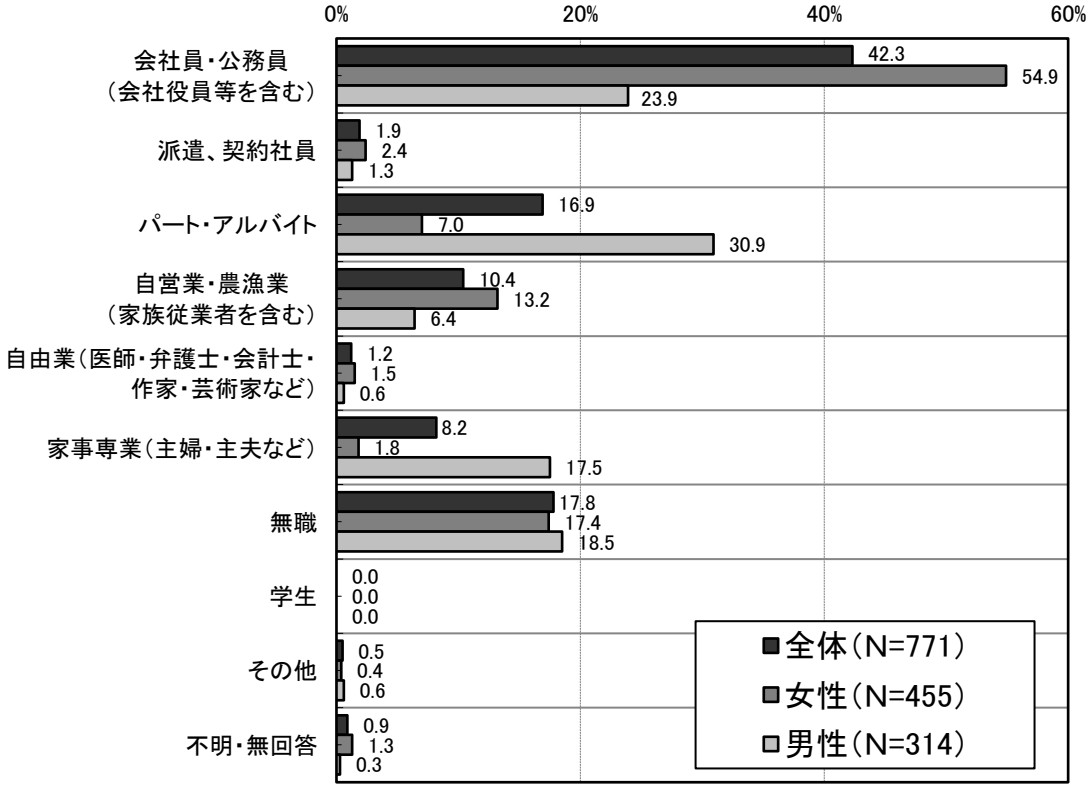


＜既婚（事実婚を含む）の方のみへの質問＞

② 配偶者・パートナーの職業（単数回答）

配偶者・パートナーの職業は、全体では「会社員・公務員（会社役員等を含む）」が 42.3％と最も高く、次いで「無職」が 17.8％、「パート・アルバイト」が 16.9％となっています。

性別でみると、女性で「会社員・公務員（会社役員等を含む）」が 54.9％、男性で「パート・アルバイト」が 30.9％と最も高くなっています。

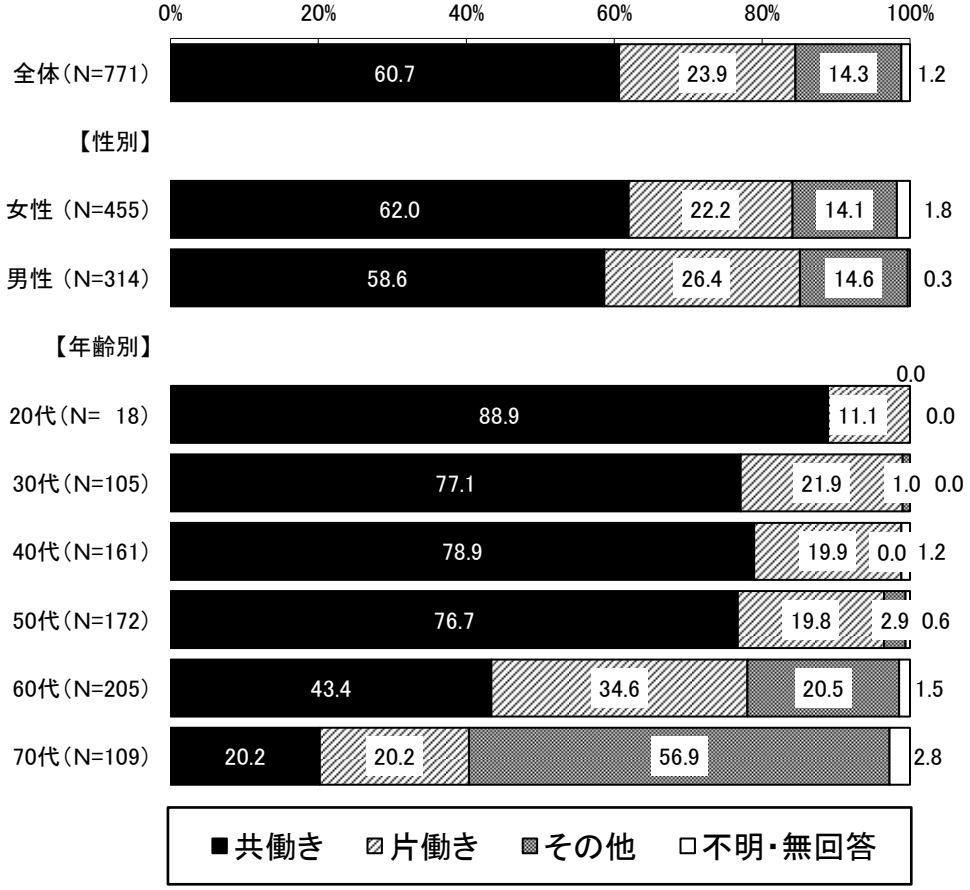


③ 片働き・共働きの状況

回答者の職業と、配偶者・パートナーの職業から夫婦の働き方は、全体では「共働き」が 60.7%、「片働き」が 23.9%となっています。

性別でみると、「共働き」が女性で 62.0%、男性で 58.6%と最も高くなっています。

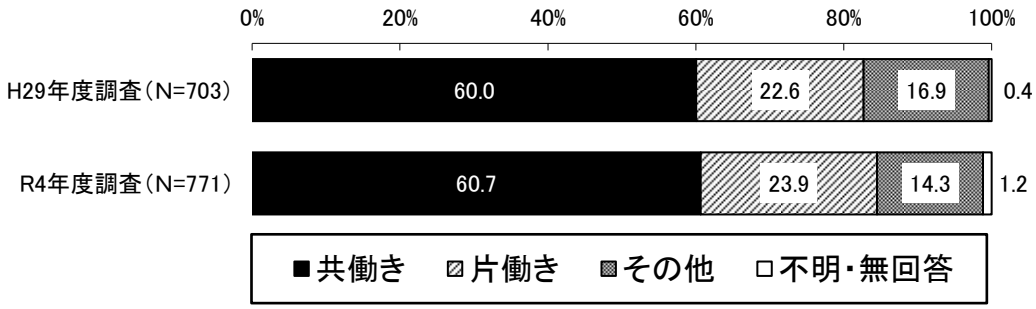
年齢別でみると、20 代から 50 代で「共働き」が 75%を超えて高くなっています。すべての年代のうち、20 代で「共働き」が 88.9%と最も高くなっています。



※「その他」は、回答者本人と配偶者・パートナーがともに無職の場合や、どちらかが未記入だったものである。
※10 代は「未婚」が 100.0%のため除く。

■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、「共働き」「片働き」に大きな差はありません。



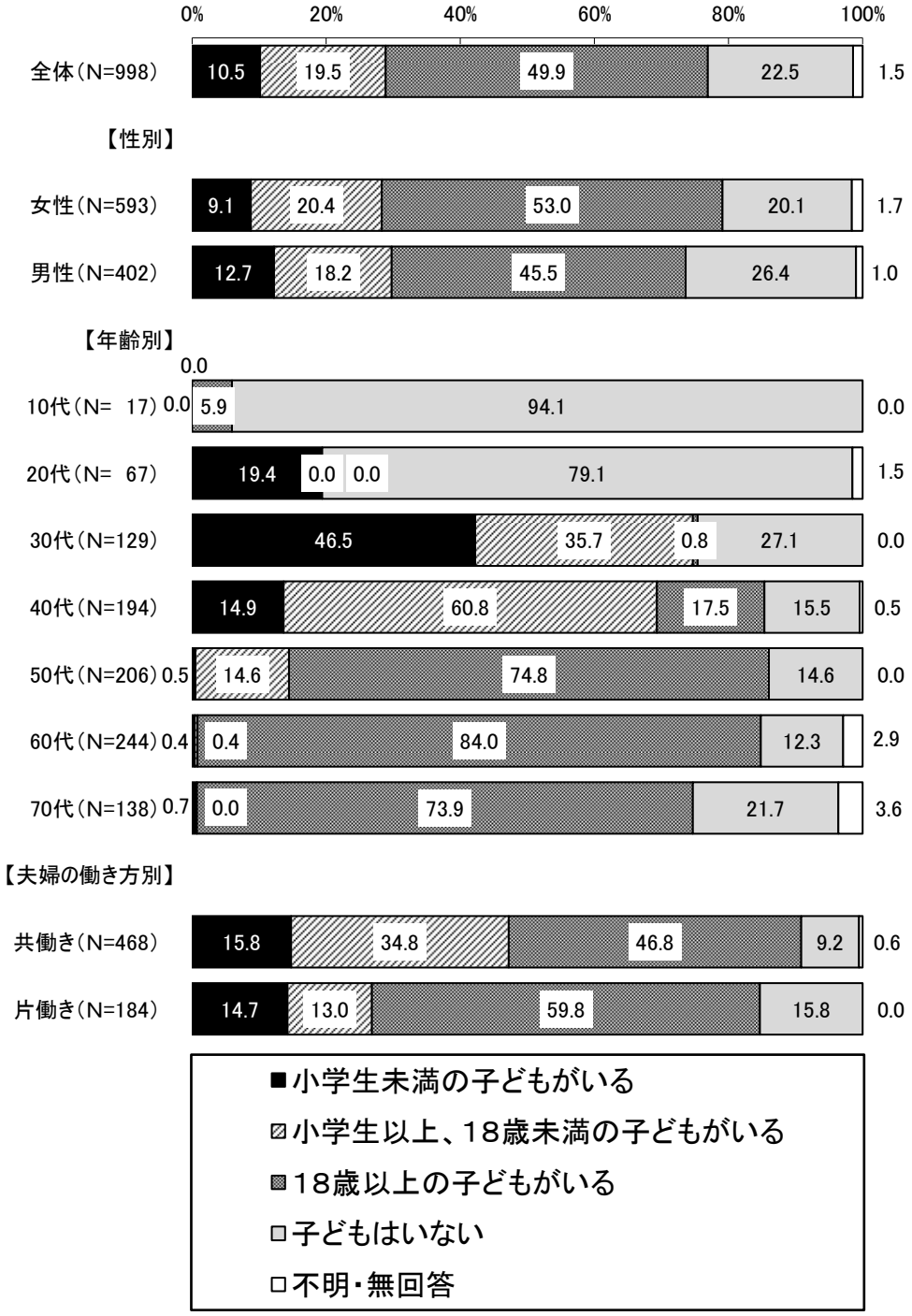
④ 子どもの有無（複数回答）

子どもの有無は、全体では「18 歳以上の子どもがいる」が 49.9%と最も高く、次いで「子どもはいない」が 22.5%、「小学生以上、18 歳未満の子どもがいる」が 19.5%となっています。

性別でみると、「18 歳以上の子どもがいる」が女性で 53.0%、男性で 45.5%と最も高くなっています。

年齢別でみると、10 代、20 代で「子どもはいない」、30 代で「小学生未満の子どもがいる」、40 代で「小学生以上、18 歳未満の子どもがいる」、50 代以上で「18 歳以上の子どもがいる」が最も高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、「18 歳以上の子どもがいる」が片働きの家庭で 59.8%と共働きの家庭と比べて高くなっています。



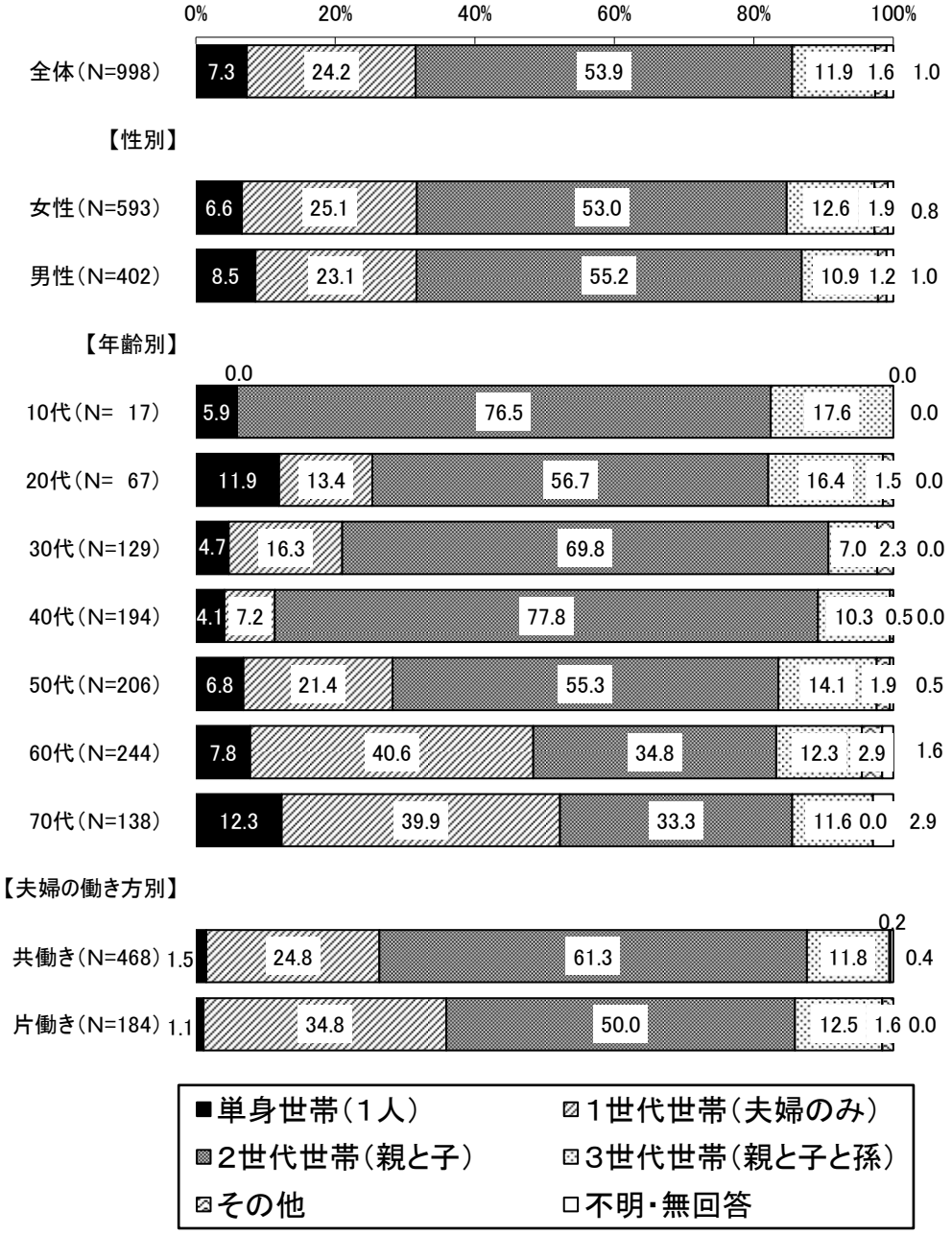
⑤ 家族構成（単数回答）

家族構成は、全体では「２世代世帯（親と子）」が 53.9％と最も高く、次いで「１世代世帯（夫婦のみ）」が 24.2％となっています。

性別でみると、「２世代世帯（親と子）」が女性で 53.0％、男性で 55.2％と最も高くなっています。

年齢別でみると、40 代以上で年齢が上がるにつれ、「１世代世帯（夫婦のみ）」が高くなっています。

夫婦の働き方別でみると、「２世代世帯（親と子）」が共働きの家庭で 61.3％と片働きの家庭と比べて高くなっています。



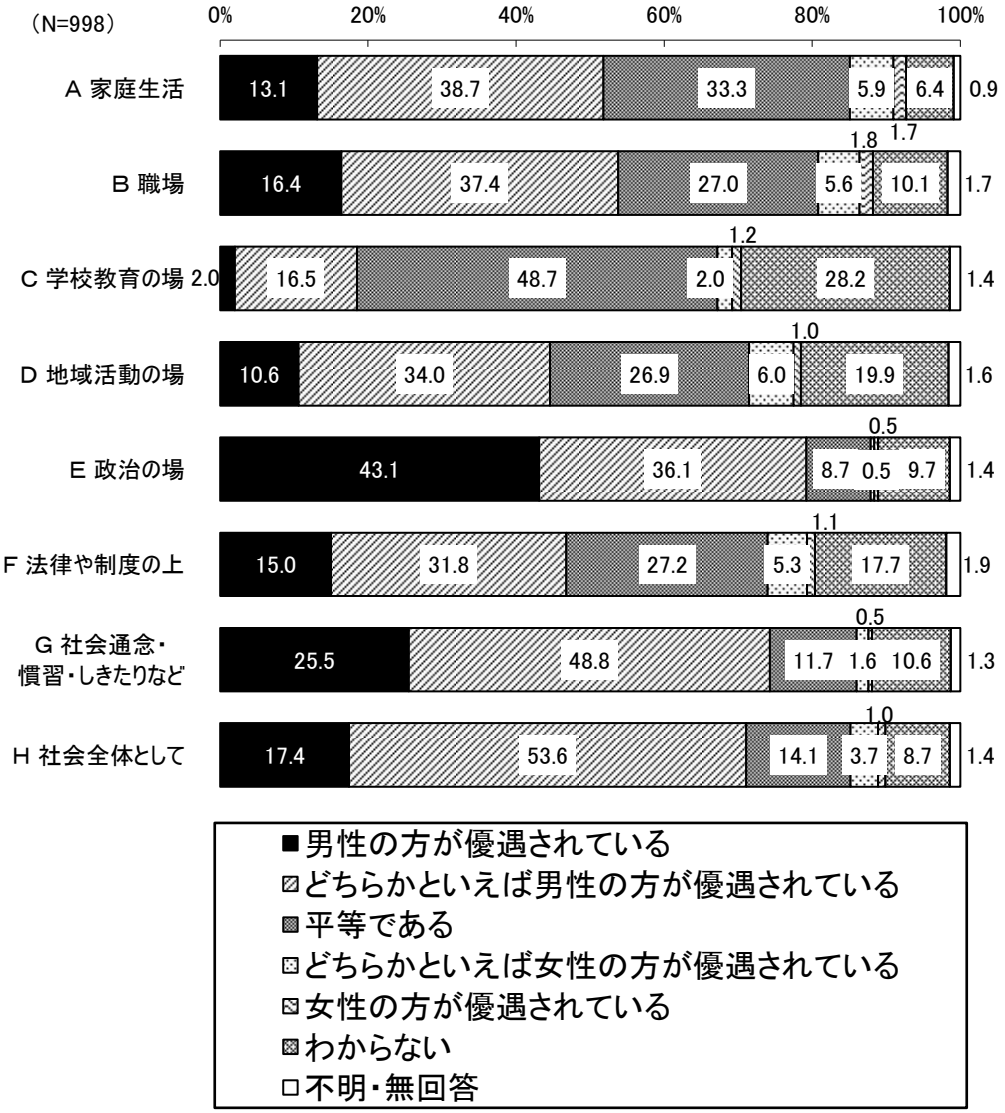
２　男女の平等感に関する意識について

（1）男女の地位の平等感

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

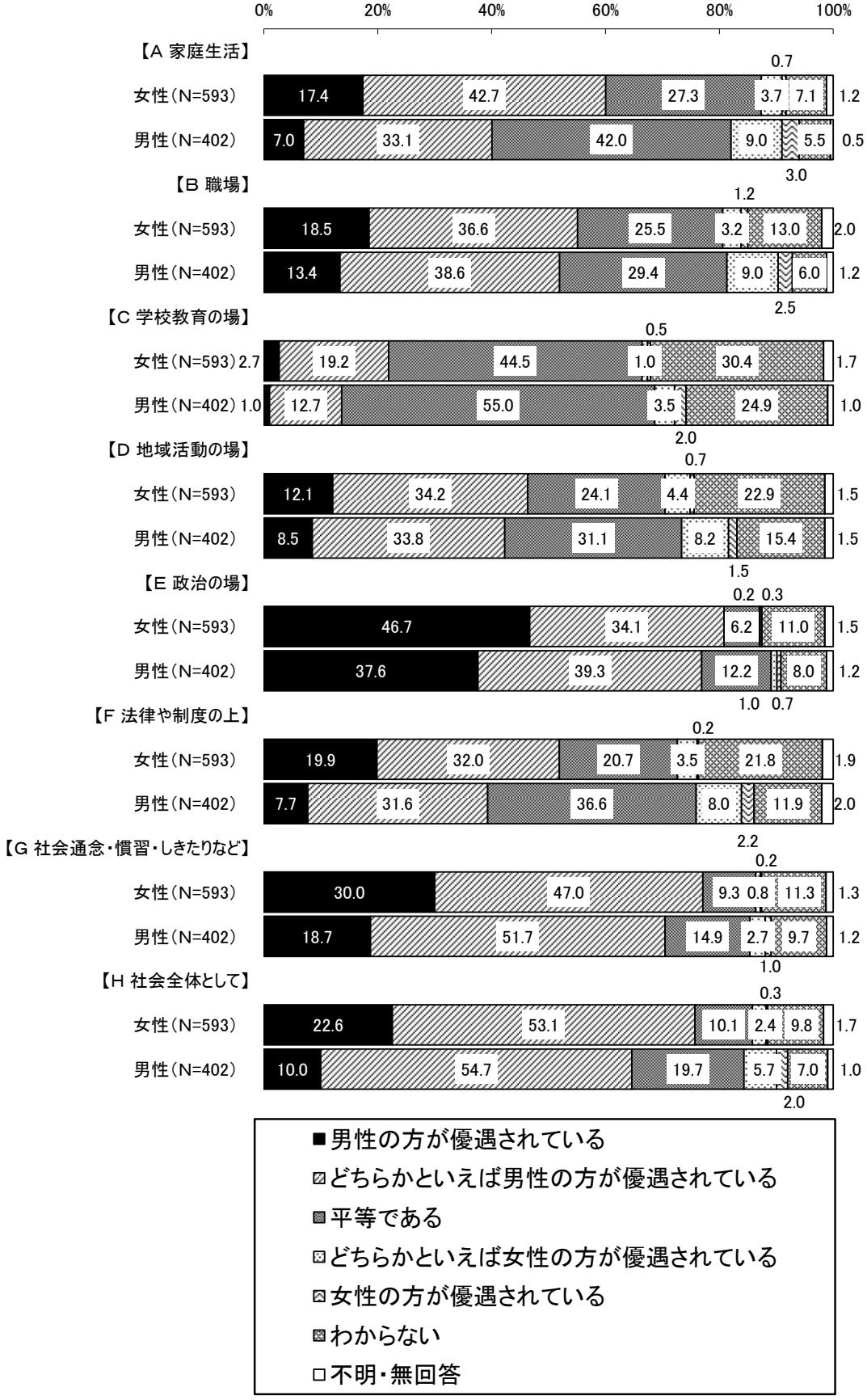
○『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
○『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

それぞれの分野における平等感を比較すると、「平等である」が最も高い分野は「C　学校教育の場」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「E　政治の場」「G　社会通念・慣習・しきたりなど」「H　社会全体として」となっており、いずれの分野も『男性優遇』が 60%を超えています。『女性優遇』は、いずれの分野でも 10%未満となっています。



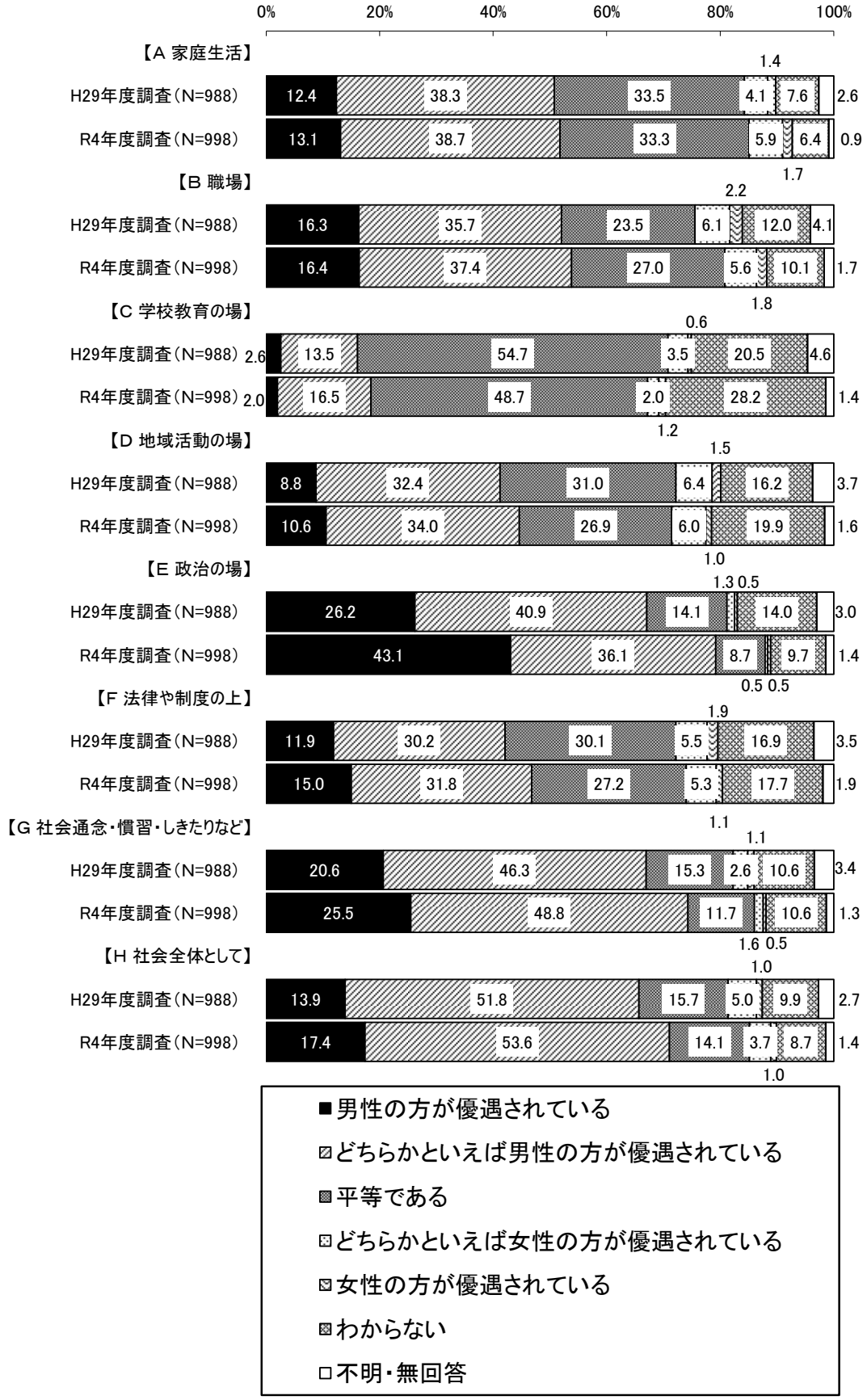
■性別での比較

それぞれの分野における平等感を性別で比較すると、いずれの分野においても女性で『男性優遇』が高くなっています。『男性優遇』における「A 家庭生活」では女性で 60.1%と、男性と比べて 20.0 ポイント高くなっています。



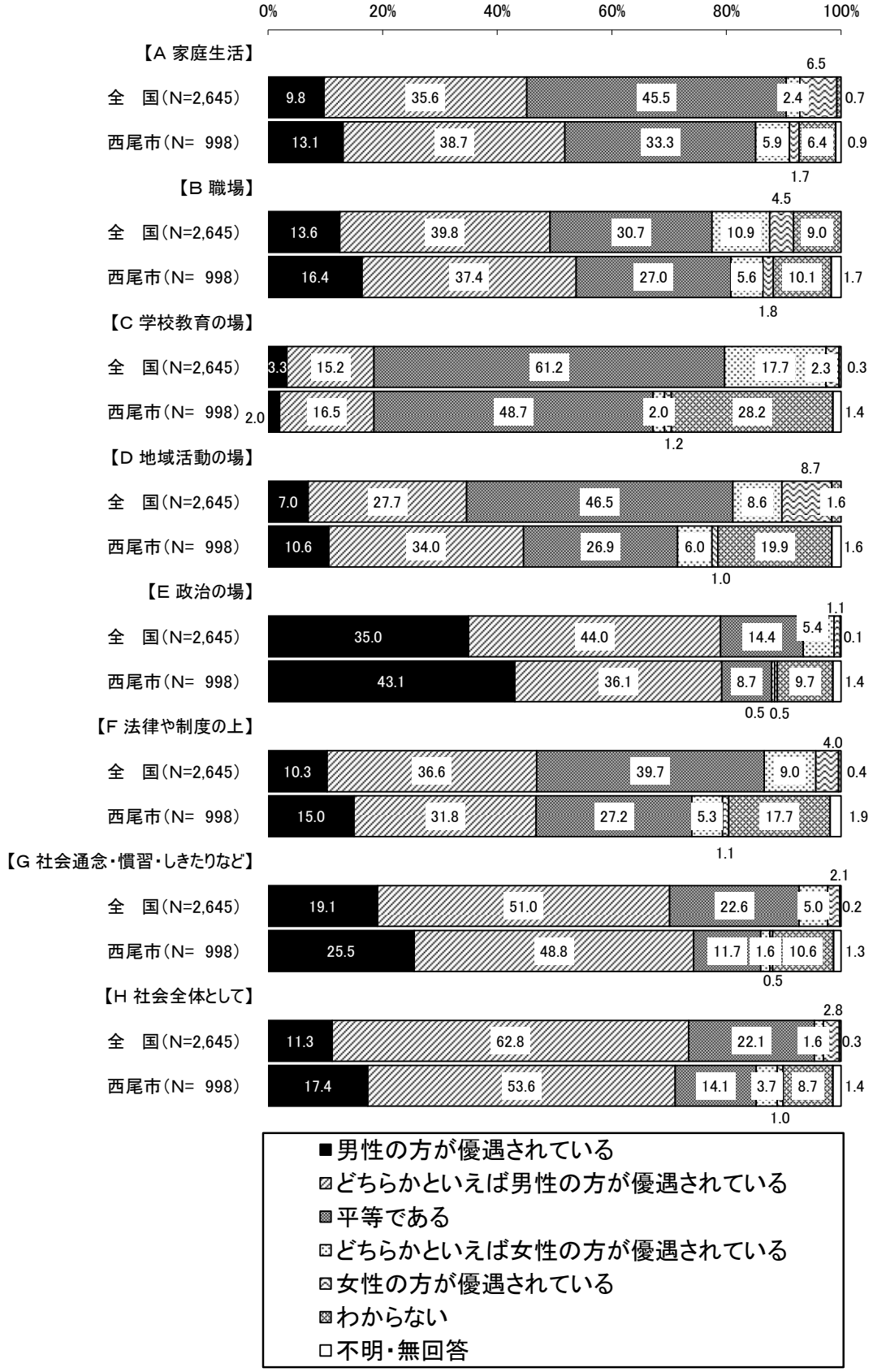
■平成 29 年度調査との比較

それぞれの分野における平等感を平成 29 年度調査と比較すると、『男性優遇』が最も増加している分野は「E 政治の場」となっており、令和４年度調査で 79.2%と、平成 29 年調査と比べて 12.1 ポイントと増加しています。



■全国調査との比較

それぞれの分野における平等感を全国調査と比較すると、「A 家庭生活」「B 職場」「D 地域活動の場」「E 政治の場」「G 社会通念・慣習・しきたりなど」において、『男性優遇』が全国調査と比べて高くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がない。

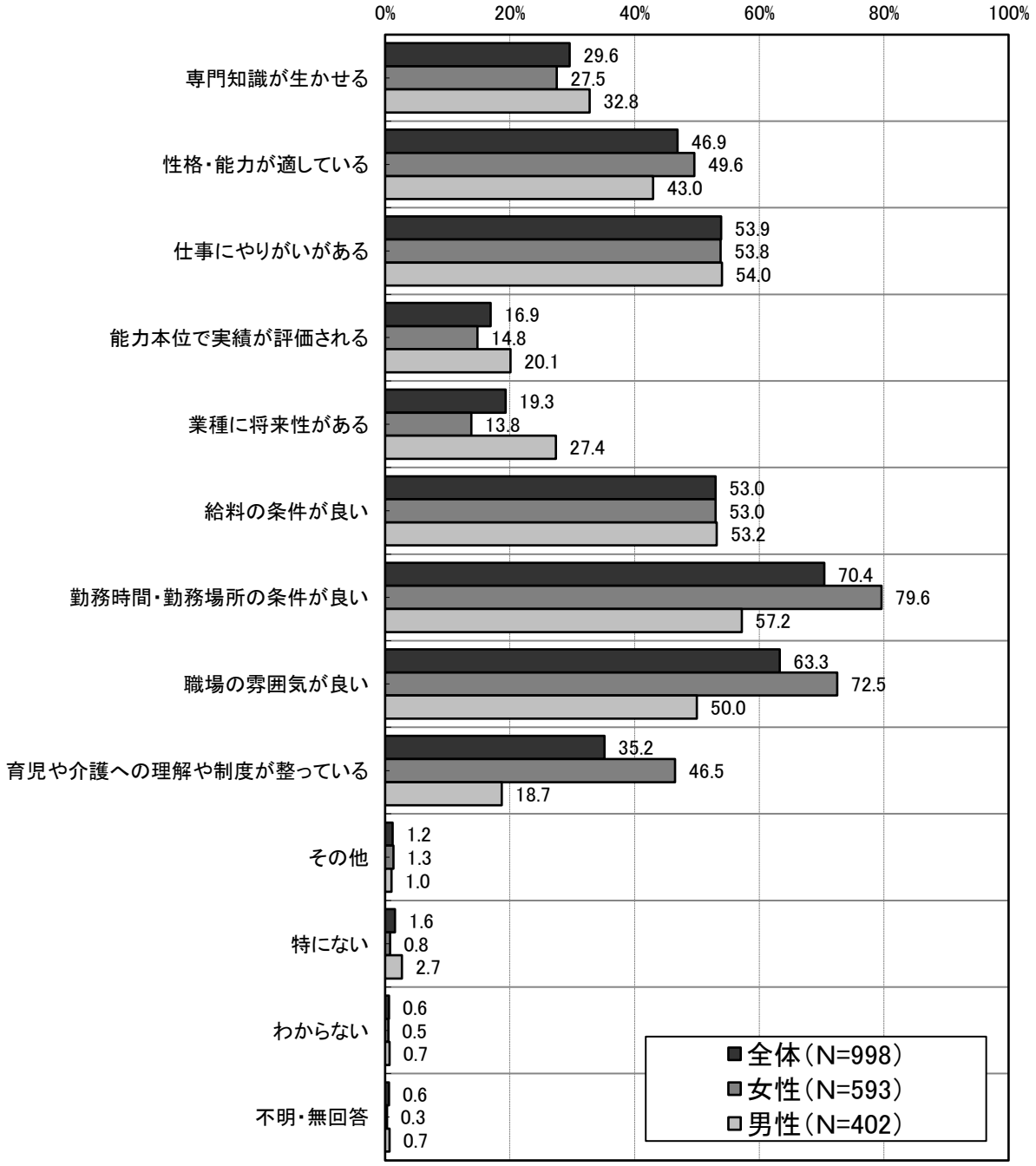
３　職業・職場環境について

（1）仕事に対する考え方について

①　仕事を選ぶ際に重視すること・したいこと（複数回答）

仕事を選ぶ際に重視すること・したいことについてみると、全体では「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が 70.4％と最も高く、次いで「職場の雰囲気が良い」が 63.3％となっています。

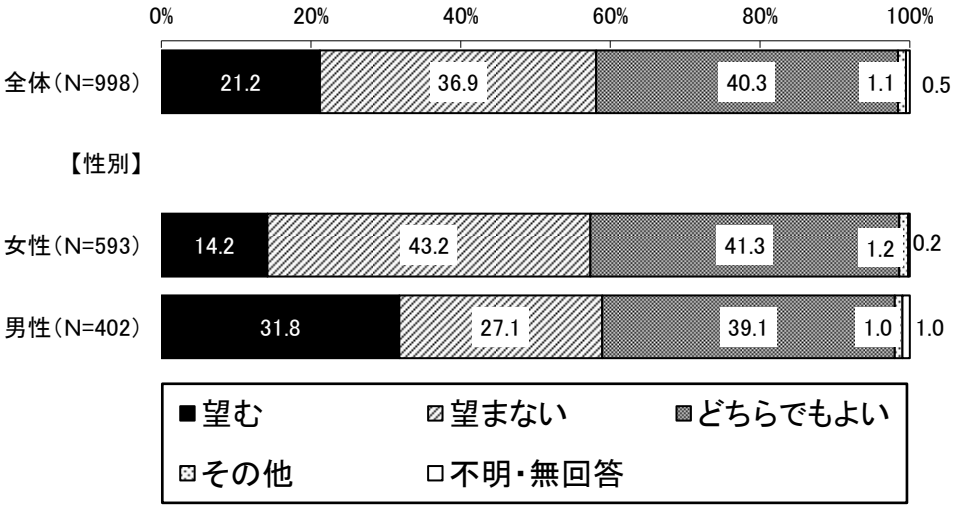
性別でみると、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が女性で 79.6％、男性で 57.2％と最も高くなっています。また、女性で「育児や介護への理解や制度が整っている」が 46.5％と、男性と比べて 27.8 ポイント高くなっています。



② 管理職につくことや昇進することを望むか（単数回答）

管理職につくことや昇進することを望むかについてみると、全体では「どちらでもよい」が 40.3%と最も高く、次いで「望まない」が 36.9%となっています。

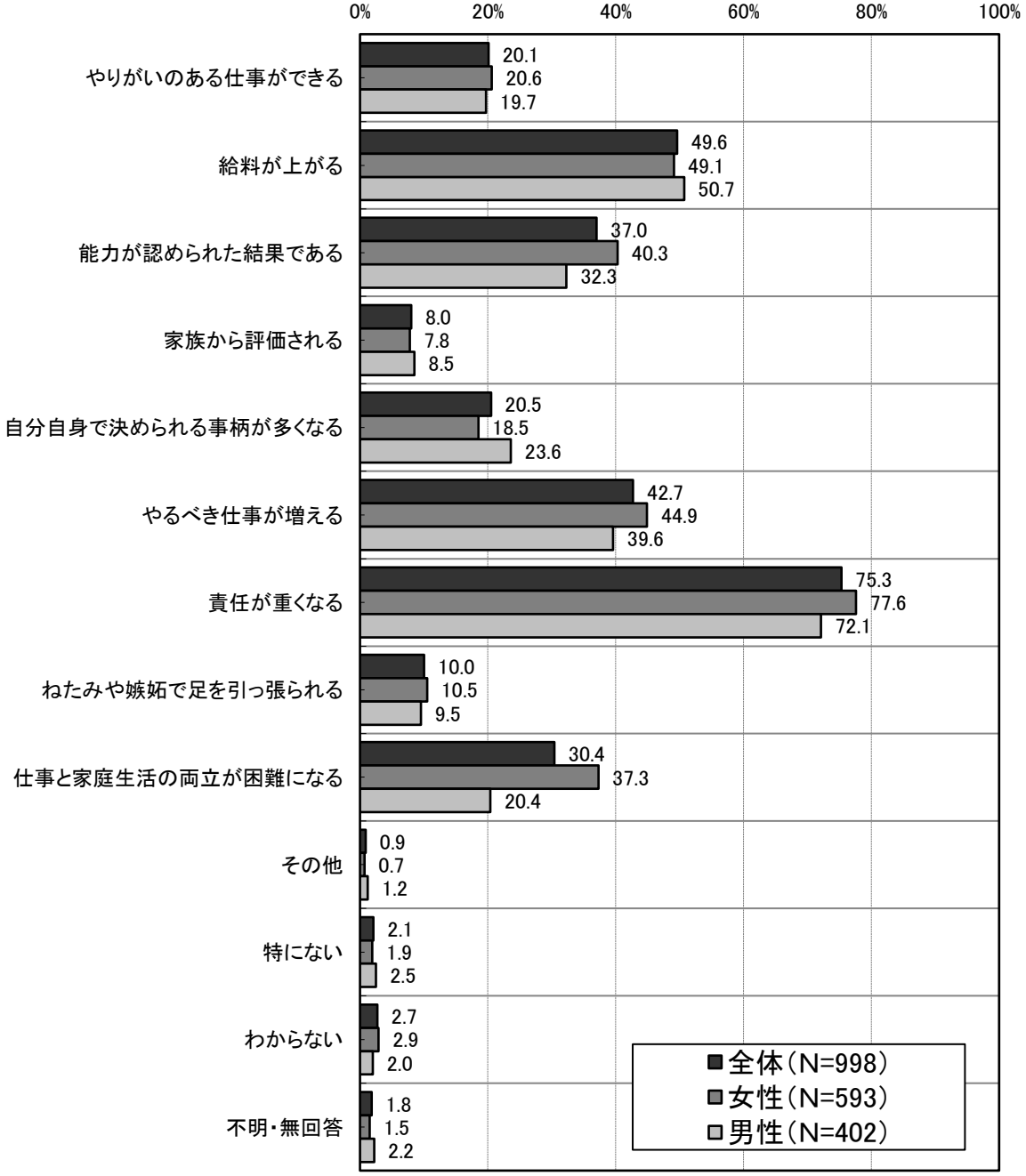
性別でみると、「望む」が男性で 31.8%と、女性と比べて 17.6 ポイント高くなっています。



③ 管理職以上に昇進することへのイメージ（複数回答）

管理職以上に昇進することへのイメージについてみると、全体では「責任が重くなる」が 75.3%と最も高く、次いで「給料が上がる」が 49.6%となっています。

性別でみると、「責任が重くなる」が女性で 77.6%、男性で 72.1%と最も高くなっています。また、女性で「仕事と家庭生活の両立が困難になる」が 37.3%と、男性と比べて 16.9 ポイント高くなっています。男性では「自分自身で決められる事柄が多くなる」が 23.6%と、女性と比べてやや高くなっています。



（2）仕事と家庭生活を両立するための制度について

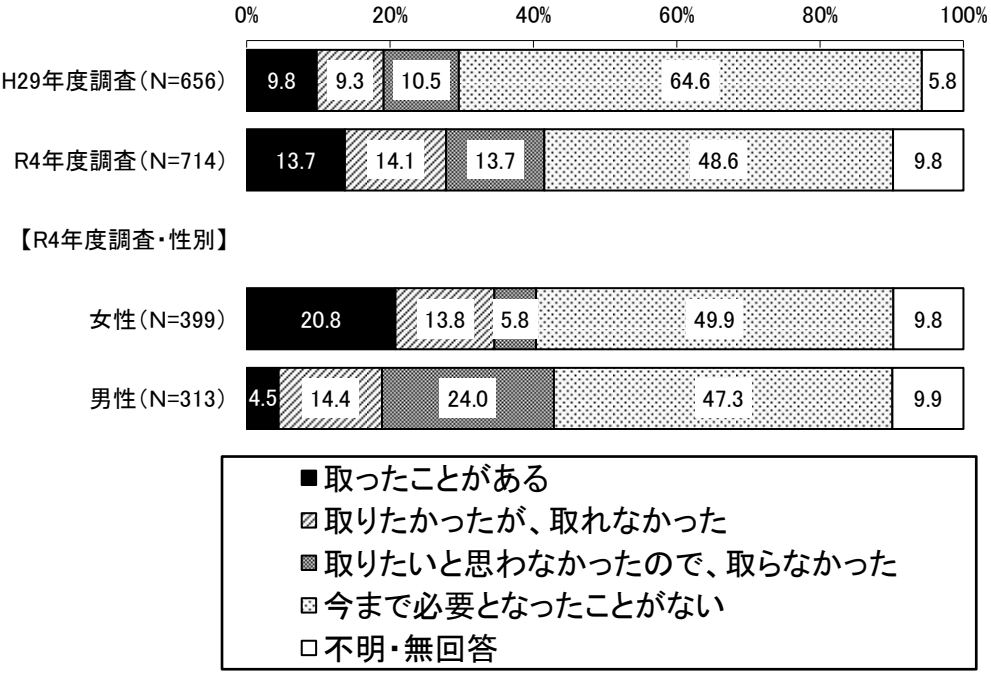
＜現在働いている方のみへの質問＞

① 制度の利用状況

A 育児休業制度（単数回答）

育児休業制度の利用状況についてみると、全体では「取ったことがある」が 13.7％と、平成 29 年度調査と比べて 3.9 ポイント増加しています。

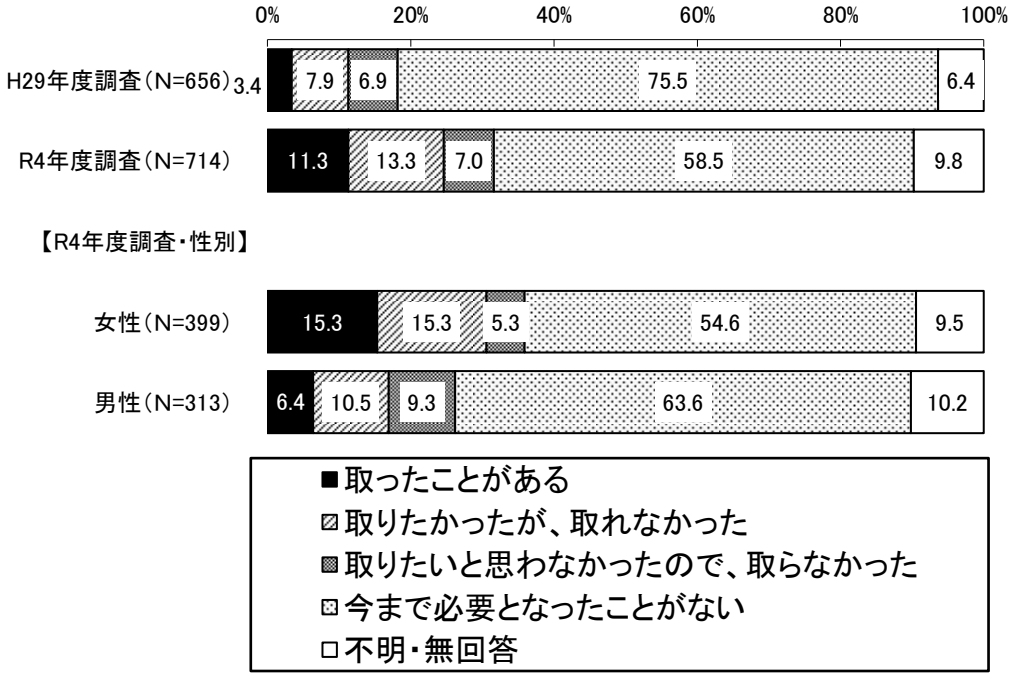
性別でみると、「取ったことがある」が女性で 20.8％と、男性と比べて 16.3 ポイント高くなっています。



B 子の看護休暇制度（単数回答）

子の看護休暇制度の利用状況についてみると、全体では「取ったことがある」が 11.3%と、平成 29 年度調査と比べて 7.9 ポイント増加しています。

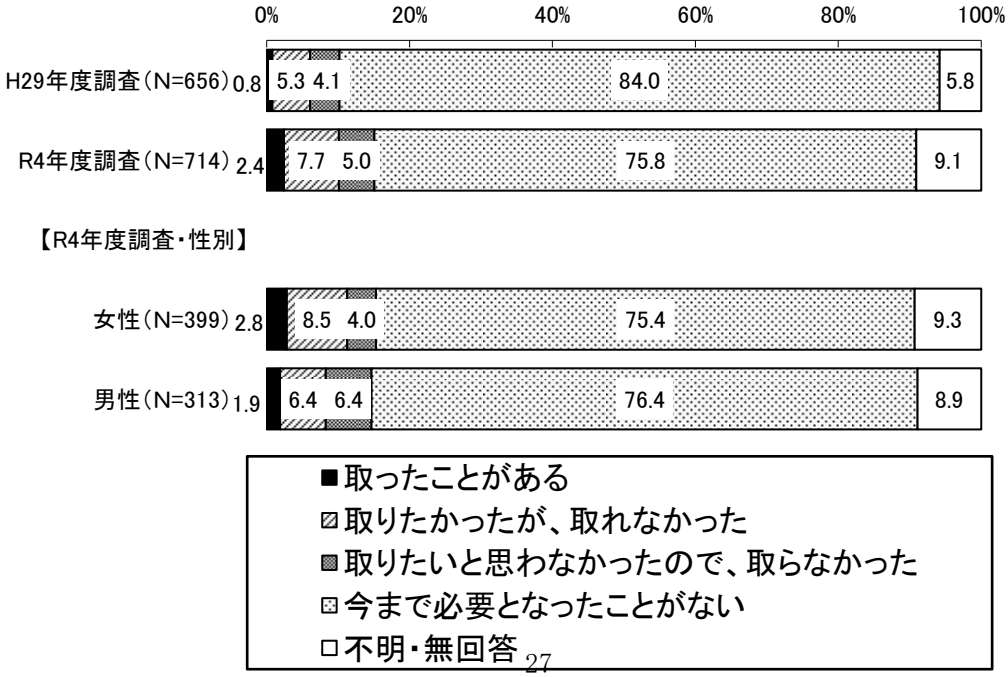
性別でみると、「取ったことがある」が女性で 15.3%と男性と比べて 8.9 ポイント高くなっています。



C 介護休業制度（単数回答）

介護休業制度の利用状況についてみると、全体では「取ったことがある」が 2.4%と、平成 29 年度調査と比べて 1.6 ポイント増加しています。

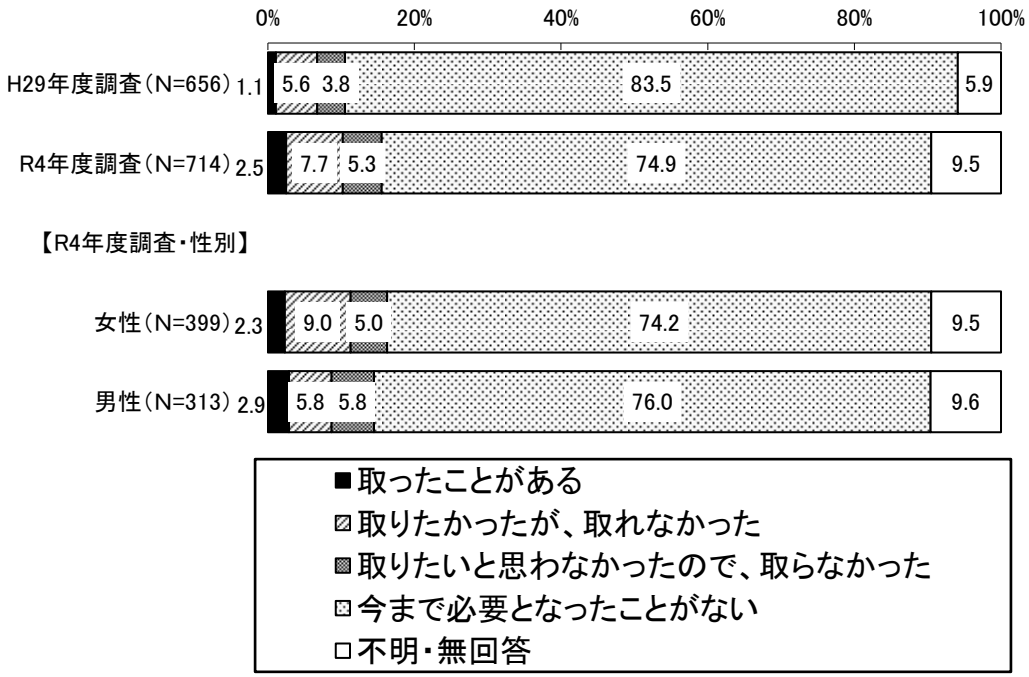
性別でみると、大きな差はありません。



D 介護休暇制度（単数回答）

介護休暇制度の利用状況についてみると、全体では「取ったことがある」が 2.5%と、平成 29 年度調査と比べて 1.4 ポイント増加しています。

性別でみると、大きな差はありません。

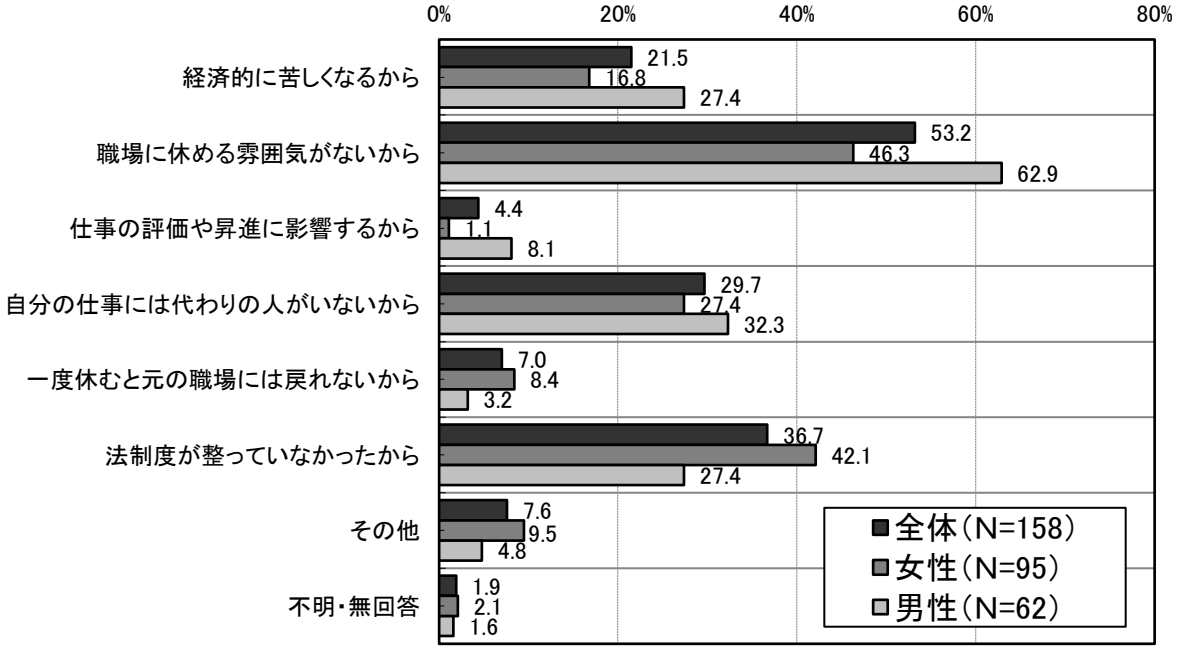


＜育児休業等を「取りたかったが、取れなかった」方のみへの質問＞

② 取得することができなかった理由（複数回答）

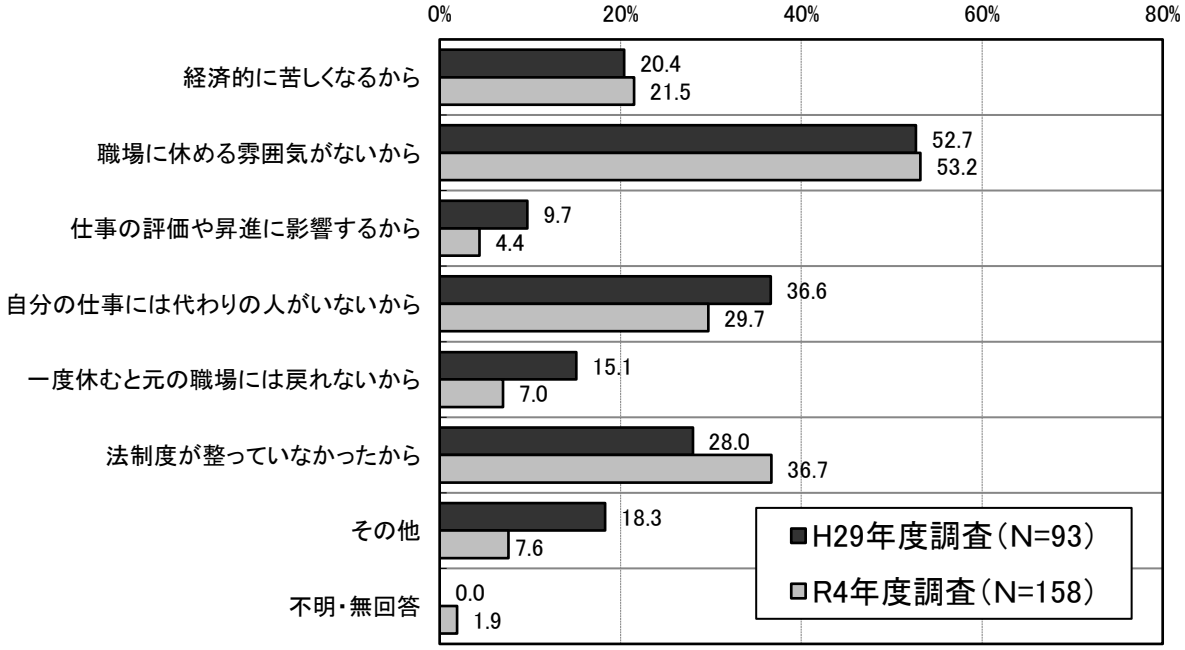
取得することができなかった理由についてみると、全体では「職場に休める雰囲気がないから」が53.2%と最も高く、次いで「法制度が整っていなかったから」が36.7%となっています。

性別でみると、「職場に休める雰囲気がないから」が女性で46.3%、男性で62.9%と最も高くなっています。また、男性で「職場に休める雰囲気がないから」「経済的に苦しくなるから」「仕事の評価や昇進に影響するから」「自分の仕事には代わりの人がいないから」が女性と比べて高くなっています。



■平成29年度調査との比較

平成29年度調査と比較すると、「法制度が整っていなかったから」が令和4年度調査で36.7%と、平成29年度調査と比べて8.7ポイント増加しています。



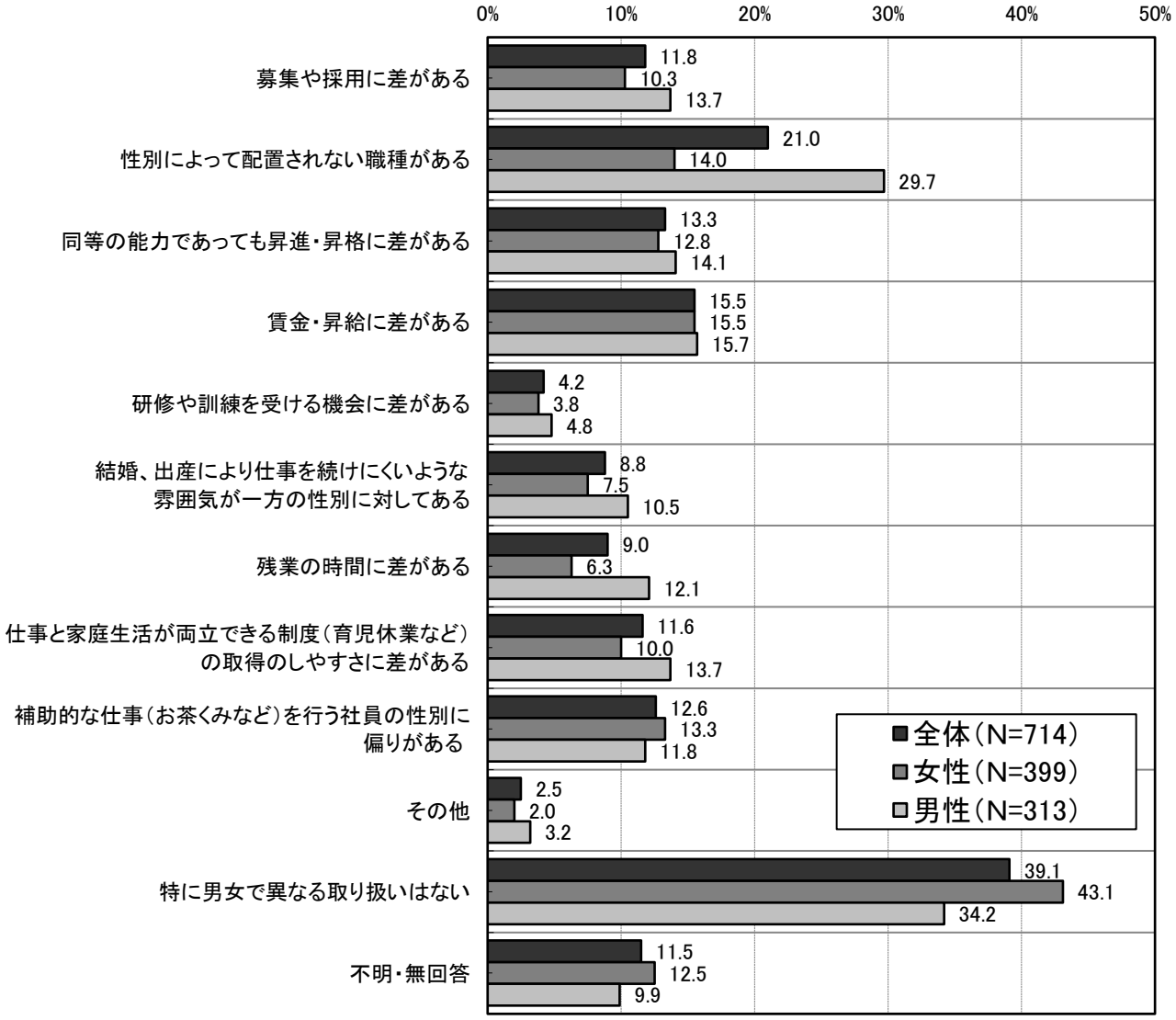
（3）職場における男女不平等の状況

＜現在働いている方のみへの質問＞

① 職場における性別による不平等な取り扱い（複数回答）

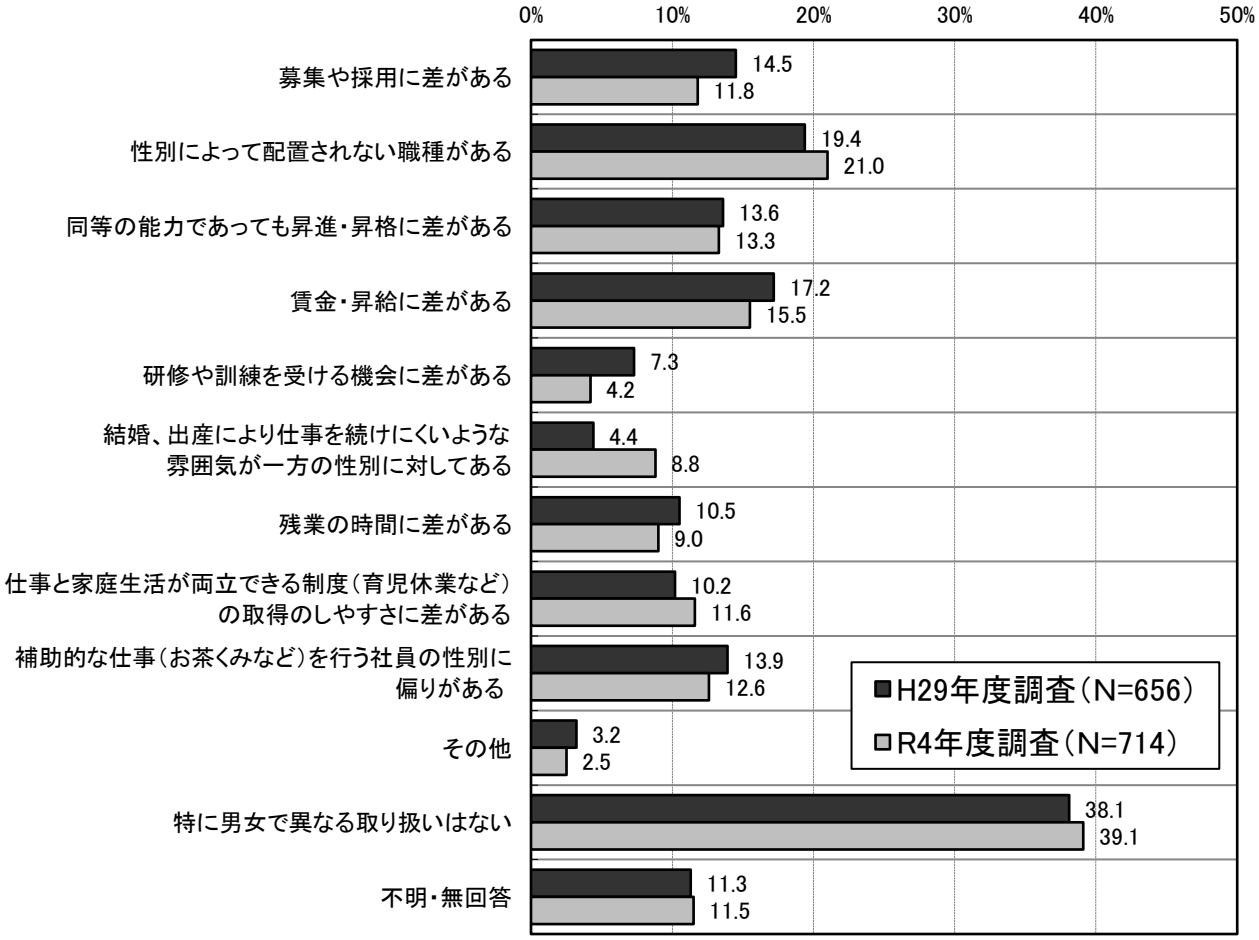
職場における性別による不平等な取り扱いの有無についてみると、全体では「特に男女で異なる取り扱いはない」が 39.1％と最も高く、次いで「性別によって配置されない職種がある」が 21.0％となっています。

性別でみると、「特に男女で異なる取り扱いはない」が女性で 43.1％、男性で 34.2％と最も高くなっています。また、男性で「性別によって配置されない職種がある」が 29.7％と、女性と比べて 15.7 ポイント高くなっています。



■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、「結婚、出産により仕事を続けにくいような雰囲気が一方の性別に対してある」が令和４年度調査で 8.8%と、平成 29 年度調査と比べて 4.4 ポイント増加しています。

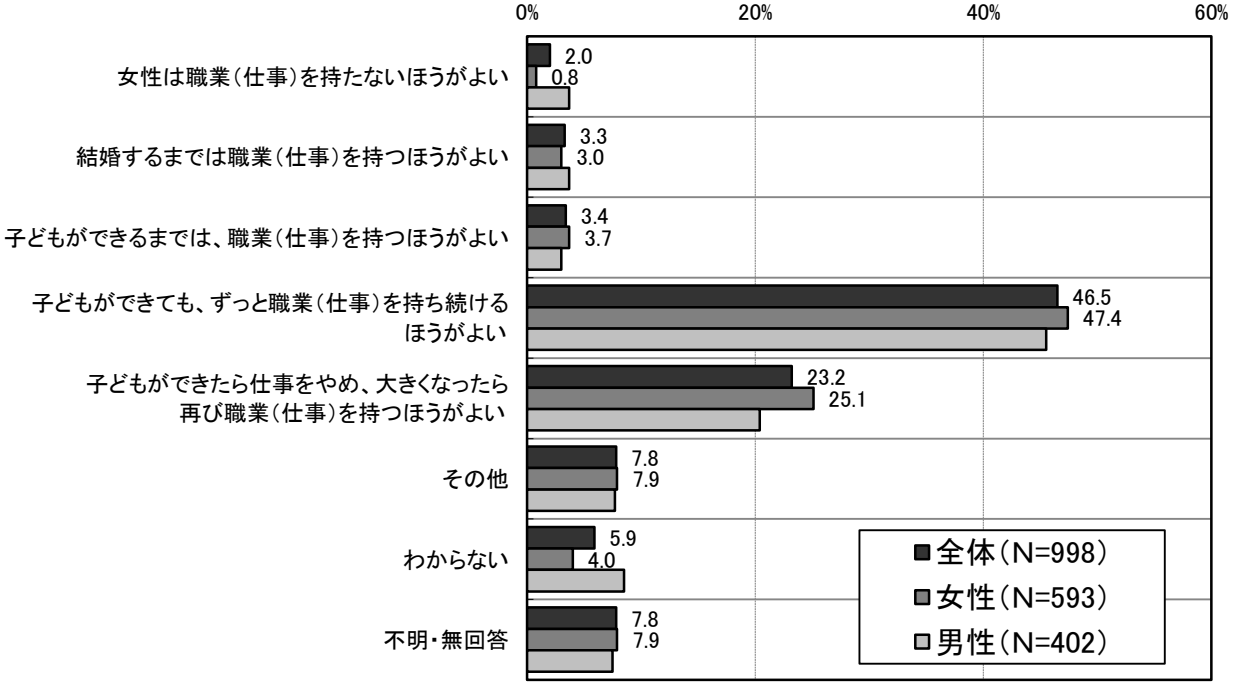


（4）女性が職業を持つことについての考え

① 女性が職業を持つことについて、どう思うか（単数回答）

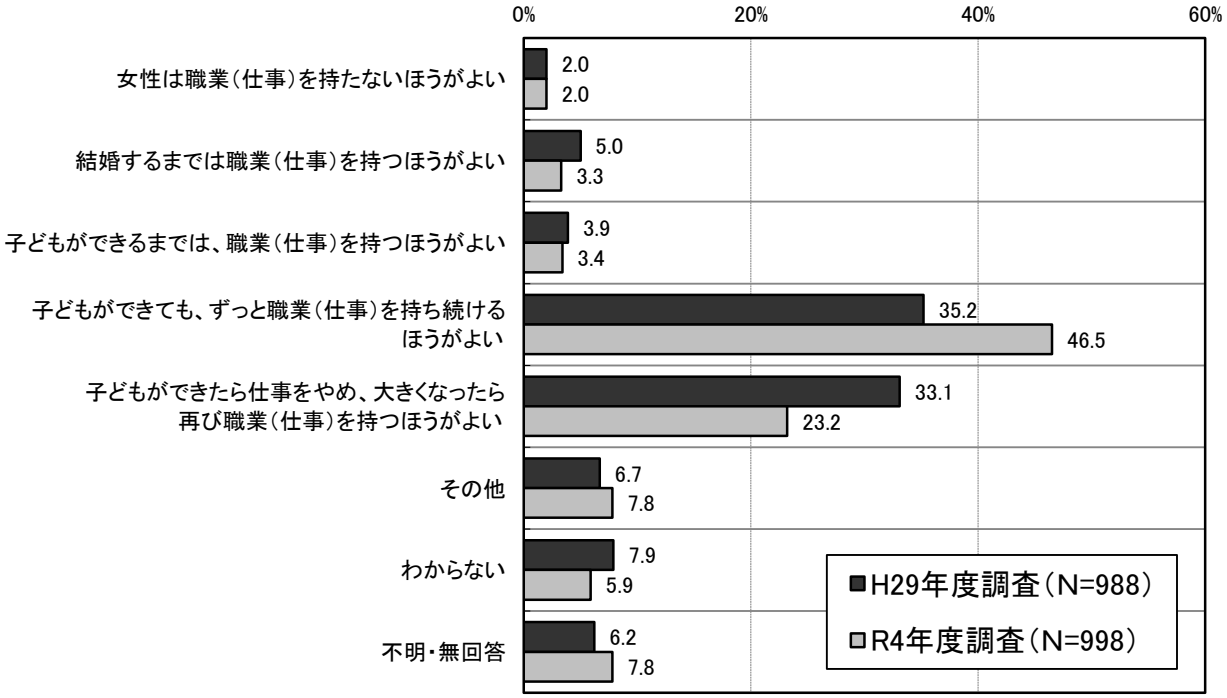
女性が職業を持つことについての考えについてみると、全体では「子どもができても、ずっと職業（仕事）を持ち続けるほうがよい」が 46.5%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい」が 23.2%となっています。

性別でみると、「子どもができても、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が女性で 47.4%、男性で 45.5%と最も高くなっています。



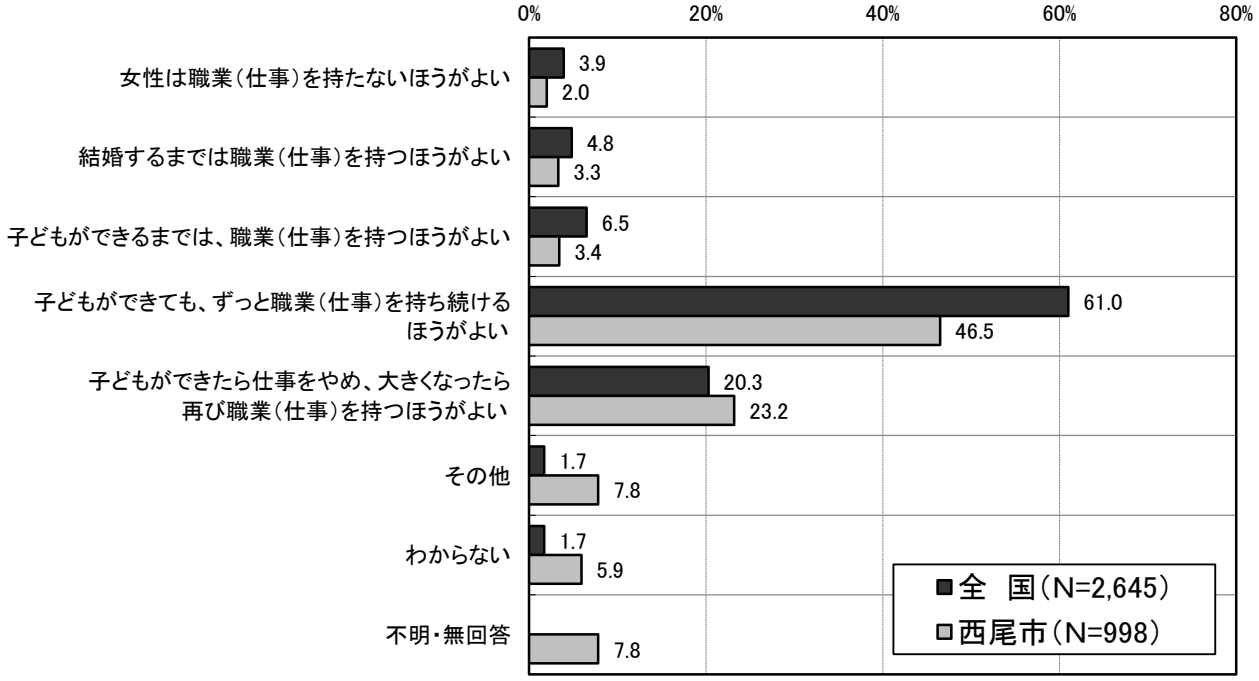
■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、「子どもができても、ずっと職業（仕事）を持ち続けるほうがよい」が令和４年度調査で 46.5%と平成 29 年度調査と比べて 11.3 ポイント増加しています



■全国調査との比較

全国調査と比較すると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい」が西尾市で23.2%と、全国と比べてやや高くなっています。

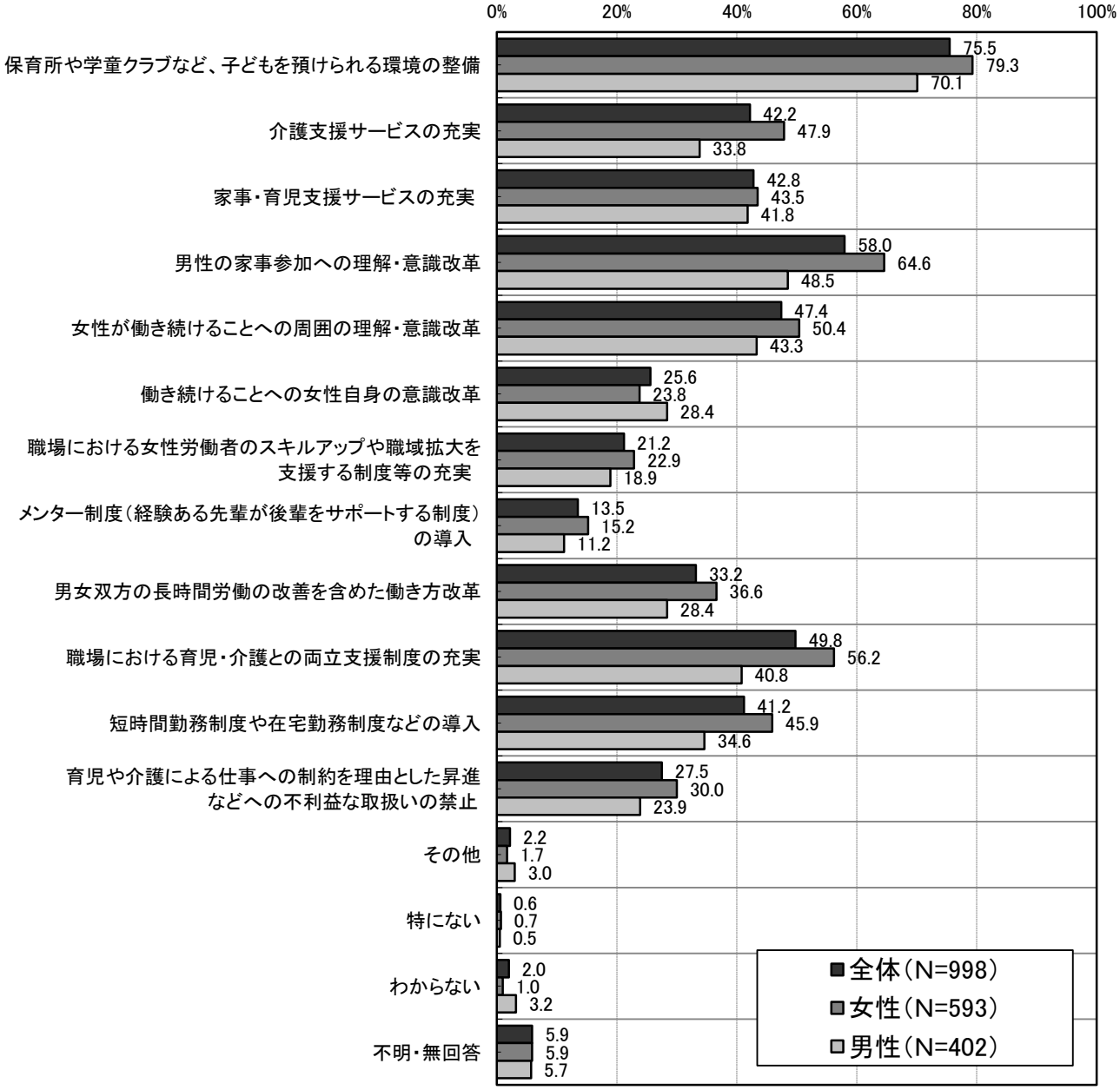


※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がない。

② 女性が働き続けるために必要なこと（複数回答）

女性が働き続けるために必要なことについてみると、全体では「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が 75.5％と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が 58.0％となっています。

性別でみると、「男性の家事参加への理解・意識改革」が女性で 64.6％と、男性と比べて 16.1 ポイント高くなっています。



4　家庭生活について

（1）結婚、離婚などに関する考え方について

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

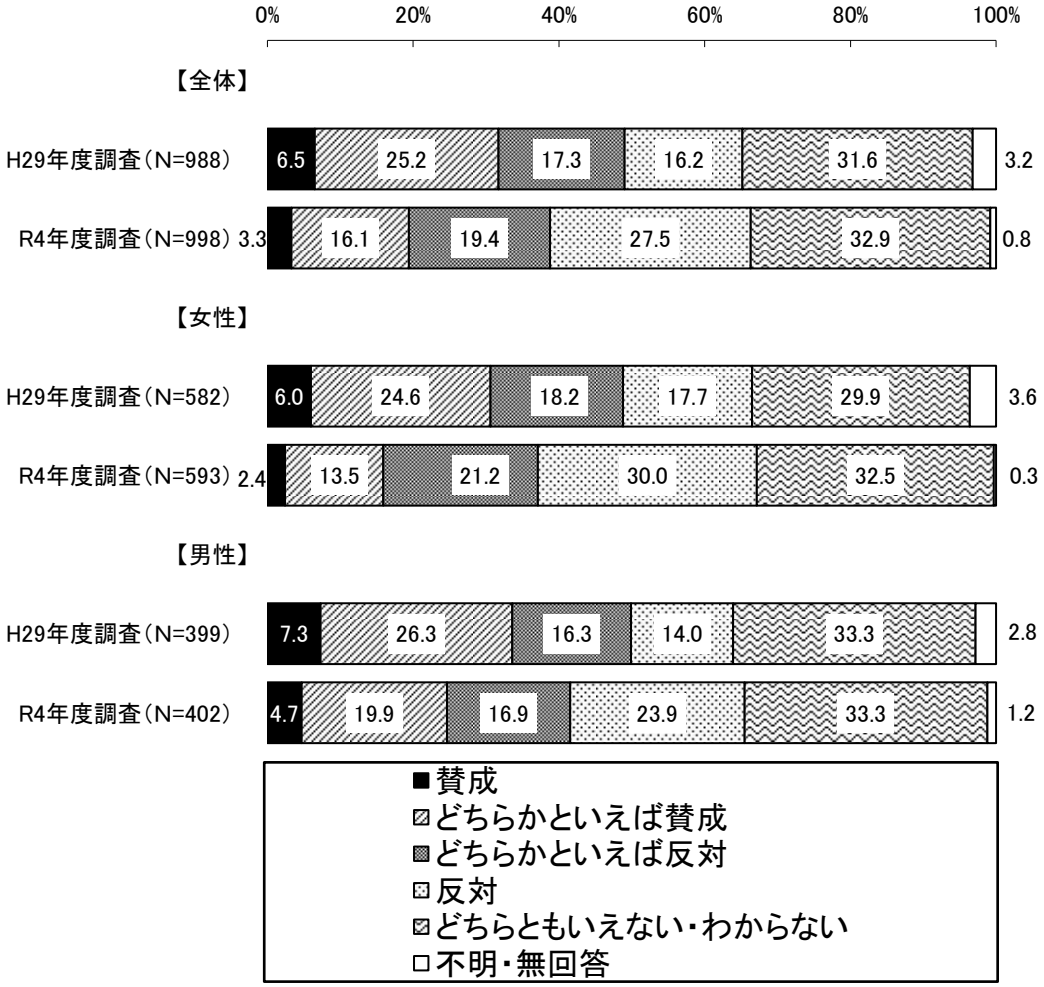
○『賛成派』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの
○『反対派』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

①　夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（単数回答）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきあるという考え方についてみると、全体では『賛成派』が 19.4%、『反対派』が 46.9%となっています。

性別でみると、『賛成派』が男性で 24.6%と、女性と比べて 8.7 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、『賛成派』が令和４年度調査で 19.4%と、平成 29 年度調査と比べて 12.3 ポイント減少しています。

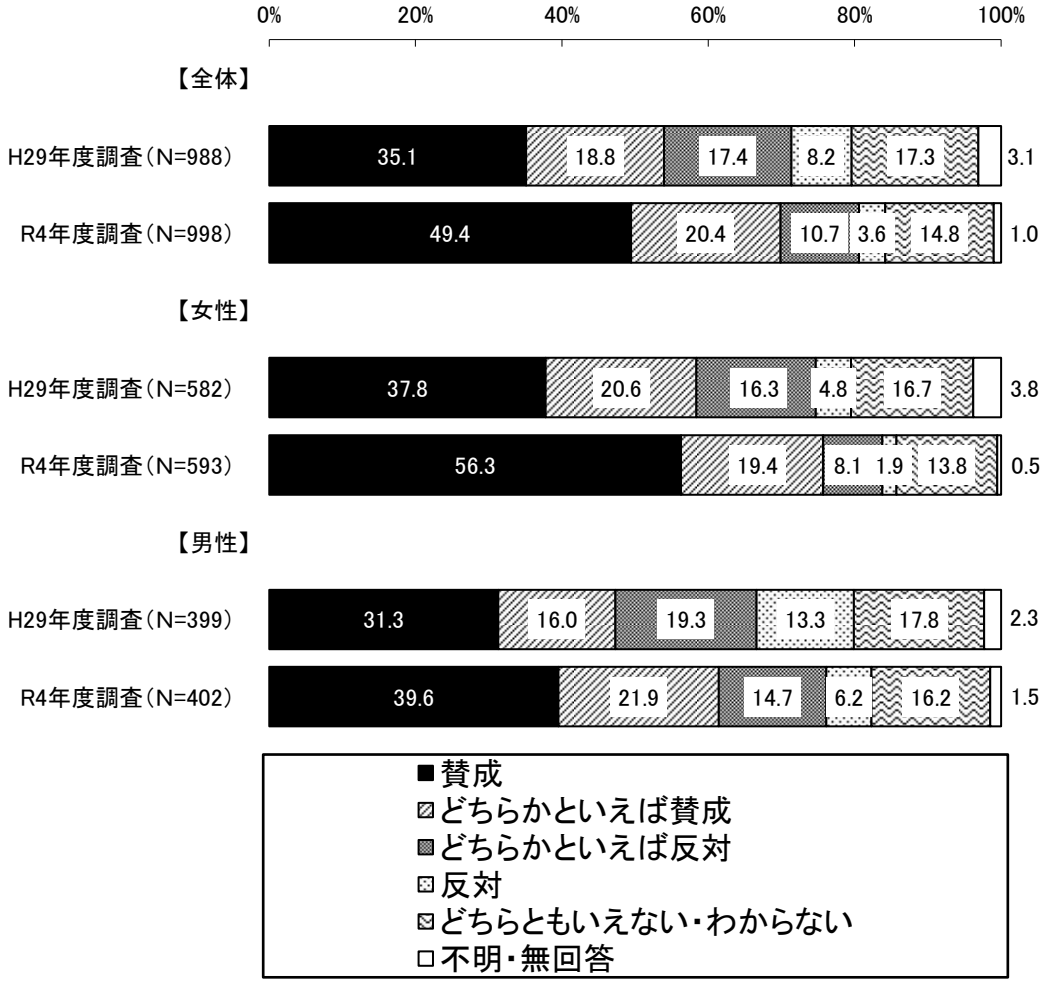


② 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい（単数回答）

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよいという考え方についてみると、全体では『賛成派』が 69.8%、『反対派』が 14.3%となっています。

性別でみると、『賛成派』が女性で 75.7%と、男性と比べて 14.2 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、『賛成派』が令和４年度調査で 69.8%と、平成 29 年度調査と比べて 15.9 ポイント増加しています。

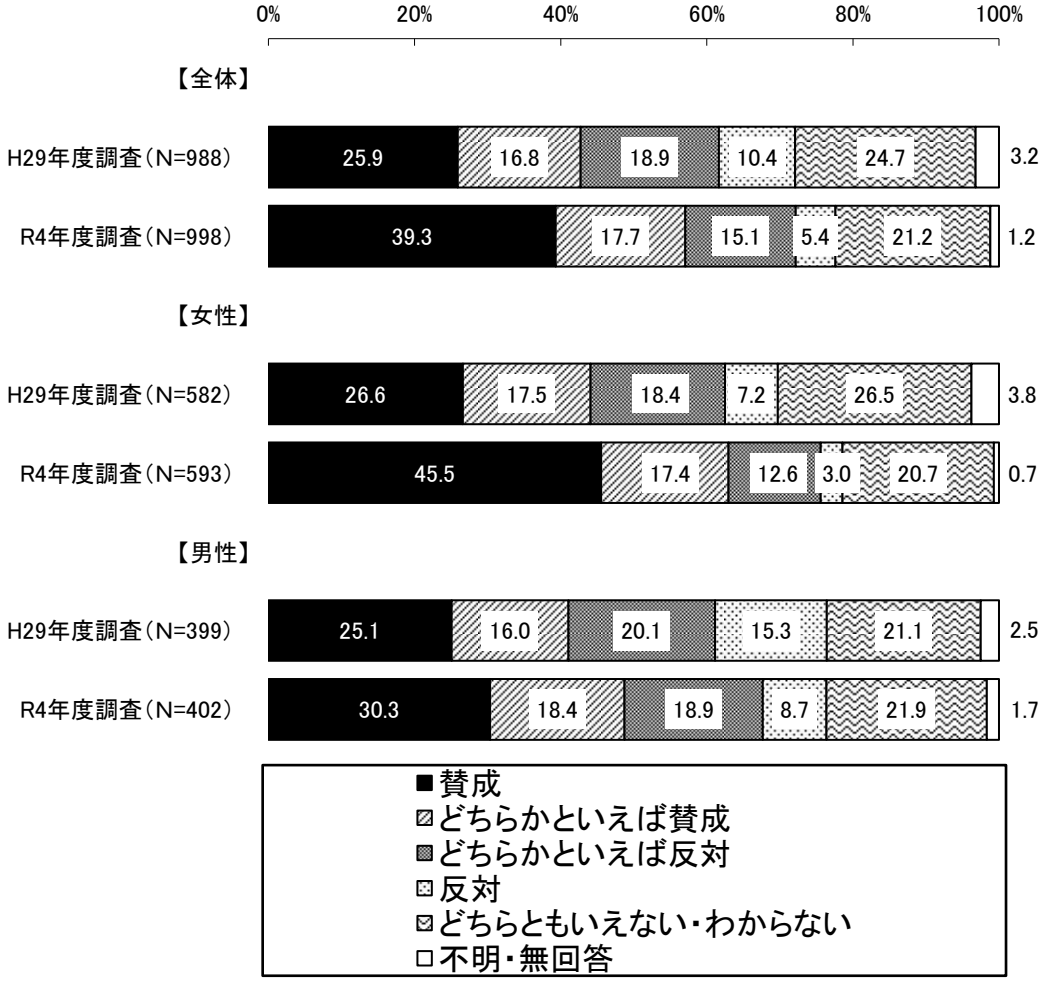


③ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない（単数回答）

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないという考え方についてみると、全体では『賛成派』が57.0%、『反対派』が20.5%となっています。

性別でみると、『賛成派』が女性で62.9%と、男性と比べて14.2ポイント高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、『賛成派』が令和４年度調査で57.0%と、平成29年度調査と比べて14.3ポイント増加しています。

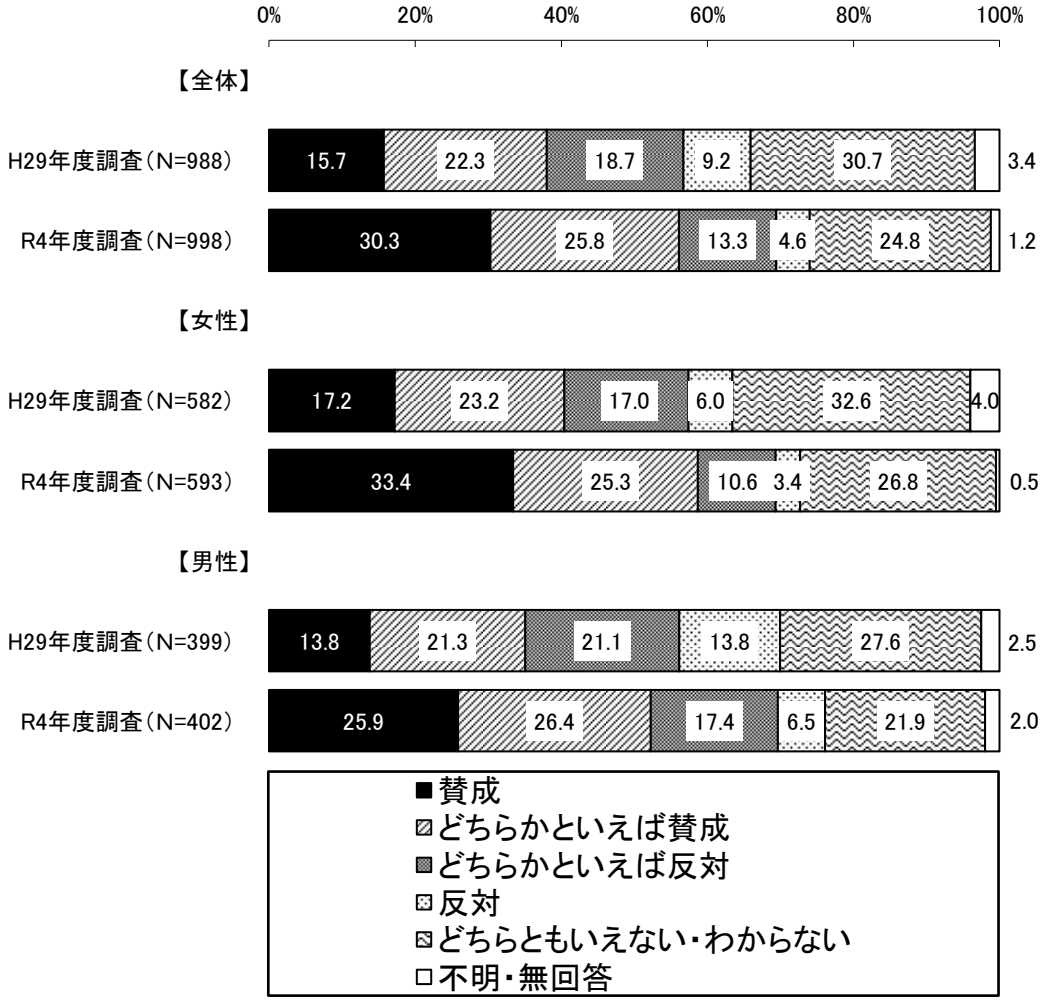


④ 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（単数回答）

結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいという考え方についてみると、全体では『賛成派』が 56.1%、『反対派』が 17.9%となっています。

性別でみると、『賛成派』が女性で 58.7%と、男性と比べて 6.4 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、『賛成派』が令和４年度調査で 56.1%と、平成 29 年度調査と比べて 18.1 ポイント増加しています。



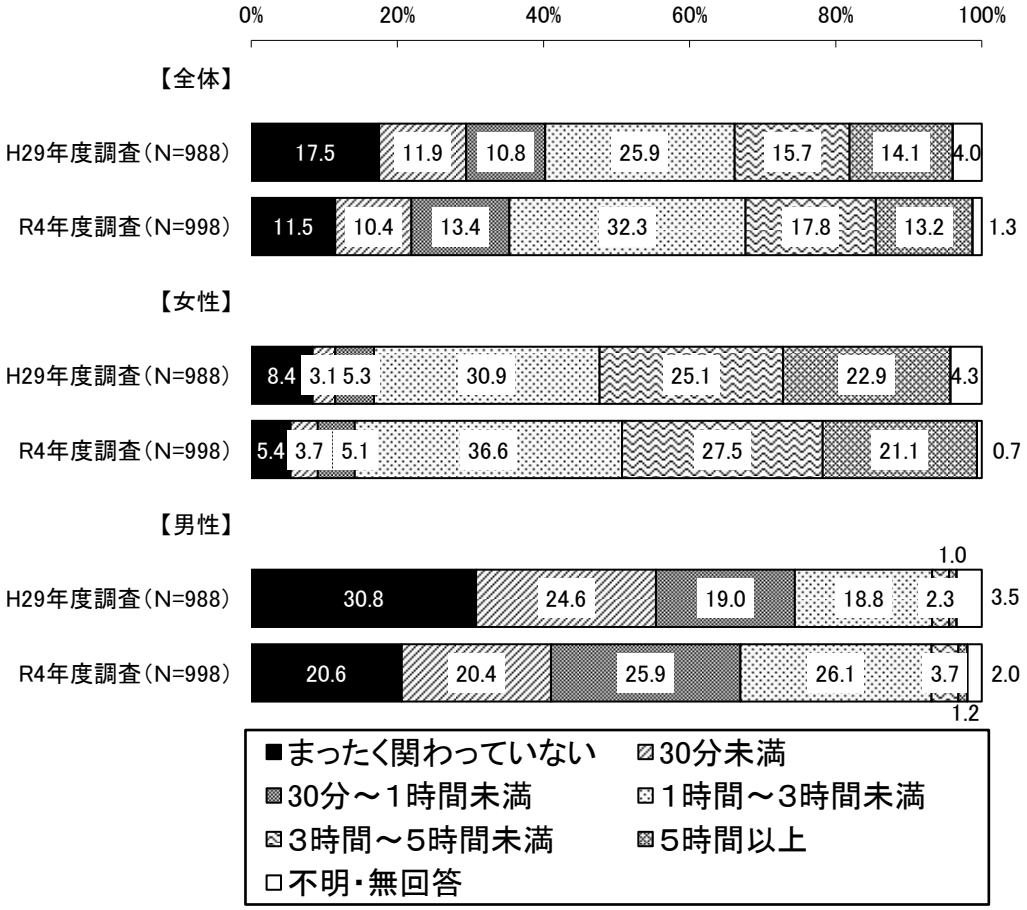
（2）仕事と家庭生活との両立について

① 平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間（単数回答）

平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間についてみると、全体では「１時間～３時間未満」が 32.3％と最も高く、次いで「３時間～５時間未満」が 17.8％となっています。

性別でみると、女性で「１時間～３時間未満」以上の区分が、男性と比べて高くなっています。男性では「30 分～１時間未満」以下の区分が、女性と比べて高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、全体では「30 分未満」以下の区分が減少し、「30 分～１時間未満」「１時間～３時間未満」「３時間～５時間未満」で増加しています。



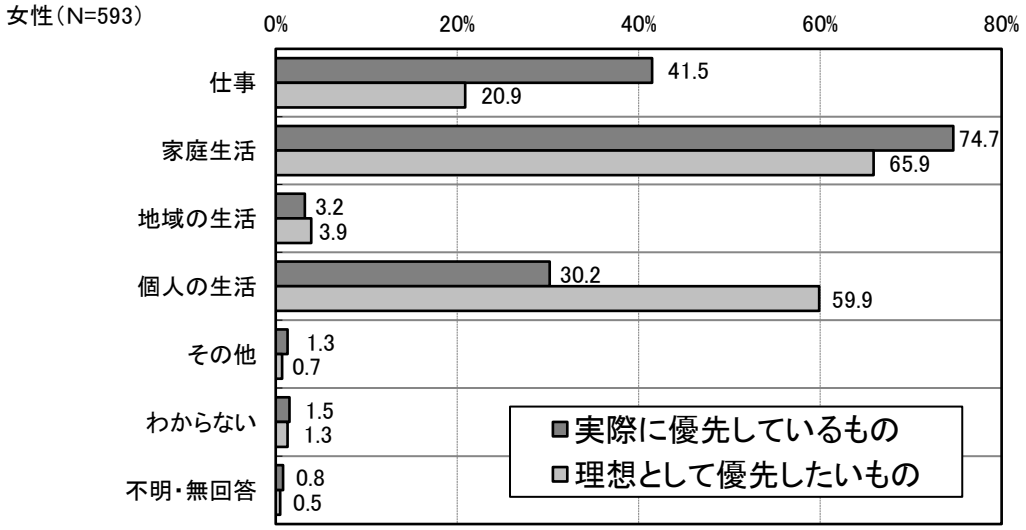
② 生活の中で実際に優先しているもの・生活の中で理想として優先したいもの（複数回答）

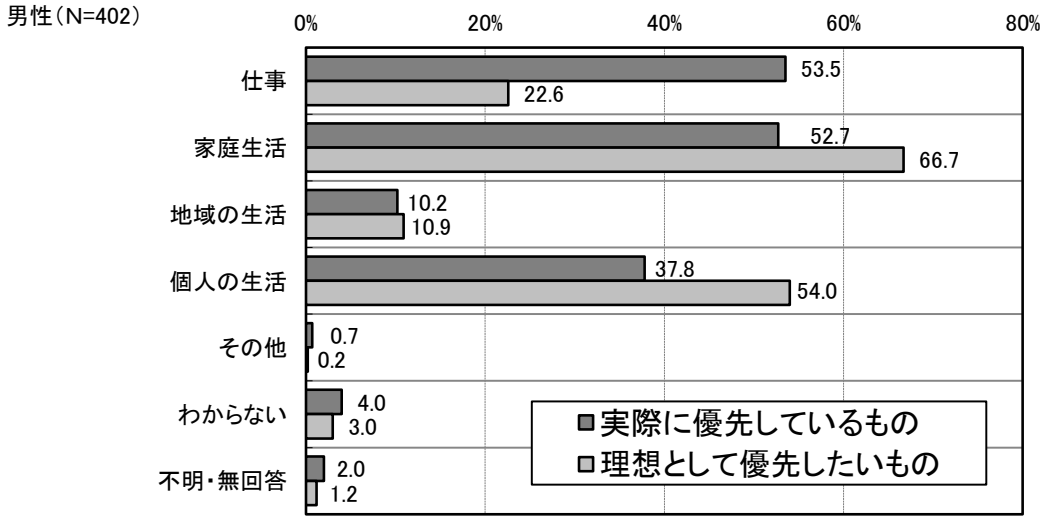
※用語の意味は次のとおりとしています。

○「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤（フルタイム）、パート・アルバイト、嘱託などは問いません。
○「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護・看護など。
○「地域の生活」…地域・社会活動（自治会や町内会の活動、近所との交際・つきあい）など。
○「個人の生活」…趣味・娯楽、スポーツなどの余暇活動、学習・研究、自主的に行うボランティア活動など。

生活の中で、実際に優先しているものと、理想として優先したいものについてみると、女性では「家庭生活」で実際の優先が 74.7%、理想の優先が 65.9%と最も高くなっています。男性では「仕事」が実際の優先で 53.5%、「家庭生活」が理想の優先で 66.7%と最も高くなっています。

女性、男性ともに、実際の理想と理想の優先の差が大きいものは「個人の生活」「仕事」となっています。

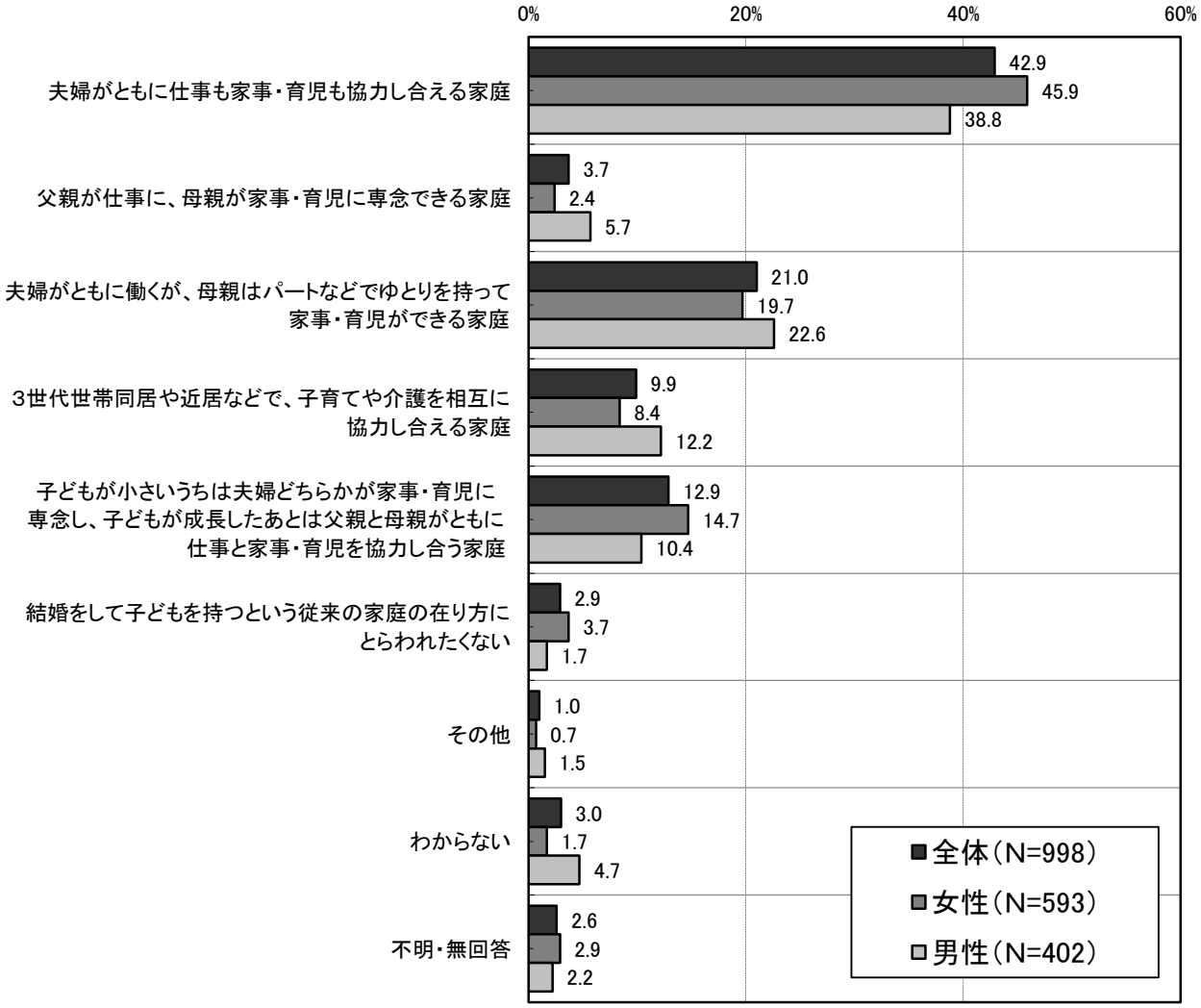




③ 理想とする家庭の姿（単数回答）

理想とする家庭の姿についてみると、全体では「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が 42.9%最も高く、次いで「夫婦がともに働くが、母親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭」が 21.0%となっています。

性別でみると、女性で「夫婦がともに仕事も家事も・育児も協力し合える家庭」が 45.9%と、男性と比べて 7.1 ポイント高くなっています。

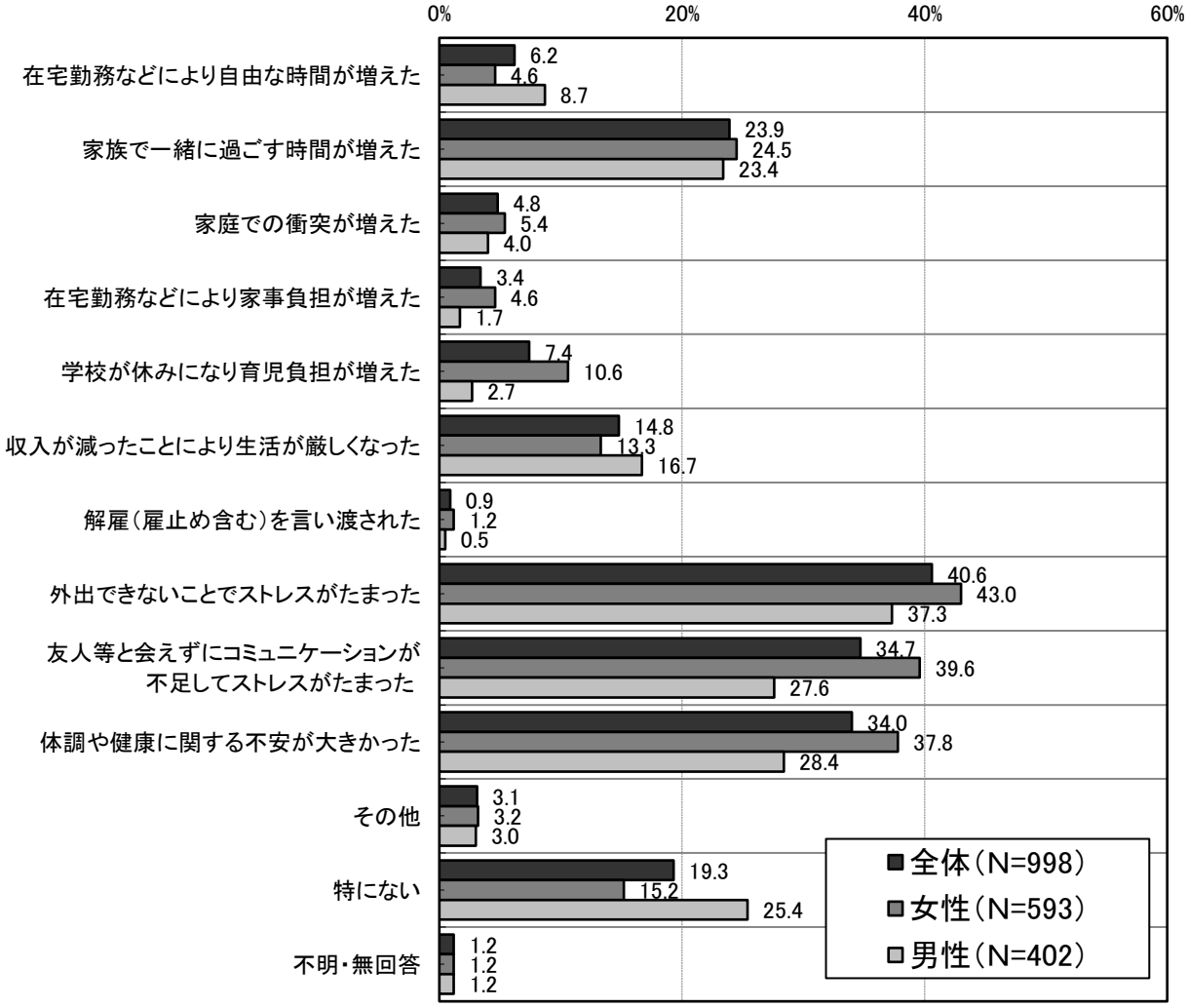


（3）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などにおいてどのようなことがあったか（複数回答）

新型コロナウイルス感染症拡大による影響についてみると、全体では「外出できないことでストレスがたまった」が 40.6％と最も高く、次いで「友人等と会えずコミュニケーションが不足してストレスがたまった」が 34.7％となっています。

性別でみると、女性で「友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった」が 39.6％と、男性と比べて 12.0 ポイント高くなっています。男性では「特にない」が 25.4％と、女性と比べて 10.2 ポイント高くなっています。



５　地域活動について

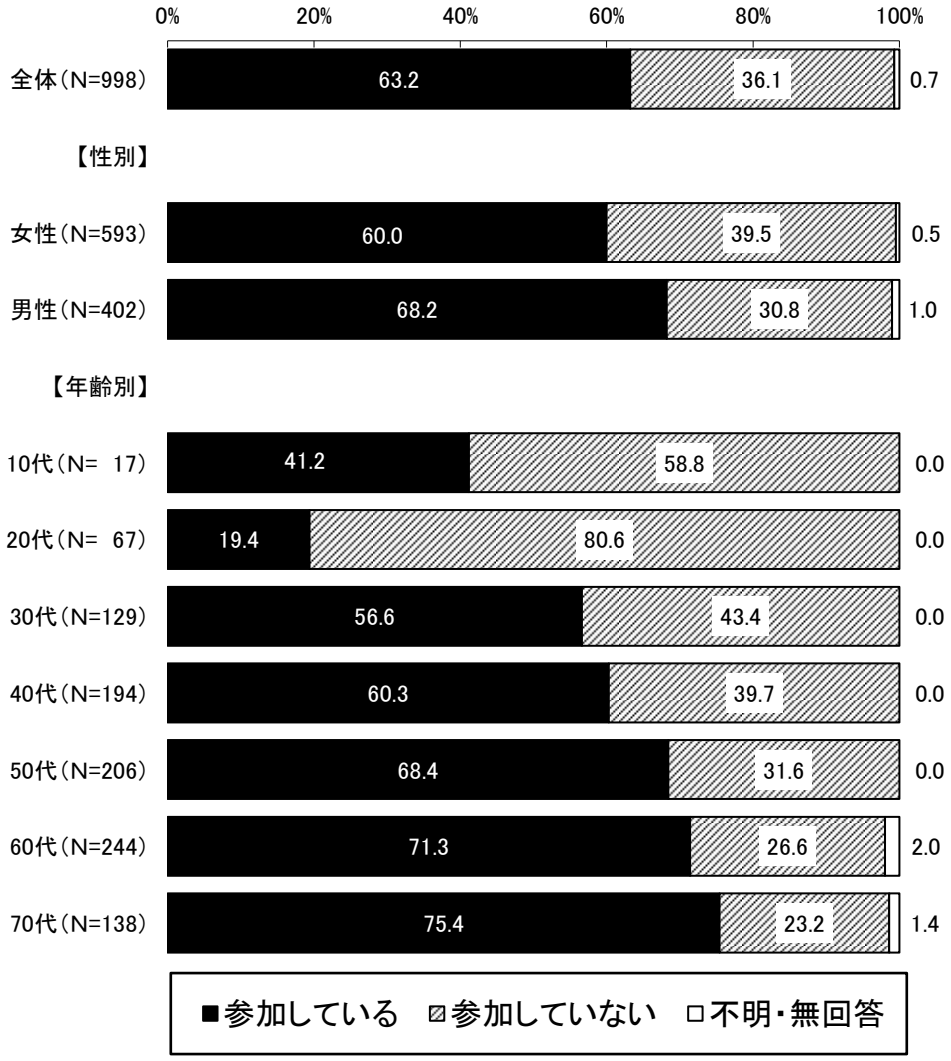
（1）地域活動について

①　町内会・自治会の地域活動への参加状況（単数回答）

町内会・自治会の地域活動への参加状況についてみると、全体では「参加している」が 63.2%、「参加していない」が 36.1%となっています。

性別でみると、男性で「参加している」が 68.2%と、女性と比べて 8.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 代から年齢が上がるにつれ、「参加している」が高くなっています。



② 町内会・自治会の地域活動で役員になることについての考え（単数回答）

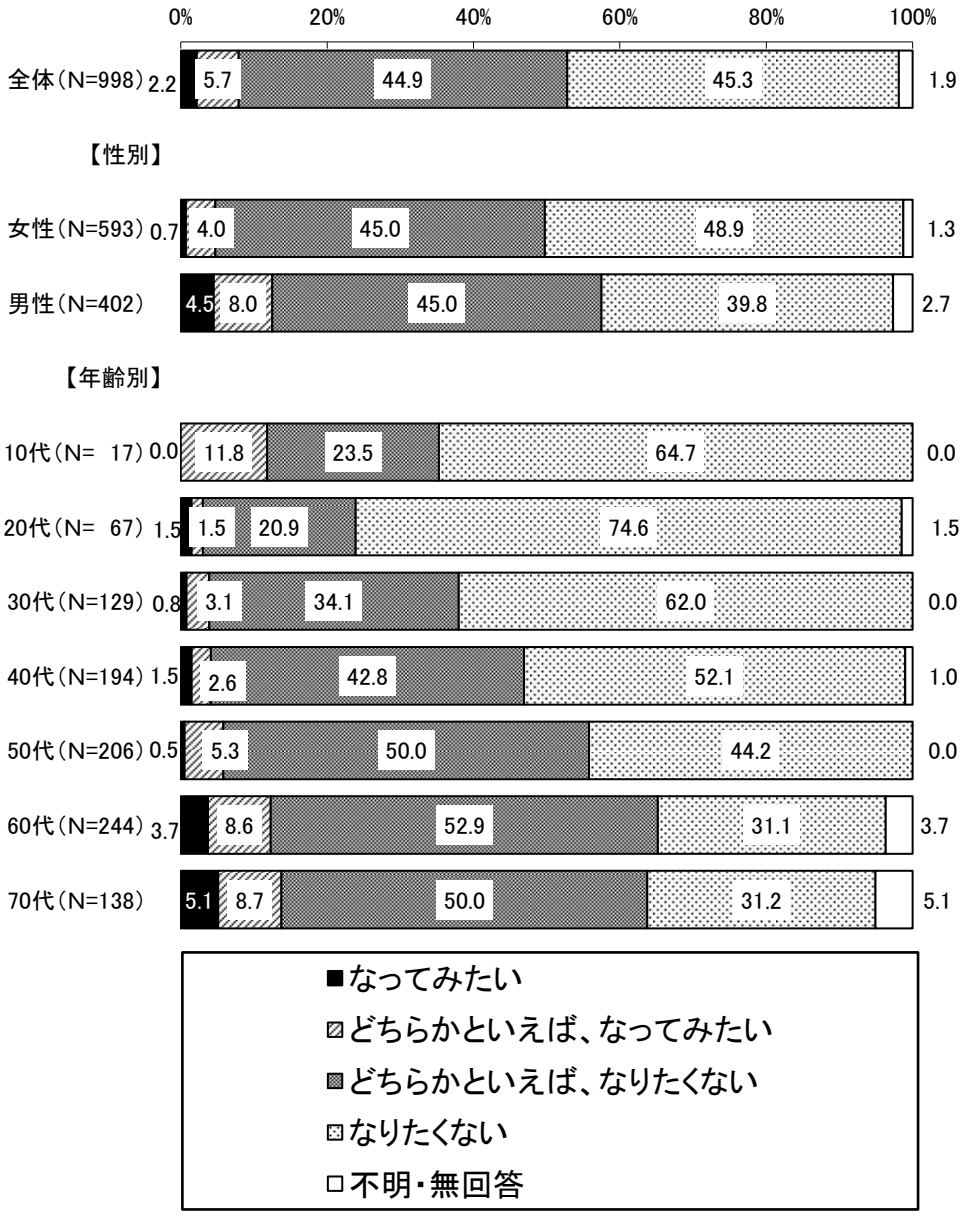
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『なってみたい』…「なってみたい」と「どちらかといえば、なってみたい」を合わせたもの
○『なりたくない』…「なりたくない」と「どちらかといえば、なってみたくない」を合わせたもの

町内会・自治会の地域活動で役員になることについての考えについてみると、全体では『なってみたい』が 7.9%、『なりたくない』が 90.2%となっています。

性別でみると、男性で『なってみたい』が 12.5%と、女性と比べて 7.8 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20 代から年齢が上がるにつれ、『なってみたい』が高くなっています。

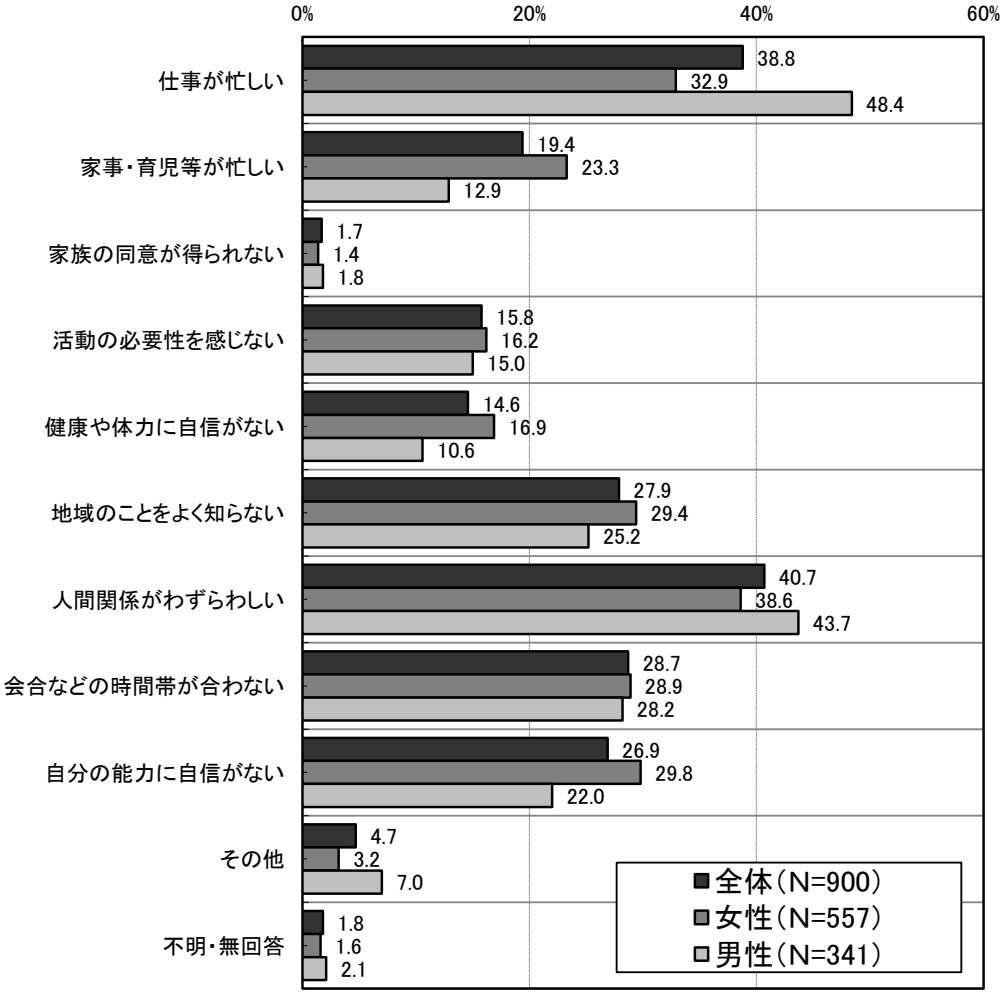


＜地域活動で役員に「どちらかといえば、なりたくない」「なりたくない」方のみへの質問＞

③ 役員になりたくない理由（複数回答）

町内会・自治会の地域活動で役員になりたくない理由についてみると、全体では「人間関係がわずらわしい」が 40.7％と最も高く、次いで「仕事が忙しい」が 38.8％となっています。

性別でみると、女性で「家事・育児等が忙しい」が 23.3％と、男性と比べて 10.4 ポイント高くなっています。男性では「仕事が忙しい」が 48.4％と、女性と比べて 15.5 ポイント高くなっています。



（2）地域活動における女性の参画ついて

① 役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについての考え（単数回答）

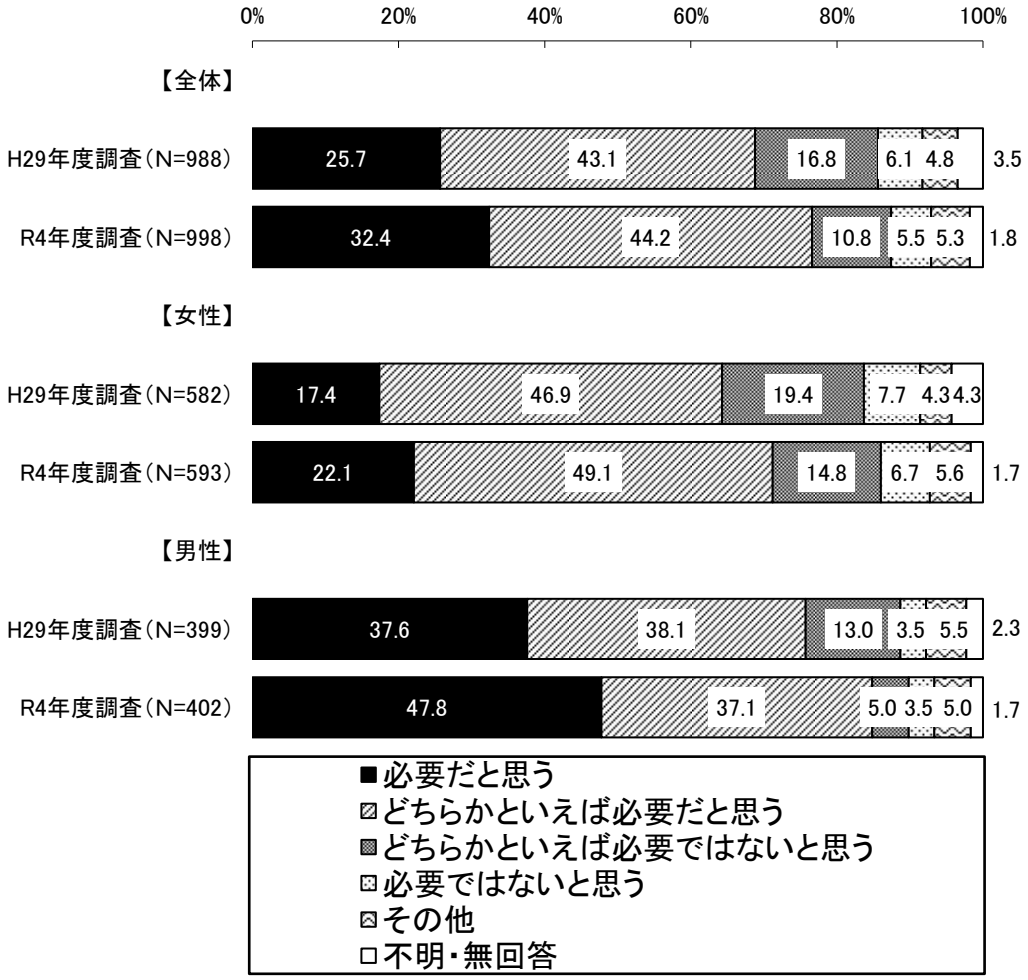
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『必要である』…「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせたもの
○『必要ではない』…「必要ではないと思う」と「どちらかといえば必要ではないと思う」を合わせたもの

役員など地域の意思決定の場へ女性が参画することについての考えについてみると、全体では『必要である』が 76.6%、『必要ではない』が 16.3%となっています。

性別でみると、男性で『必要である』が 84.9%と、女性と比べて 13.7 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、『必要である』が令和４年度調査で 76.6%と平成 29 年度調査に比べて 7.8 ポイント増加しています。

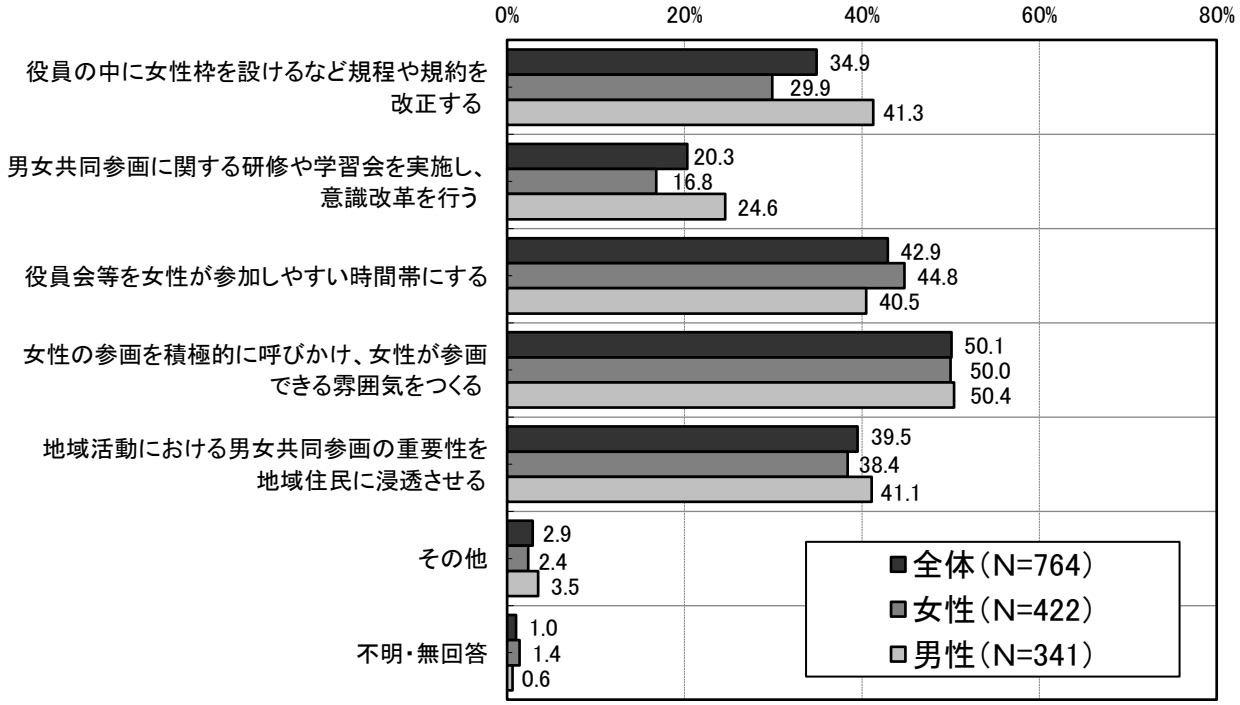


＜地域活動での女性参画が「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」方のみへの質問＞

② どのようにすれば女性が参画できると思うか（複数回答）

女性が参画するための方法についてみると、全体では「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が 50.1％と最も高く、次いで「役員会等を女性が参加しやすい時間帯にする」が 42.9％となっています。

性別でみると、男性で「役員の中に女性枠を設けるなど規程や規約を改正する」が 41.3％と、女性と比べて 11.4 ポイント高くなっています。



６ 防災・災害時対策について

（1）地域の防災活動について

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

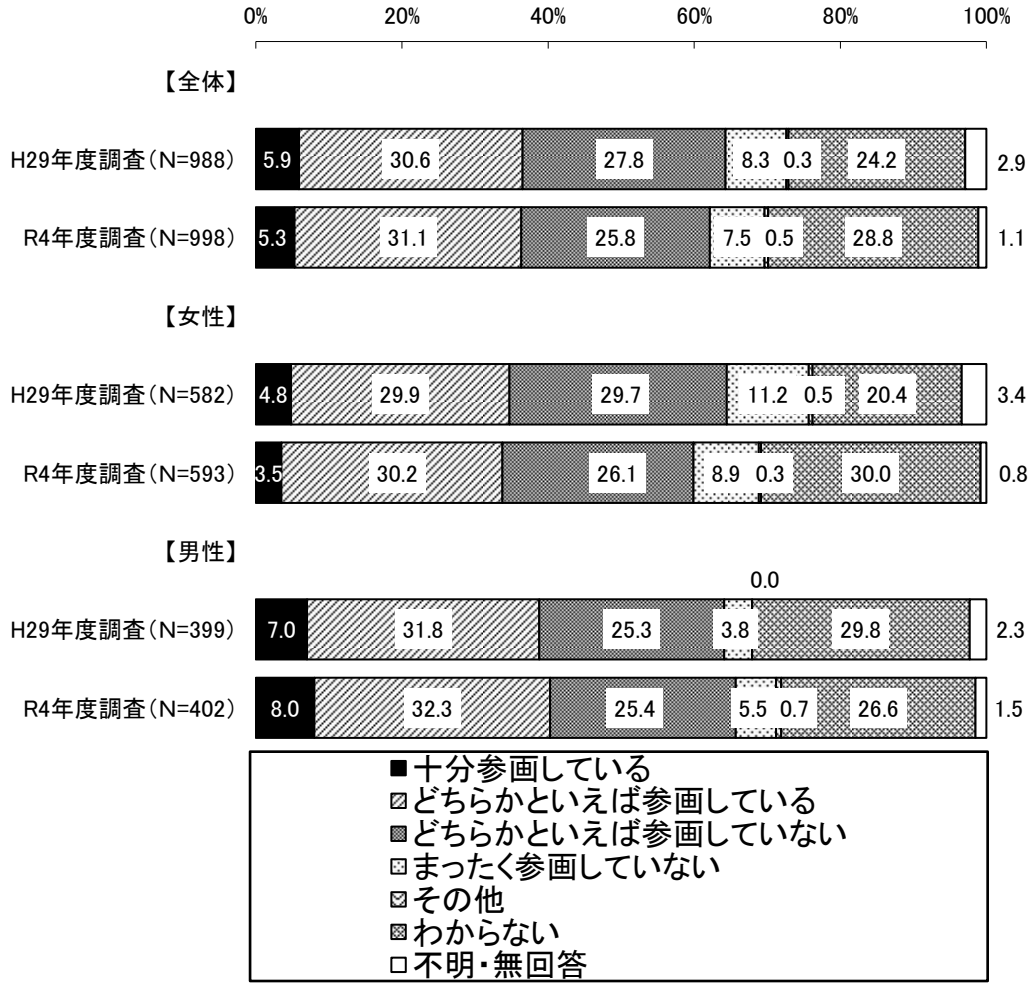
○『参画している』…「十分参画している」と「どちらかといえば参画してる」を合わせたもの
○『参画していない』…「まったく参画していない」と「どちらかといえば参画していない」を合わせたもの

① 地域の防災活動においての女性参画の程度への考え（単数回答）

地域の防災活動においての女性参画の程度についてみると、全体では『参画している』が 36.4%、『参画していない』33.3%となっています。

性別でみると、男性で『参画している』が 40.3%と、女性と比べて 6.6 ポイント高くなっています。

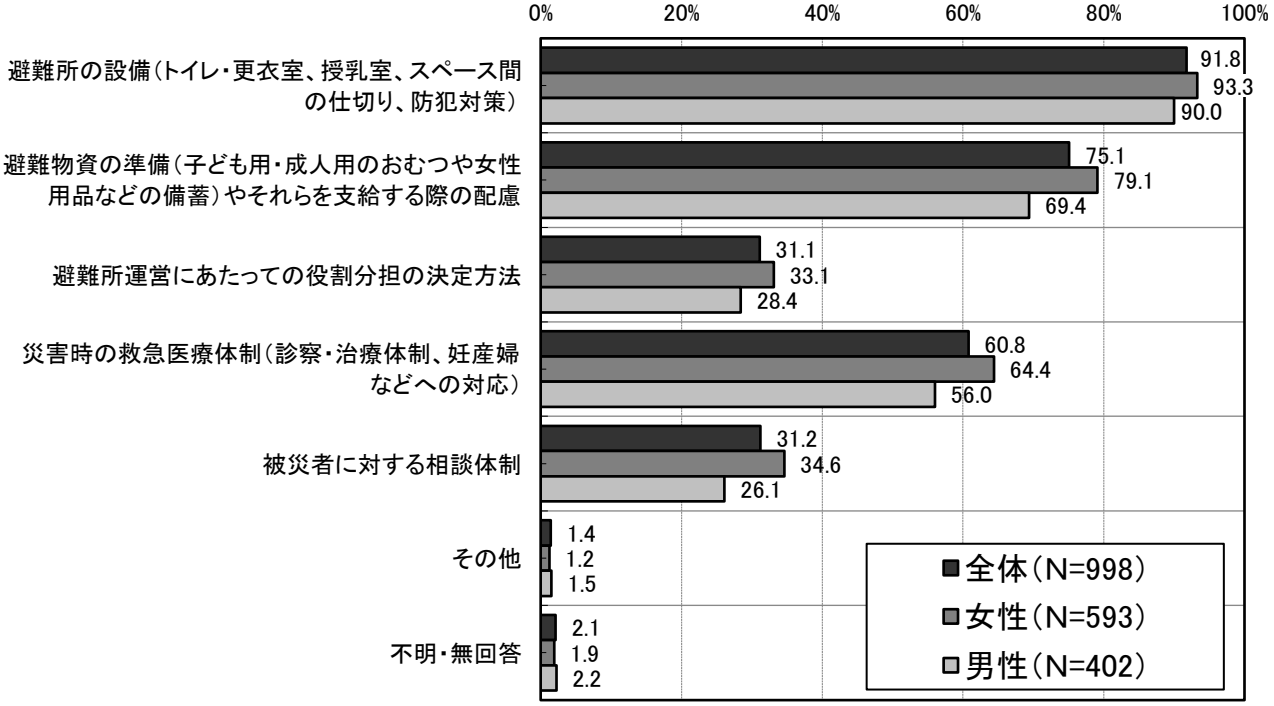
平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はありません。



② 防災・災害時対策で性別に配慮して取り組む必要があると思うこと（複数回答）

防災・災害時対策で性別に配慮して取り組むことについてみると、全体では「避難所の設備（トイレ・更衣室、授乳室、スペース間の仕切り、防犯対策）」が 91.8％と最も高く、次いで「避難物資の準備（子ども用・成人用のおむつや女性用品などの備蓄）やそれらを支給する際の配慮」が 75.1％となっています。

性別でみると、「その他」「不明・無回答」を除く、すべての項目で男性と比べて女性が高くなっています。



7　配偶者や恋人からの暴力について

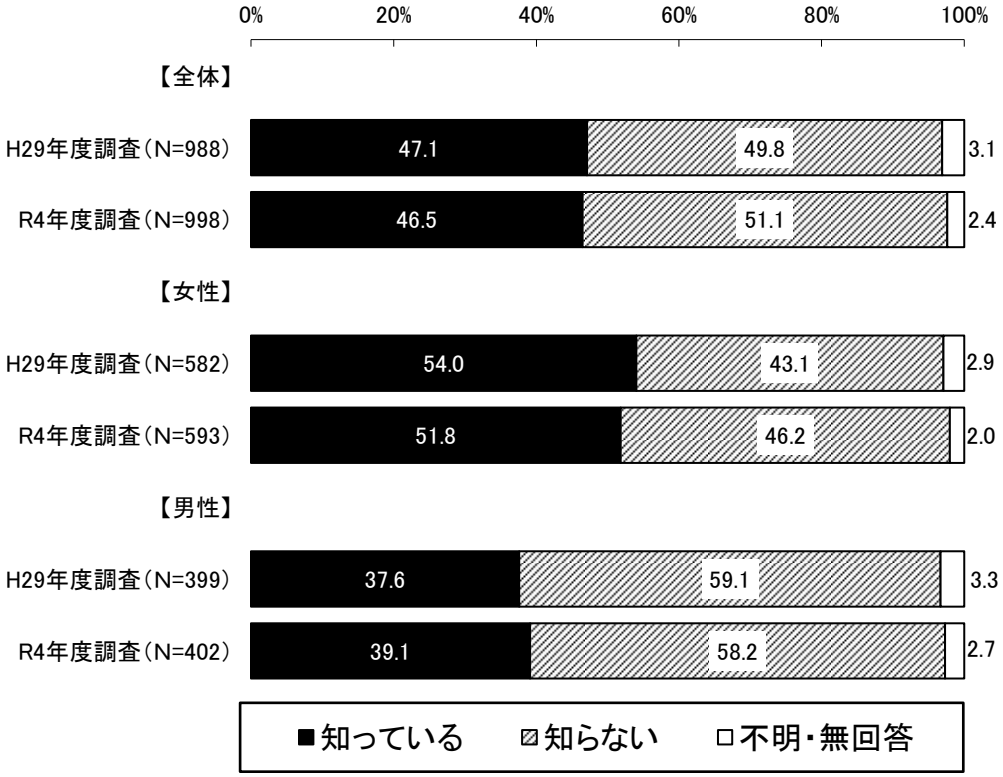
（1）配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度

①　配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度（単数回答）

配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度についてみると、全体では「知っている」が 46.5%、「知らない」が 51.1%となっています。

性別でみると、女性で「知っている」が 51.8%と、男性と比べて 12.7 ポイント高くなっています。

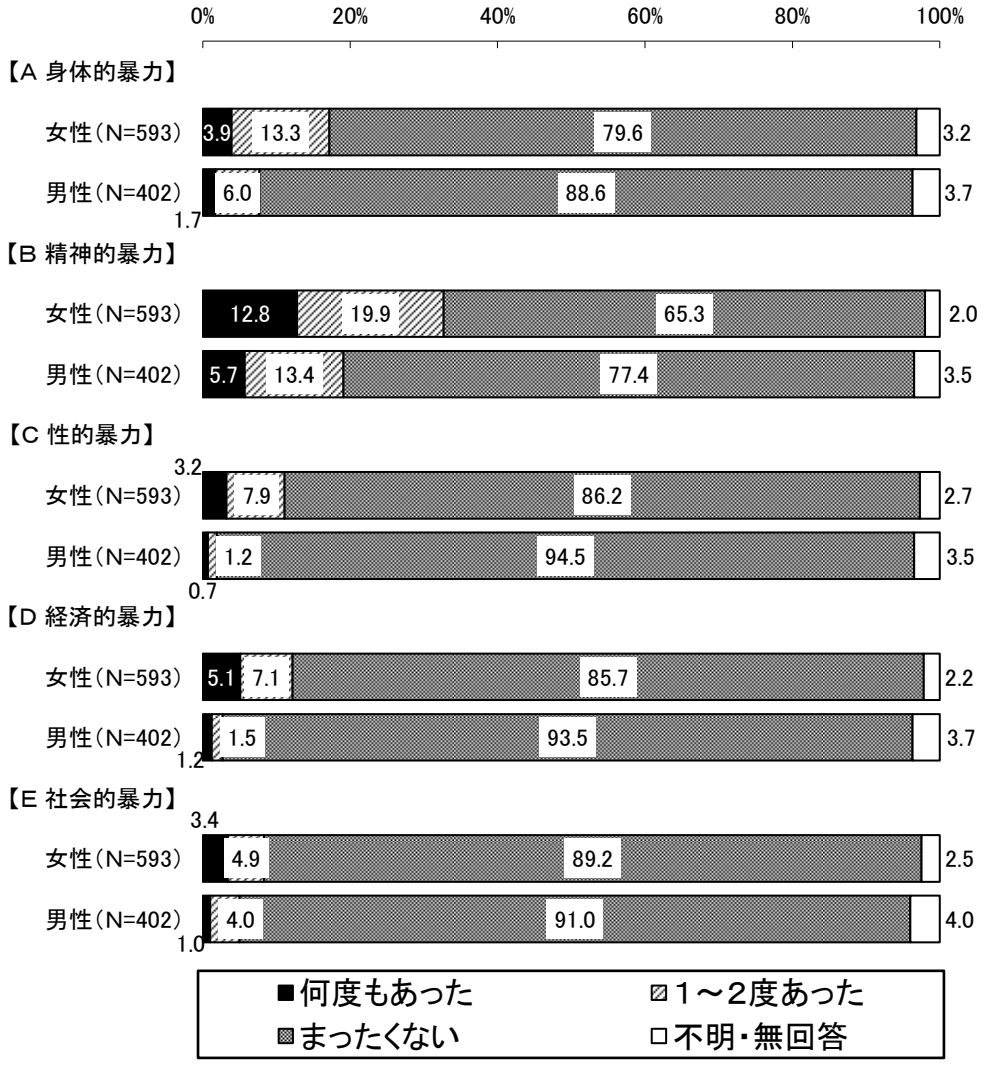
平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はありません。



（2）配偶者や恋人からの暴力の経験の有無

① 配偶者や恋人からの暴力の経験（単数回答）

配偶者や恋人からの暴力の経験についてみると、『B 精神的暴力』で「何度もあった」「１～２度あった」が女性、男性ともに最も高くなっています。また、いずれの暴力においても、「何度もあった」「１～２度あった」は、男性と比べて女性で高くなっています。



各暴力については以下のようなものがあげられます。

A 身体的暴力…殴る、蹴る、物を投げる、突き飛ばすなど
B 精神的暴力…大声で怒鳴る、長期間無視する、ののしる、脅迫するなど
C 性的暴力　…性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌やビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど
D 経済的暴力…生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金を重ねるなど
E 社会的暴力…外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなど

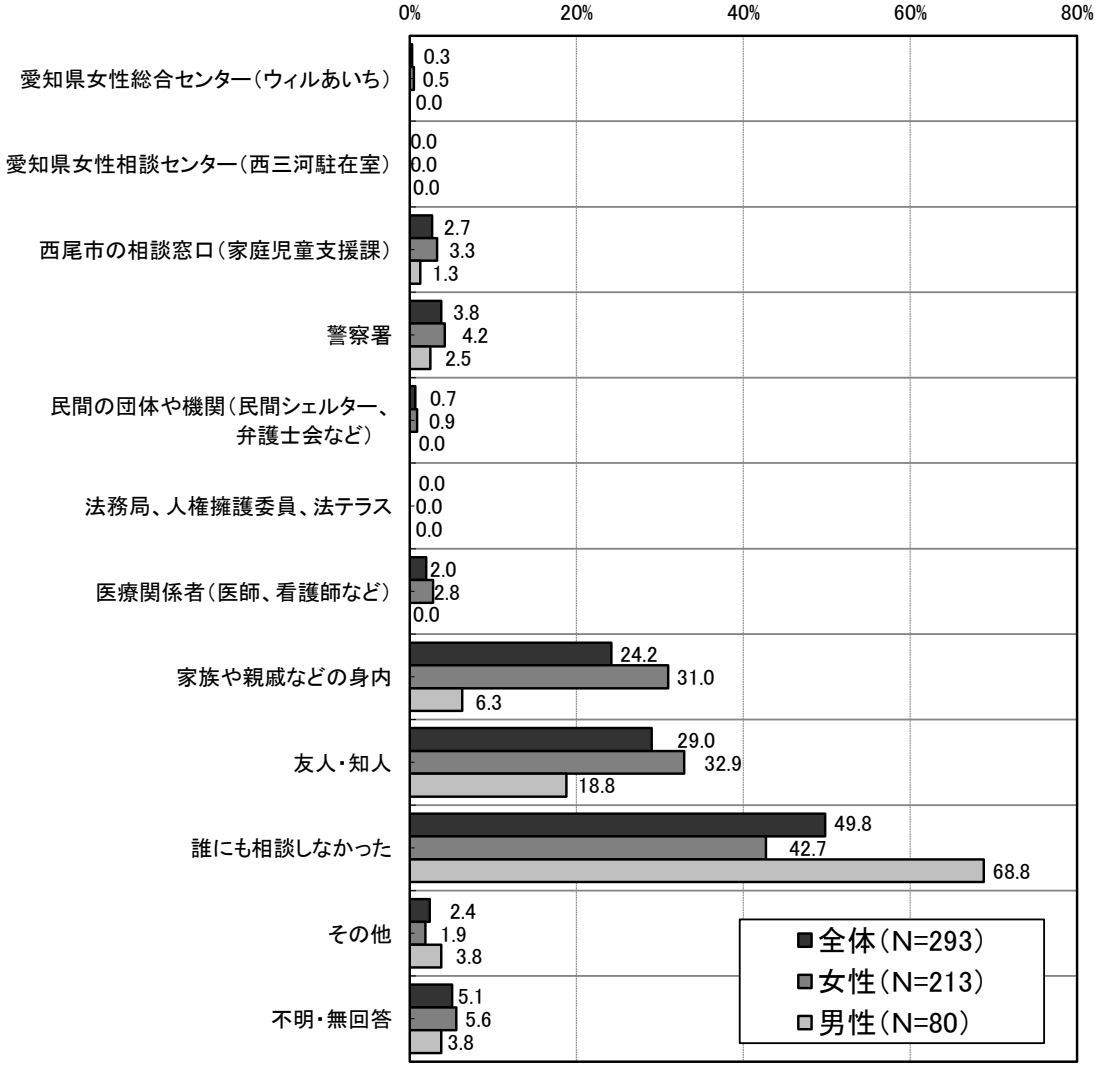
（3）配偶者や恋人から暴力を受けた際の相談の状況

＜配偶者や恋人からの暴力の経験がある方のみへの質問＞

① 配偶者や恋人から暴力を受けた際の相談先（複数回答）

配偶者や恋人から暴力を受けた際の相談先についてみると、全体では「誰にも相談しなかった」が49.8％と最も高く、次いで「友人・知人」が29.0％となっています。

性別でみると、「誰にも相談しなかった」が女性で42.7％、男性で68.8％と最も高くなっています。また、女性で「家族や親戚などの身内」が31.0％と、男性と比べて24.7ポイント高くなっています。男性では「誰にも相談しなかった」が68.8％と、女性と比べて26.1ポイント高くなっています。

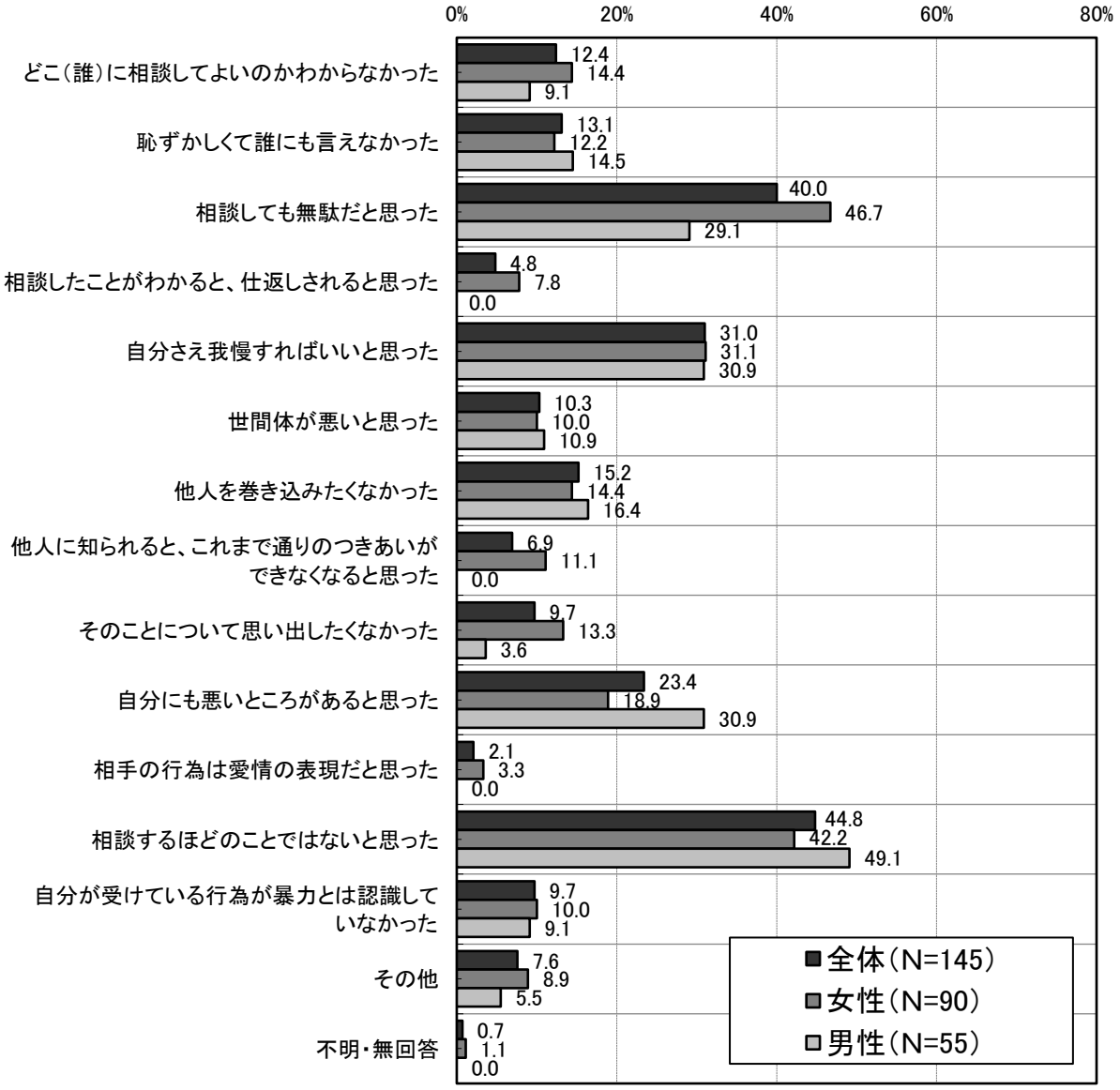


＜配偶者や恋人から暴力を受けた際に「誰にも相談しなかった」方のみへの質問＞

② 配偶者や恋人から暴力を受けた際に誰にも相談しなかった理由（複数回答）

誰にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思った」が44.8％と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が40.0％となっています。

性別でみると、「相談しても無駄だと思った」が女性で46.7％、「相談するほどのことではないと思った」が男性で49.1％と最も高くなっています。また、女性で「相談しても無駄だと思った」が46.7％と、男性と比べて17.6ポイント高くなっています。男性では「自分にも悪いところがあると思った」が30.9％と、女性と比べて12.0ポイント高くなっています。



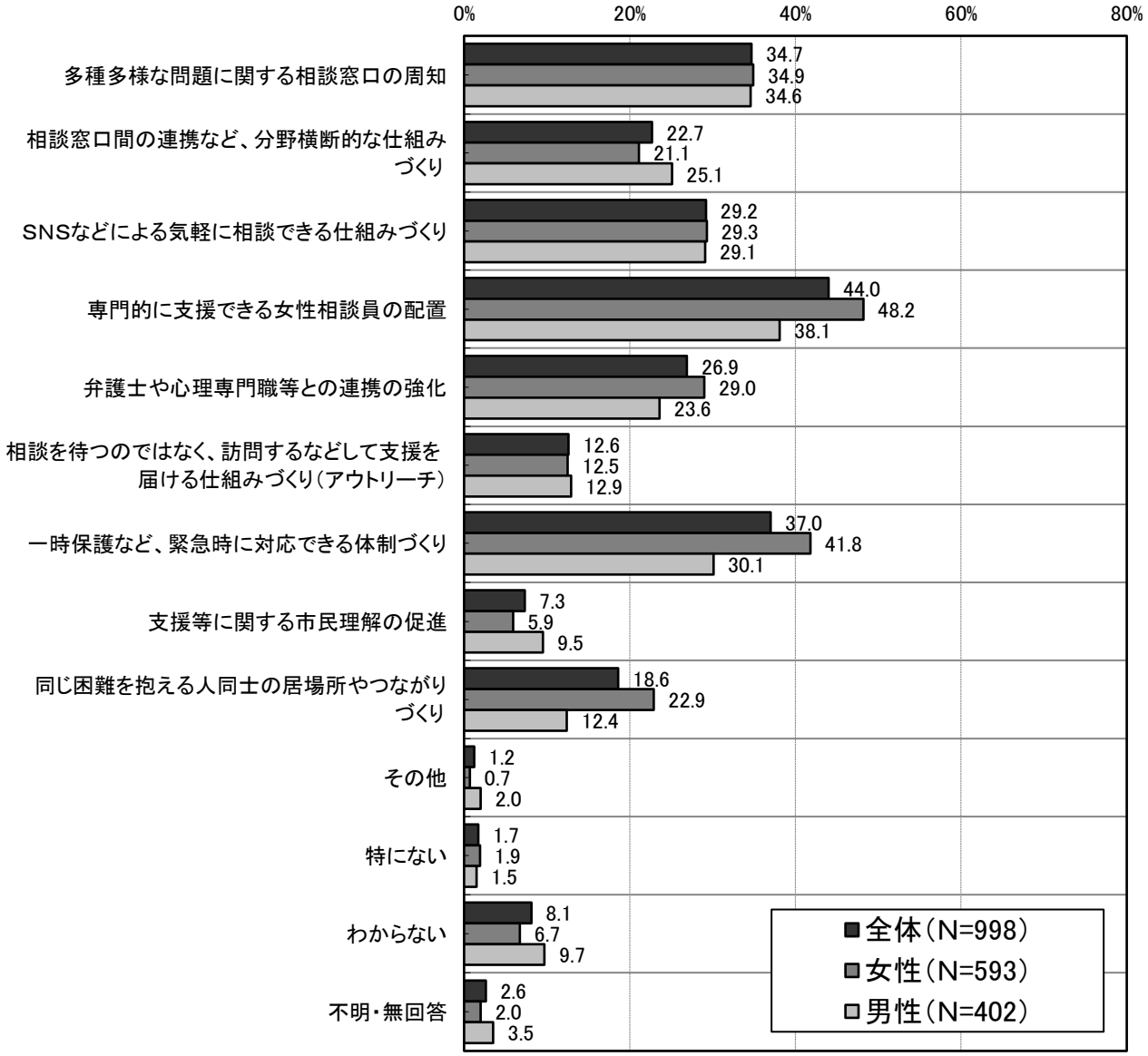
8　困難を抱える女性の支援について

（1）貧困やDV、性的暴力などに直面する女性の自立に向けての支援

①　困難を抱える女性に対して、特に市で取り組む必要があるもの

困難を抱える女性に対して、特に市で取り組む必要があるものついてみると、全体では「専門的に支援できる女性相談員の配置」が 44.0％と最も高く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が 37.0％となっています。

性別でみると、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が女性で 48.2％、男性で 38.1％と最も高くなっています。また、女性で「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が 41.8％と、男性と比べて 11.7 ポイント高くなっています。男性では「相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり」が 25.1％と、女性と比べてやや高くなっています。



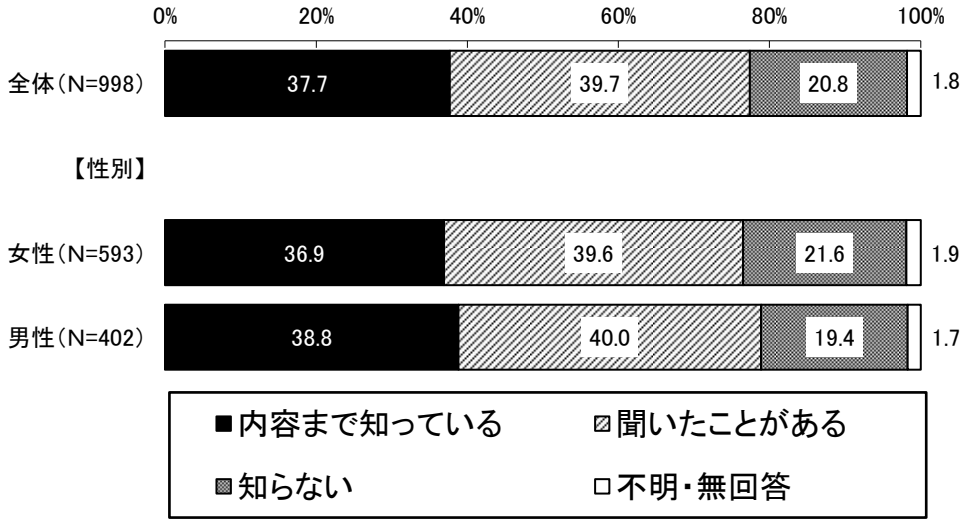
９　LGBTQ等（性的少数者）について

（1）LGBTQの認知度

①　LGBTQの認知度（単数回答）

ＬＧＢＴＱの認知度についてみると、全体では「聞いたことがある」が 39.7％と最も高く、次いで「内容まで知っている」が 37.7％、「知らない」が 20.8％となっています。

性別でみると、大きな差はありません。

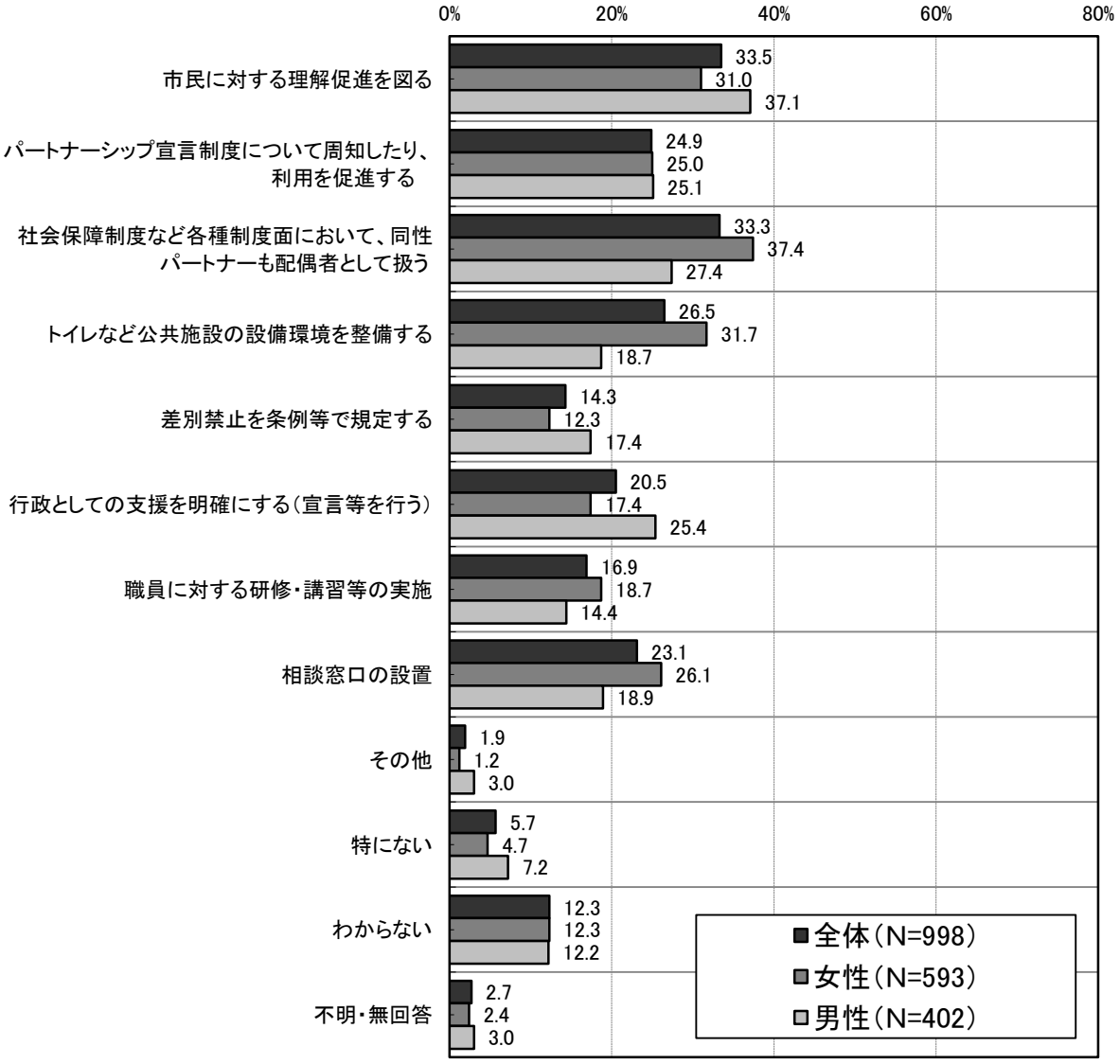


（2）LGBTQ等への必要な対応

① LGBTQ等へ西尾市が行うべき対応（複数回答）

ＬＧＢＴＱ等へ西尾市が行うべき対応についてみると、全体では「市民に対する理解を図る」が33.5％と最も高く、次いで「社会保障制度など各種制度面において、同性パートナーも配偶者として扱う」が33.3％となっています。

性別でみると、「社会保障制度など各種制度面において、同性パートナーも配偶者として扱う」が女性で37.4％、「市民に対する理解」が男性で37.1％と最も高くなっています。また、女性で「トイレなど公共施設の設備環境を整備する」が31.7％と、男性と比べて13.0ポイント高くなっています。男性では「行政としての支援を明確にする（宣言等を行う）」が25.4％と、女性と比べて8.0ポイント高くなっています。



10　男女共同参画全般について

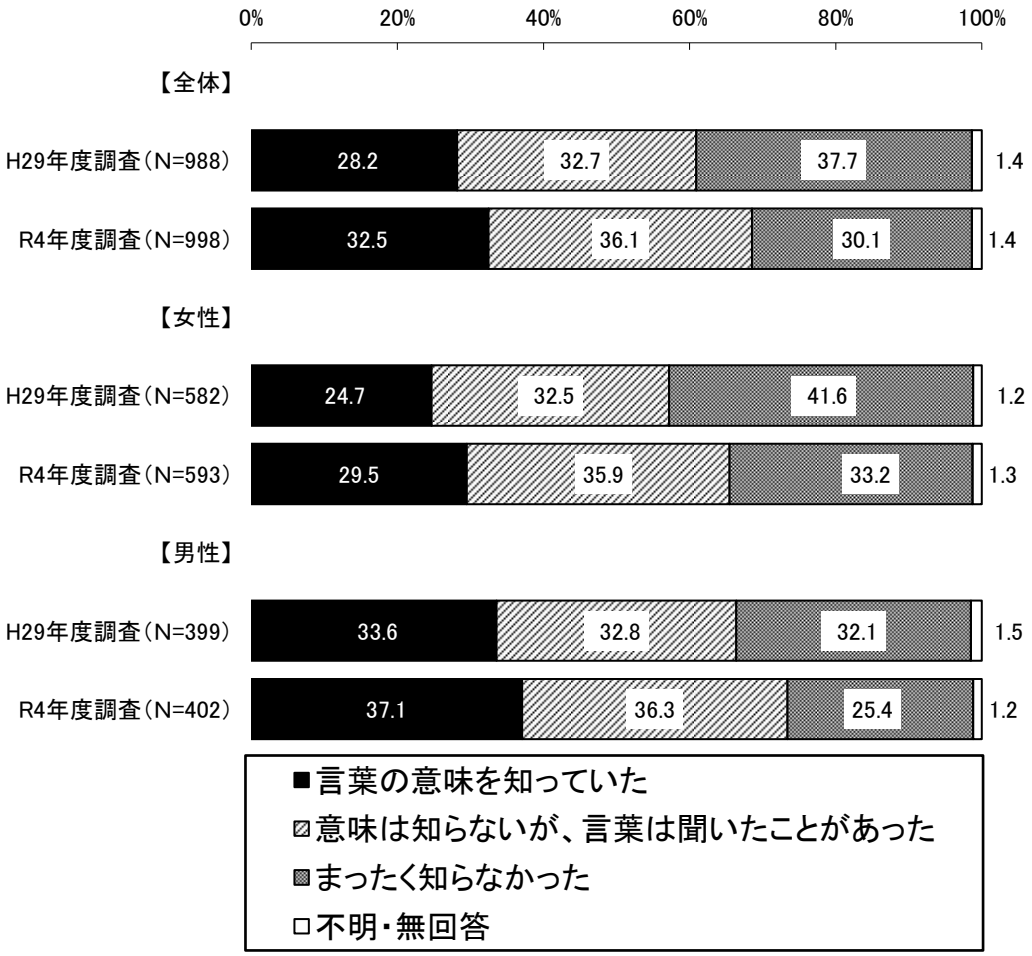
（1）男女共同参画の認知度

①　男女共同参画の認知度（単数回答）

男女共同参画の認知度についてみると、全体では「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 36.1％と最も高く、次いで「言葉の意味を知っていた」が 32.5％、「まったく知らなかった」が 30.1％となっています。

性別でみると、「言葉の意味は知っていた」が男性で 37.1％と、女性と比べて 7.6 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「言葉の意味を知っていた」が令和４年度調査で 32.5％と、平成 29 年度調査と比べて 4.3 ポイント増加しています。



（2）男女共同参画の推進状況

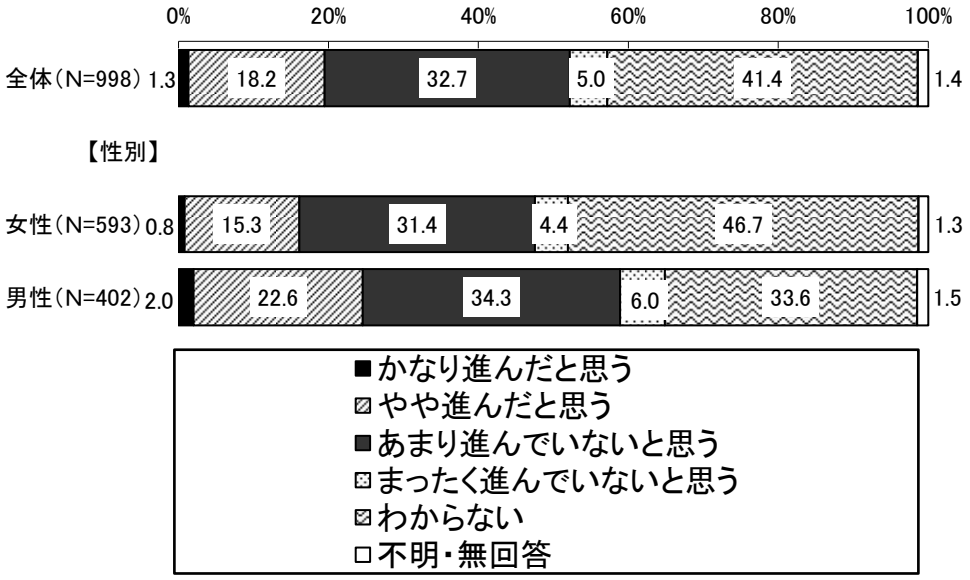
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『進んだ』…「かなり進んだと思う」と「やや進んだと思う」を合わせたもの
○『進んでいない』…「あまり進んでいないと思う」と「まったく進んでいないと思う」を合わせたもの

① この5年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思うか（単数回答）

この５年くらいの間に男女共同参画が進んだと思うかについてみると、全体では「わからない」が41.4％と最も高く、次いで『進んでいない』が37.7％、『進んだ』が19.5％となっています。

性別でみると、男性で『進んだ』が24.6％と、女性と比べて8.5ポイント高くなっています。

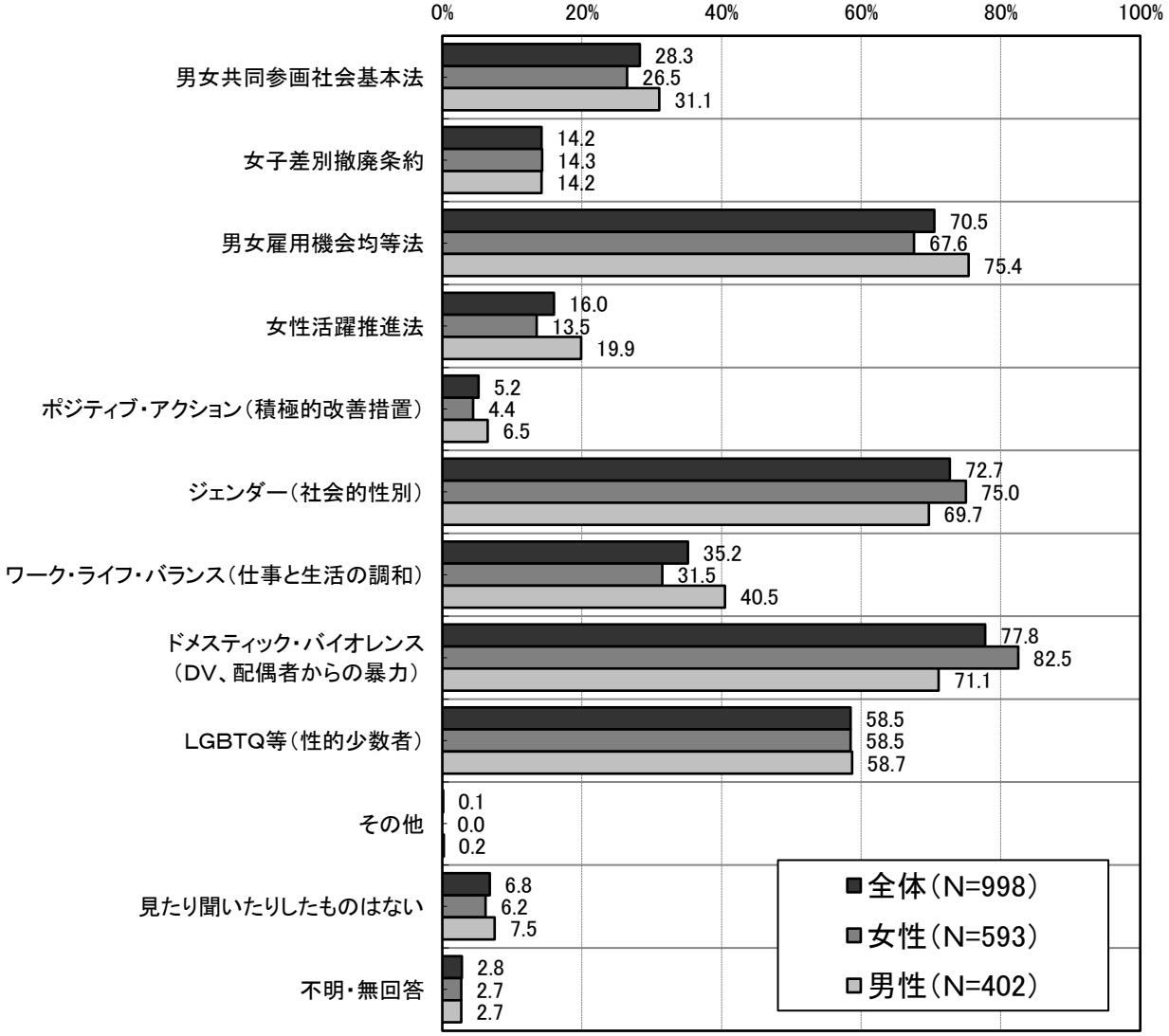


（3）用語の認知度

① 男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの（複数回答）

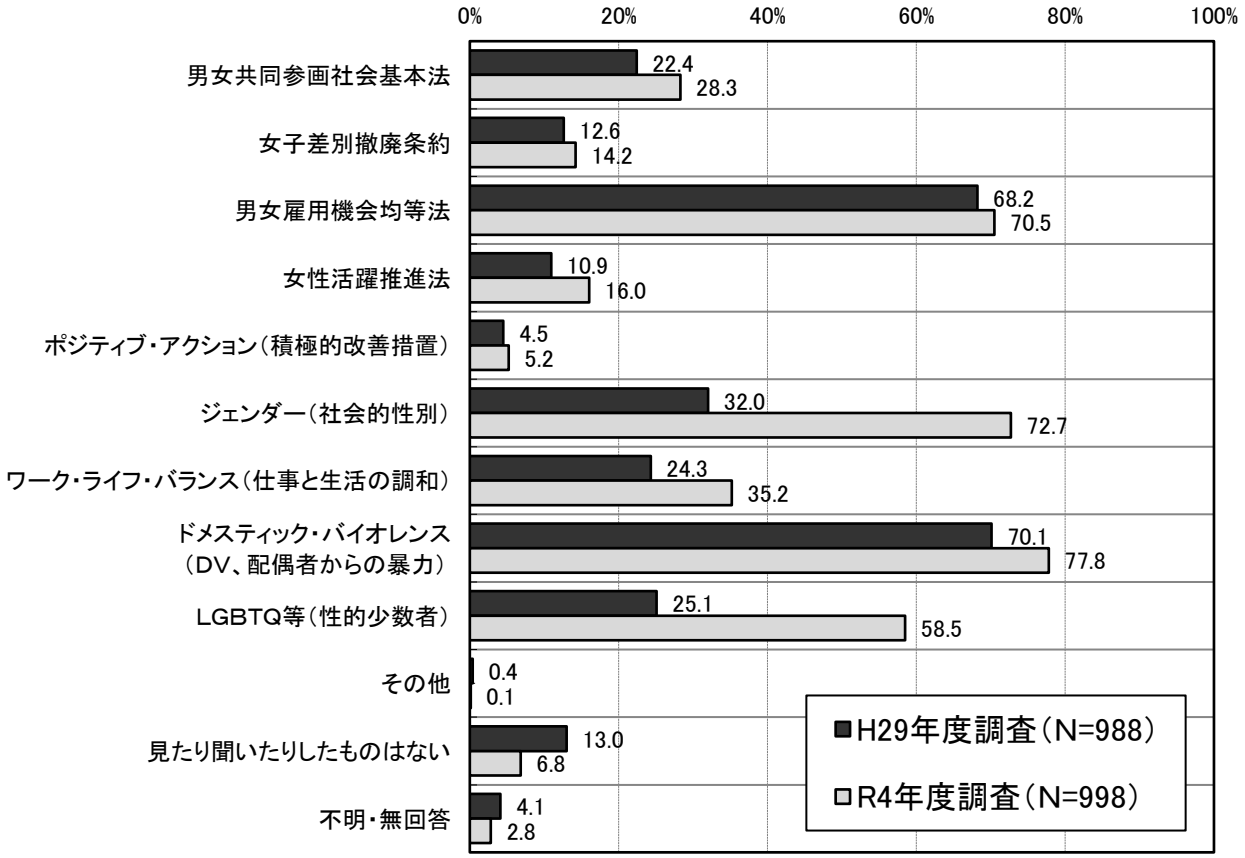
男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものについてみると、全体では「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ、配偶者からの暴力）」が 77.8％と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」が 72.7％となっています。

性別でみると、女性で「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ、配偶者からの暴力）」が 82.5％と、男性と比べて 11.4 ポイント高くなっています。男性では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が 40.5％と、女性と比べて 9.0 ポイント高くなっています。



■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、いずれの用語も増加しています。特に「ジェンダー（社会的性別）」で 40.7 ポイント、「ＬＧＢＴＱ等（性的少数者）」で 33.4 ポイントと大幅に増加しています。

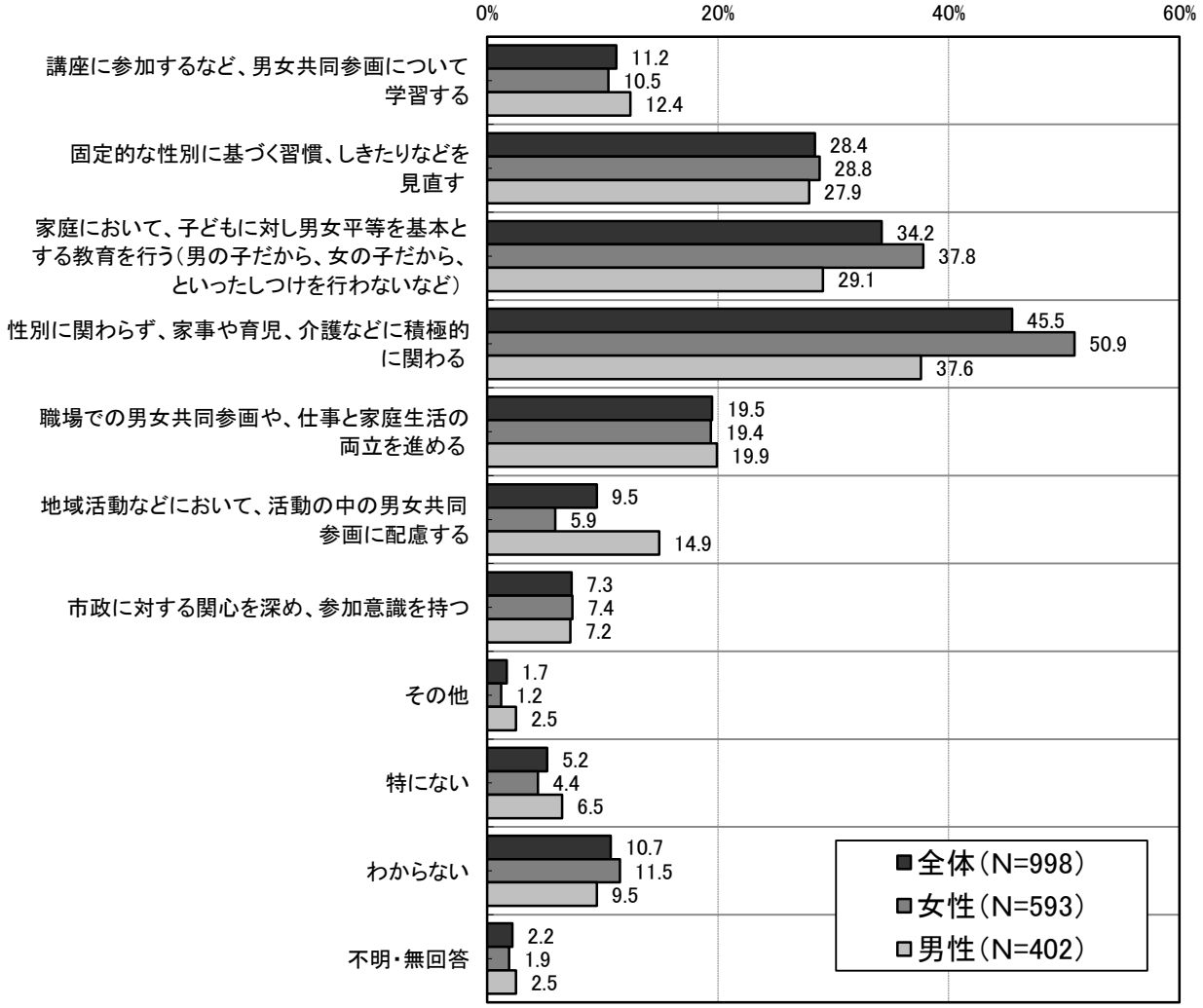


（4）男女共同参画社会実現のために必要な取組

① 男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思うか（複数回答）

男女共同参画社会を実現するために、市民としてすべきことについてみると、全体では「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が 45.5%と最も高く、次いで「家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う（男の子だから、女の子だから、といったしつけを行わないなど）」が 34.2%となっています。

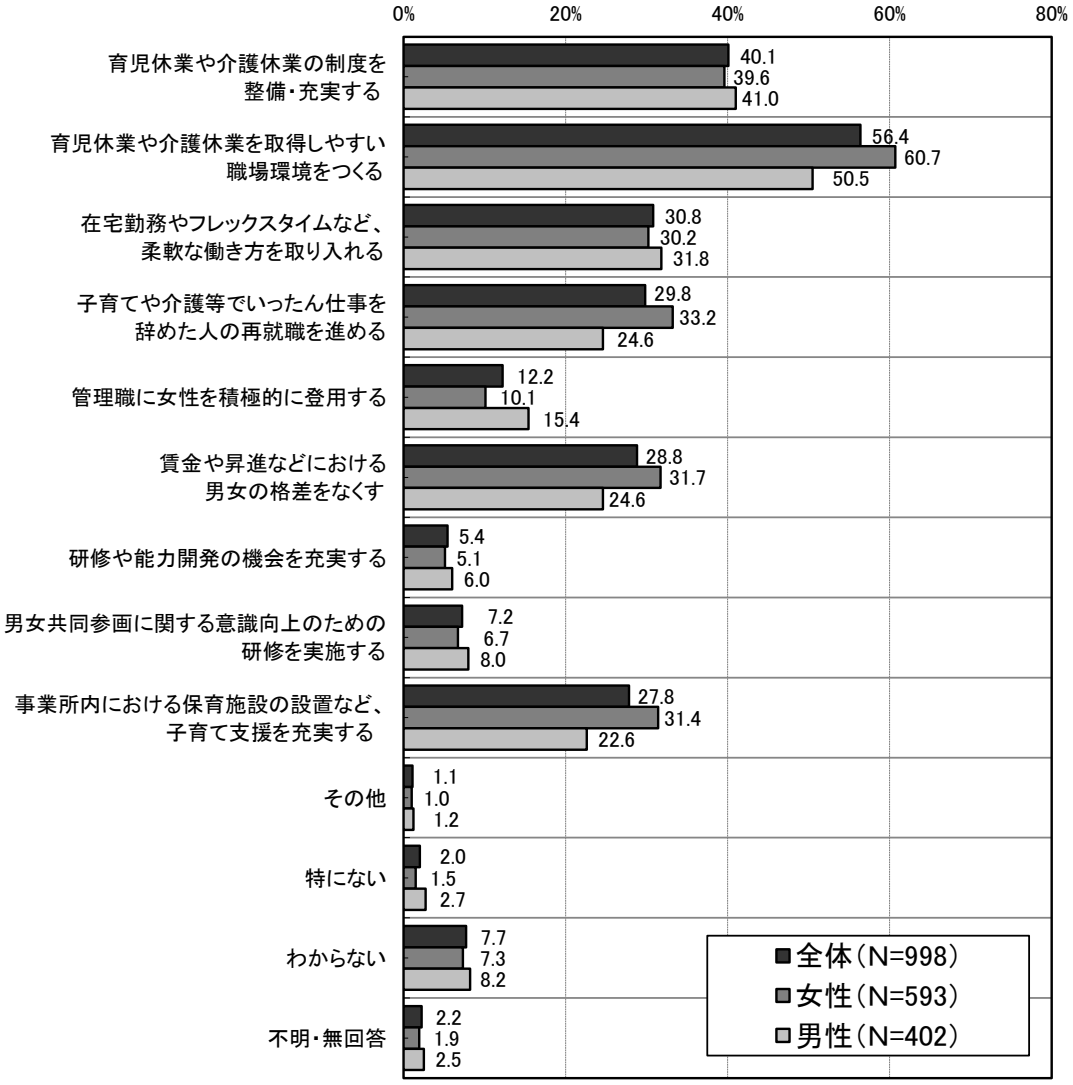
性別でみると、女性で「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が 50.9%と、男性と比べて 13.3 ポイント高くなっています。



② 男女共同参画社会を実現するために、企業は何をすべきだと思うか（複数回答）

男女共同参画社会を実現するために、企業として力を入れていくべきことについてみると、全体では「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が 56.4％と最も高く、次いで「育児休業や介護休業の制度を整備・充実する」が 40.1％となっています。

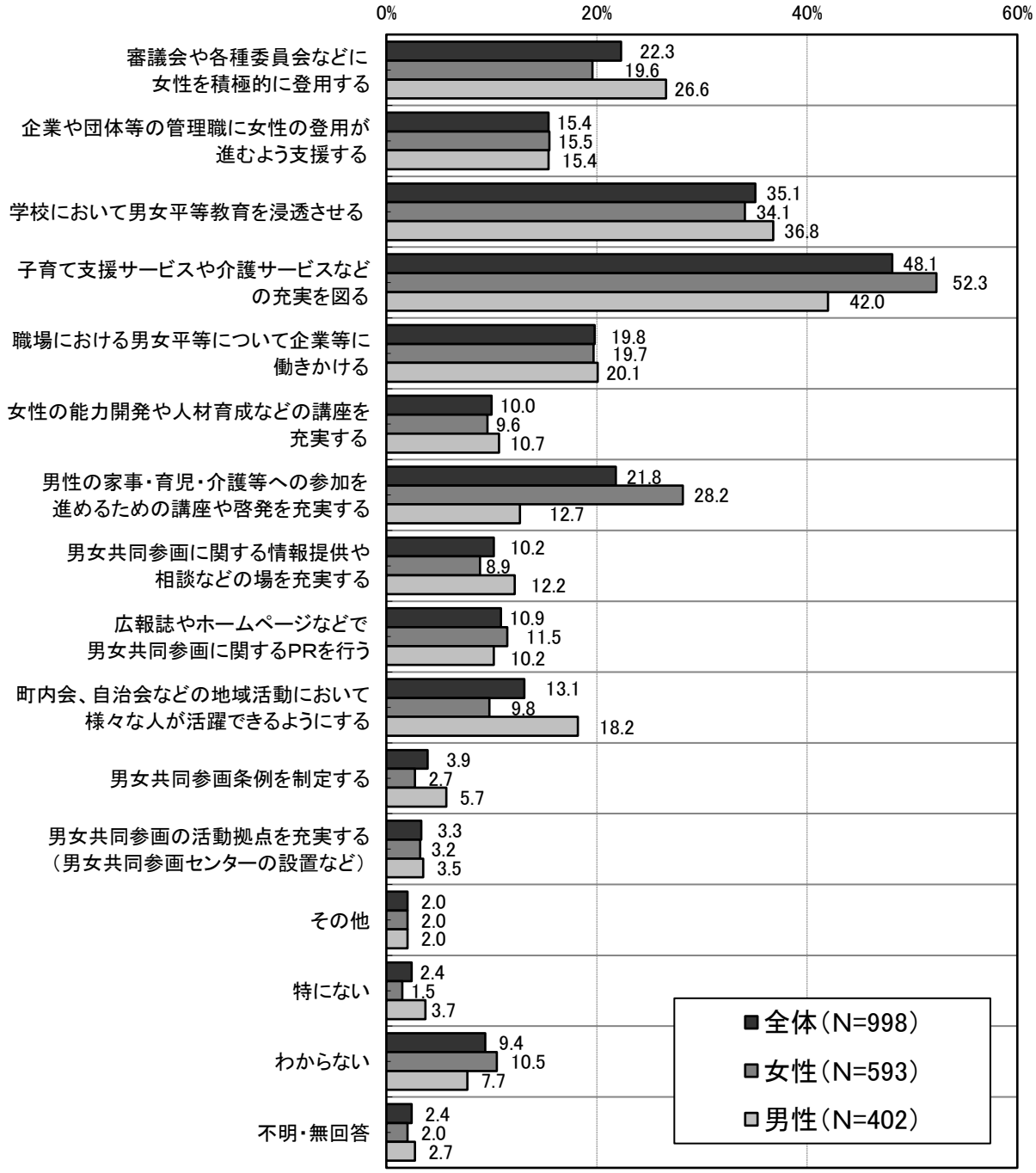
性別でみると、女性で「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が 60.7％と、男性と比べて 10.2 ポイント高くなっています。



③ 男女共同参画社会を実現するために、西尾市は何をすべきだと思うか（複数回答）

男女共同参画社会を実現するために、西尾市がすべきことついてみると、全体では「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が 48.1％と最も高く、次いで「学校において男女平等教育を浸透させる」が 35.1％となっています。

性別でみると、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が女性で 52.3％、男性で 42.0％と最も高くなっています。また、女性で「男性の家事・育児・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実する」が 28.2％と、男性と比べて 15.5 ポイント高くなっています。男性では「町内会、自治会などの地域活動において様々な人が活躍できるようにする」が 18.2％と、女性と比べて 8.4 ポイント高くなっています。



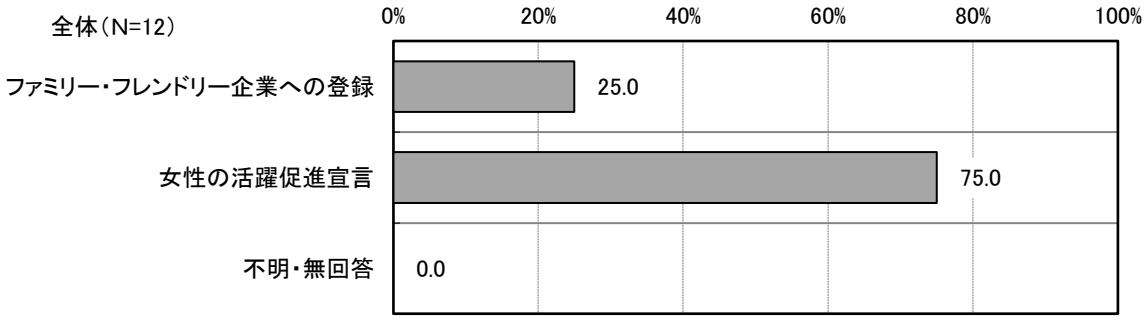
Ⅳ　企業調査

1　調査企業の概要について

(1)回答企業の状況

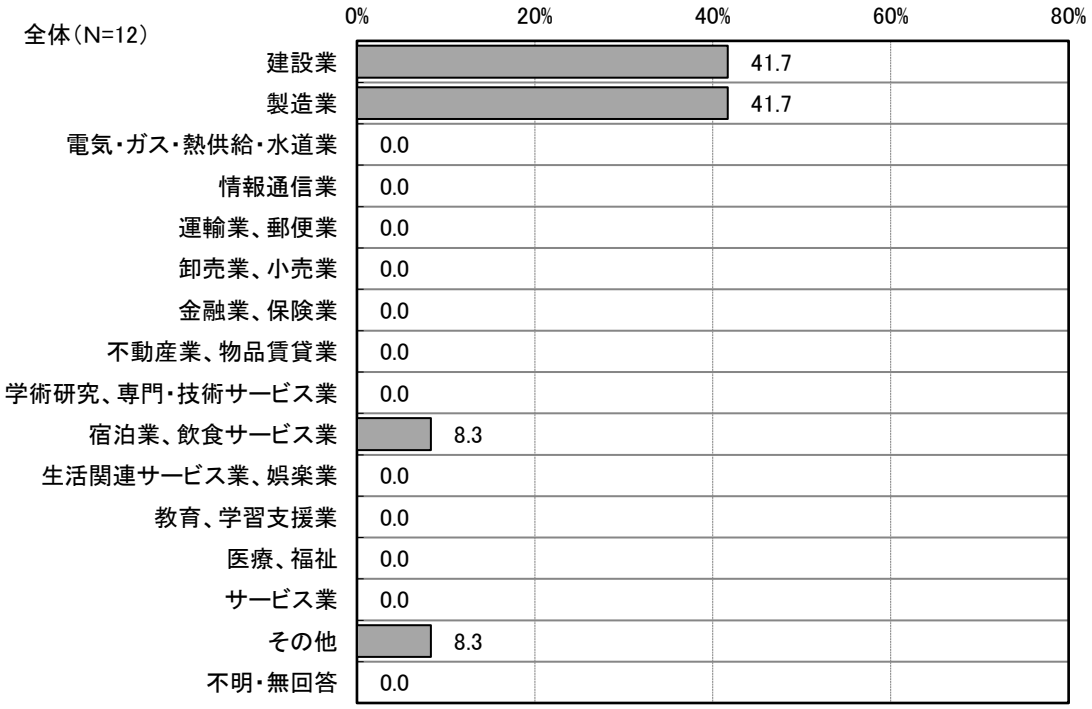
① 事業所で実施している愛知県の取組(複数回答)

事業所で実施している愛知県の取組は、「ファミリー・フレンドリー企業への登録」を行っている企業が 25.0%、「女性の活躍促進宣言」を行っている企業が 75.0%となっています。



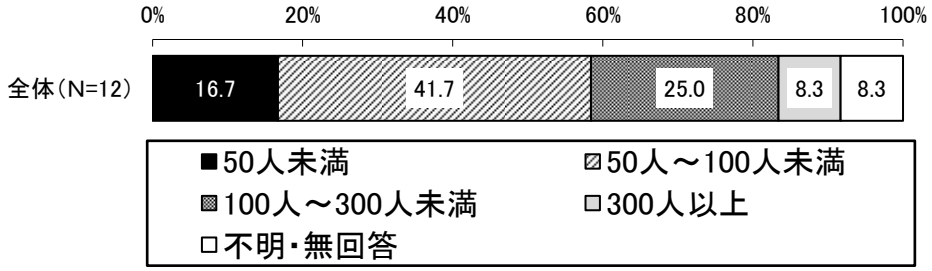
② 業種(単数回答)

回答企業の業種は、「建設業」「製造業」が 41.7%、「宿泊業、飲食サービス業」「その他」が 8.3%となっています。



③ 従業員数（数量回答） ※契約社員・パート等を含む

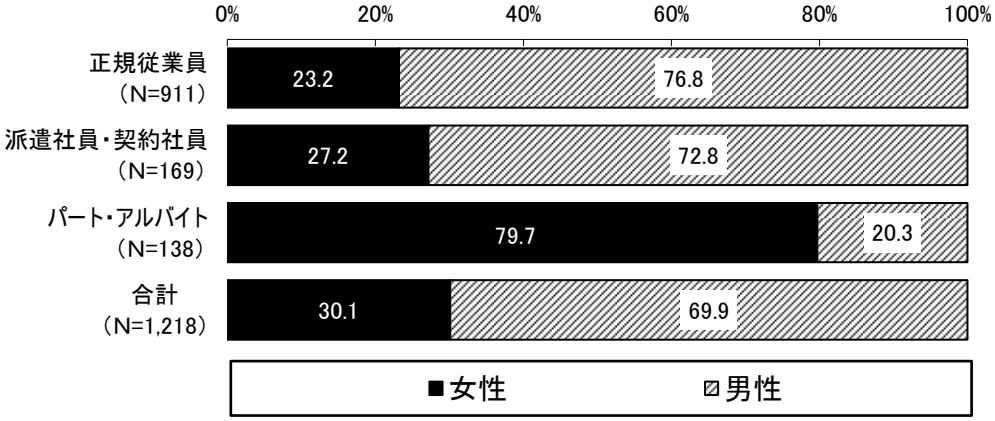
従業員数は、「50 人～100 人未満」が 41.7％と最も高く、次いで「100 人～300 人未満」が 25.0％となっています。



④ 従業員の男女比（雇用形態別）（数量回答）

雇用形態別の従業員の男女比は、「正規従業員」で女性が 23.2％、男性が 76.8％となっています。「パート・アルバイト」が女性で 79.7％と、男性と比べて 59.4 ポイント高くなっています。

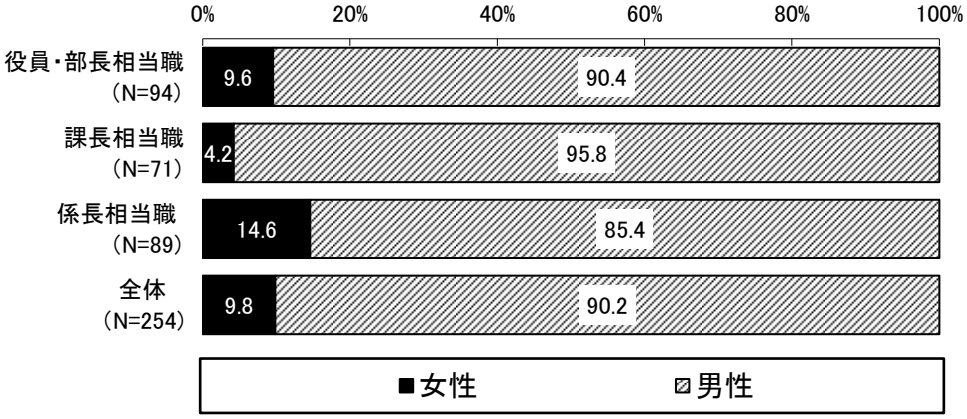
合計（全従業員数）では、女性が 30.1％、男性が 69.9％となっています。



※N数は、すべての企業の従業員数の合算

⑤ 役職者の男女比（雇用形態別）（数量回答）

役職者別の男女比は、「役員・部長相当職」「課長相当職」で男性が 90％を超えて高くなっています。「係長相当職」で女性が 14.6％と、他の役職の区分と比べて高くなっています。

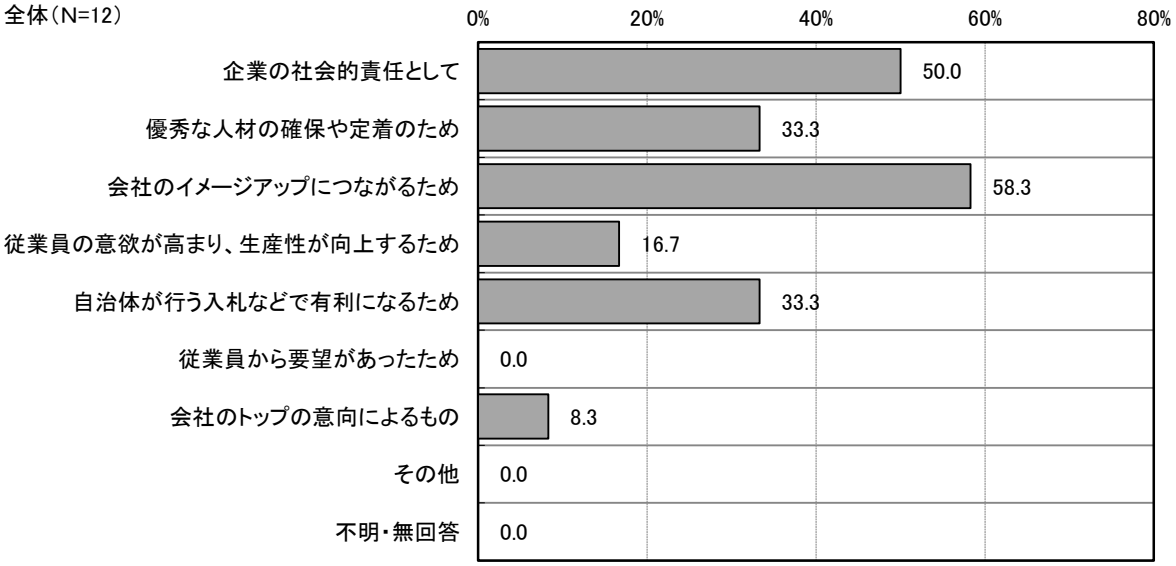


※N数は、すべての企業の役職者数の合算

（2）登録等の理由について

① ファミリー・フレンドリー企業への登録や女性の活躍促進宣言を行った主な理由（複数回答）

ファミリー・フレンドリー企業への登録や女性の活躍促進宣言を行った主な理由は、「会社のイメージアップにつながるため」が 58.3%と最も高く、次いで「企業の社会的責任として」が 50.0%となっています。

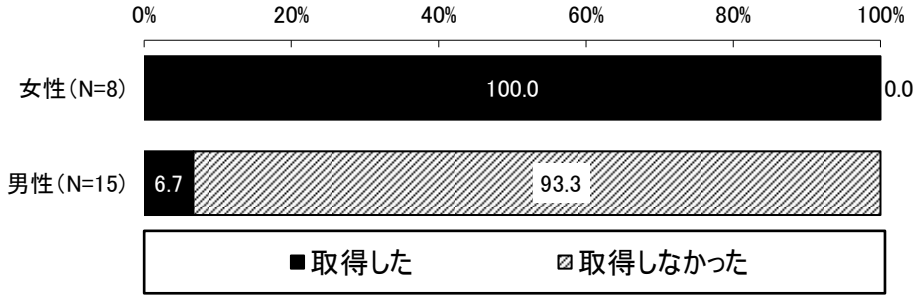


２　育児や介護に関する制度について

（1）育児休業・介護休業制度について

① 育児休業制度※の利用状況（数量回答）　※育児のために一定期間休業できる制度

令和３年度１年間の男女別の育児休業の取得状況についてみると、「取得した」が女性で 100.0%、男性で 6.7%となっています。



※Ｎ数は、すべての企業の配偶者が出産した男性従業員と、出産した女性従業員の合算

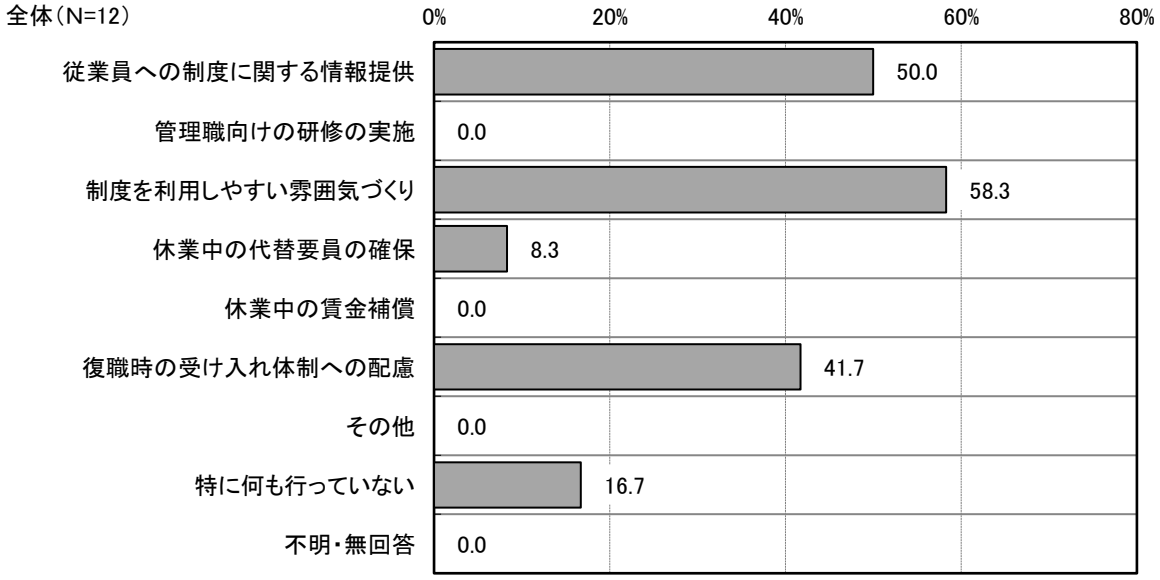
② 介護休業制度※の利用状況（数量回答）　※介護のために一定期間休業できる制度

令和３年度１年間の男女別の介護休業取得人数は、回答いただいた 12 事業所の中で女性、男性それぞれ１名ずつとなっています。

（2）育児・介護に関する企業の状況

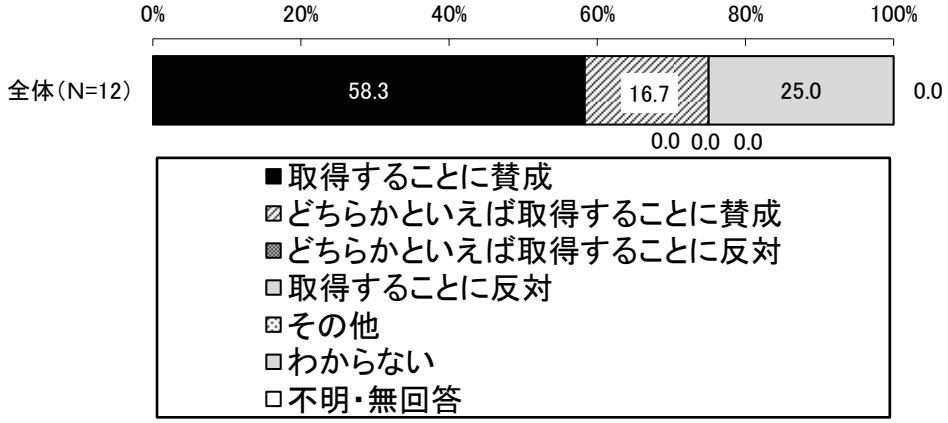
① 育児・介護休業制度定着のために行っている取組（複数回答）

育児・介護休業制度を定着させるために行っている取組についてみると、「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が 58.3％と最も高く、次いで「従業員への制度に関する情報提供」が 50.0％となっています。



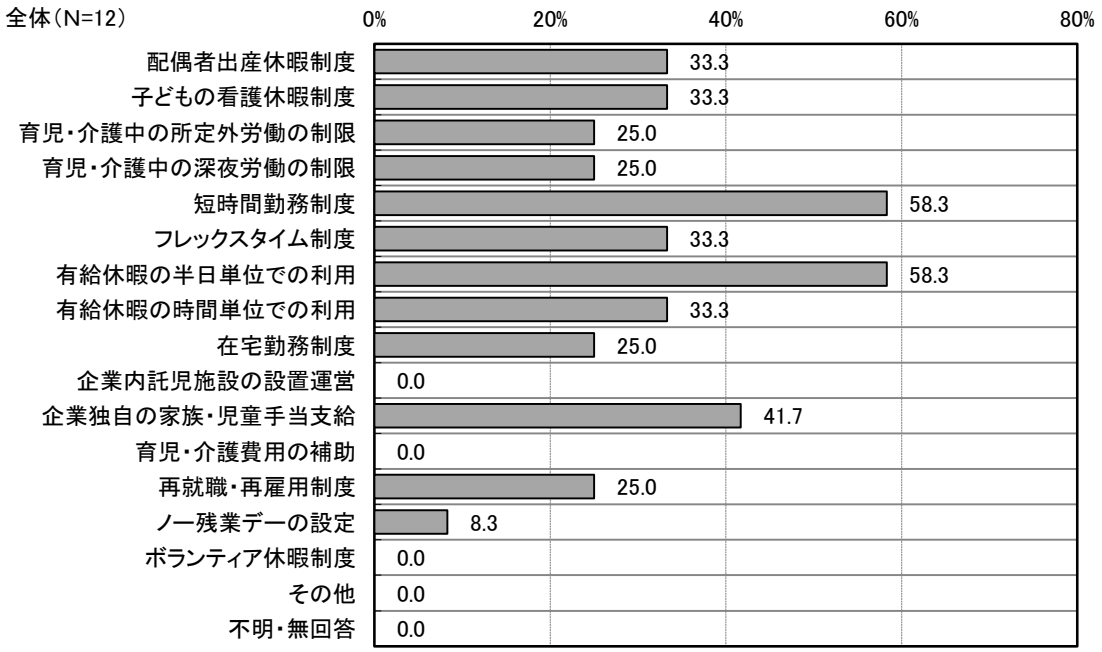
② 男性の育児休業等の取得についての考え（単数回答）

男性が育児休業や介護休業等を取得することへの考えについてみると、「取得することに賛成」が 58.3％と最も高く、次いで「どちらかといえば取得することに賛成」が 16.7％となっています。



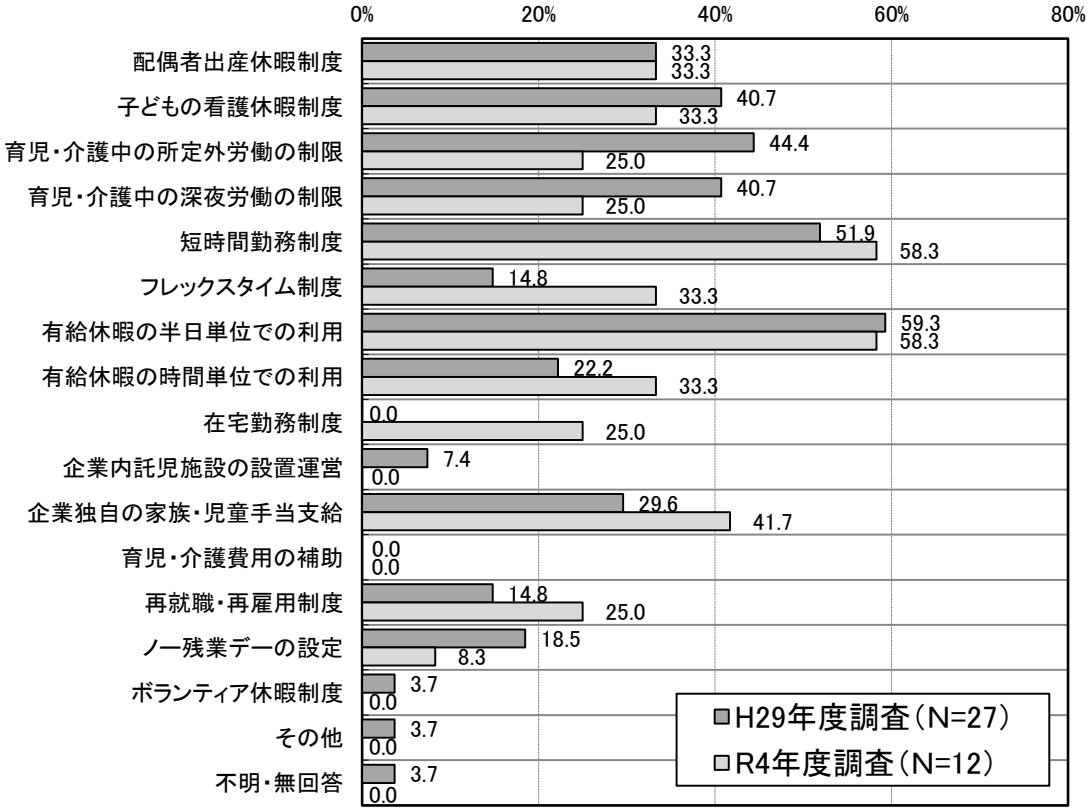
③ 導入している制度の状況（複数回答）

導入している制度についてみると、「短時間勤務」「有給休暇の半日単位での利用」がそれぞれ 58.3%と最も高く、次いで「企業独自の家族・児童手当支給」が 41.7%となっています。



■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、「在宅勤務」が 25.0 ポイント、「フレックスタイム制度」が 18.5 ポイント、「企業独自の家族・児童手当支給」が 12.1 ポイント、「再就職・再雇用制度」が 10.2 ポイント増加しています。

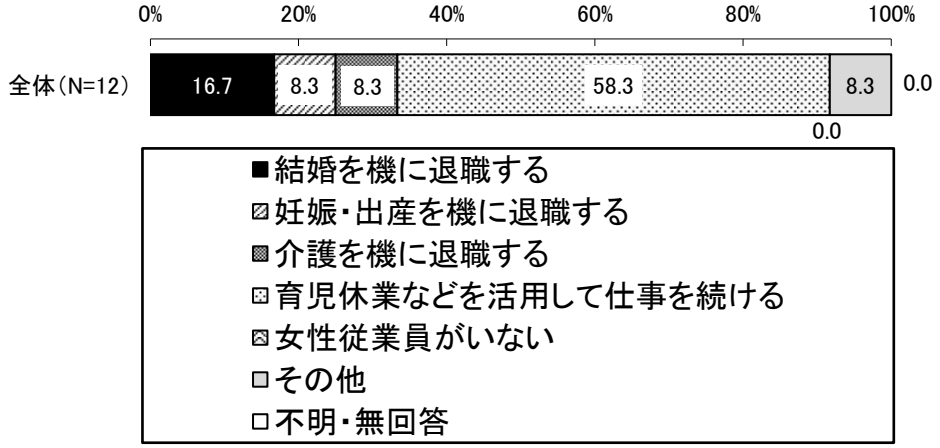


３　女性従業員の活躍促進について

（1）女性従業員の働き方の状況

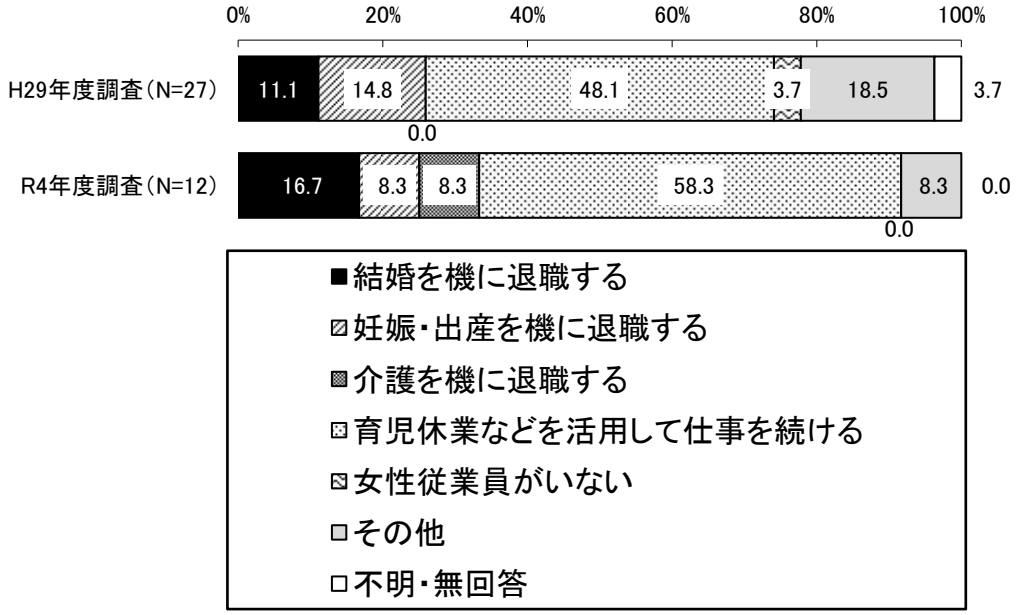
① 女性従業員に多い働き方（単数回答）

女性従業員の働き方としてどのようなものが多いかについてみると、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が 58.3％と最も高く、次いで「結婚を機に退職する」が 16.7％となっています。



■平成 29 年度調査との比較

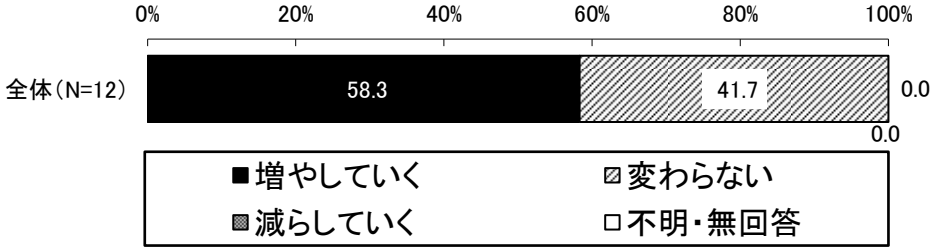
平成 29 年度調査と比較すると、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が令和４年度調査で 58.3％と平成 29 年度調査と比べて 10.2 ポイント増加しています。



（2）女性従業員の今後の方向性

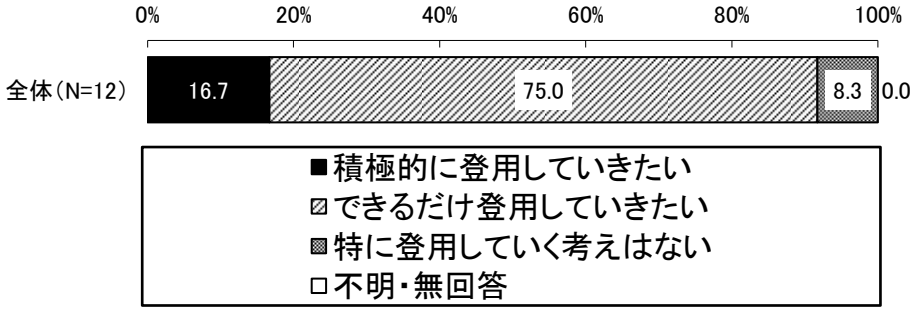
① 女性従業員を増やしていく考え（単数回答）

今後、女性従業員を増やしていく考えはあるかについてみると、「増やしていく」が 58.3%、「変わらない」が 41.7%、「減らしていく」が 0.0%となっています。



② 女性の管理職登用についての考え（単数回答）

今後、管理職に女性を登用していく考えはあるかについてみると、「積極的に登用していきたい」が 16.7%、「できるだけ登用していきたい」が 75.0%、「特に登用していく考えはない」が 8.3%となっています。



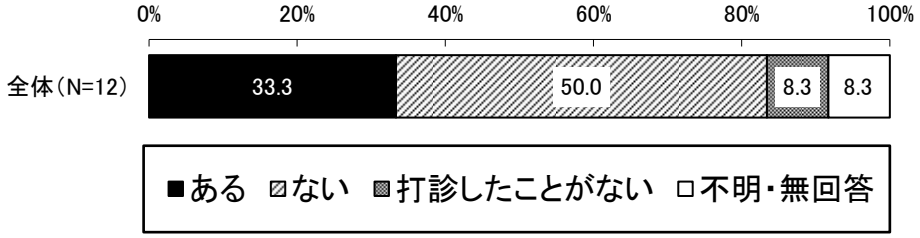
＜女性管理職を「特に登用していく考えはない」方のみへの質問＞

③ 女性を登用しない理由（複数回答）

女性管理職を「特に登用していく考えはない」理由では、「その他」（１件）となっています。

① 管理職登用を女性従業員に打診して断られた経験の有無（単数回答）

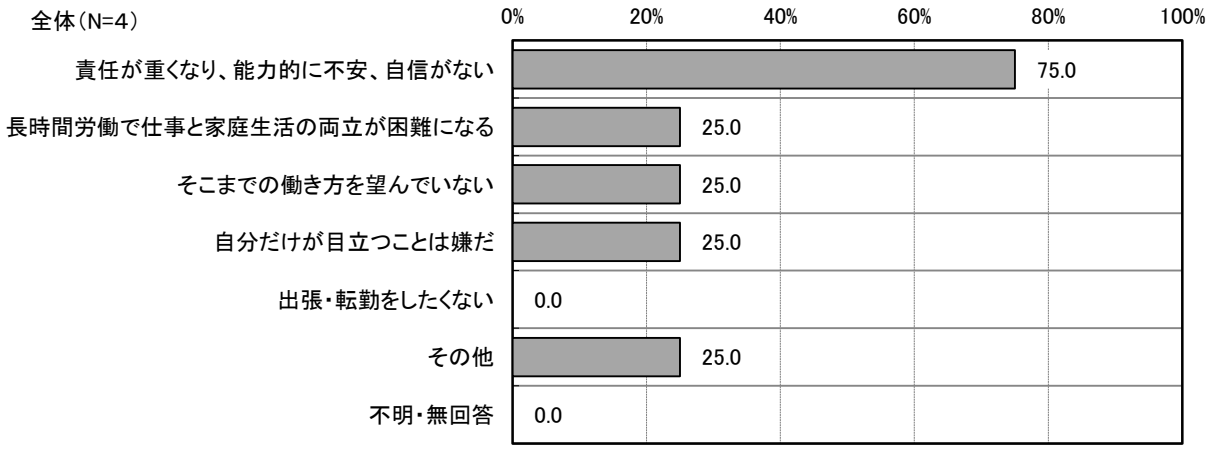
管理職登用を女性従業員に打診して断られたことがあるかについてみると、「ある」が 33.3%、「ない」が 50.0%、「打診したことがない」が 8.3%となっています。



＜管理職登用を女性従業員に打診して断られた経験が「ある」方のみへの質問＞

② 断られた理由（複数回答）

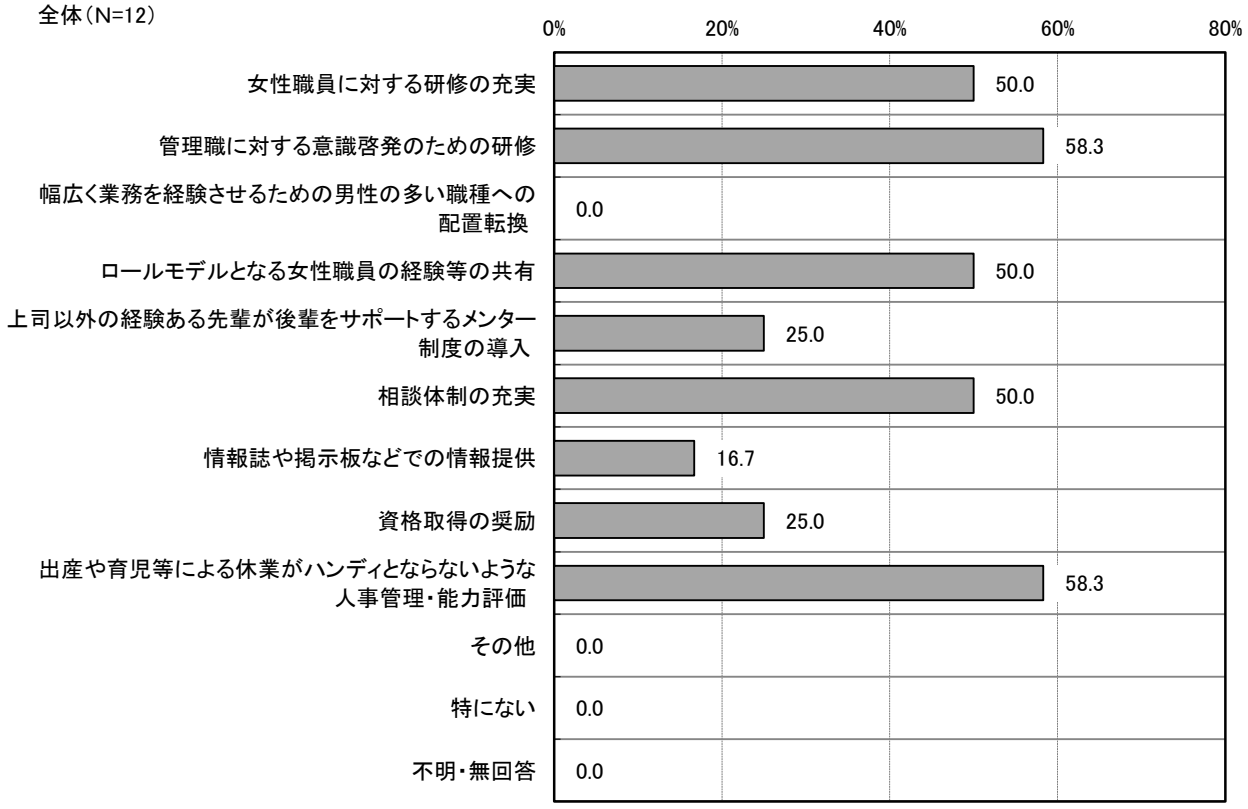
管理職登用を女性従業員に打診して断られた理由についてみると、「責任が重くなり、能力的に不安、自信がない」が 75.0%と最も高く、次いで「長時間労働で仕事と家庭生活の両立が困難になる」「そこまでの働き方を望んでいない」「自分だけ目立つことは嫌だ」「その他」が 25.0%となっています。



（3）女性の活躍促進のために必要な取組

① 女性の活躍促進のために必要な取組（複数回答）

女性の活躍促進のために必要な取組についてみると、「管理職に対する意識啓発のための研修」「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が 58.3%と最も高く、次いで「ロールモデルとなる女性職員の経験等の共有」「相談体制の充実」が 50.0%となっています。



４　男女共同参画全般について

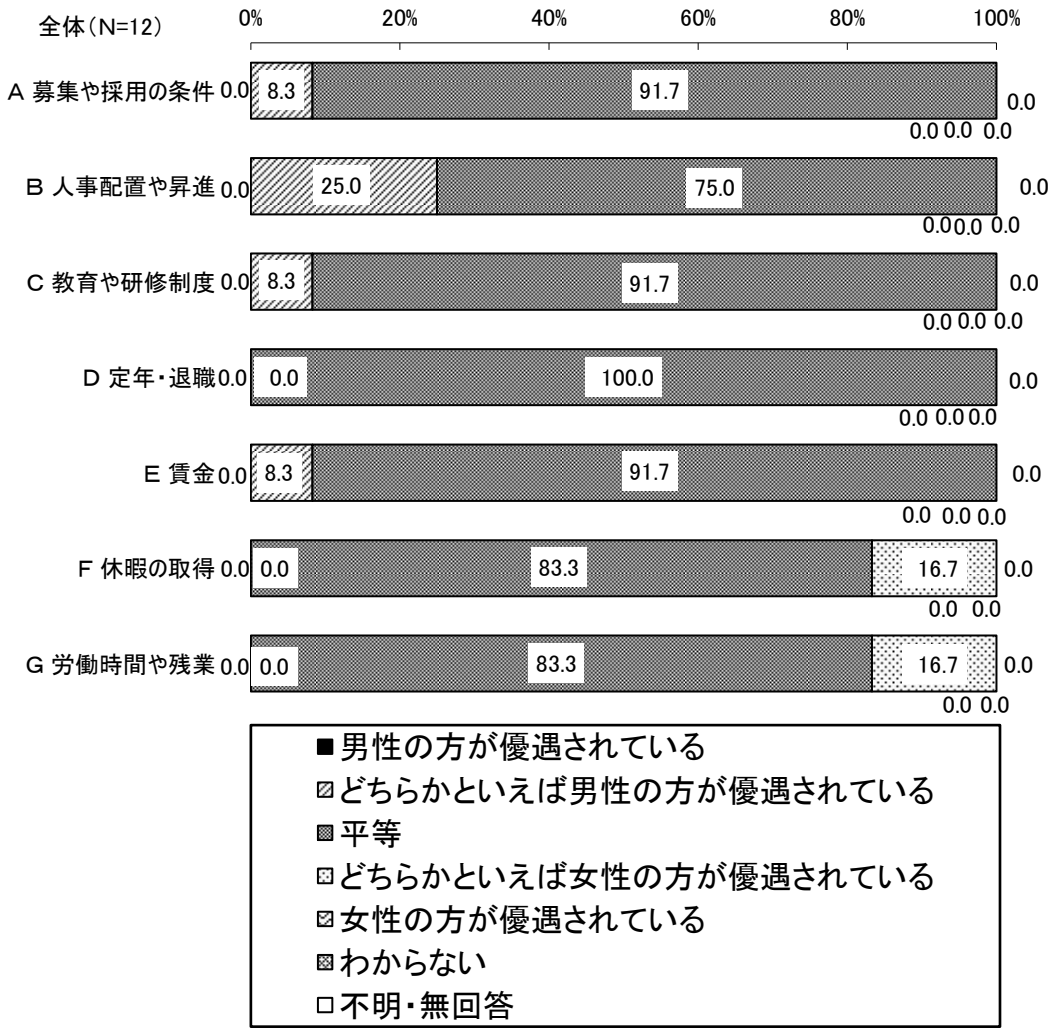
（1）職場における男女別の状況

①　男女別の優遇感の状況（単数回答）

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

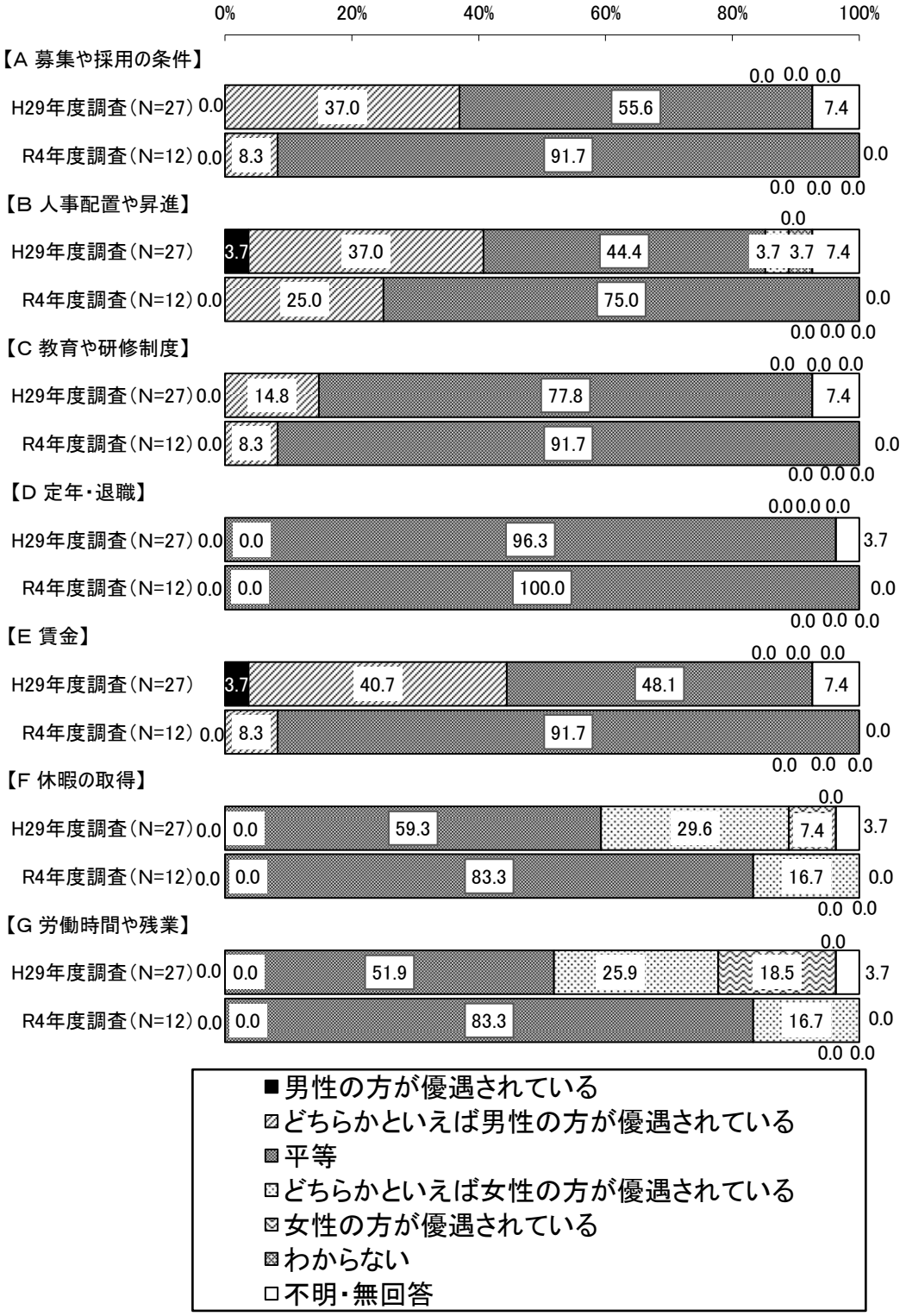
○『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
○『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

それぞれの分野における平等感を比較すると、すべての分野で「平等」が最も高くなっています。『男性優遇』が高い分野は、「Ａ　募集や採用の状況」「Ｂ　人事配置や昇進」「Ｃ　教育や研修制度」「Ｅ　賃金」となっています。『女性優遇』が高い分野は、「Ｆ　休暇の取得」「Ｇ　労働時間や残業」となっています。



■平成 29 年度調査との比較

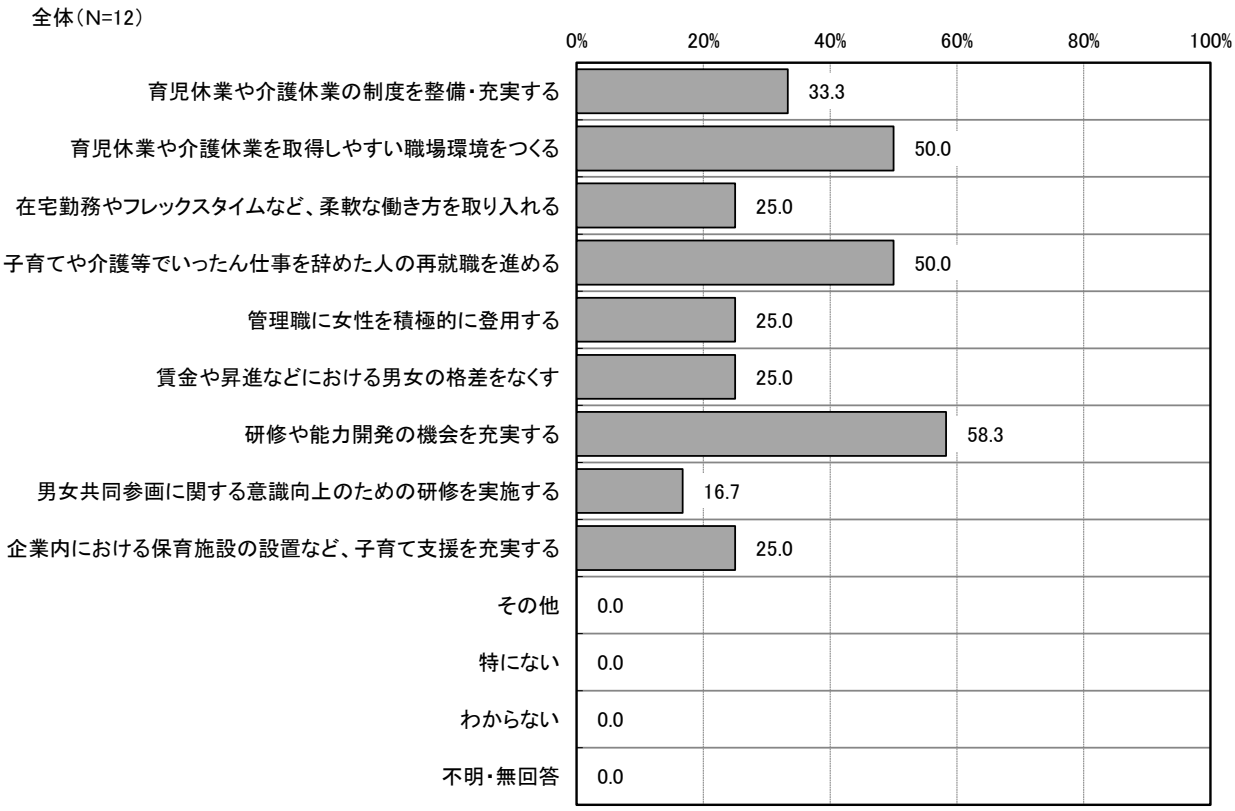
平成 29 年度調査と比較すると、「A 募集や採用の条件」「B 人事配置や昇進」「C 教育や研修制度」「E 賃金」で『男性優遇』が減少しています。「F 休暇の取得」「G 労働時間や残業」で『女性優遇』が減少しています。



（2）男女共同参画社会のために必要な取組

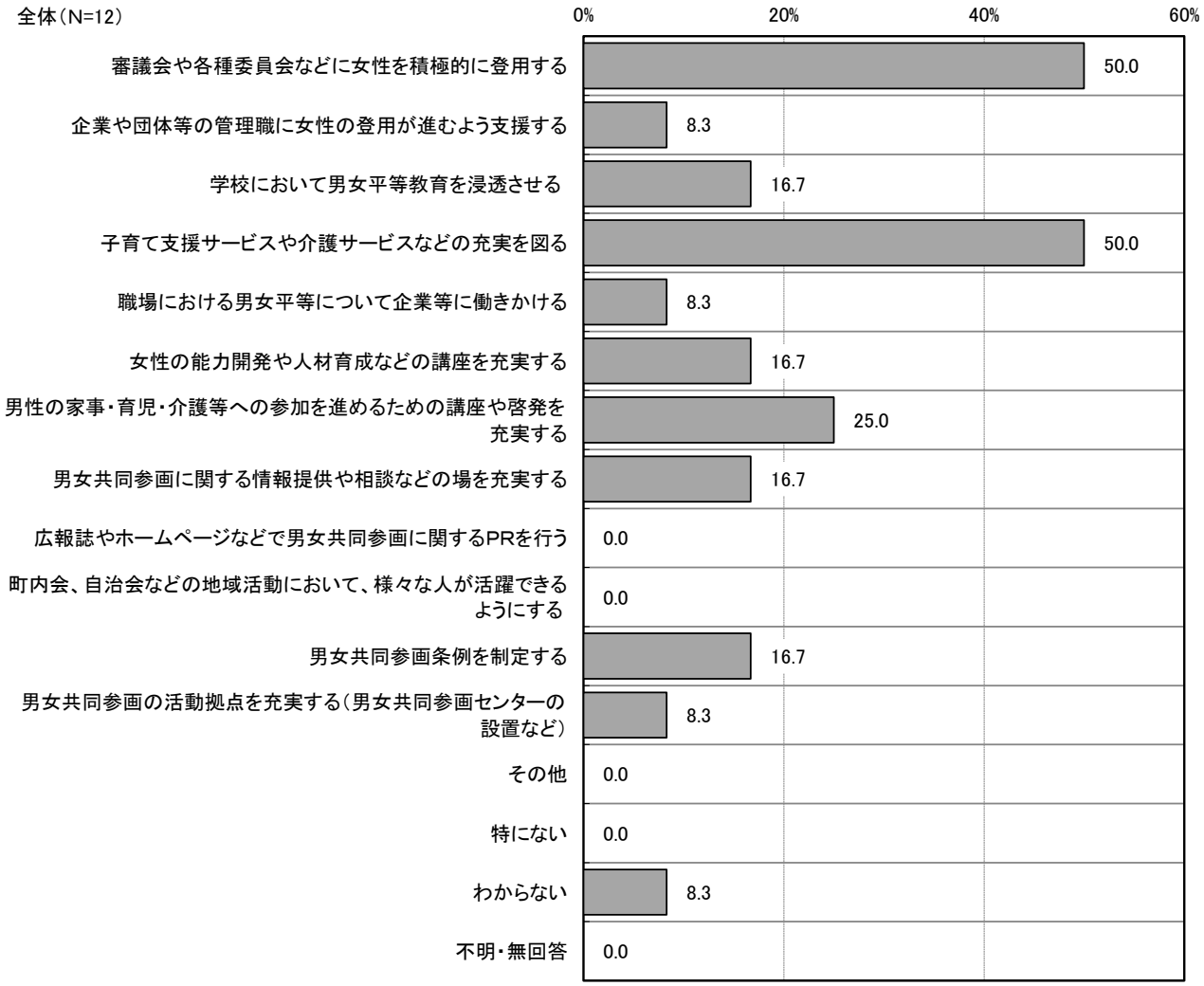
① 男女共同参画社会を実現するために、企業は何をすべきだと思うか（複数回答）

男女共同参画社会を実現するため、企業がすべきことについてみると、「研修や能力開発の機会を充実する」が 58.3％で最も高く、次いで「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が 50.0％となっています。



② 男女共同参画社会を実現するために、西尾市は何をすべきだと思うか（複数回答）

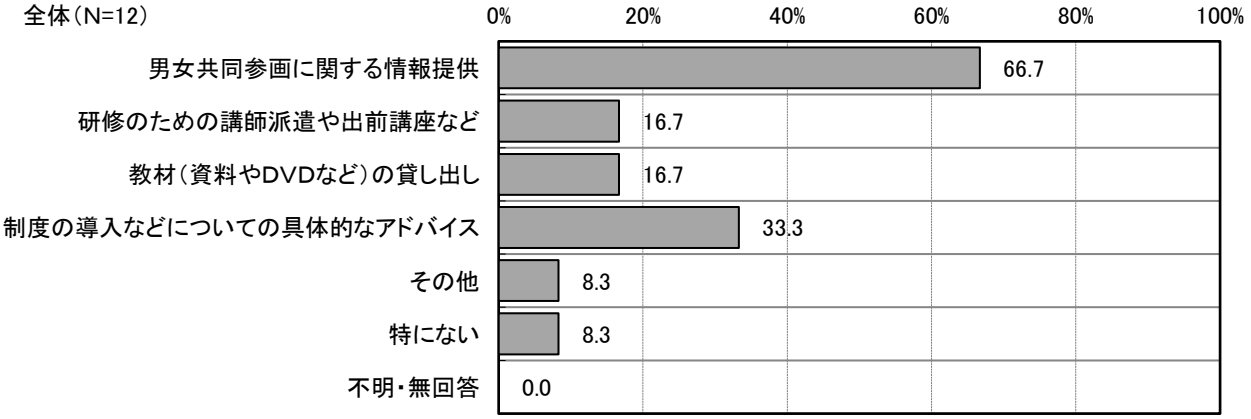
男女共同参画社会を実現するため、西尾市がすべきことについてみると、「審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する」「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が 50.0％と最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実する」が 25.0％となっています。



（3）男女共同参画に関する取組について

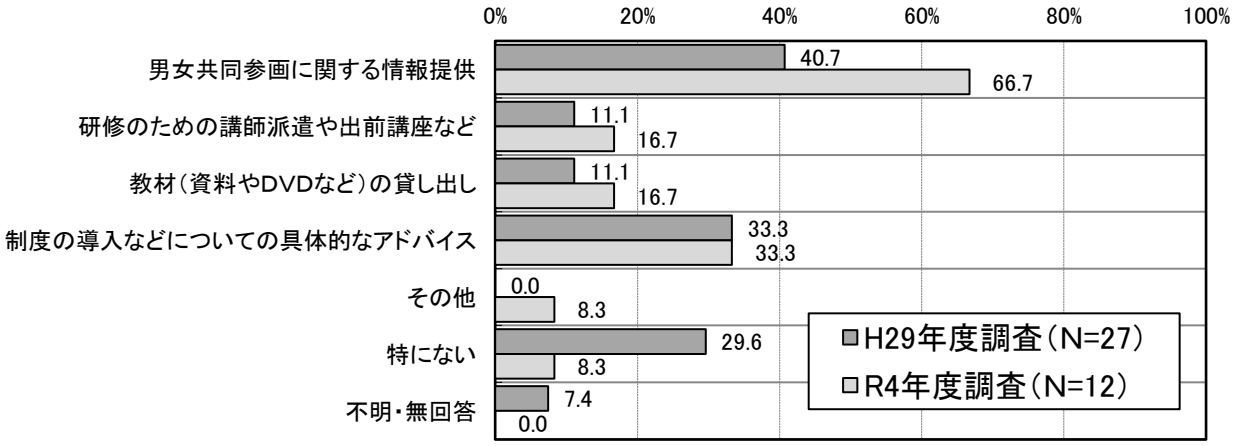
① 職場における男女共同参画を推進するために、行政に期待する支援について（複数回答）

職場における男女共同参画を推進するために、行政に期待する支援についてみると、「男女共同参画に関する情報提供」が 66.7％と最も高く、次いで「制度の導入などについての具体的なアドバイス」が 33.3％となっています。



■平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比較すると、「男女共同参画に関する情報提供」で 26.0 ポイント、「研修のための講師派遣や出前講座」「教材（資料やＤＶＤなど）の貸し出し」で 5.6 ポイント増加しています。

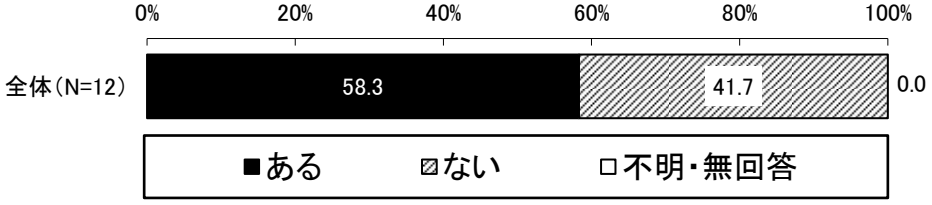


５　防災や災害対策について

（1）職場における防災・災害対策の状況

① 防災・災害対策を行う担当または組織を持っているか（単数回答）

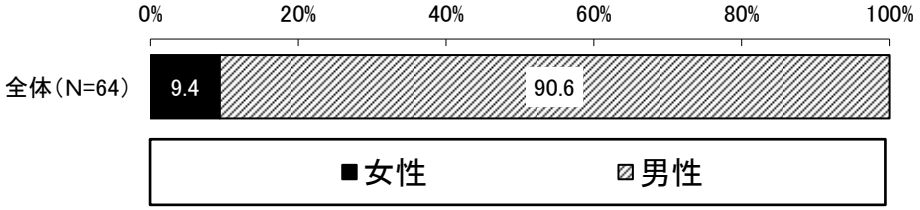
防災・災害対策を行う担当または組織を持っているかについてみると、「ある」が 58.3%、「ない」が 41.7%となっています。



＜防災・災害対策を行う担当または組織が「ある」方のみへの質問＞

② 防災・災害対策を行う担当または組織における男女比（数量回答）

防災・災害対策を行う担当または組織における人員の男女比についてみると、女性が 9.4%、男性が 90.6%となっています。

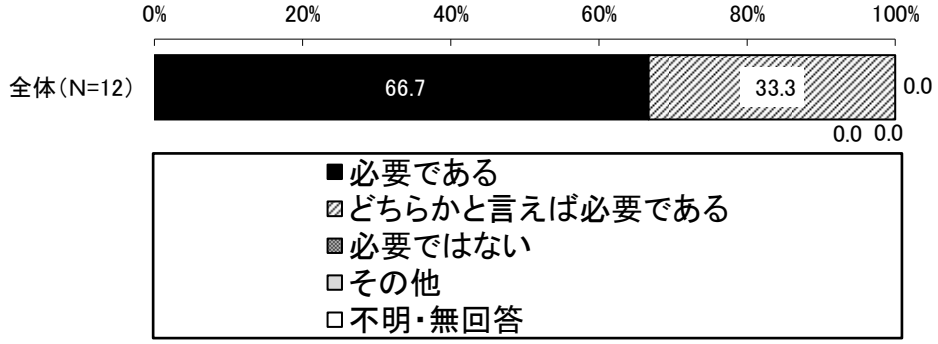


※Ｎ数は、すべての企業の担当・組織人員数の合算

（2）職場における防災・災害対策の考え

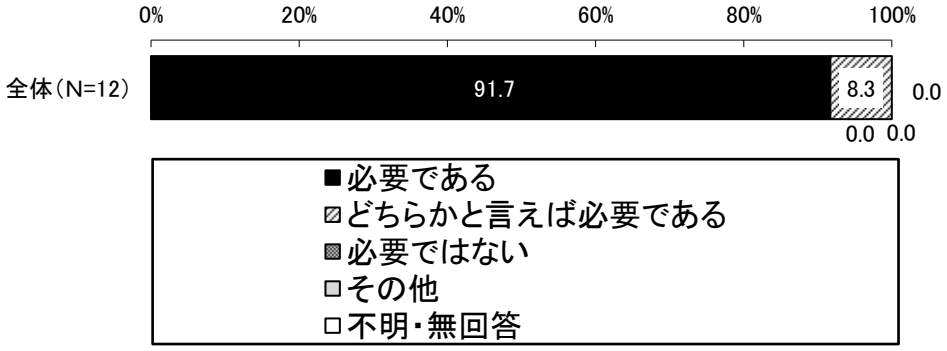
① 防災、減災対策を考える場合の女性の参画についての考え（単数回答）

企業における防災、減災対策を考える場合、女性の参画は必要だと思うかについてみると、「必要である」が 66.7%、「どちらかといえば必要である」が 33.3%となっています。



② 災害時の連携・協力についての考え（単数回答）

災害が発生した場合、行政や地域の多様な主体との連携・協力の必要性についてみると、「必要である」が 91.7%となっています。



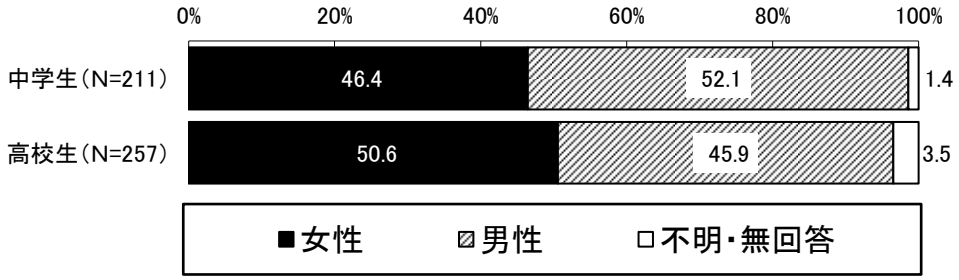
Ⅴ　若年者調査

1　回答者の属性について

（1）回答者の状況

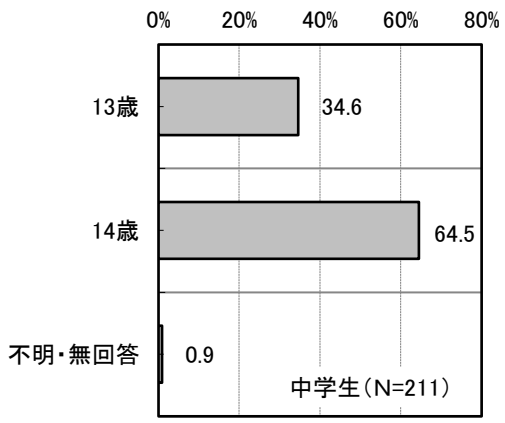
① 性別（単数回答）

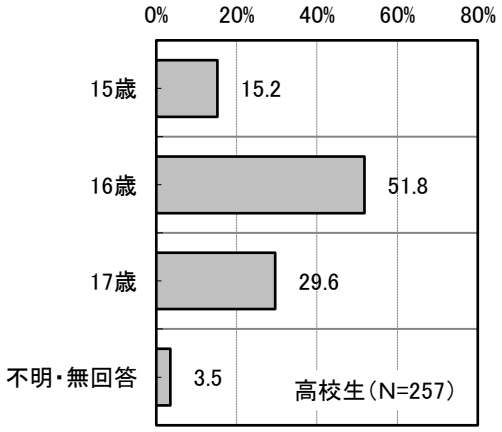
回答者の性別は、中学生で「女性」が 46.4%、「男性」が 52.1%、高校生で「女性」が 50.6%、「男性」が 45.9%となっています。



② 年齢（数量回答）

回答者の年齢は、次のようになっています。

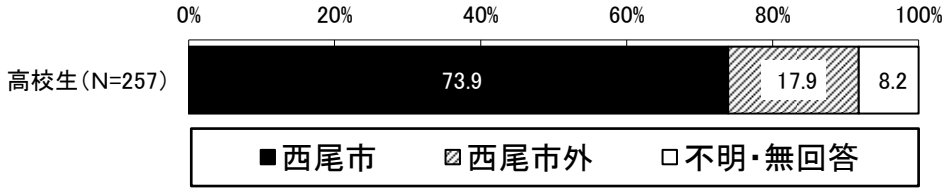




※令和４年 11 月１日時点

③ 居住地区（単数回答）※高校生のみ

回答者の居住地区は、「西尾市」が 73.9%、「西尾市外」が 17.9%となっています。



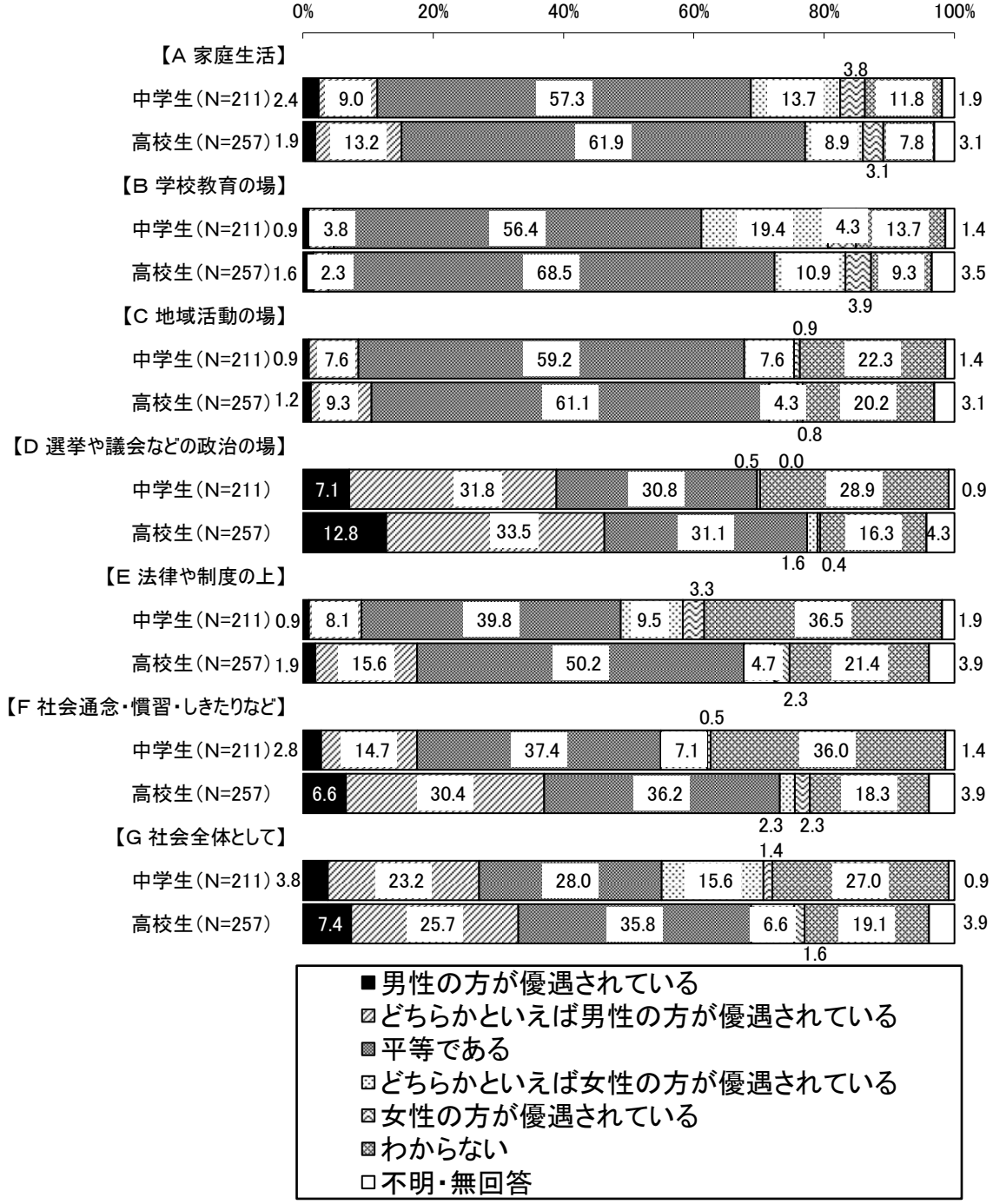
２　男女の平等感に関する意識について

（1）男女の地位の平等感

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
○『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

それぞれの分野における平等感を比較すると、中学生、高校生ともに「平等である」割合が最も高い分野は「Ａ 家庭生活の場」「Ｂ 学校教育の場」「Ｃ 学校教育の場」「Ｅ 法律や制度の上」「Ｇ 社会全体として」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「Ｄ 選挙や議会などの政治の場」「Ｆ 社会通念・慣習・しきたりなど」なっています。



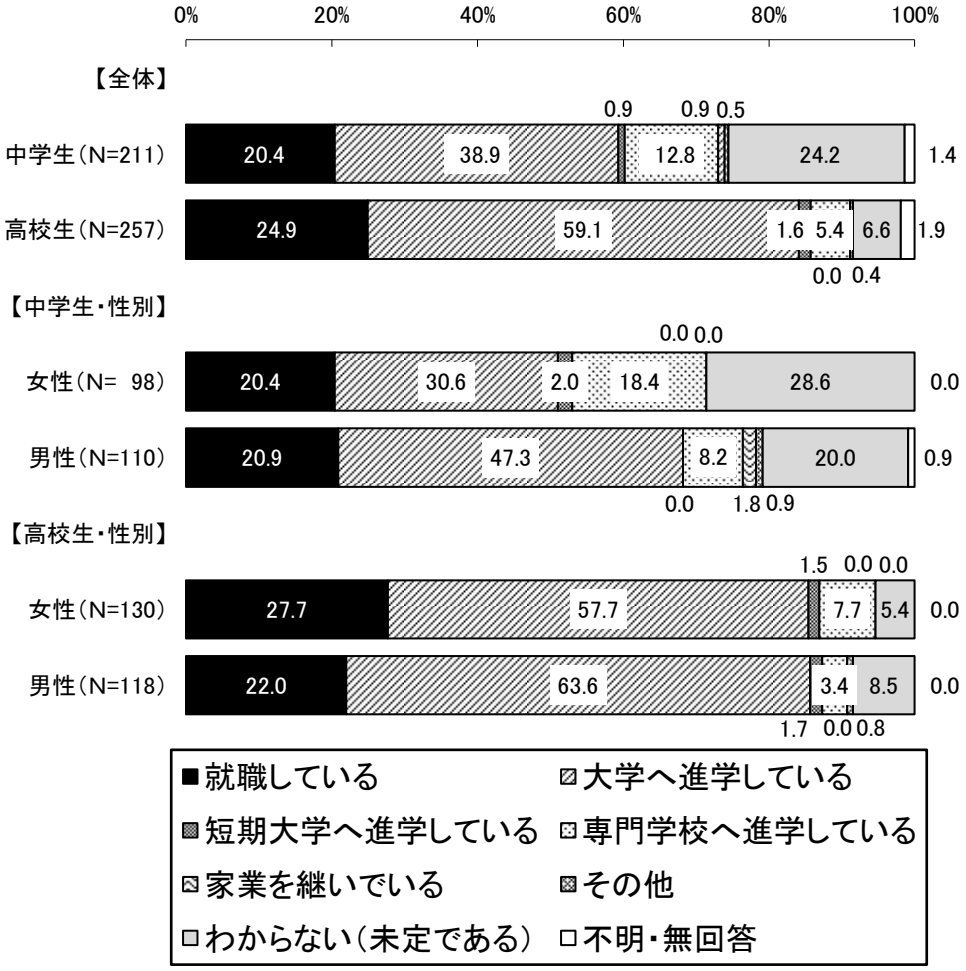
３　将来の働き方について

（1）進路について

①　20 歳の時点で、どのような進路をとっていることを望むか（単数回答）

20 歳時点の希望進路についてみると、全体では「大学へ進学している」が中学生で 38.9%、高校生で 59.1%と最も高くなっています。

性別でみると、中学生、高校生ともに、女性で「専門学校へ進学している」が、男性と比べてやや高くなっています。

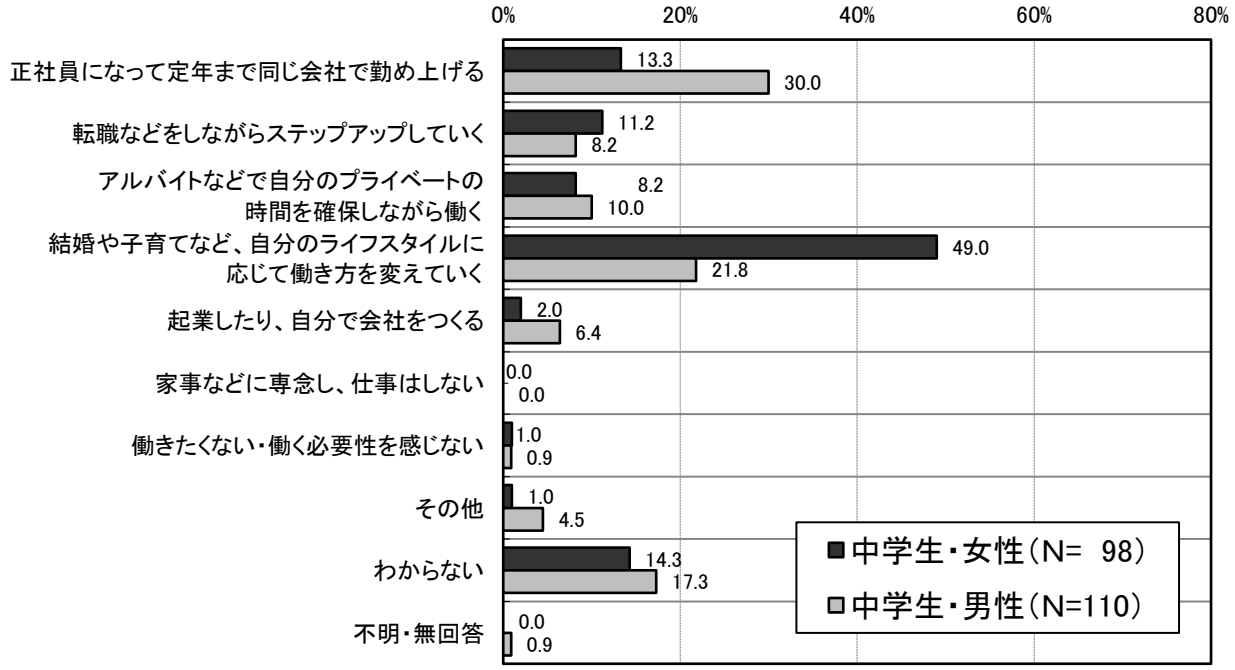


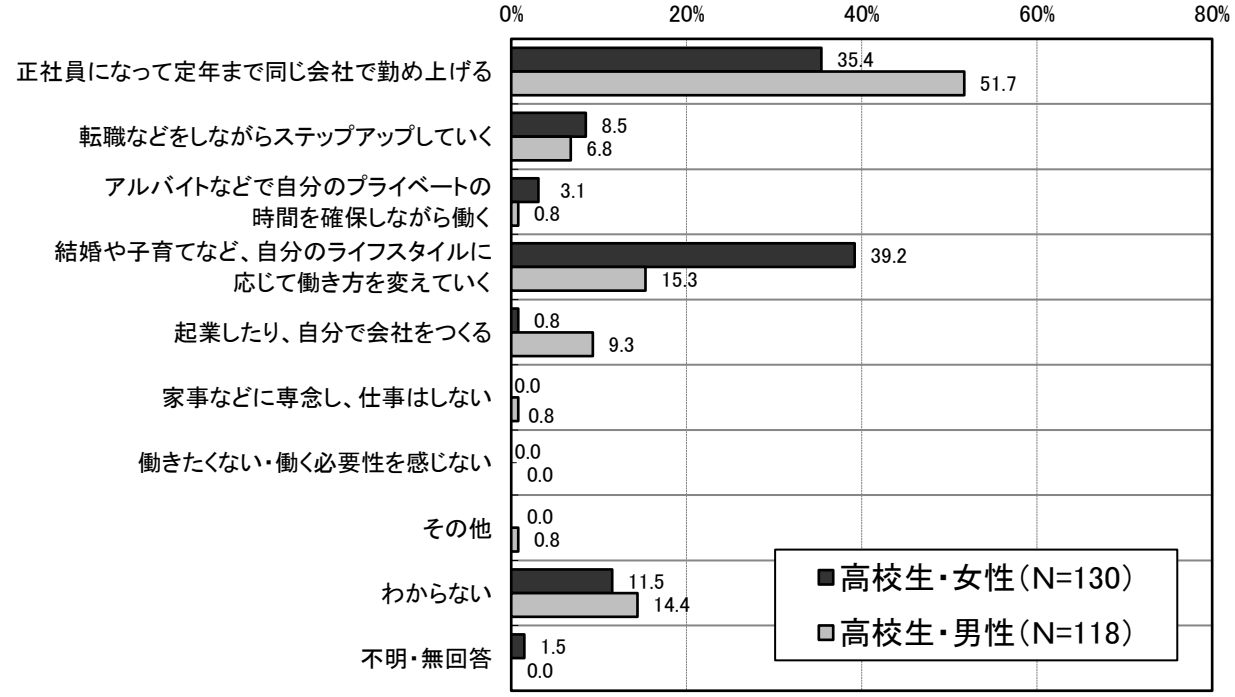
（2）働き方について

① 仕事をする場合に希望する形態（単数回答）

仕事をする場合に希望する形態についてみると、中学生では「正社員になって定年まで同じ会社で勤め上げる」が男性で 30.0％と、女性と比べて 16.7 ポイント高くなっています。女性では「結婚や子育てなど、自分のライフスタイルに応じて働き方を変えていく」が 49.0％と、男性と比べて 27.2 ポイント高くなっています。

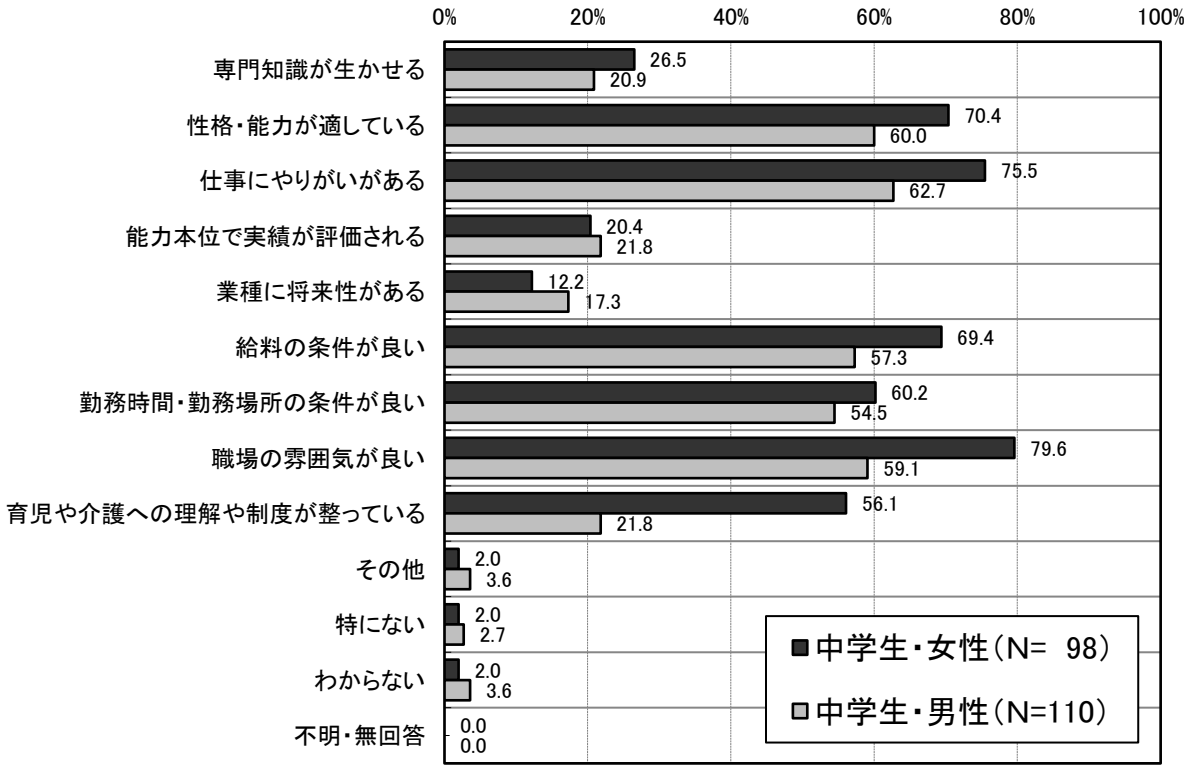
高校生では「正社員になって定年まで同じ会社で勤め上げる」が男性で 51.7％と、女性と比べて 16.3 ポイント高くなっています。女性では「結婚や子育てなど、自分のライフスタイルに応じて働き方を変えていく」が 39.2％と、男性と比べて 23.9 ポイント高くなっています。

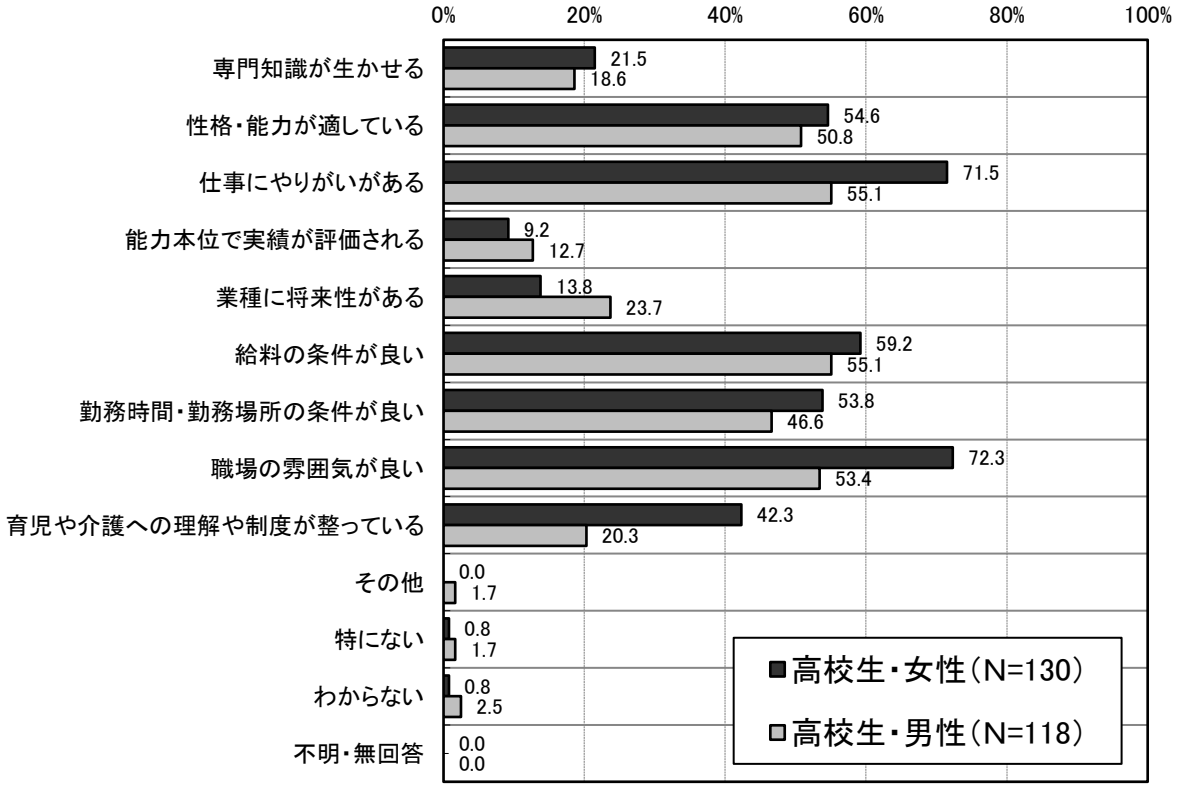




② 仕事を選ぶ際に重視すること・したいこと（複数回答）

仕事を選ぶ際に重視すること・したいことについてみると、中学生、高校生ともに男性と比べて女性で、多くの項目が上回っています。中学生では「育児や介護への理解や制度が整っている」が女性で56.1%と、男性と比べて34.3ポイント高くなっています。高校生では同項目で女性が42.3%と、男性と比べて22.0ポイント高くなっています。



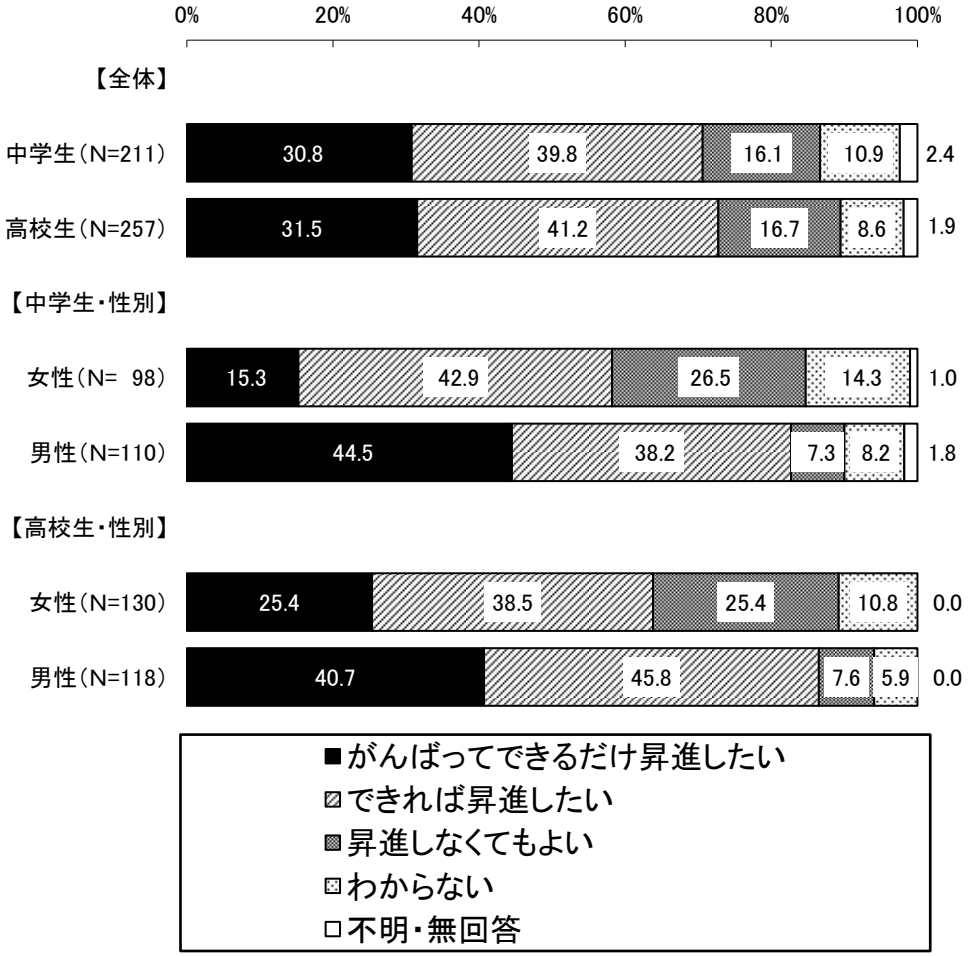


（3）昇進について

① 昇進への希望（単数回答）

将来、就職するとしたら昇進したいと思うかについてみると、全体では「がんばってできるだけ昇進したい」が中学生で 39.8%、高校生で 41.2%と最も高くなっています。

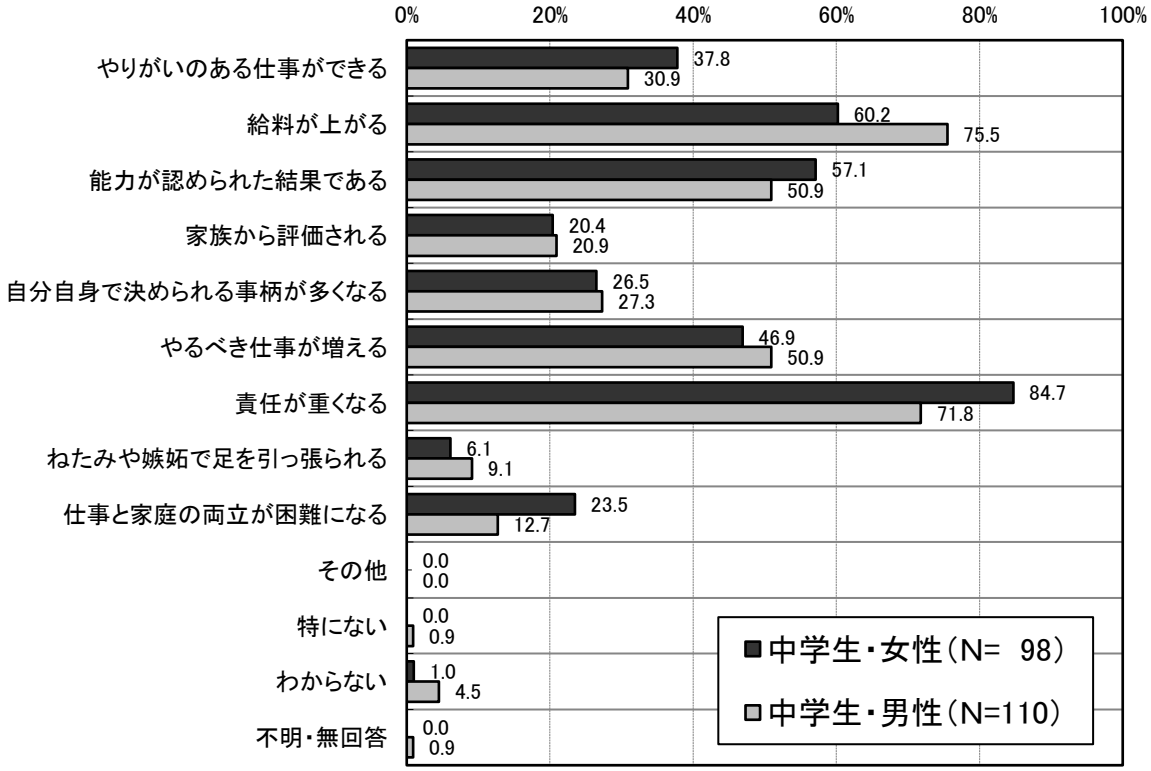
性別でみると、中学生、高校生ともに、男性で「がんばってできるだけ昇進したい」が女性と比べて高くなっています。女性では「昇進しなくてもよい」が男性と比べて高くなっています。

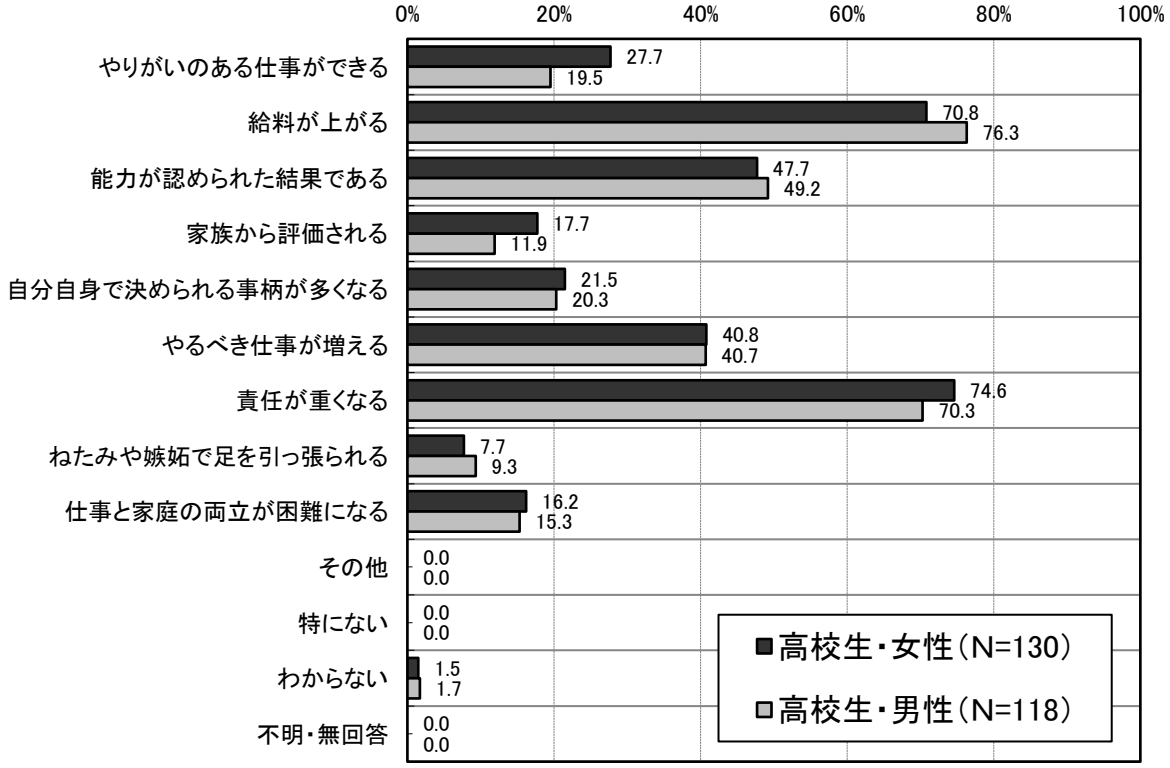


② 昇進することへのイメージ（複数回答）

昇進することについてのイメージについてみると、中学生では「責任が重くなる」が女性で 84.7%と、男性と比べて 12.9 ポイント高くなっています。男性では「給料が上がる」が 75.5%と、女性と比べて 15.3 ポイント高くなっています。

高校生では男性と比べて女性で、多くの項目が上回っています。男性では「給料が上がる」「能力が認められた結果である」「ねたみや嫉妬で足を引っ張られる」が女性と比べて高くなっています。



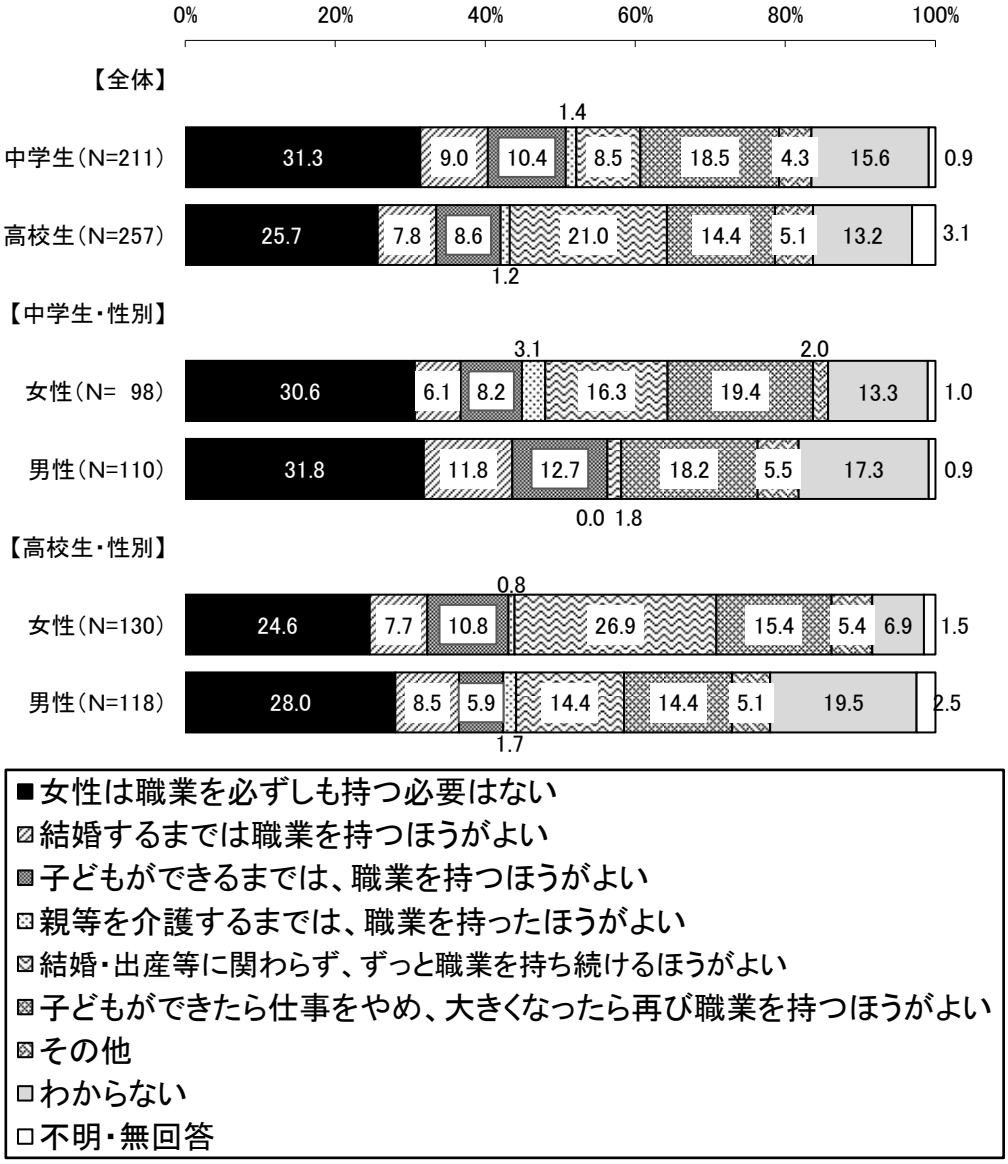


（4）職業を持つことについての考え

① 女性が職業を持つことについて、どう思うか（単数回答）

女性が職業を持つことの考えについてみると、全体では「女性は職業を必ずしも持つ必要はない」で中学生が 31.3%、高校生が 25.7%と最も高くなっています。

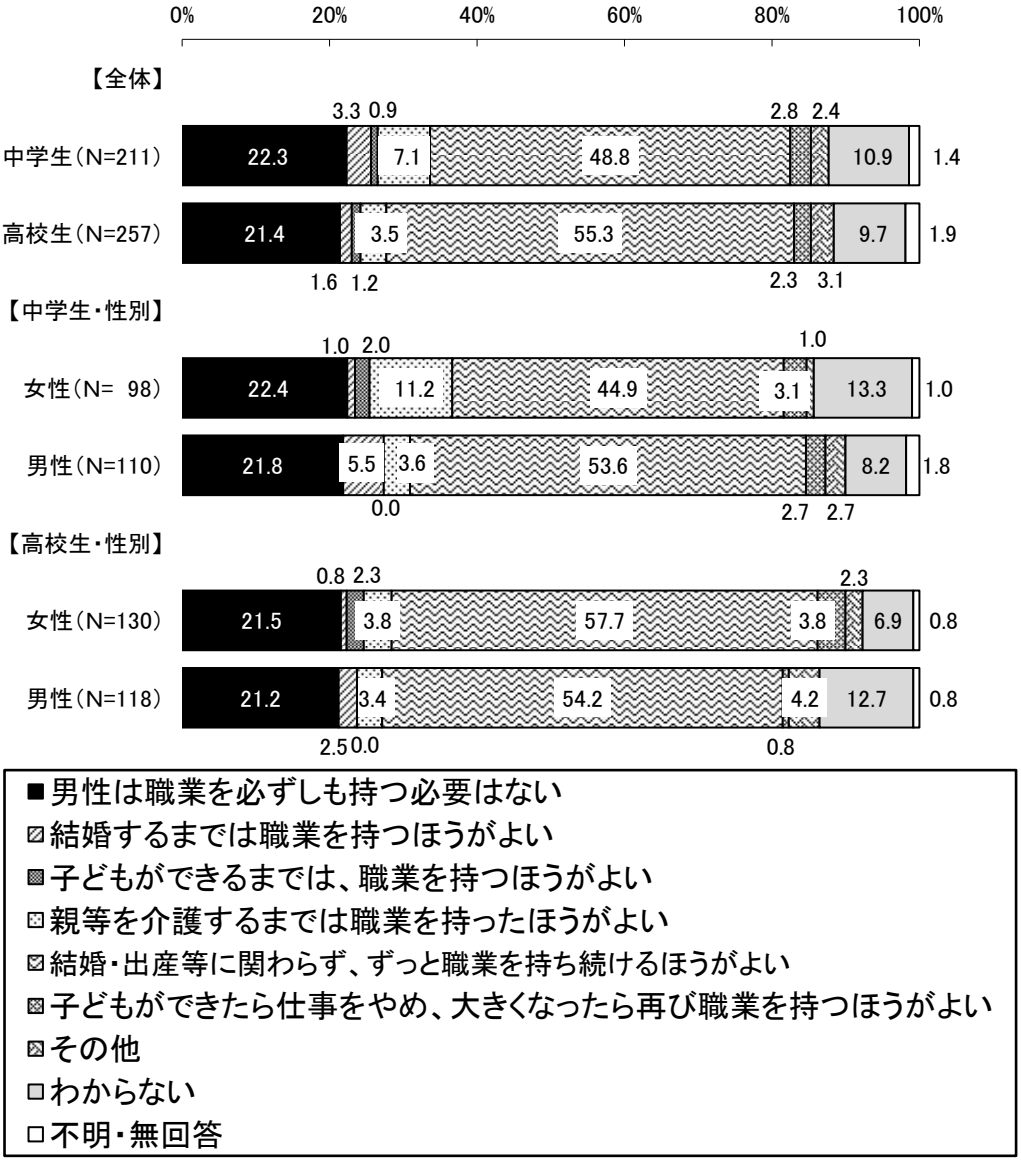
性別でみると、中学生、高校生ともに、女性で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が男性と比べて高くなっています。



② 男性が職業を持つことについて、どう思うか（単数回答）

男性が職業を持つことの考えについてみると、全体では「結婚・出産等に関わらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」で中学生が 48.8%、高校生が 55.3%と最も高くなっています。

性別でみると、中学生では「結婚・出産等に関わらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」で男性が 53.6%と、女性と比べて 8.7 ポイント高くなっています。



（5）仕事と家庭生活との両立について

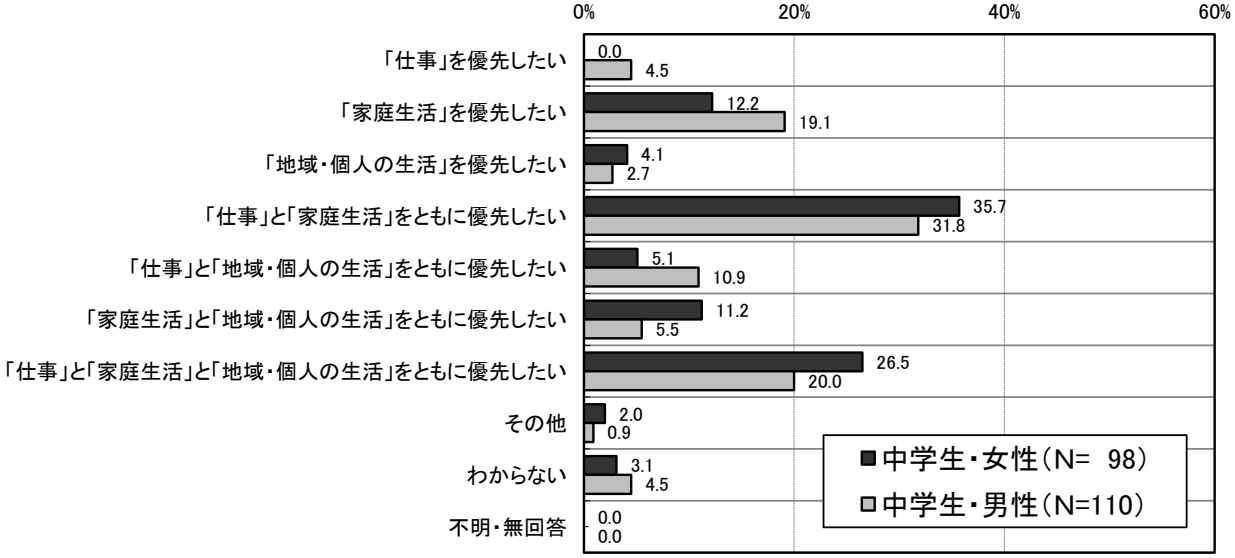
① 生活の中で、理想として優先したいもの（単数回答）

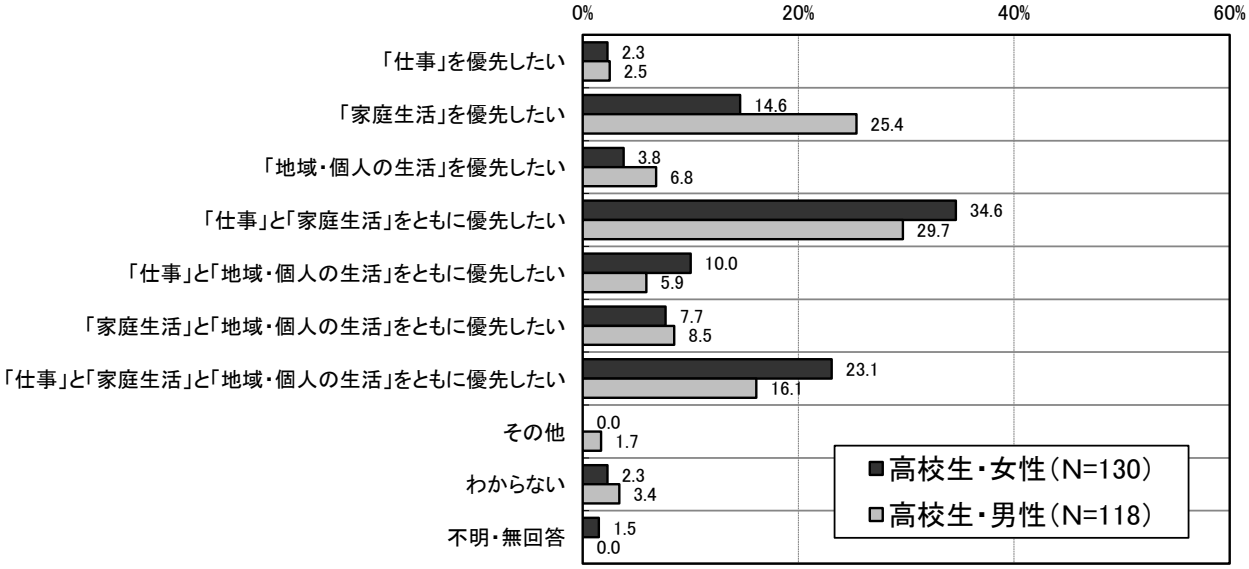
※用語の意味は次のとおりとしています。

○「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。
○「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護・看護など。
○「地域の生活」…地域・社会活動（自治会や町内会の活動、近所との交際・つきあい）など。
○「個人の生活」…趣味・娯楽、スポーツなどの余暇活動、学習・研究、自主的に行うボランティア活動など。

生活の中で、理想として優先したいものについてみると、中学生では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が女性で35.7%、男性で31.8%と最も高くなっています。

高校生では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が女性で34.6%、男性で29.7%と最も高くなっています。





4　家庭生活について

（1）結婚、離婚などに関する考え方について

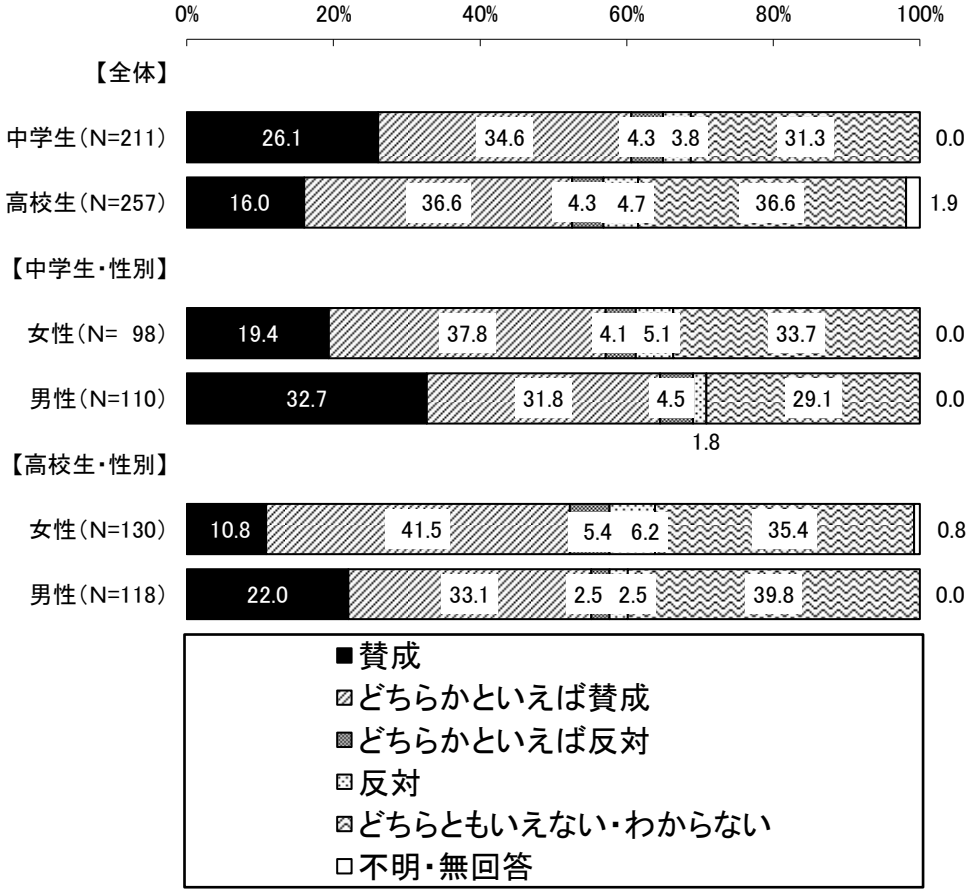
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『賛成派』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの
○『反対派』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

①　結婚は、するべきである（単数回答）

結婚は、するべきであるという考え方についてみると、『賛成派』が中学生で 60.7%、高校生で 52.6%となっています。

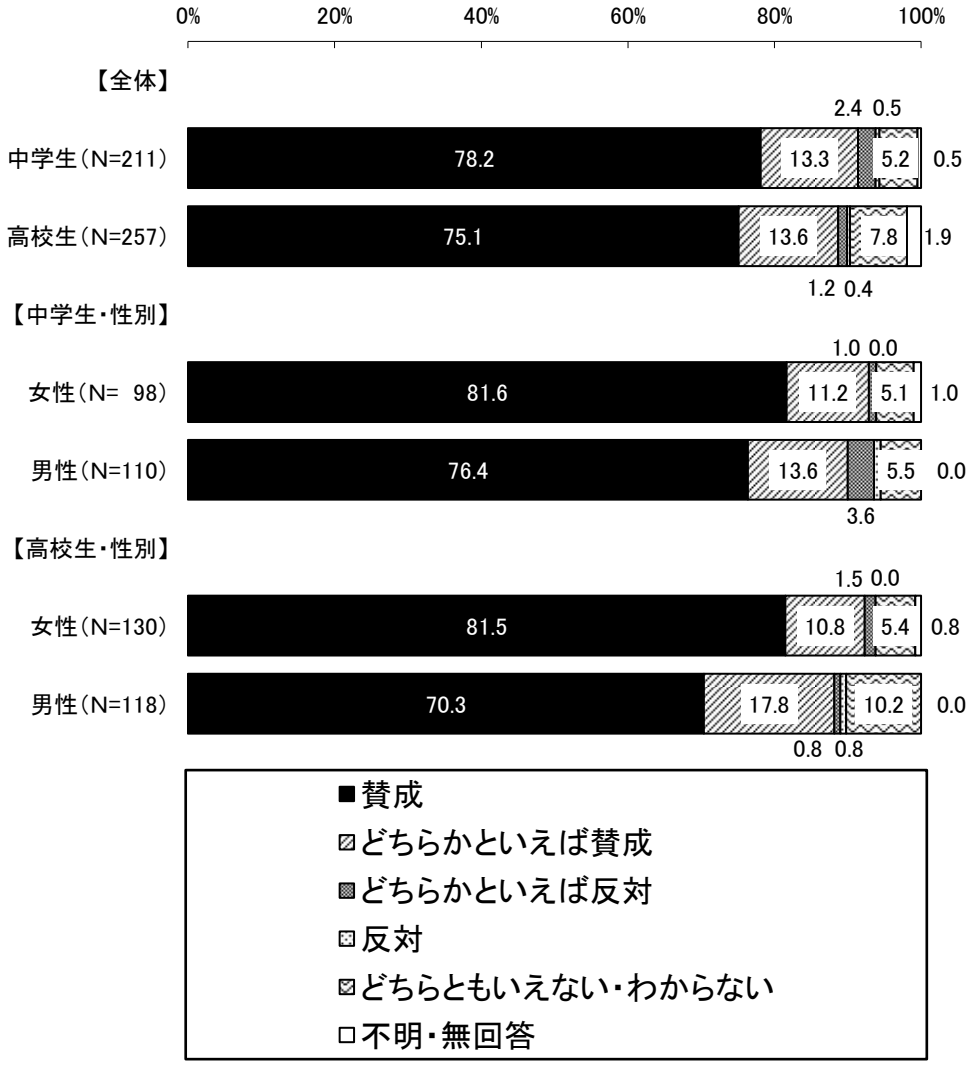
性別でみると、中学生では『賛成派』が男性で 64.5%と、女性と比べて 7.3 ポイント高くなっています。高校生では『反対派』が女性で 11.6%と、男性と比べて 6.6 ポイント高くなっています。



② 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい（単数回答）

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよいという考え方についてみると、全体では『賛成派』が中学生で 91.5%、高校生で 88.7%となっています。

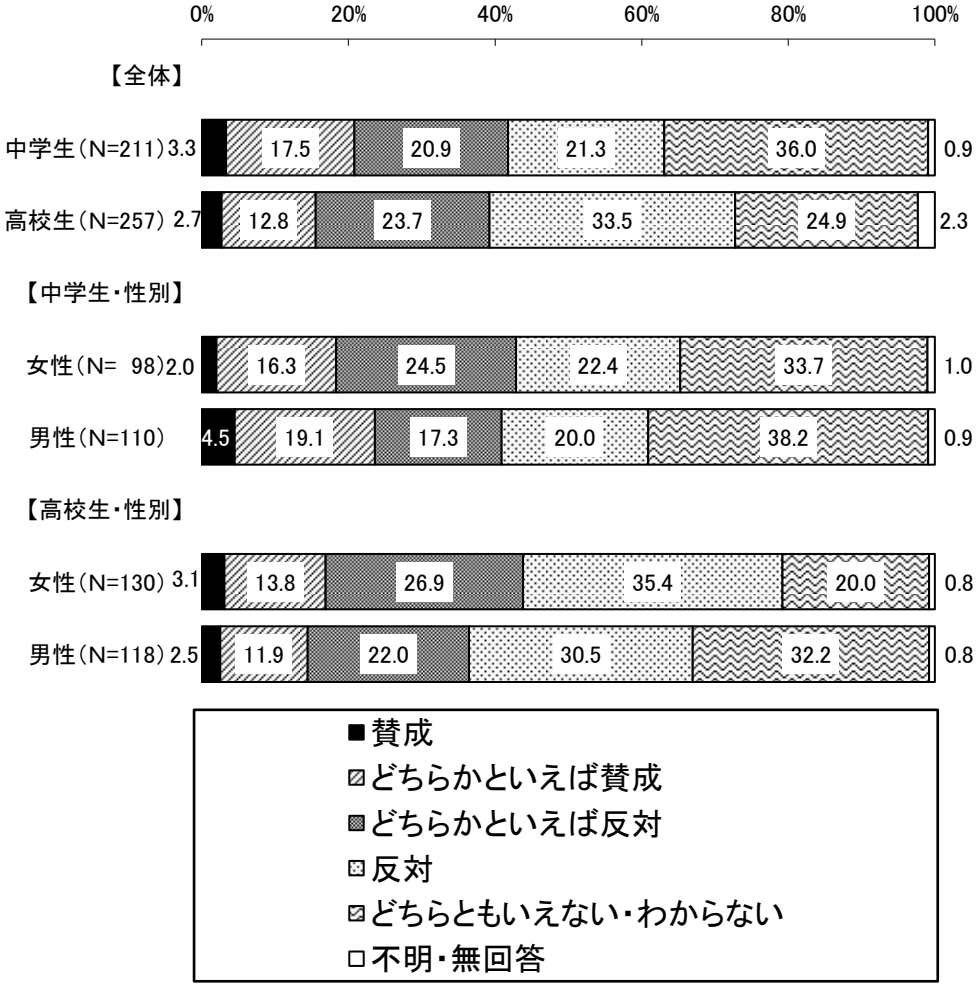
性別でみると、高校生では『賛成派』が女性で 92.3%と、男性と比べて 4.2 ポイント高くなっています。



③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（単数回答）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方についてみると、全体では『賛成派』が中学生で 20.8%、高校生で 15.5%となっています。

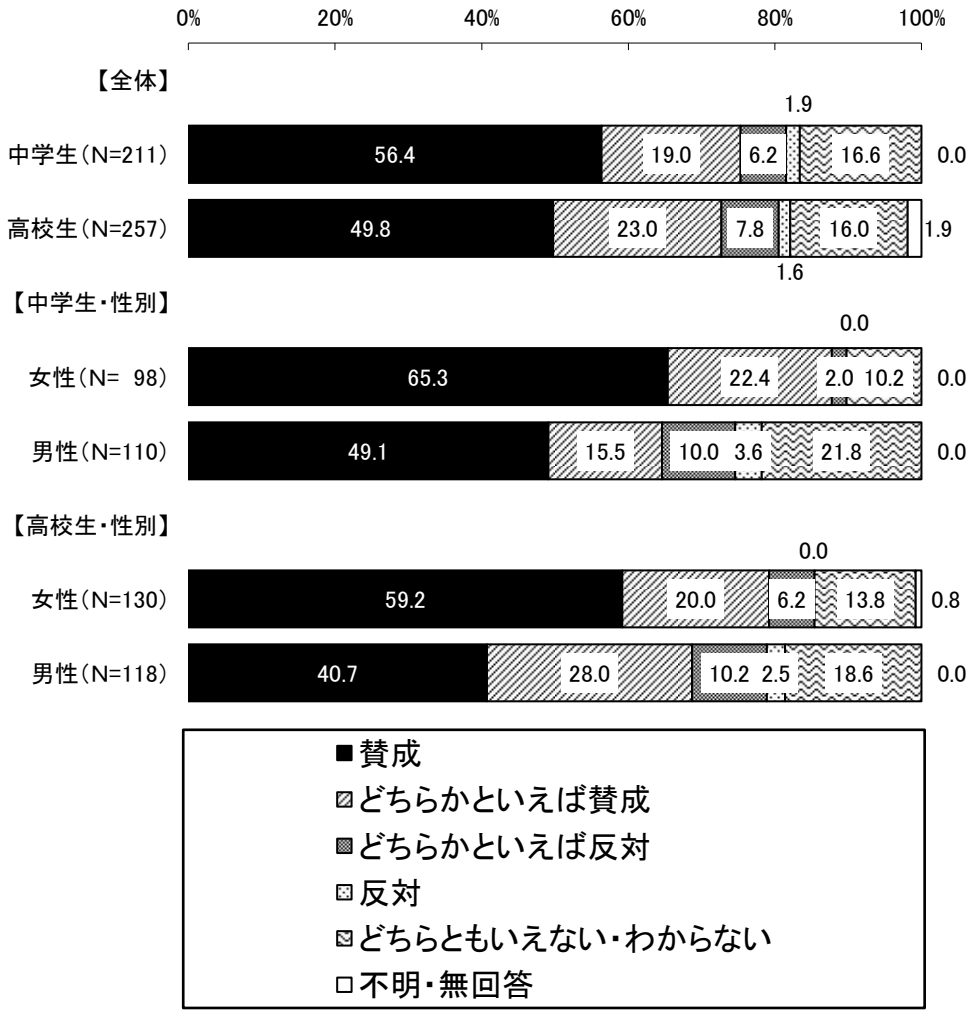
性別でみると、中学生、高校生ともに、女性で『反対派』が男性と比べて高くなっています。



④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない（単数回答）

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないという考え方についてみると、全体では『賛成派』が中学生で 75.4%、高校生で 72.8%となっています。

性別でみると、中学生、高校生ともに、女性で『賛成派』が男性と比べて高くなっています。

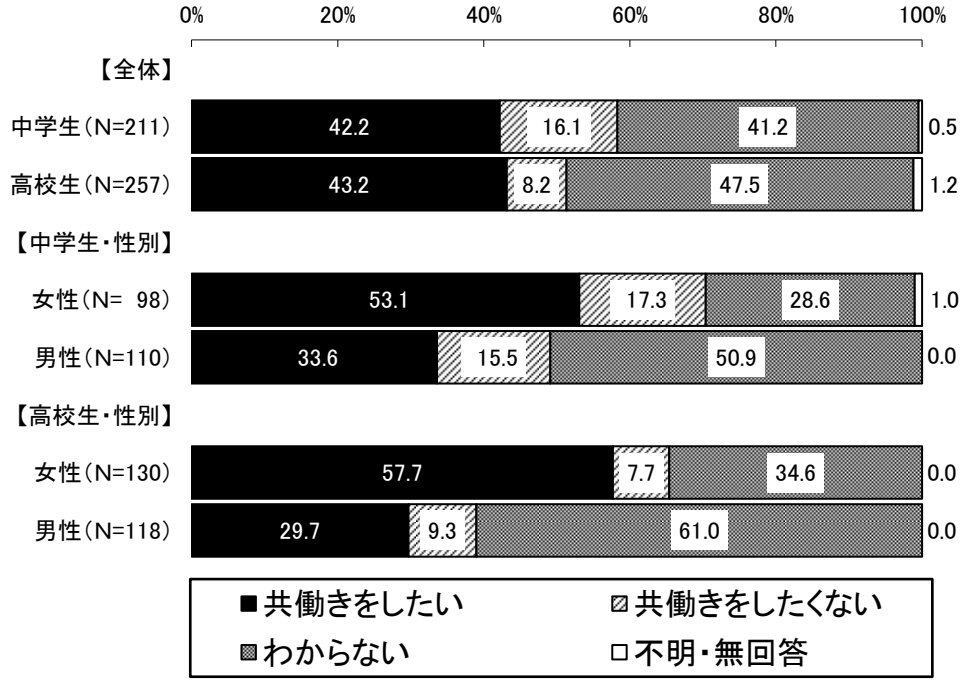


（2）将来の家庭での希望

① 共働きをすることへの意向（単数回答）

将来結婚した場合、共働きをするつもりかについてみると、全体では「共働きをしたい」が中学生で42.2%、高校生で43.2%、「共働きをしたくない」が中学生で16.1%、高校生で8.2%となっています。

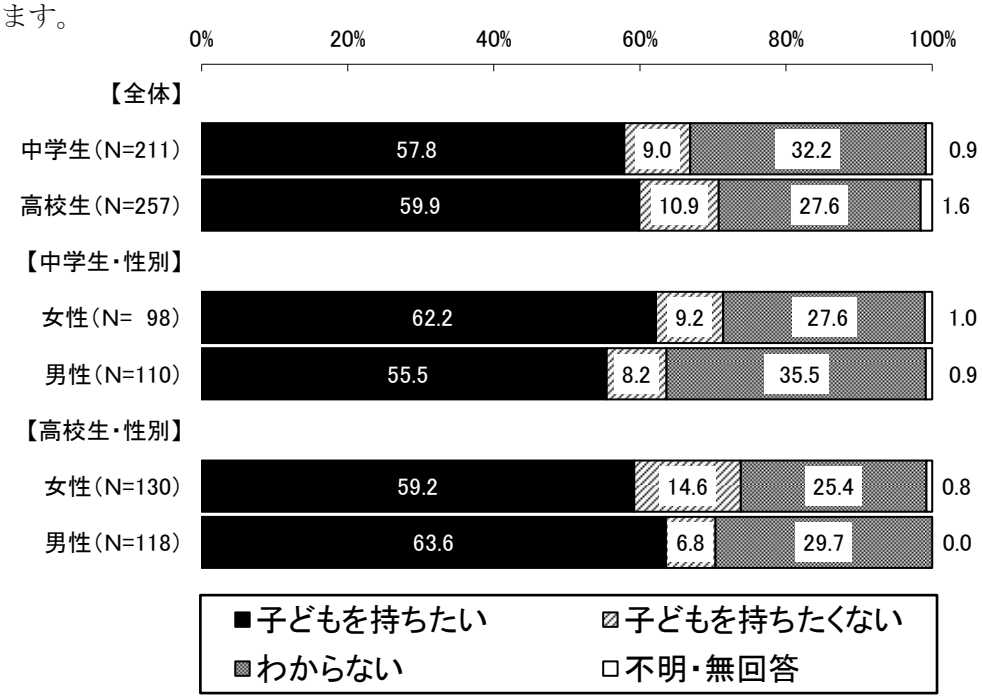
性別でみると、中学生、高校生ともに、女性で「共働きをしたい」が男性と比べて高くなっています。



② 子どもを持つことへの意向（単数回答）

将来、子どもを持ちたいと思うかについてみると、全体では「子どもを持ちたい」が中学生で57.8%、高校生で59.9%、「子どもを持ちたくない」が中学生で9.0%、高校生で10.9%となっています。

性別でみると、中学生では「子どもを持ちたい」が女性で62.2%と、男性と比べて6.7ポイント高くなっています。

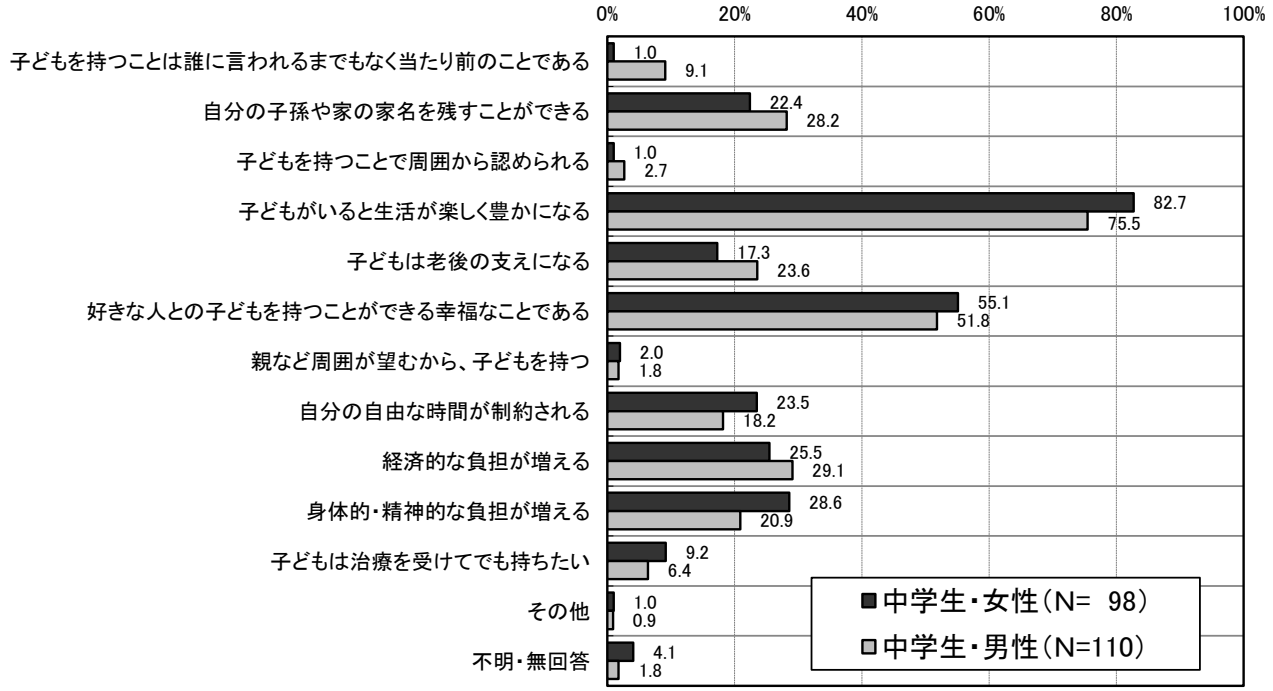


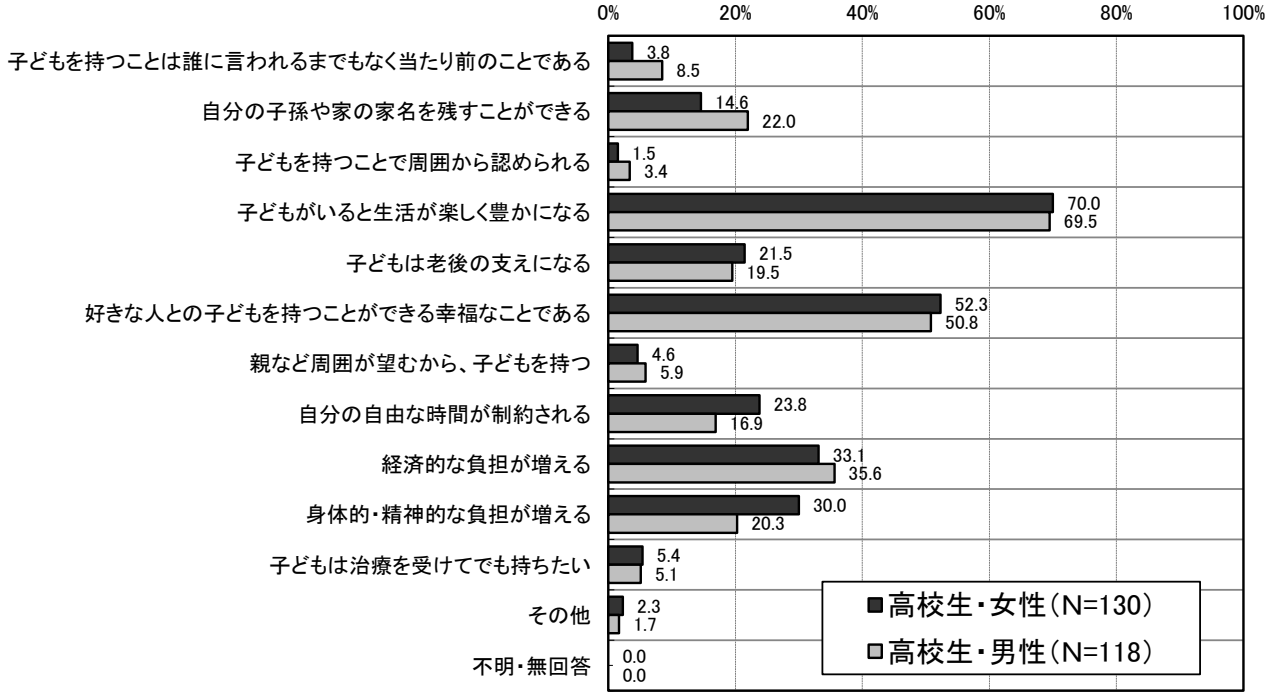
③ 子どもを持つことへの考え（複数回答）

「子どもを持つこと」をどのように考えるかについてみると、中学生、高校生の女性、男性ともに「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高くなっています。

中学生では「子どもを持つことは誰に言われるまでもなく当たり前のことである」が男性で 9.1％と、女性と比べて 8.1 ポイント高くなっています。女性では「身体的・精神的な負担が増える」が 28.6％と、男性と比べて 7.7 ポイント高くなっています

高校生では「自分の子孫や家の家名を残すことができる」が男性で 28.2％と、女性と比べて 7.4 ポイント高くなっています。女性では「身体的・精神的な負担が増える」が 30.0％と、男性と比べて 9.7 ポイント高くなっています。

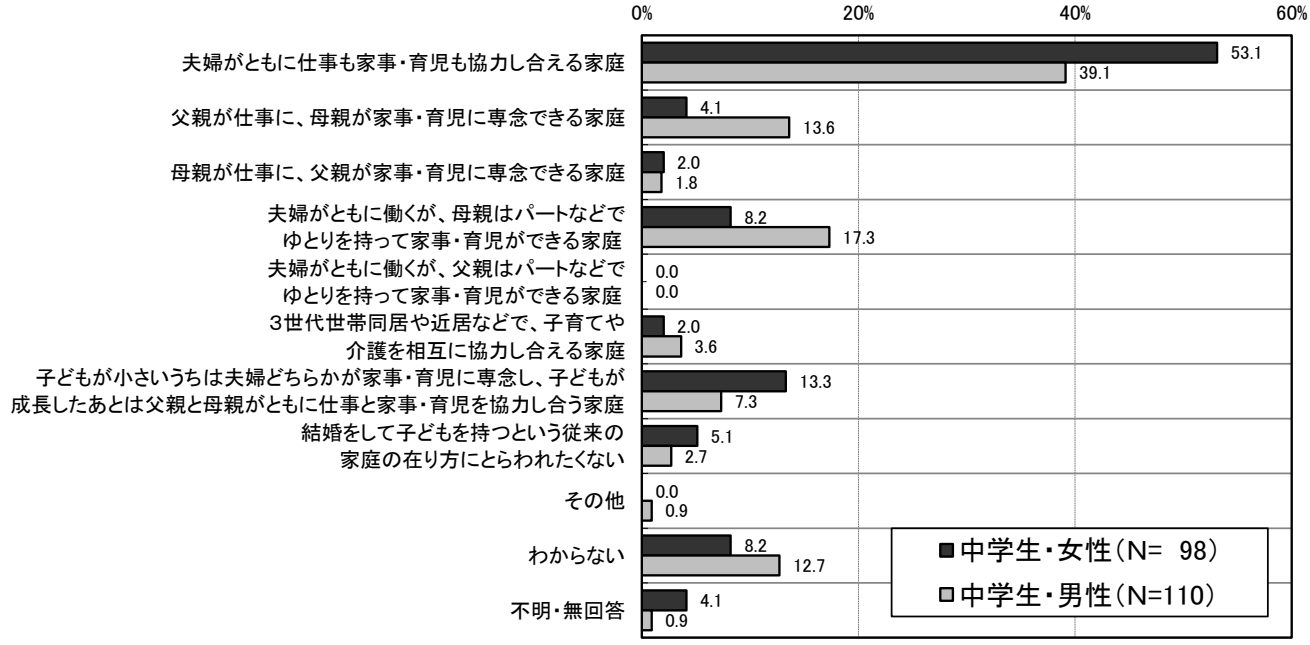


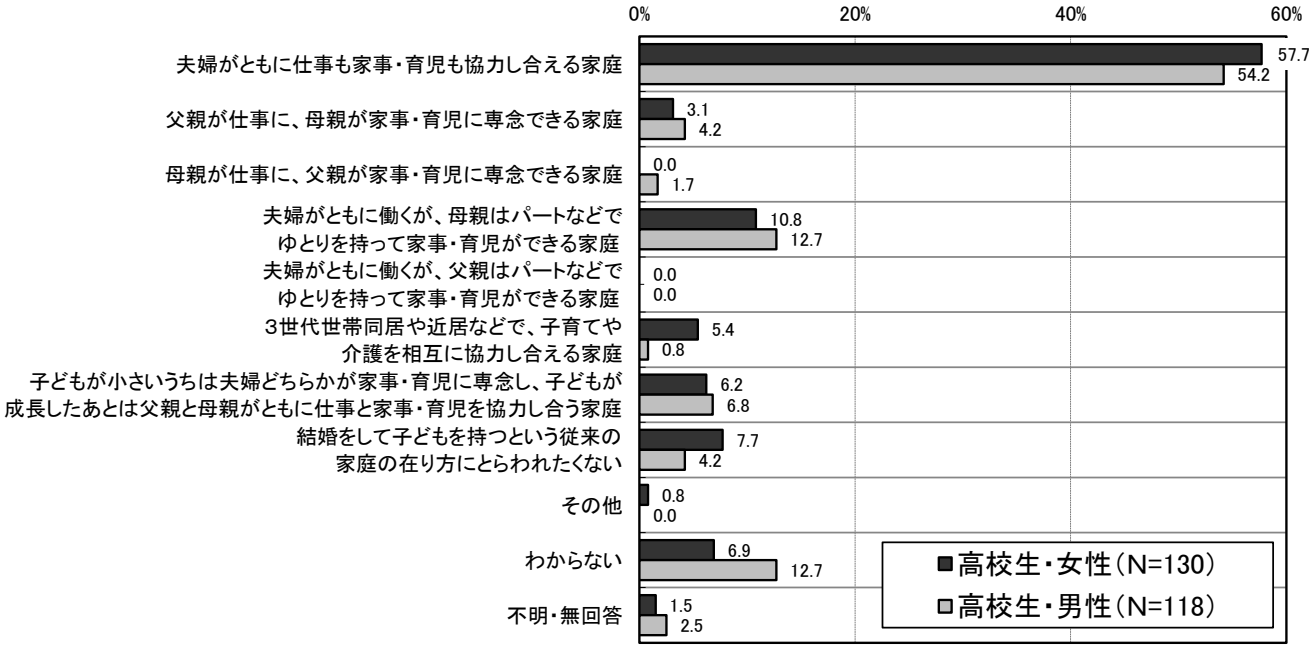


④ 理想とする家庭の姿（単数回答）

理想とする家庭の姿についてみると、中学生では「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が女性で 53.1％と、男性と比べて 14.0 ポイント高くなっています。男性では「父親が仕事に、母親が家事。育児に専念できる家庭」が 13.6％と、女性と比べて 9.5 ポイント高くなっています。

高校生では、「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が女性で 57.7％、男性で 54.2％と最も高くなっています。





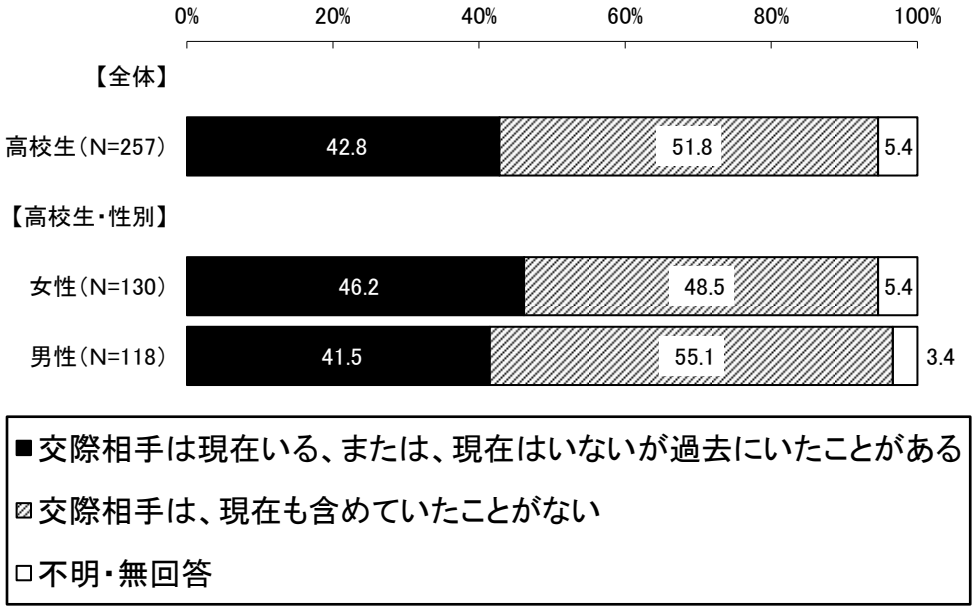
５　交際相手からの暴力について

（1）交際相手からの暴力の経験の有無　※高校生のみ

①　現在または過去における交際相手の有無（単数回答）

現在、または過去において交際相手の有無についてみると、全体では「交際相手は現在いる、または、現在はいないが過去にいたことがある」が 42.8%、「交際相手は、現在も含めていたことがない」が 51.8%となってます。

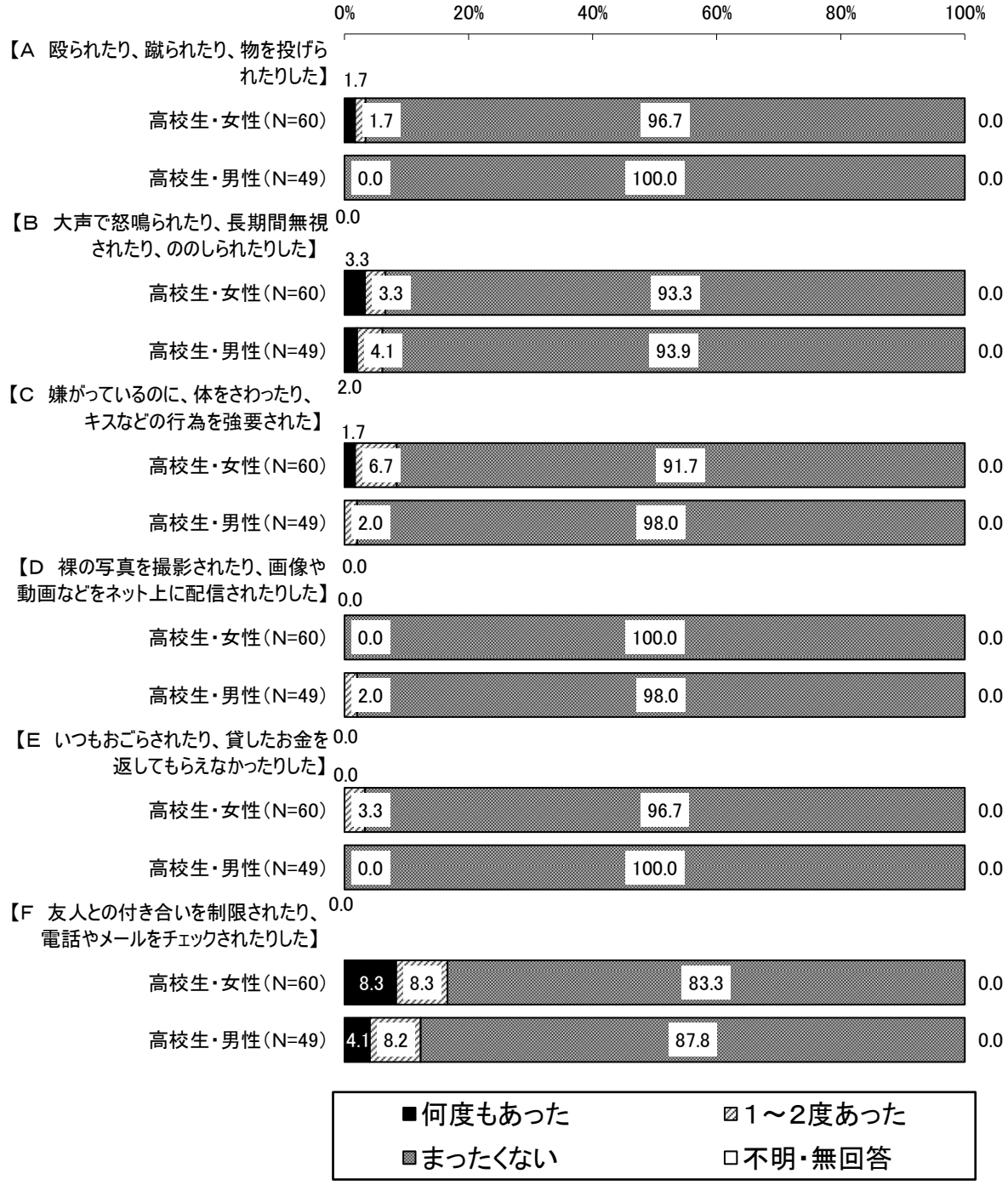
性別でみると、「交際相手は現在いる、または、現在はいないが過去にいたことがある」が女性で 46.2%と、男性と比べてやや高くなっています。



＜「交際相手は現在いる、または、現在はいないが過去にいたことがある」方のみへの質問＞

② 交際相手からの暴力の経験（単数回答）

交際相手からの暴力の経験についてみると、「何度もあった」「１～２度あった」が高い分野は、女性、男性ともに、『Ｆ　友人との付き合いを制限されたり、電話やメールをチェックされたりした』『Ｃ　嫌がっているのに、体をさわったり、キスなどの行為を強要された』となっています。



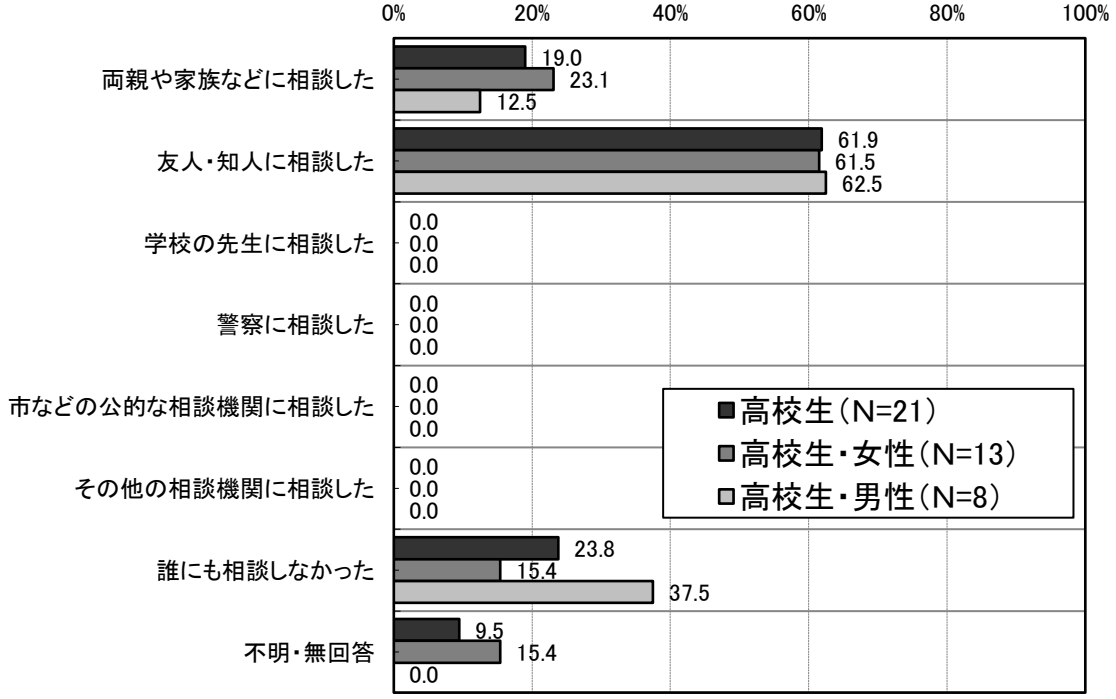
＜交際相手からの暴力の経験がある方のみへの質問＞

（2）交際相手から暴力を受けた際の相談の状況 ※高校生のみ

① 交際相手から暴力を受けた際の相談先（複数回答）

交際相手から暴力を受けた際の相談先についてみると、全体では「友人・知人に相談した」が 61.9%と最も高く、次いで「誰にも相談しなかった」が 23.8%となっています。

性別でみると、「誰にも相談しなかった」が男性で 37.5%と、女性と比べて 22.1 ポイント高くなっています。

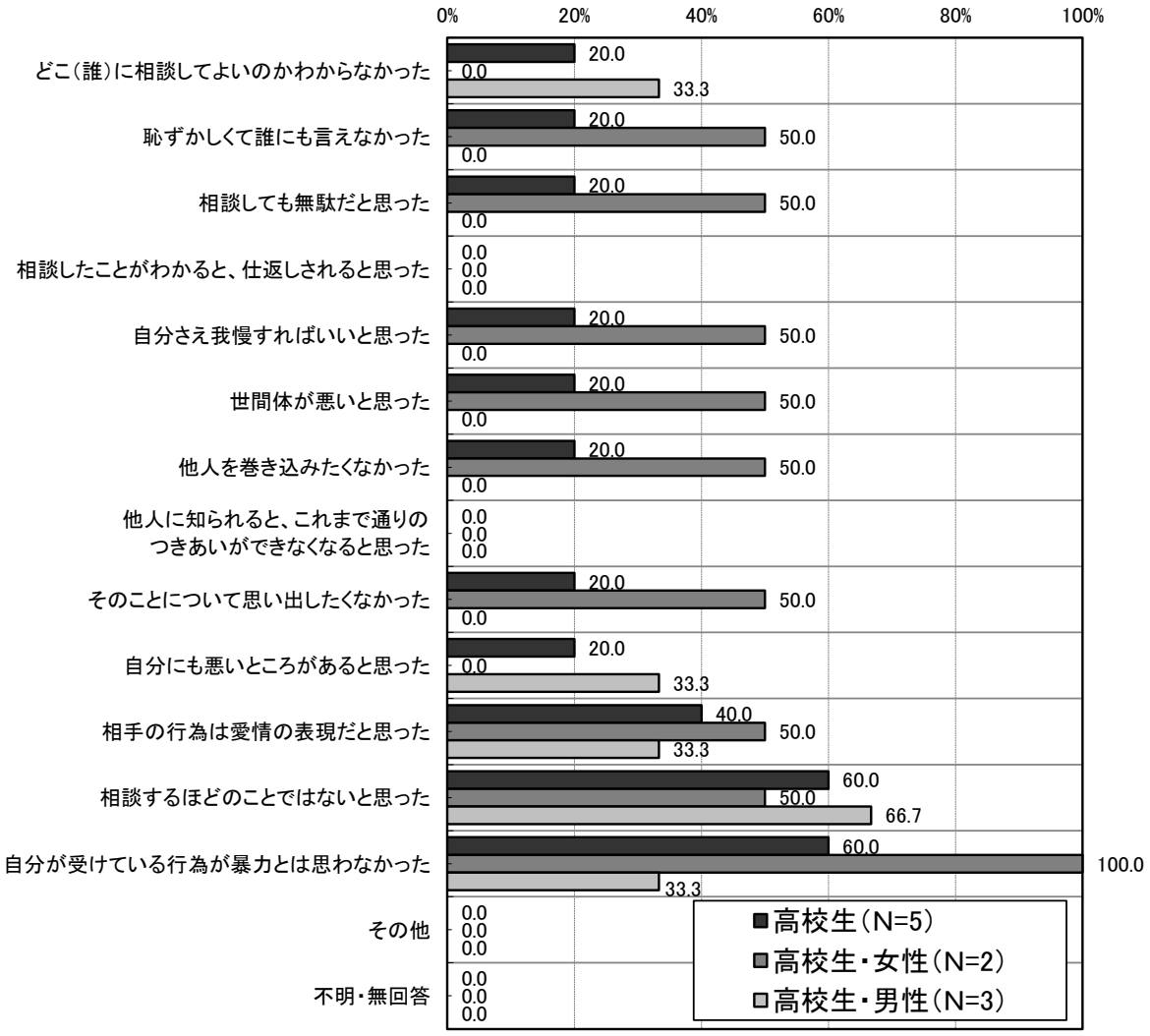


＜交際相手から暴力を受けた際に「誰にも相談しなかった」方のみへの質問＞

② 交際相手から暴力を受けた際に誰にも相談しなかった理由（複数回答）

誰にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思った」「自分が受けている行為が暴力とは思わなかった」が 60.0％と最も高くなっています。

性別でみると、「自分が受けている行為が暴力とは思わなかった」が女性で 100.0％、「相談するほどのことではないと思った」が男性で 66.7％と最も高くなっています。

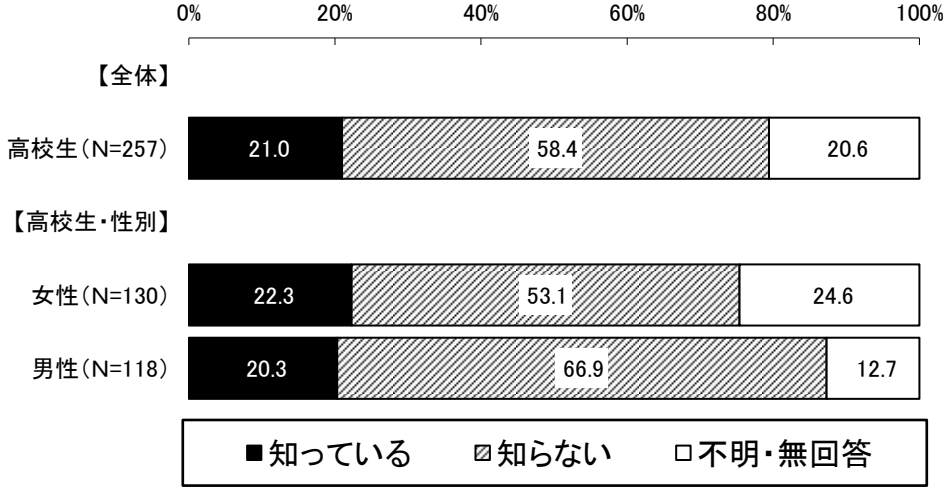


（3）交際相手からの暴力について相談できる窓口の認知度 ※高校生のみ

① 交際相手からの暴力について相談できる窓口の認知度（単数回答）

交際相手からの暴力について相談できる窓口の認知度についてみると、全体では「知っている」が21.0%、「知らない」が58.4%となっています。

性別でみると、「知らない」が男性で66.9%と、女性と比べて13.8ポイント高くなっています。

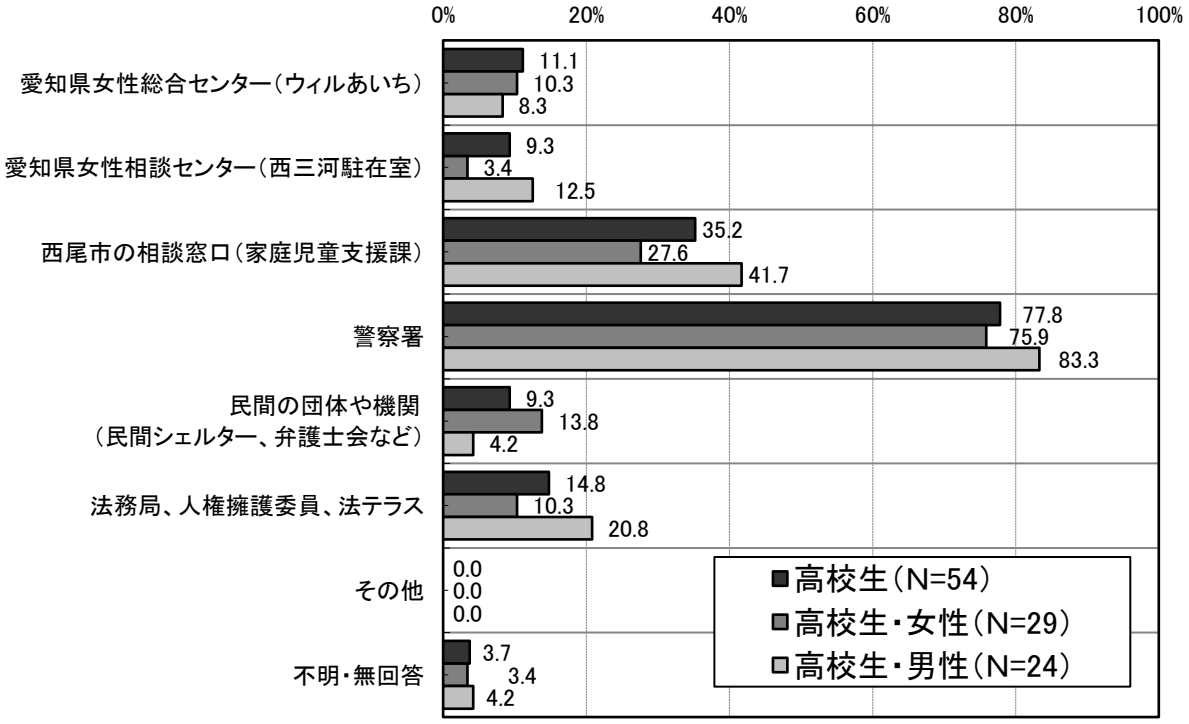


＜交際相手からの暴力について相談できる窓口を「知っている」方のみへの質問＞

② 相談できる窓口についてどのようなところを知っているか（複数回答）

相談できる窓口についてどのようなところを知っているかについてみると、全体、女性、男性ともに、「警察署」が最も高く、次いで「西尾市の相談窓口（家庭児童支援課）」となっています。

性別でみると、「西尾市の相談窓口（家庭児童支援課）」が男性で41.7%と、女性と比べて14.1ポイント高くなっています。



６　男女共同参画全般について

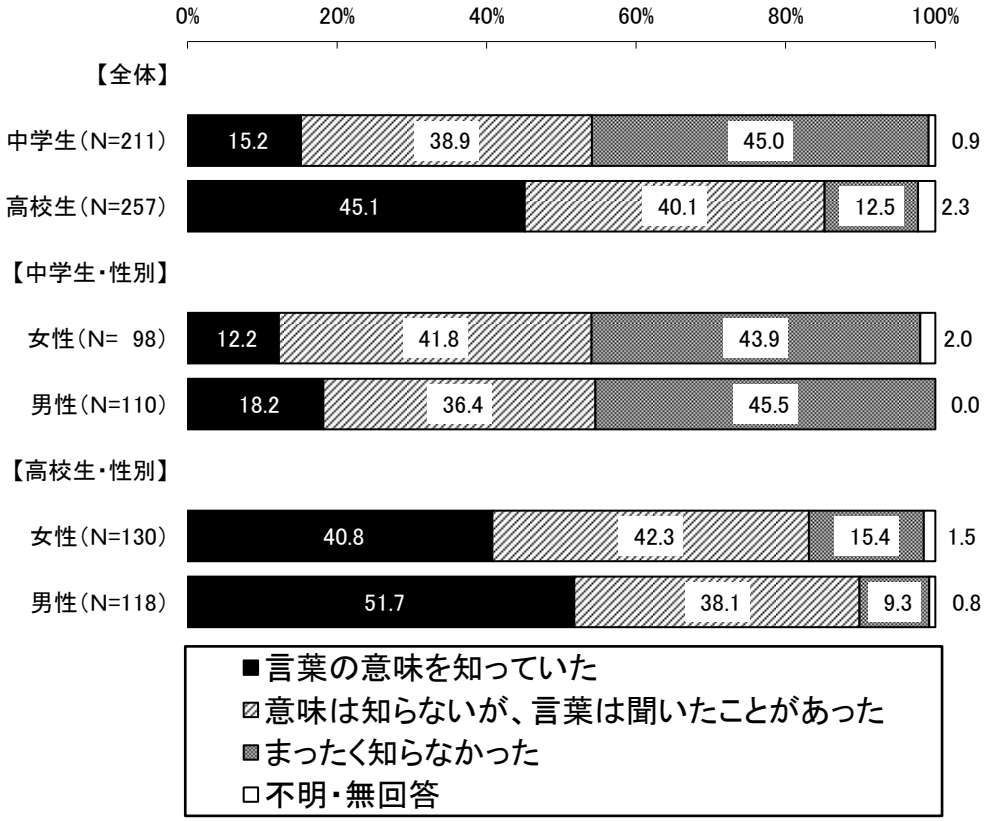
（1）男女共同参画の認知度

①　男女共同参画という言葉を知っていたか（単数回答）

男女共同参画という言葉を知っていたかについてみると、全体では「言葉の意味を知っていた」が中学生で 15.2%、高校生で 45.1%となっています。

性別でみると、中学生では「言葉の意味を知っていた」が男性で 18.2%と、女性と比べて 6.0 ポイント高くなっています。

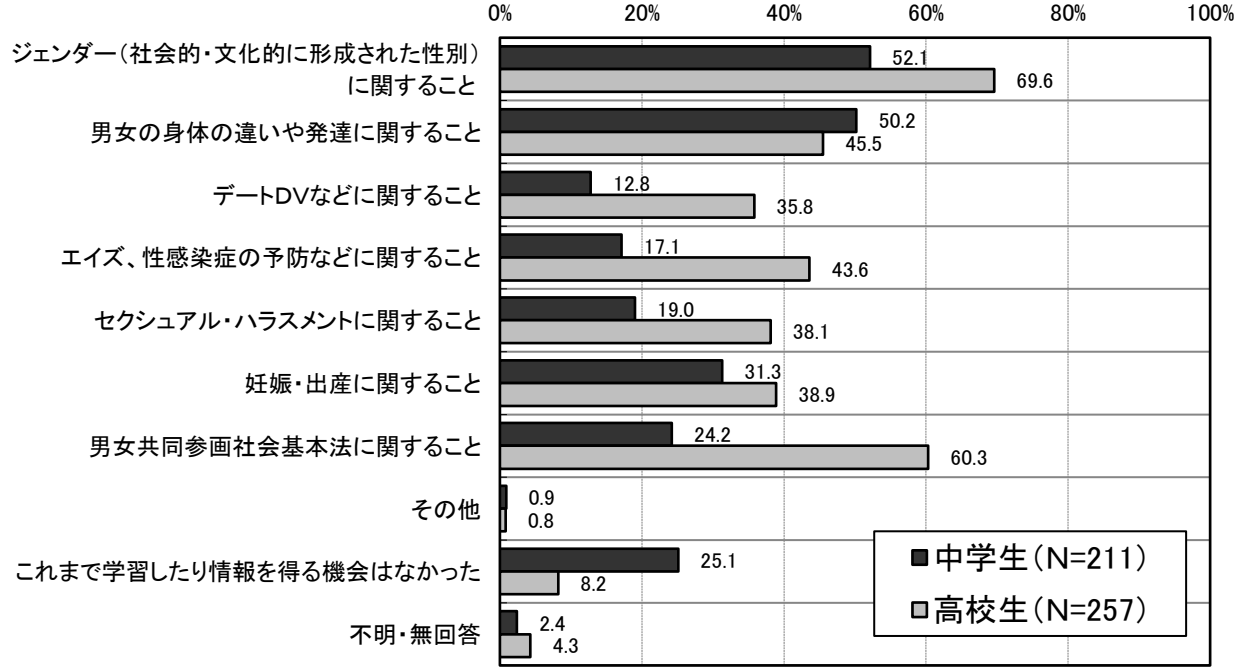
高校生では「言葉の意味を知っていた」が男性で 51.7%と、女性と比べて 10.9 ポイント高くなっています。



（2）男女共同参画に関する学習について

① 男女共同参画について、これまでどのような内容を学んだり、知ったか（複数回答）

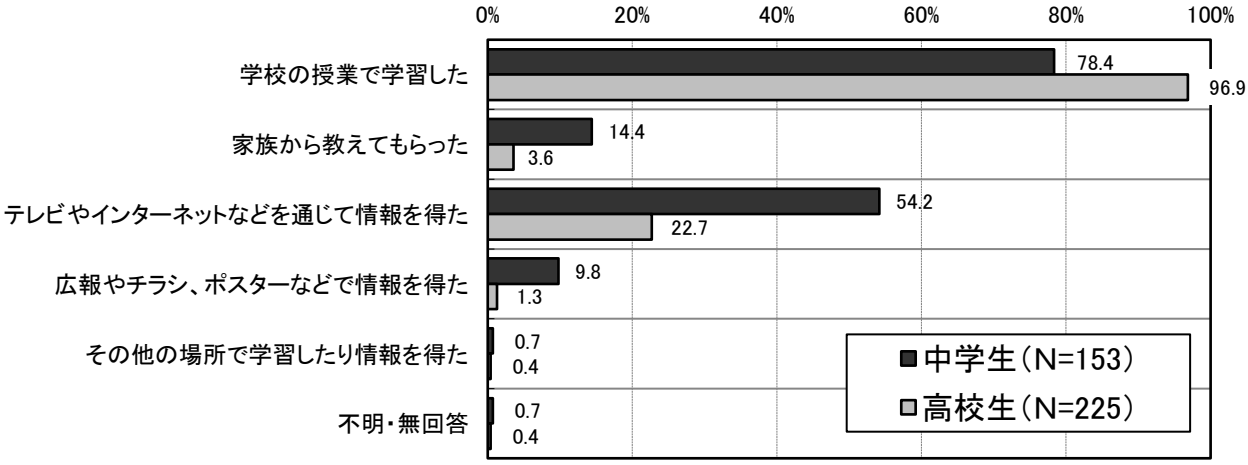
男女共同参画の学習内容についてみると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）に関すること」が中学生で 52.1%、高校生で 69.6%と最も高くなっています。また、「男女共同参画社会基本法に関すること」が高校生で 60.3%と、中学生と比べて 36.1 ポイント高くなっています。



＜男女共同参画についてについて学んだり、知ったりしたことがある人のみへの質問＞

② 男女共同参画について学んだり、知ったりしたのはどのような機会か（複数回答）

男女共同参画の学習の機会についてみると、「学校の授業で学習した」が中学生で 78.4%、高校生で 96.9%と最も高くなっています。また、「テレビやインターネットなどを通じて情報を得た」が中学生で 54.2%と、高校生と比べて 31.5 ポイント高くなっています。

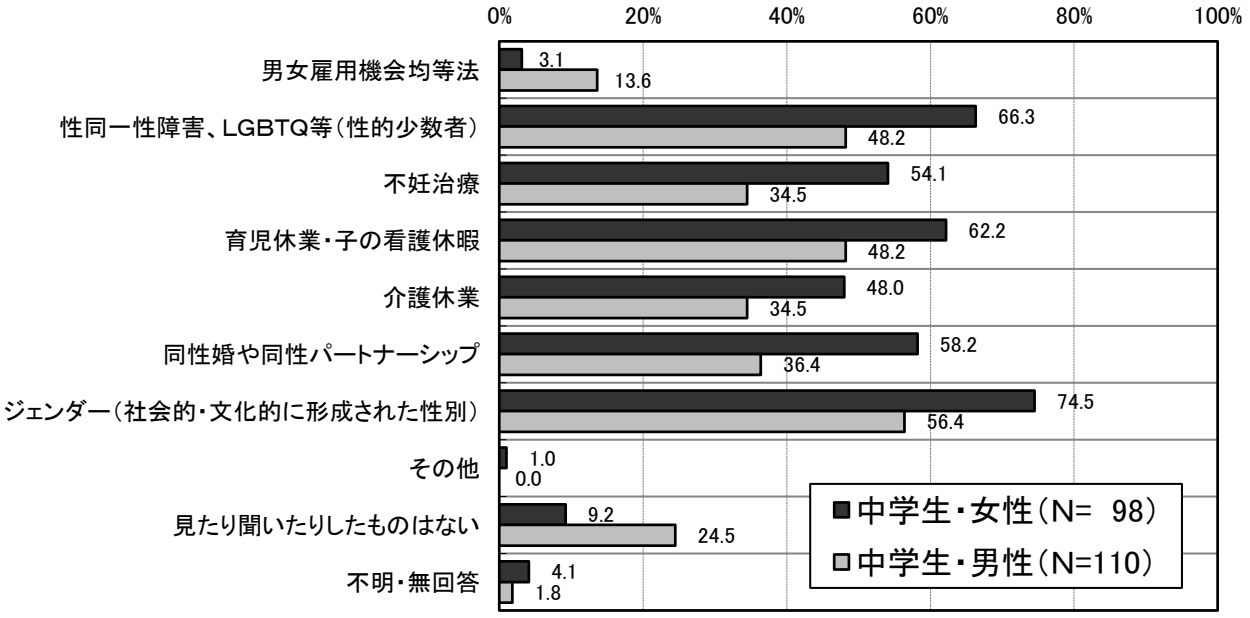


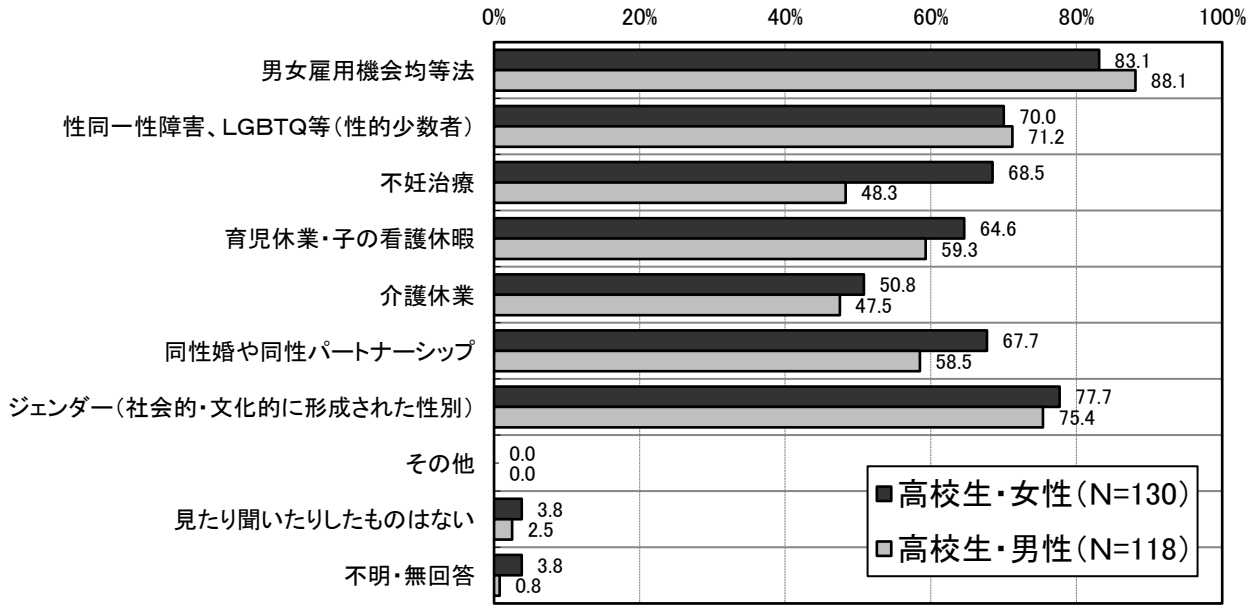
（3）用語の認知度

① 男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの（複数回答）

男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものについてみると、中学生では「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）に関すること」が女性で 74.5%、男性で 56.4%と最も高くなっています。また、「同性婚や同性パートナーシップ」が女性で 58.2%と、男性と比べて 21.8 ポイント高くなっています。

高校生では「男女雇用機会均等法」が女性で 83.1%、男性で 88.1%と最も高くなっています。また、「不妊治療」が女性で 68.5%と、男性と比べて 20.2 ポイント高くなっています。





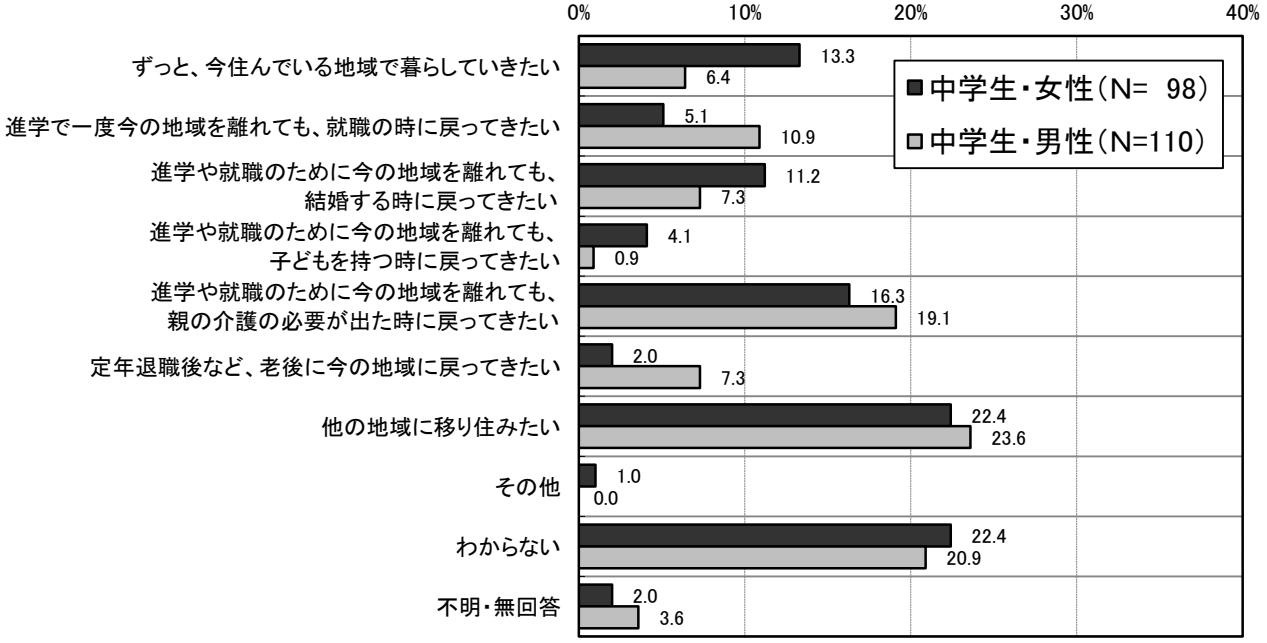
7　将来について

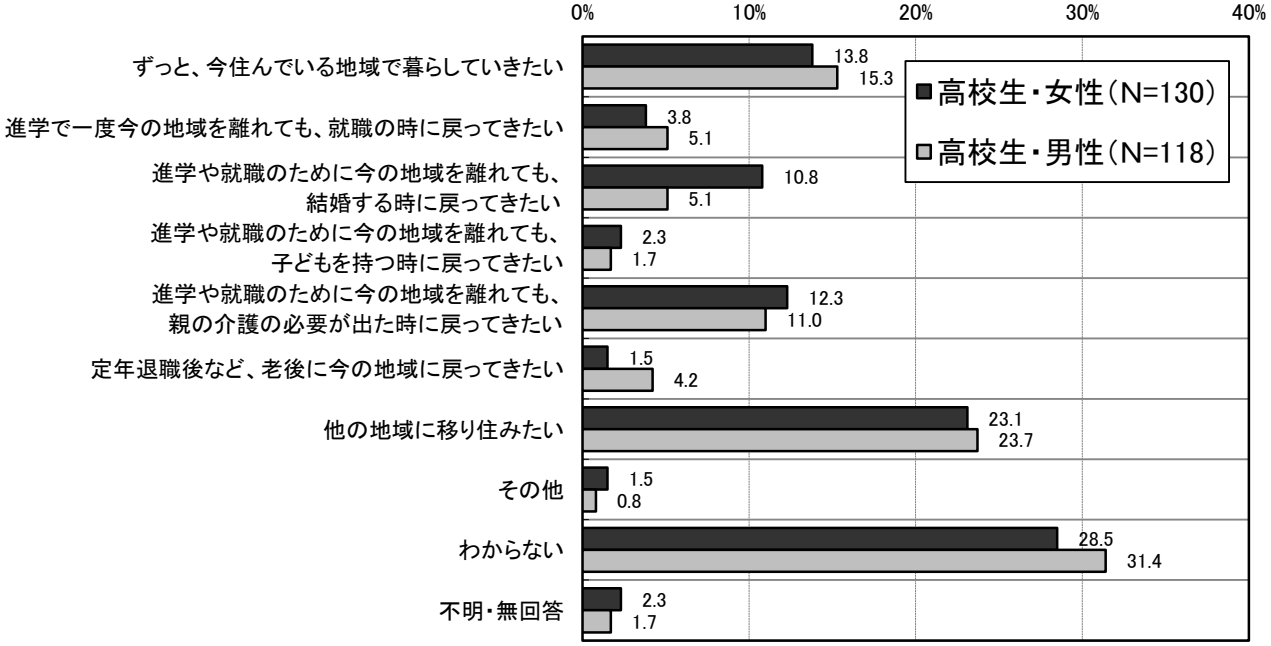
（1）将来の定住意向

①　将来、定住する場所について、どう考えているか（単数回答）

将来、定住する場所の考えについてみると、中学生では、「他の地域に移り住みたい」が女性で 22.4%、男性で 23.6%と最も高くなっています。また、「ずっと、今住んでいる地域で暮らしていきたい」が女性で 13.3%と、男性と比べて 6.9 ポイント高くなっています。

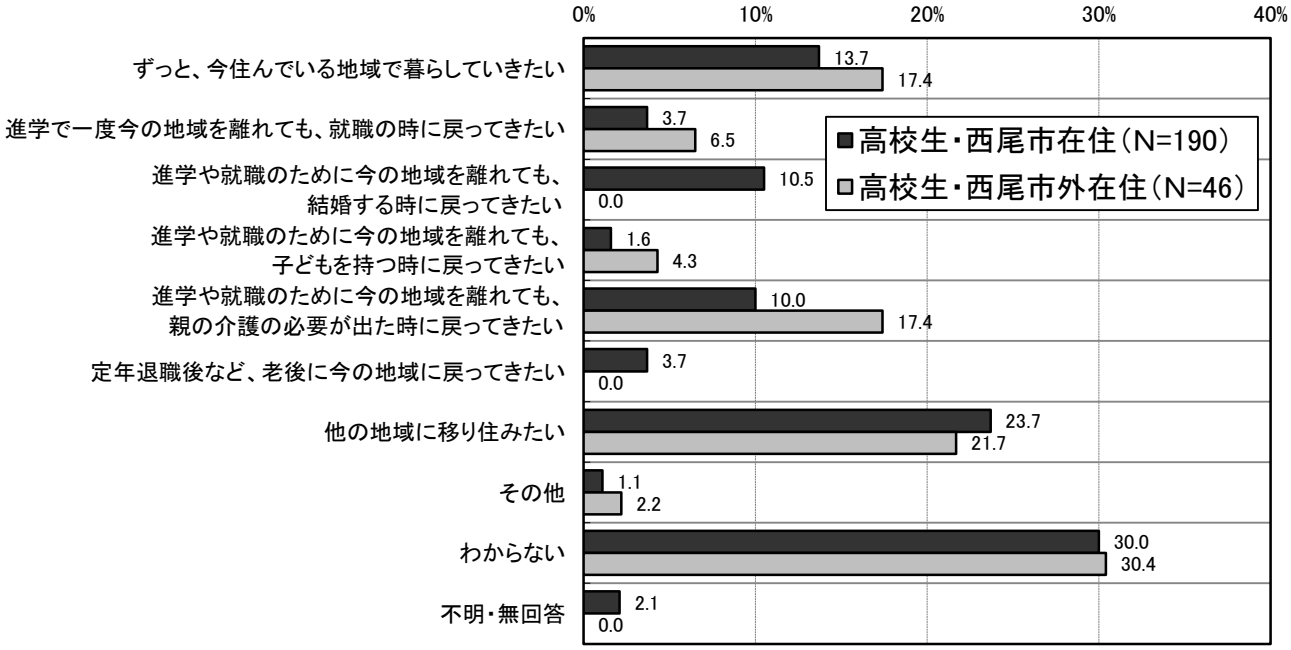
高校生では、「わからない」が女性で 28.5%、男性で 31.4%と最も高くなっています。また、「進学や就職のために今の地域を離れても、結婚する時に戻ってきたい」が女性で 10.8%と、男性と比べて 5.7 ポイント高くなっています。





■高校生・居住地域別

高校生の居住地域別でみると、「わからない」が西尾市在住者で 30.0%、西尾市外在住者で 30.4%と最も高くなっています。また、「進学や就職のために今の地域を離れても、結婚する時に戻ってきたい」が西尾市在住者で 10.5%と、西尾市外在住者と比べて 10.5 ポイント高くなっています。西尾市外在住者では「進学や就職のために今の地域を離れても、親の介護の必要が出た時に戻ってきたい」が 17.4%と、西尾市在住者に比べて 7.4 ポイント高くなっています。



Ⅵ　西尾市職員意識調査

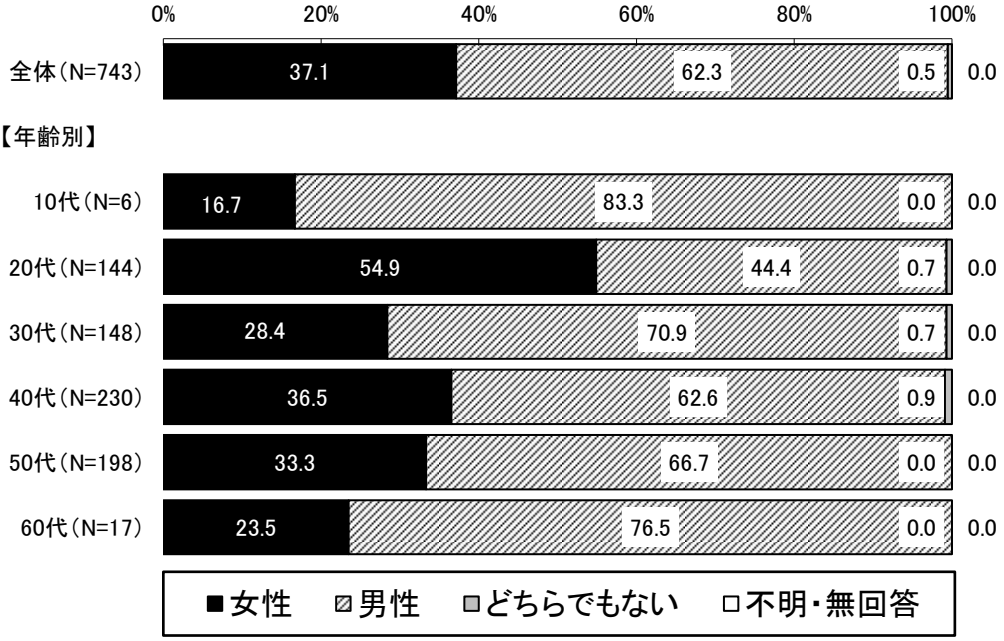
1　回答者の属性について

（1）回答者の状況

① 性別（単数回答）

回答者の性別は、全体では「女性」が 37.1%、「男性」が 62.3%となっています。

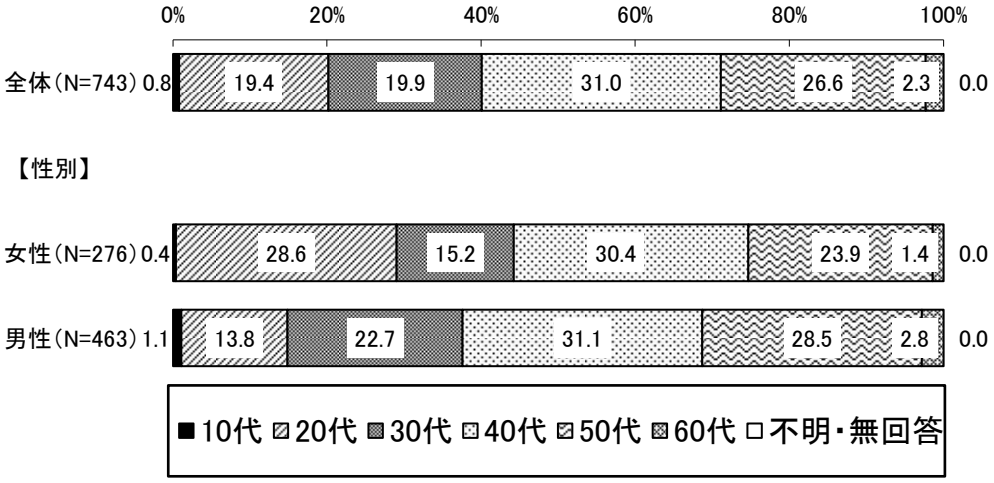
年齢別でみると、「女性」が 20 代で 54.9%と最も高く、「男性」が 10 代で 83.3%と最も高くなっています。



② 年齢（単数回答）

回答者の年齢は、全体では「40 代」が 31.0%と最も高く、次いで「50 代」が 26.6%となっています。

性別でみると、「20 代」が女性で 28.6%と、男性と比べて 14.8 ポイント高くなっています。また、男性で「30 代」が 22.7%と、女性と比べて 7.5 ポイント高くなっています。

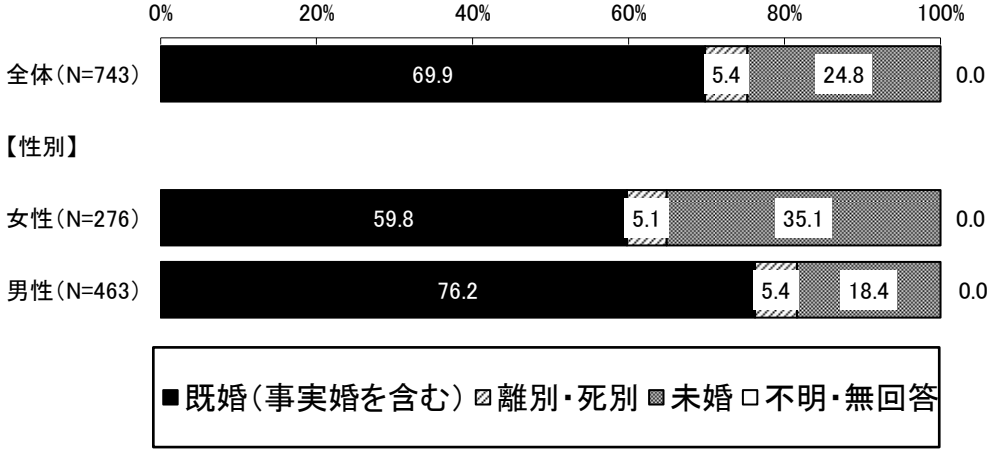


（2）婚姻・家族の状況

① 婚姻状況（単数回答）

婚姻状況は、全体では「既婚（事実婚を含む）」が 69.9%、「未婚」が 24.8%となっています。

性別でみると、「未婚」が女性で 35.1%と、男性と比べて 16.7 ポイント高くなっています。

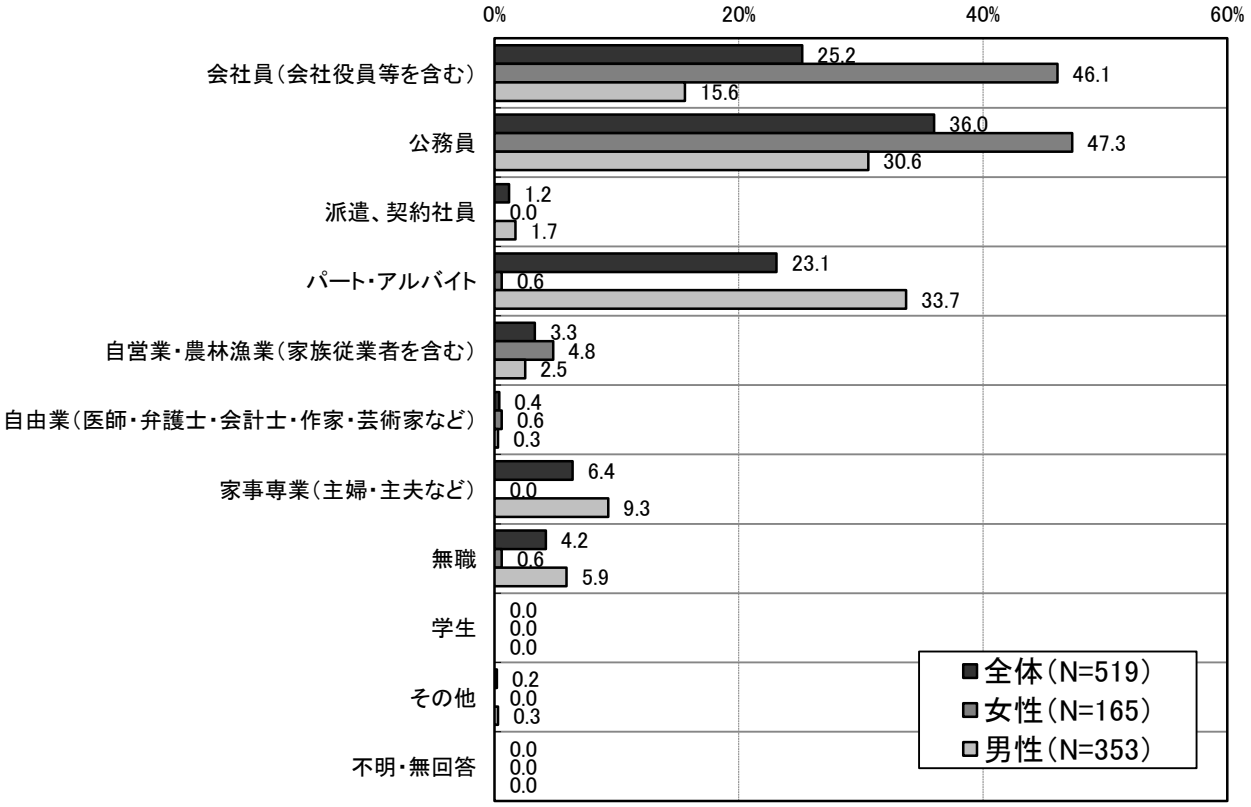


＜「既婚（事実婚を含む）」の方への質問＞

② 配偶者・パートナーの職業（単数回答）

配偶者・パートナーの職業は、全体では「公務員」が 36.0%と最も高く、次いで「会社員（会社役員等を含む）」が 25.2%となっています。

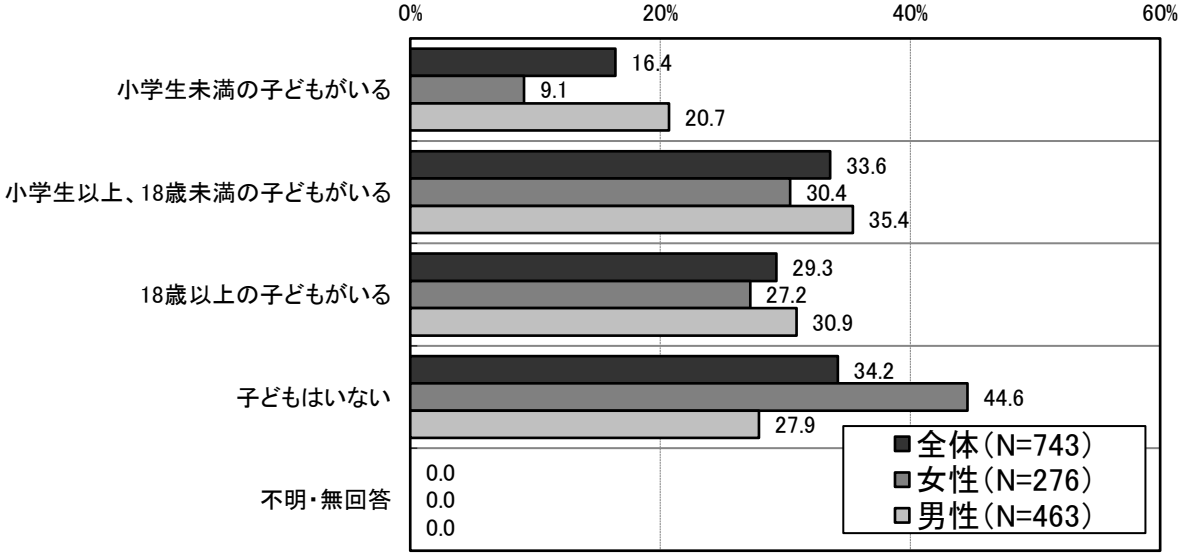
性別でみると、「公務員」が女性で 47.3%、男性で「パート・アルバイト」が 33.7%と最も高くなっています。また、「会社員（会社役員等も含む）」が女性で 46.1%と、30.5 ポイント高くなっています。



③ 子どもの有無（複数回答）

子どもの有無については、全体では「子どもはいない」が 34.2%と最も高く、次いで「小学生以上、18 歳未満の子どもがいる」が 33.6%となっています。

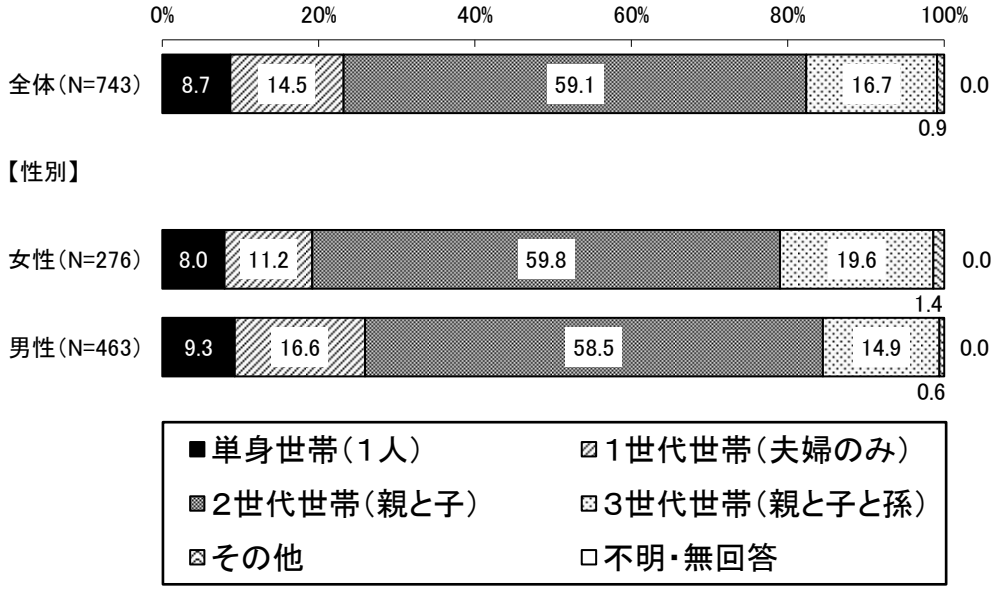
性別でみると、「子どもはいない」が女性で 44.6%と、男性と比べて 16.7 ポイント高くなっています。男性では「小学生未満の子どもがいる」が 20.7%と、女性と比べて 11.6 ポイント高くなっています。



④ 家族構成（単数回答）

家族構成は、全体では「２世代世帯（親と子）」が 59.1%と最も高く、次いで「３世代世帯（親と子と孫）」が 16.7%となっています。

性別でみると、「３世代世帯（親と子と孫）」が女性で 19.6%と、男性と比べて 4.7 ポイント高くなっています。男性では「１世代世帯（夫婦のみ）」が 16.6%と、女性と比べて 5.4 ポイント高くなっています。

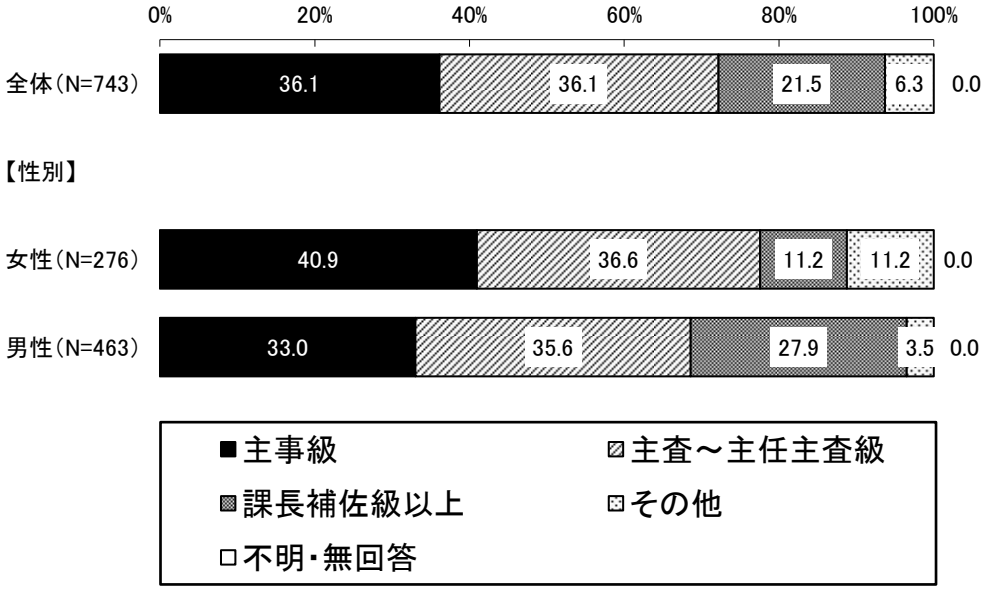


（3）階層・職務の状況

① 階層区分（単数回答）

階層区分は、全体では「主事級」「主査～主任主査級」が 36.1％と最も高く、次いで「課長補佐級以上」が 21.5％となっています。

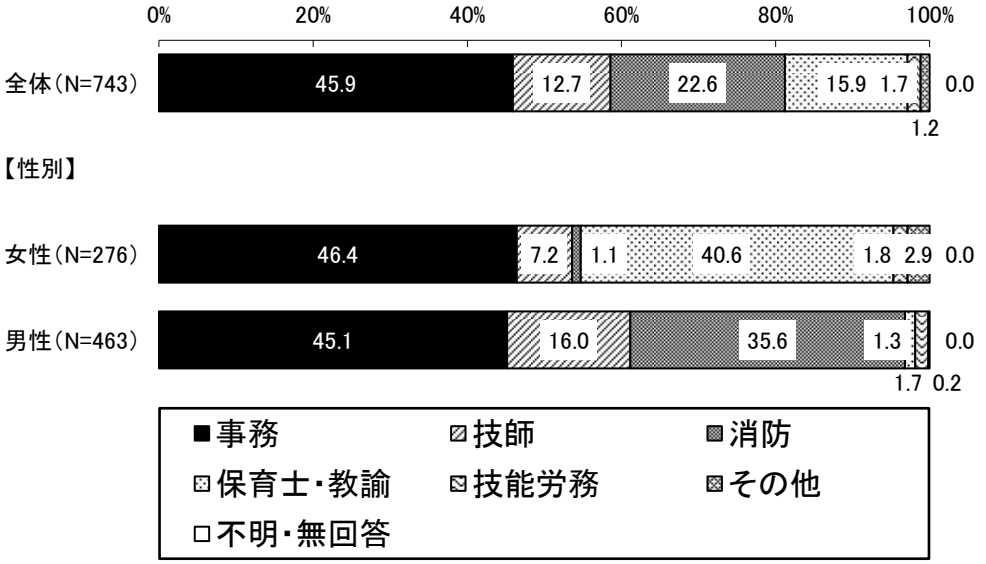
性別でみると、「課長補佐級以上」が男性で 27.9％と、女性と比べて 16.7 ポイント高くなっています。



② 職種（単数回答）

職種は、全体では「事務」が 45.9％と最も高く、次いで「消防」が 22.6％となっています。

性別でみると、「保育士・教諭」が女性で 40.6％と、男性と比べて 39.3 ポイント高くなっています。男性では「消防」が 35.6％と、女性と比べて 34.5 ポイント高くなっています。



２　職場環境について

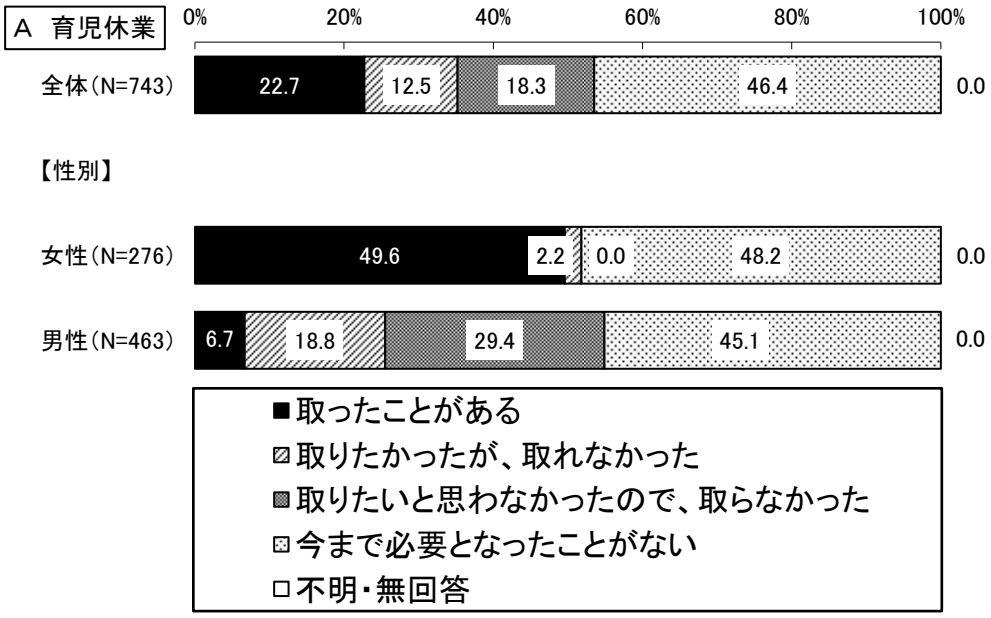
（1）仕事と家庭生活を両立するための制度について

①　制度の利用状況

Ａ　育児休業制度※（単数回答）　　※育児のために一定期間休業できる制度

育児休業制度の利用についてみると、全体では「取ったことがある」が 22.7%、「取りたかったが、取れなかった」が 12.5%、「取りたいと思わなかったので、取らなかった」が 18.3%となっています。

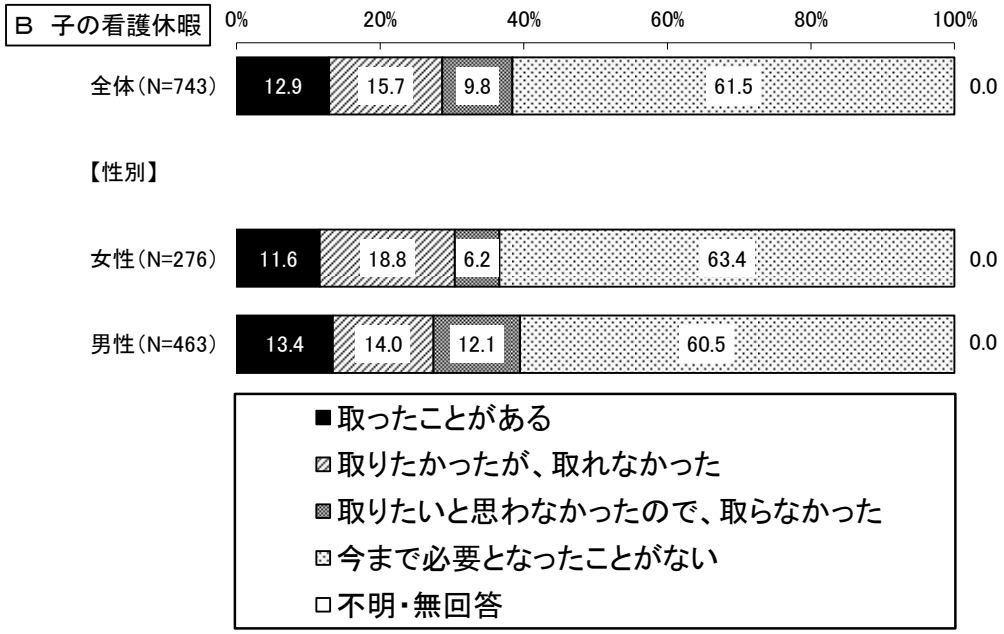
性別でみると、「取ったことがある」が女性で 49.6%、男性で 6.7%となっています。また、「取りたかったが、取れなかった」が女性で 2.2%、男性で 18.8%となっています。



B 子の看護休暇制度※（単数回答）　※病気等の子どもを看護するための年5日程度の休暇

子の看護休暇制度の利用についてみると、全体では「取ったことがある」が 12.9%、「取りたかったが、取れなかった」が 15.7%、「取りたいと思わなかったので、取らなかった」が 9.8%となっています。

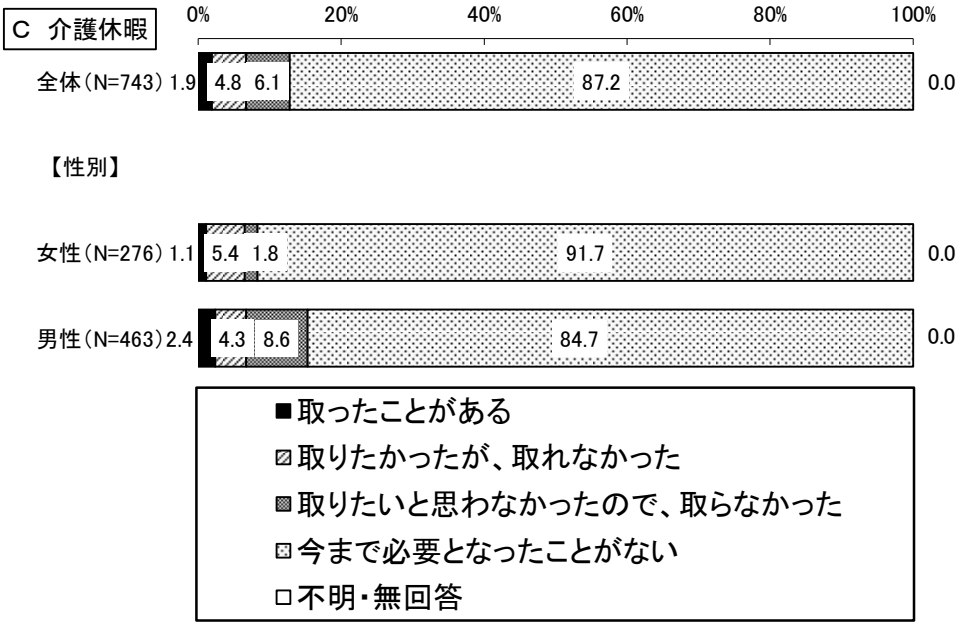
性別でみると、「取ったことがある」が女性で 11.6%、男性で 13.4%となっています。また、「取りたかったが、取れなかった」が女性で 18.8%、男性で 14.0%となっています。



C 介護休業制度※（単数回答）　※介護のために一定期間休業できる制度

介護休暇制度の利用についてみると、全体では「取ったことがある」が 1.9%、「取りたかったが、取れなかった」が 4.8%、「取りたいと思わなかったので、取らなかった」が 6.1%となっています。

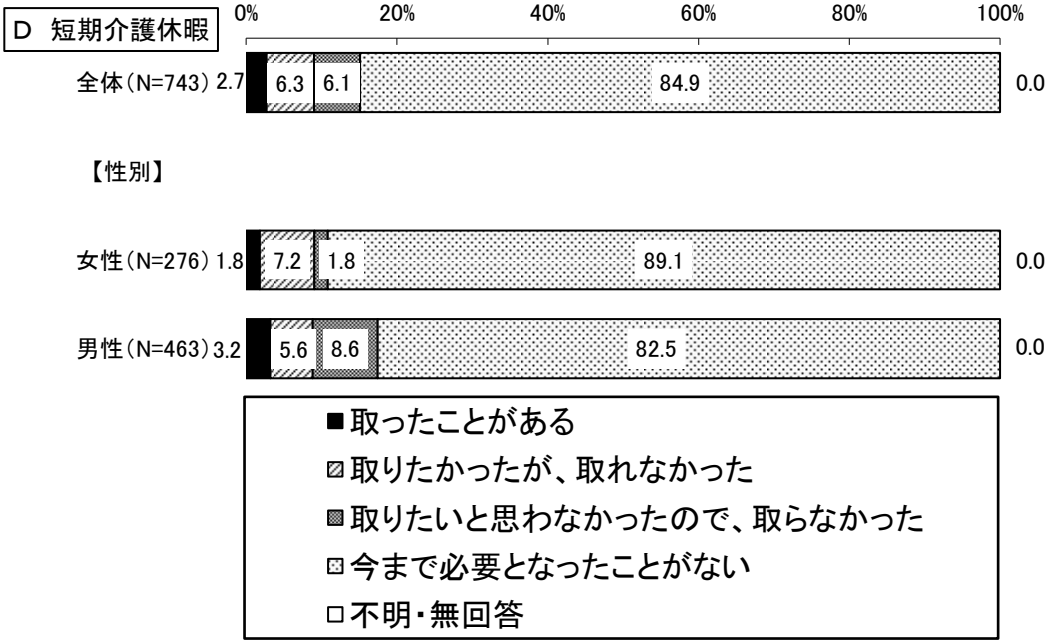
性別でみると、「取ったことがある」が女性で 1.1%、男性で 2.4%となっています。また、「取りたかったが取れなかった」は女性で 5.4%、男性で 4.3%となっています。



D 短期介護休暇制度※（単数回答）　※短期の介護のための年5日程度の休暇

短期介護休暇制度の利用についてみると、全体では「取ったことがある」が 2.7%、「取りたかったが、取れなかった」が 6.3%、「取りたいと思わなかったので、取らなかった」が 6.1%となっています。

性別でみると、「取ったことがある」が女性で 1.8%、男性で 3.2%となっています。また、「取りたかったが、取れなかった」は女性で 7.2%、男性で 5.6%となっています。

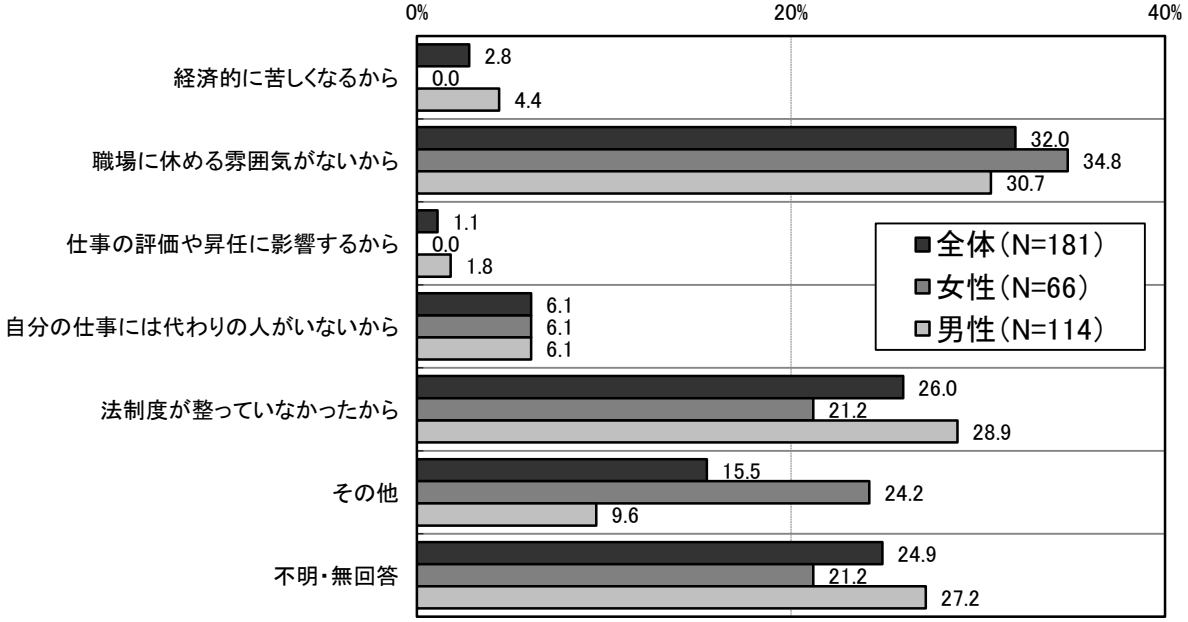


＜育児・介護休業等のいずれかで「取りたかったが、取れなかった」方への質問＞

② 取得することができなかった理由（複数回答）

取得することができなかった理由についてみると、全体で「職場に休める雰囲気がないから」が 32.0%と最も高く、次いで「法制度が整っていなかったから」が 26.0%となっています。

性別でみると、「法制度が整っていなかったから」が男性で 28.9%と、女性に比べて 7.7 ポイント高くなっています。



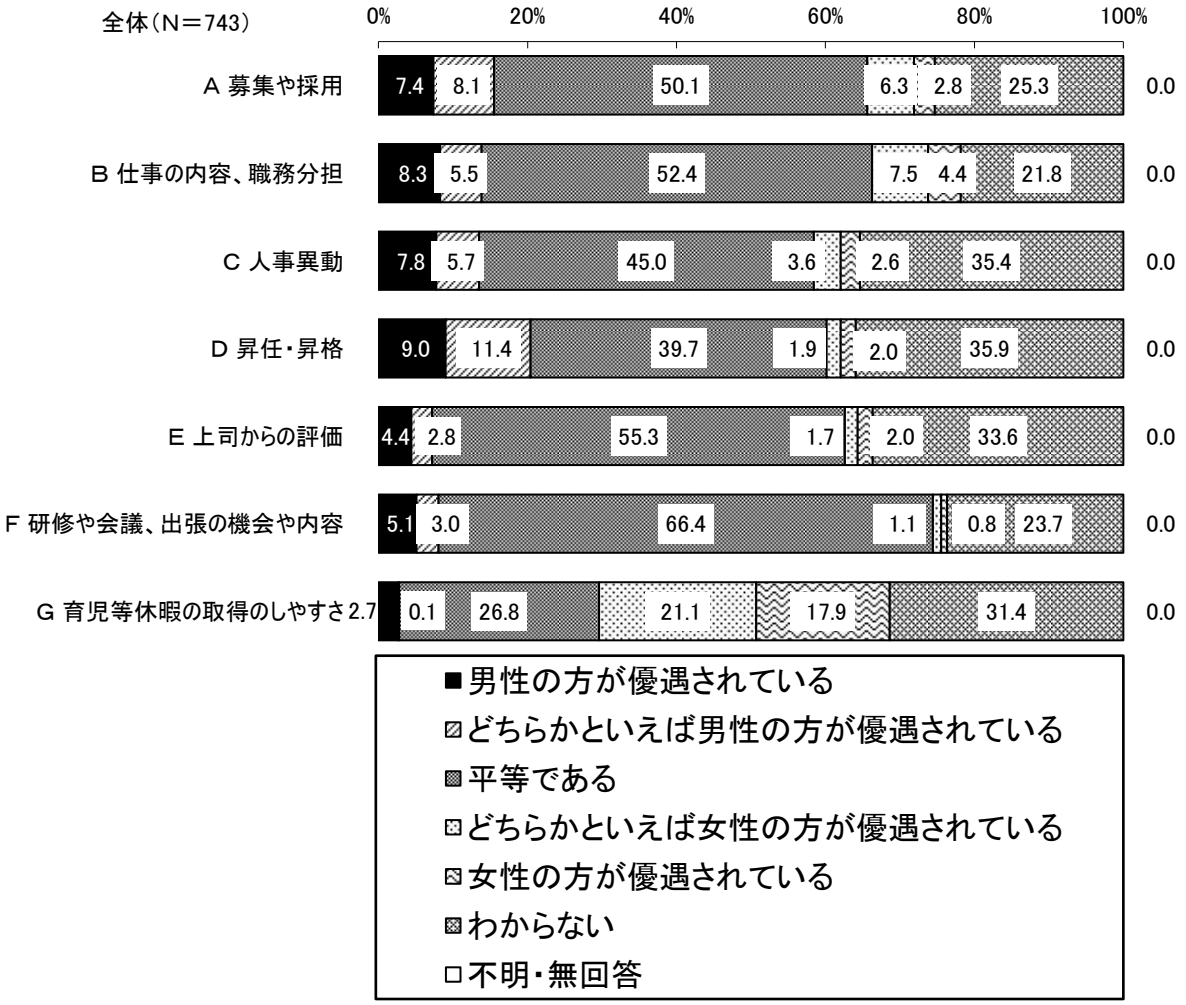
（2）職場における男女別の状況

① 男女別の優遇感の状況

※選択肢の表現は、以下のように区分しています。

○『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
○『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

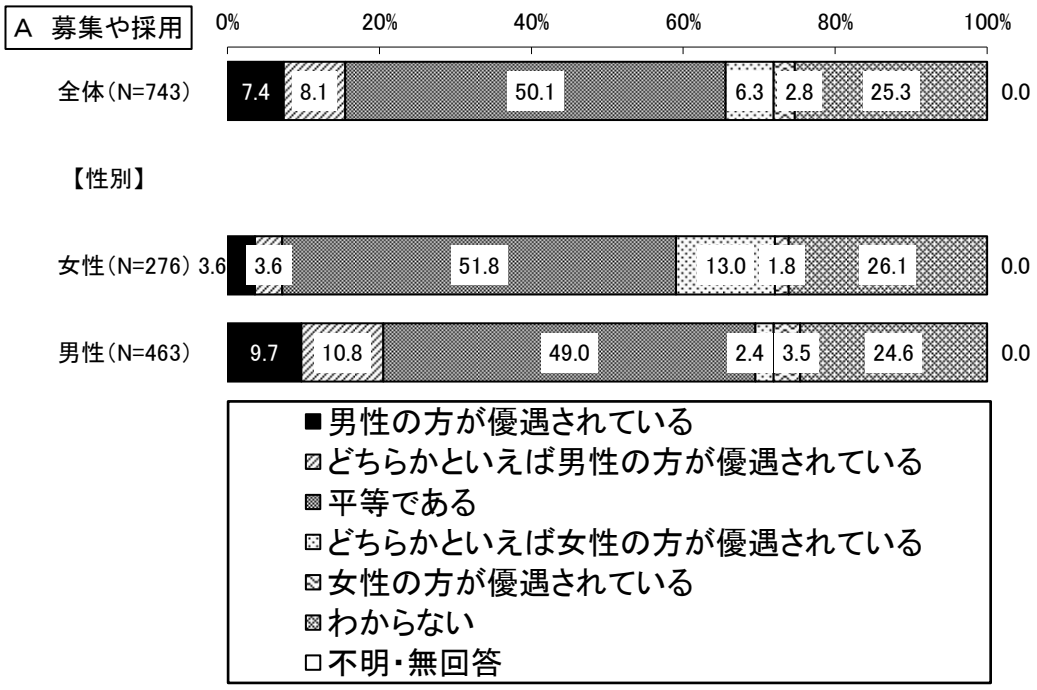
それぞれの分野における平等感を比較すると、ほとんどの分野で「平等である」が高くなっています。『男性優遇』が高い分野は、「D 昇任・昇格」で 20.4%、『女性優遇』が高い分野は「G 育児等休暇の取得のしやすさ」で 39.0%となっています。



A　募集や採用（単数回答）

募集や採用についてみると、全体では『男性優遇』が 15.5%、「平等である」が 50.1%、『女性優遇』が 9.1%となっています。

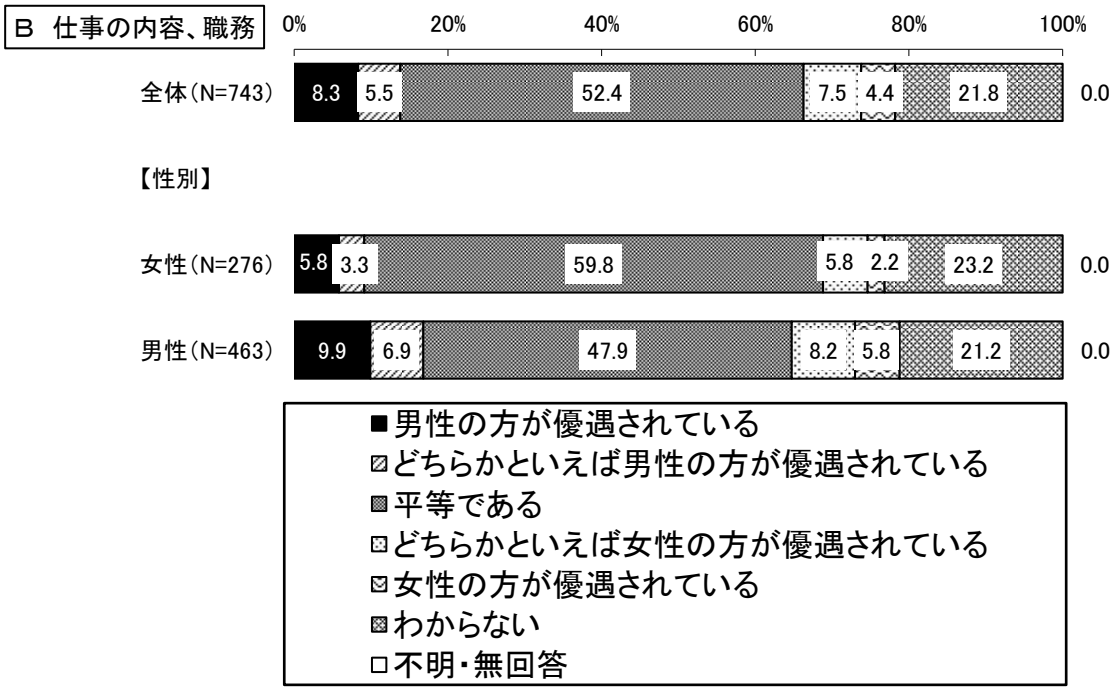
性別でみると、『女性優遇』が女性で 14.8%と、男性と比べて 8.9 ポイント高くなっています。男性では『男性優遇』が 20.5%と、女性と比べて 13.3 ポイント高くなっています。



B　仕事の内容、職務分担（単数回答）

仕事の内容についてみると、全体では『男性優遇』が 13.8%、「平等である」が 52.4%、『女性優遇』が 11.9%となっています。

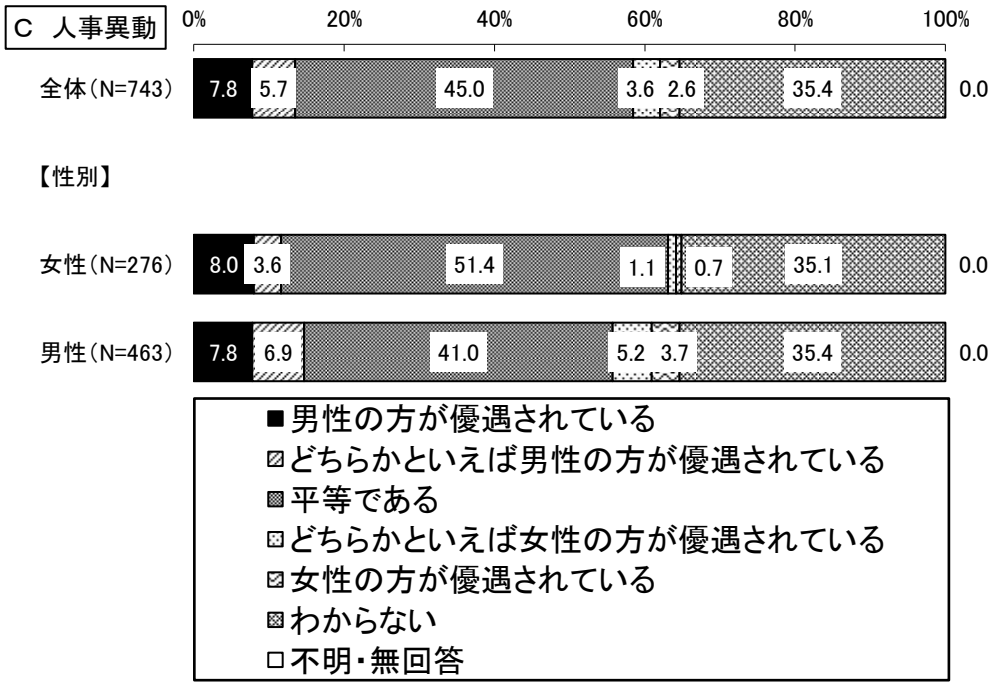
性別でみると、「平等である」が女性で 59.8%と、男性と比べて 11.9 ポイント高くなっています。



C　人事異動（単数回答）

人事異動についてみると、全体では『男性優遇』が 13.5%、「平等である」が 45.0%、『女性優遇』が 6.2%となっています。

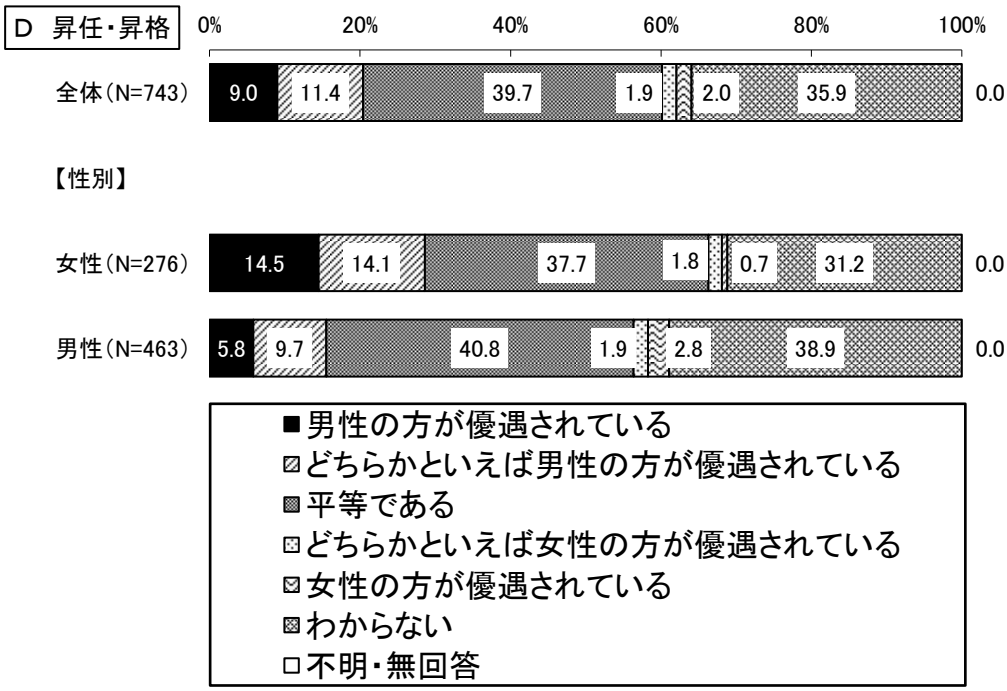
性別でみると、「平等である」が女性で 51.4%と、男性と比べて 10.4 ポイント高くなっています。



D　昇任・昇格（単数回答）

昇任・昇格についてみると、全体では『男性優遇』が 20.4%、「平等である」が 39.7%、『女性優遇』が 3.9%となっています。

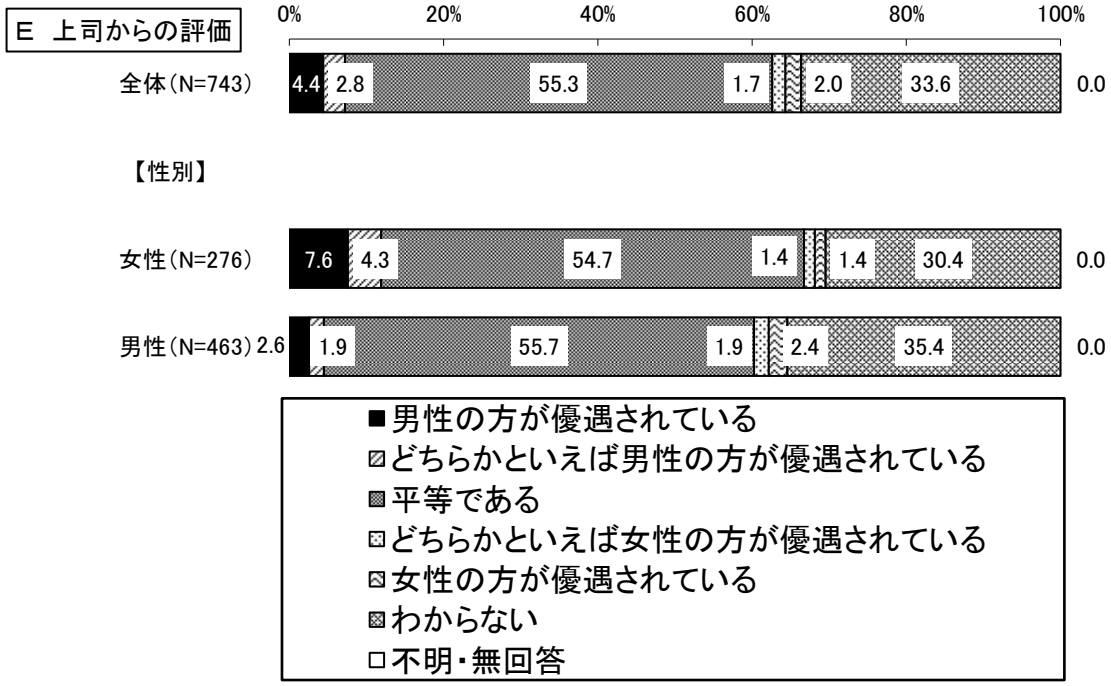
性別でみると、『男性優遇』が女性で 28.6%と、男性と比べて 13.1 ポイント高くなっています。



E 上司からの評価（単数回答）

上司からの評価についてみると、全体では『男性優遇』が 7.2%、「平等である」が 55.3%、『女性優遇』が 3.7%となっています。

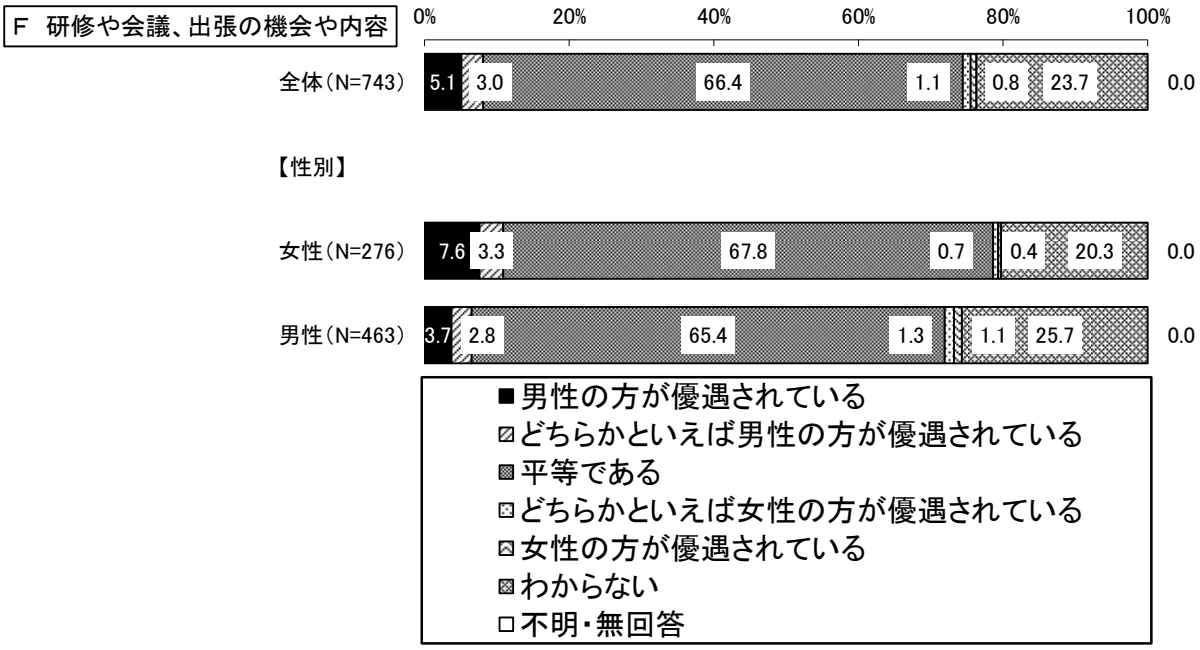
性別でみると、『男性優遇』が女性で 11.9%と、男性と比べて 7.4 ポイント高くなっています。



F 研修や会議、出張の機会や内容（単数回答）

研修や会議、出張の機会や内容についてみると、全体では『男性優遇』が 8.1%、「平等である」が 66.4%、『女性優遇』が 1.9%となっています。

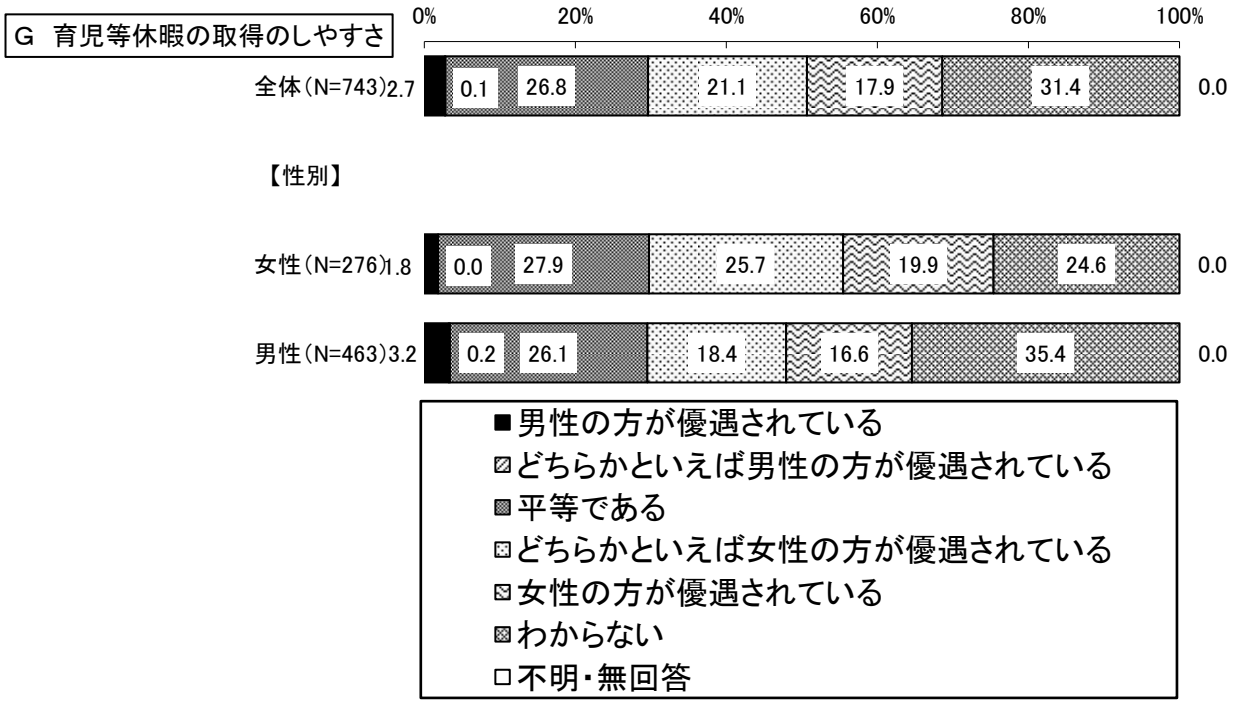
性別でみると、『男性優遇』が女性で 10.9%と、男性と比べて 4.4 ポイント高くなっています。



G　育児等休暇の取得のしやすさ（単数回答）

育児等休暇の取得のしやすさについてみると、全体では『男性優遇』が 2.8%、「平等である」が 26.8%、『女性優遇』が 39.0%となっています。

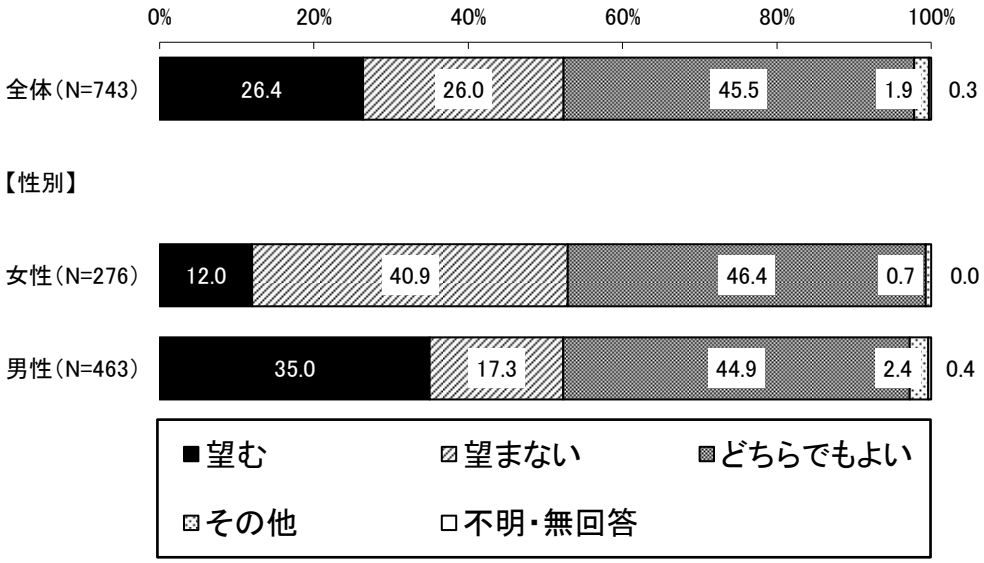
性別でみると、『女性優遇』が女性で 45.6%と、男性と比べて 10.6 ポイント高くなっています。



②　管理職につくことや昇進への希望（単数回答）

管理職につくことや昇進への希望についてみると、全体では「望む」が 26.4%、「望まない」が 26.0%、「どちらでもよい」が 45.5%となっています。

性別でみると、「望む」が男性で 35.0%と、女性と比べて 23.0 ポイント高くなっています。女性では「望まない」が 40.9%と、男性と比べて 23.6 ポイント高くなっています。

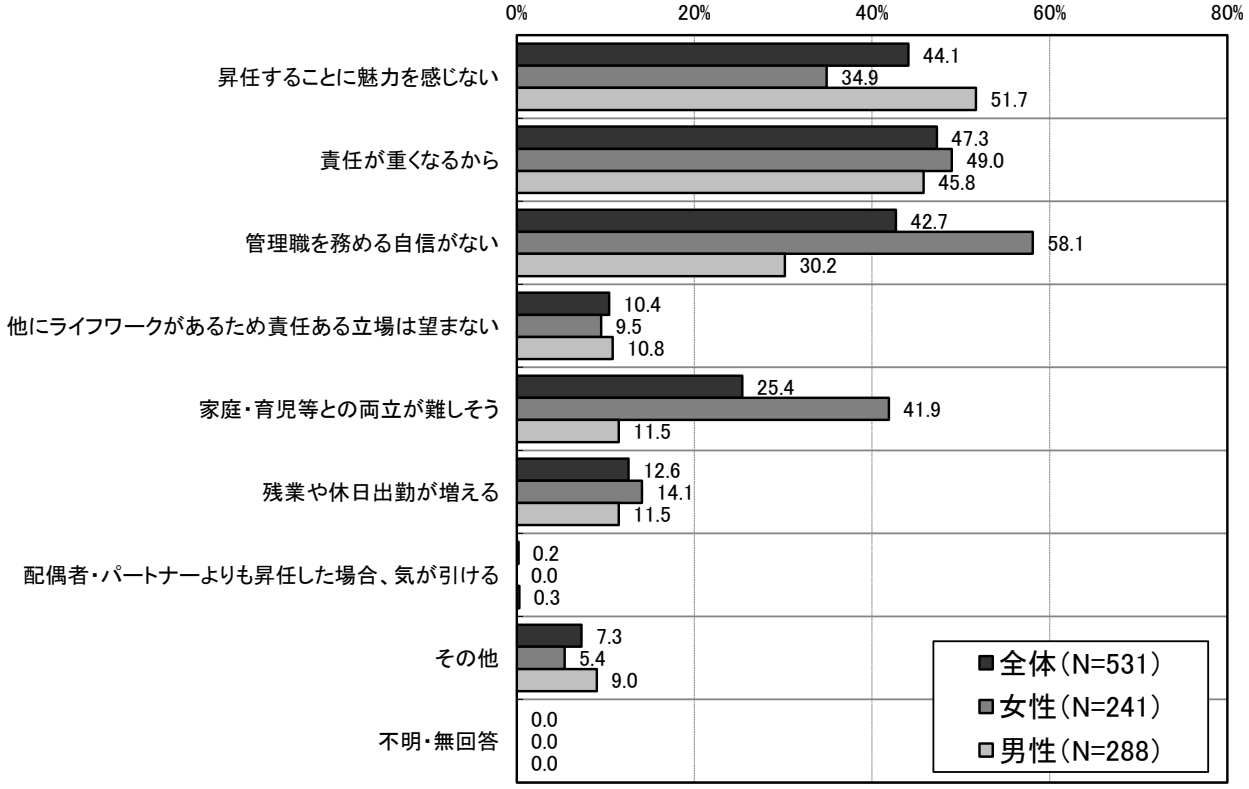


＜「望まない」「どちらでもよい」方への質問＞

③ 昇進・昇格を「望まない」または「どちらでもよい」と思う理由（複数回答）

昇進・昇格を「望まない」または「どちらでもよい」と思う理由についてみると、全体では「責任が重くなるから」が 47.3%と最も高く、次いで「昇任することに魅力を感じない」が 44.1%となっています。

性別でみると、女性で「家庭・育児等との両立が難しそう」「管理職を務める自信がない」が、男性と比べてそれぞれ 30.4 ポイント、27.9 ポイント高くなっています。男性では「昇任することに魅力を感じない」が 51.7%と、女性と比べて 16.8 ポイント高くなっています。

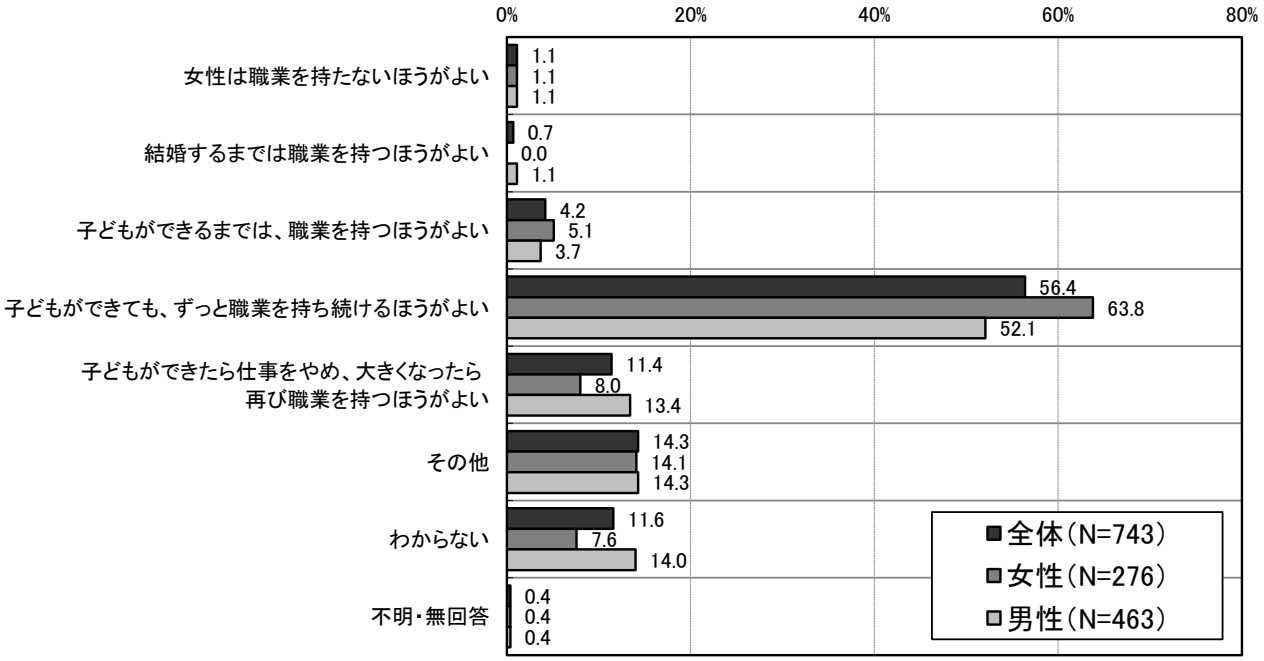


（3）女性が職業を持つことについての考え

① 女性が職業を持つことについて、どう思うか（単数回答）

女性が職業を持つことについてみると、「その他」「わからない」を除き、全体で「子どもができても、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 56.4％と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が 11.4％となっています。

性別でみると、「子どもができても、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が女性で 63.8％と、男性と比べて 11.7 ポイント高くなっています。

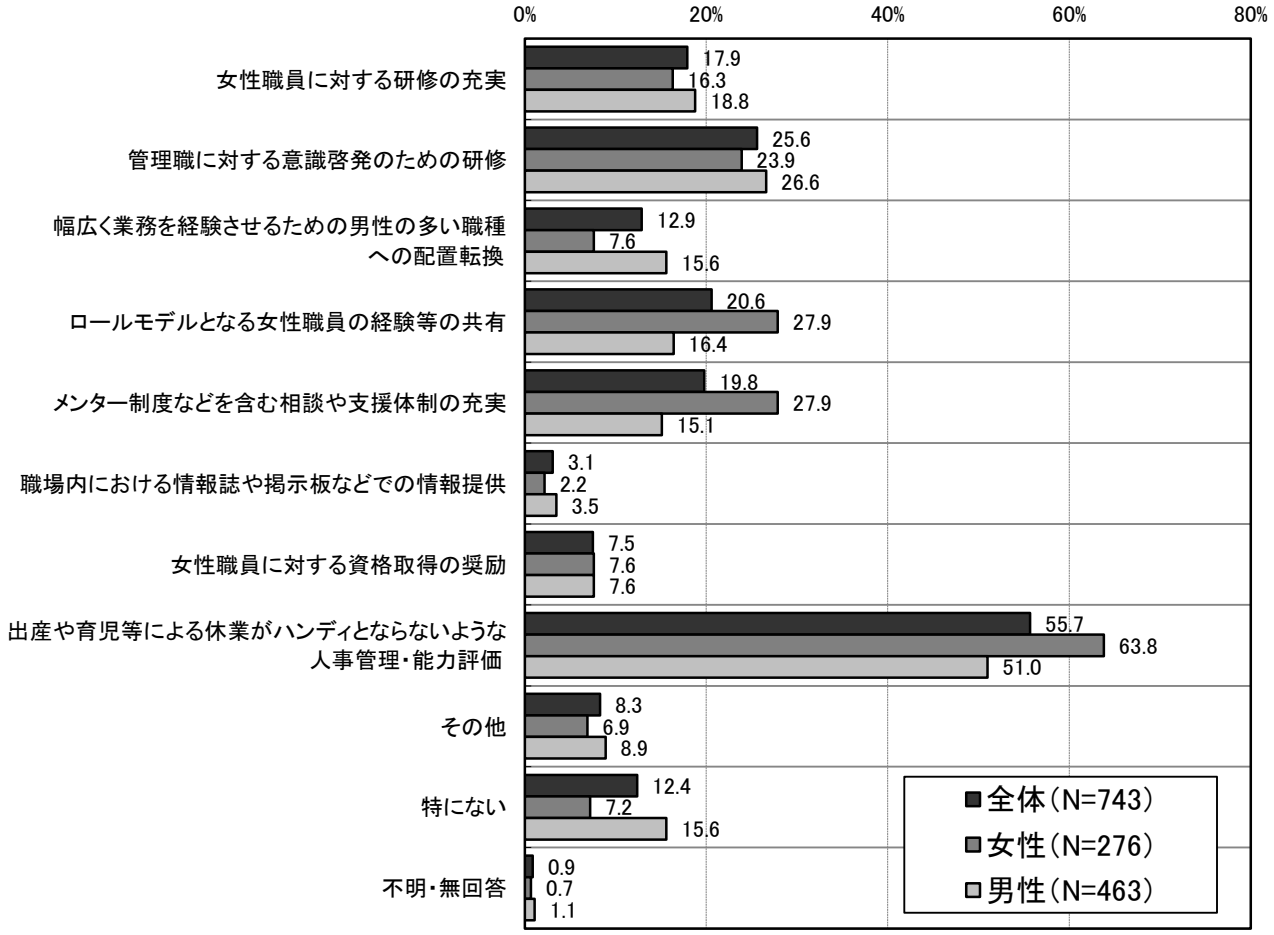


（4）職場における女性活躍促進についての考え

① 職場で、女性の活躍を促進するために必要だと思う取組（複数回答）

職場において、女性の活躍を促進するために必要だと思う取組についてみると、全体では「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が 55.7％と最も高く、次いで「管理職に対する意識啓発のための研修」が 25.6％となっています。

性別でみると、「メンター制度などを含む相談や支援体制の充実」「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事管理・能力評価」が女性で 27.9％、63.8％と、男性と比べてそれぞれ 12.8 ポイント高く、「ロールモデルとなる女性職員の経験等の共有」が 27.9％と、11.5 ポイント高くなっています。男性では「幅広く業務を経験させるための男性の多い職種への配置転換」が 15.6％と、女性と比べて 8.0 ポイント高くなっています。



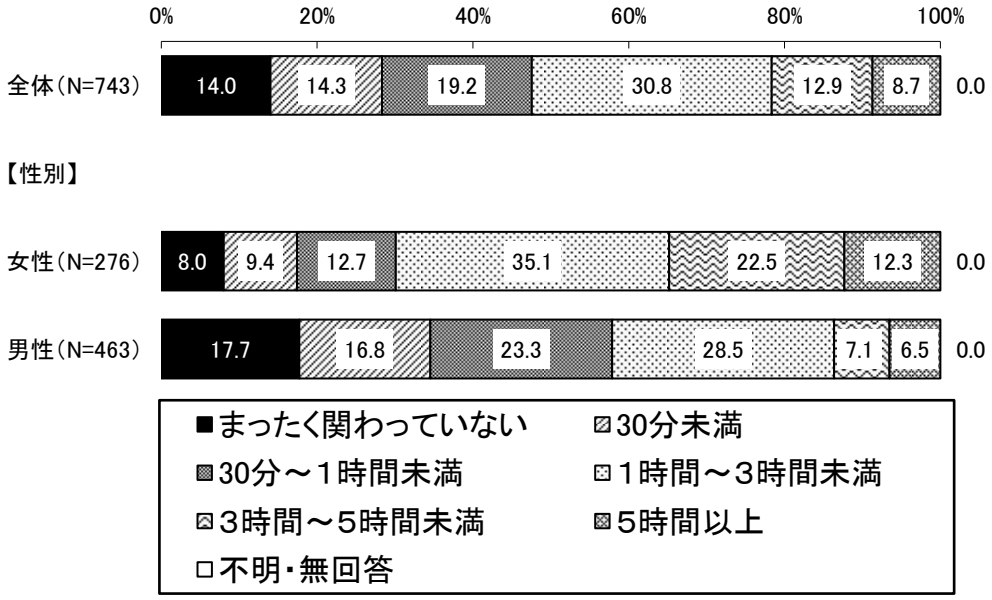
３　家庭生活について

（1）仕事と家庭生活との両立について

①　平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間（単数回答）

平日に家事・育児・介護などに携わる１日の平均的な時間についてみると、全体で「１時間～３時間未満」が 30.8％と最も高く、次いで「30 分～１時間未満」が 19.2％となっています。

性別でみると、「まったく関わっていない」が男性で 17.7％と、女性と比べて 9.7 ポイント高くなっています。女性では３時間以上（「３時間～５時間未満」と「５時間以上」を合わせたもの）が 34.8％と、男性と比べて 21.2 ポイント高くなっています。



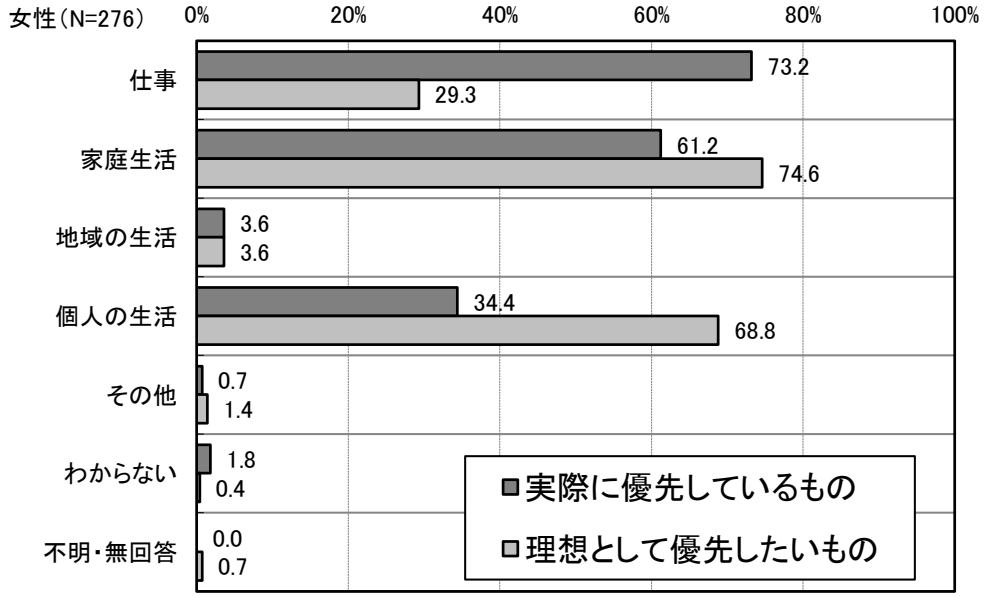
② 生活の中で「実際に優先しているもの」「理想として優先したいもの」（複数回答）

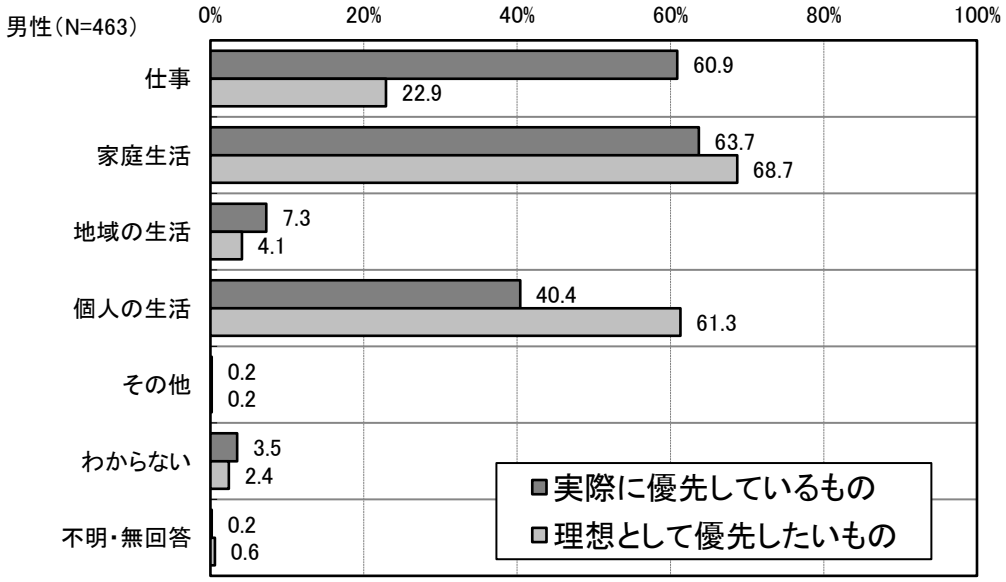
※用語の意味は、次のとおりとしています。

○「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤（フルタイム）、パート・アルバイト、嘱託などは問いません。
○「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護・看護など。
○「地域の生活」…地域・社会活動（自治会や町内会の活動、近所との交際・つきあい）など。
○「個人の生活」…趣味・娯楽、スポーツなどの余暇活動、学習・研究、自主的に行うボランティア活動などのライフワーク。

生活の中で、実際に優先しているものと、理想として優先したいものについてみると、女性では「仕事」が実際の優先で 73.2%、「家庭生活」が理想の優先で 74.6%と最も高くなっています。男性では「家庭生活」が実際の優先で 63.7%、理想の優先で 68.7%と最も高くなっています。

女性、男性ともに、実際の優先と理想の優先の差が大きいものは「仕事」「個人の生活」となっています。

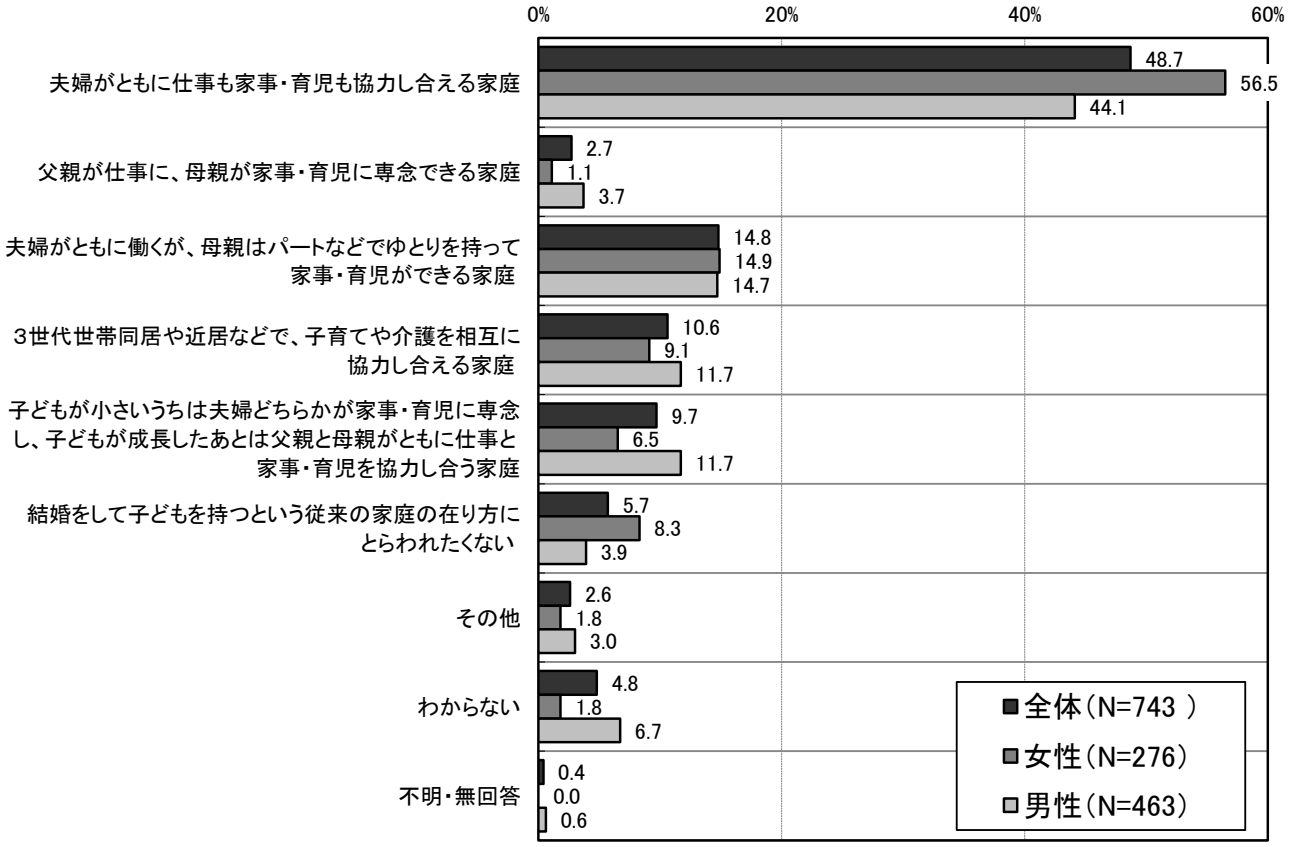




③ 理想とする家庭の姿（単数回答）

理想とする家庭の姿についてみると、全体では「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が 48.7%と最も高く、次いで「夫婦がともに働くが、母親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭」が 14.8%となっています。

性別でみると、「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が女性で 56.5%と、男性と比べて 12.4 ポイント高くなっています。



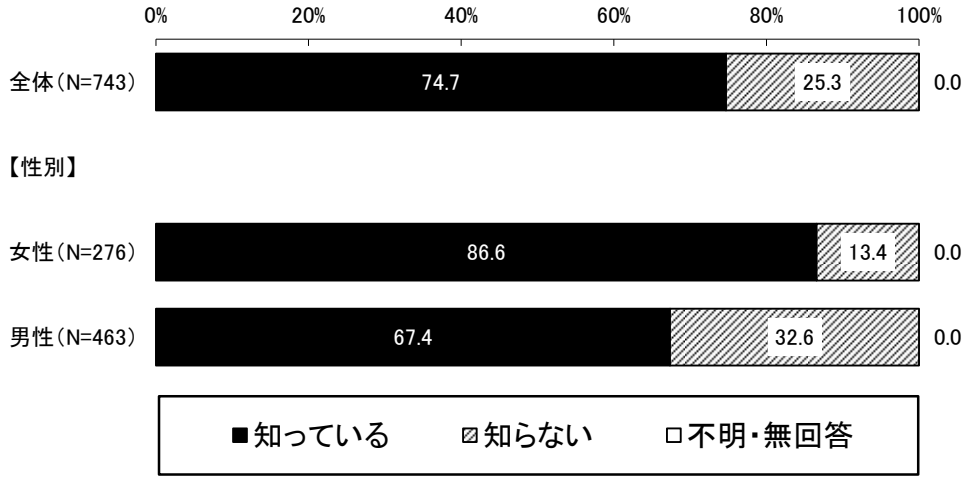
4　配偶者や恋人からの暴力について

（1）配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度

①　配偶者や恋人からの暴力について、相談できる窓口の認知度（単数回答）

配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談窓口の認知度についてみると、全体では「知っている」が74.7%、「知らない」が25.3%となっています。

性別でみると、「知っている」が女性で86.6%と、男性と比べて19.2ポイント高くなっています。

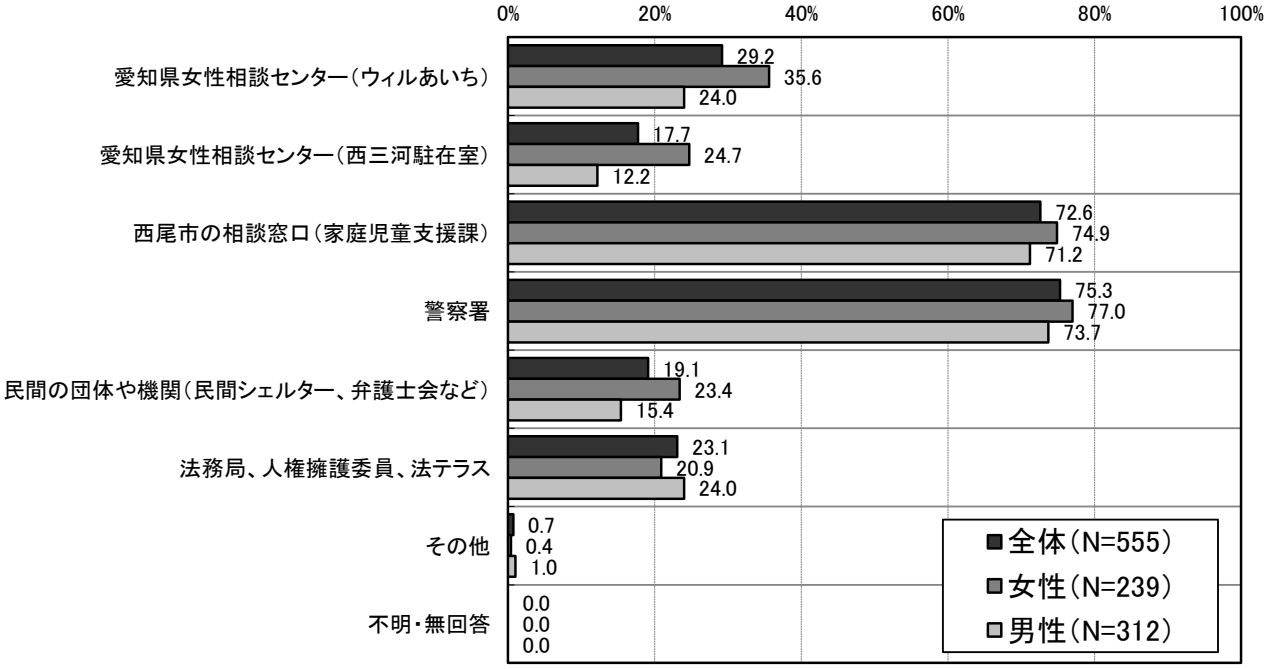


＜相談できる窓口を「知っている」方への質問＞

②　知っている相談窓口（複数回答）

配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談窓口として知っているものについてみると、全体では「警察署」が75.3%と最も高く、次いで「西尾市の相談窓口（家庭児童支援課）」が72.6%となっています。

性別でみると、「愛知県女性相談センター（ウィルあいち）」が女性で35.6%と、男性と比べて11.6ポイント高くなっています。

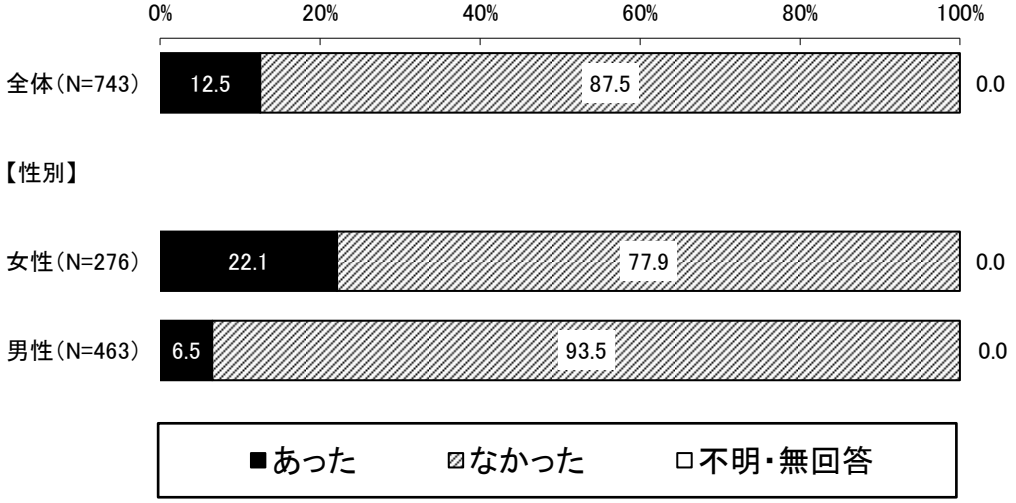


（2）職務上における相談経験の有無

① 配偶者や恋人からの暴力について、職務上で相談を受けた経験の有無（単数回答）

職務上において、配偶者や恋人からの暴力についての相談を受けた経験の有無についてみると、全体では「あった」が 12.5%、「なかった」が 87.5%となっています。

性別でみると、「あった」が女性で 22.1%と、男性と比べて 15.6 ポイント高くなっています。

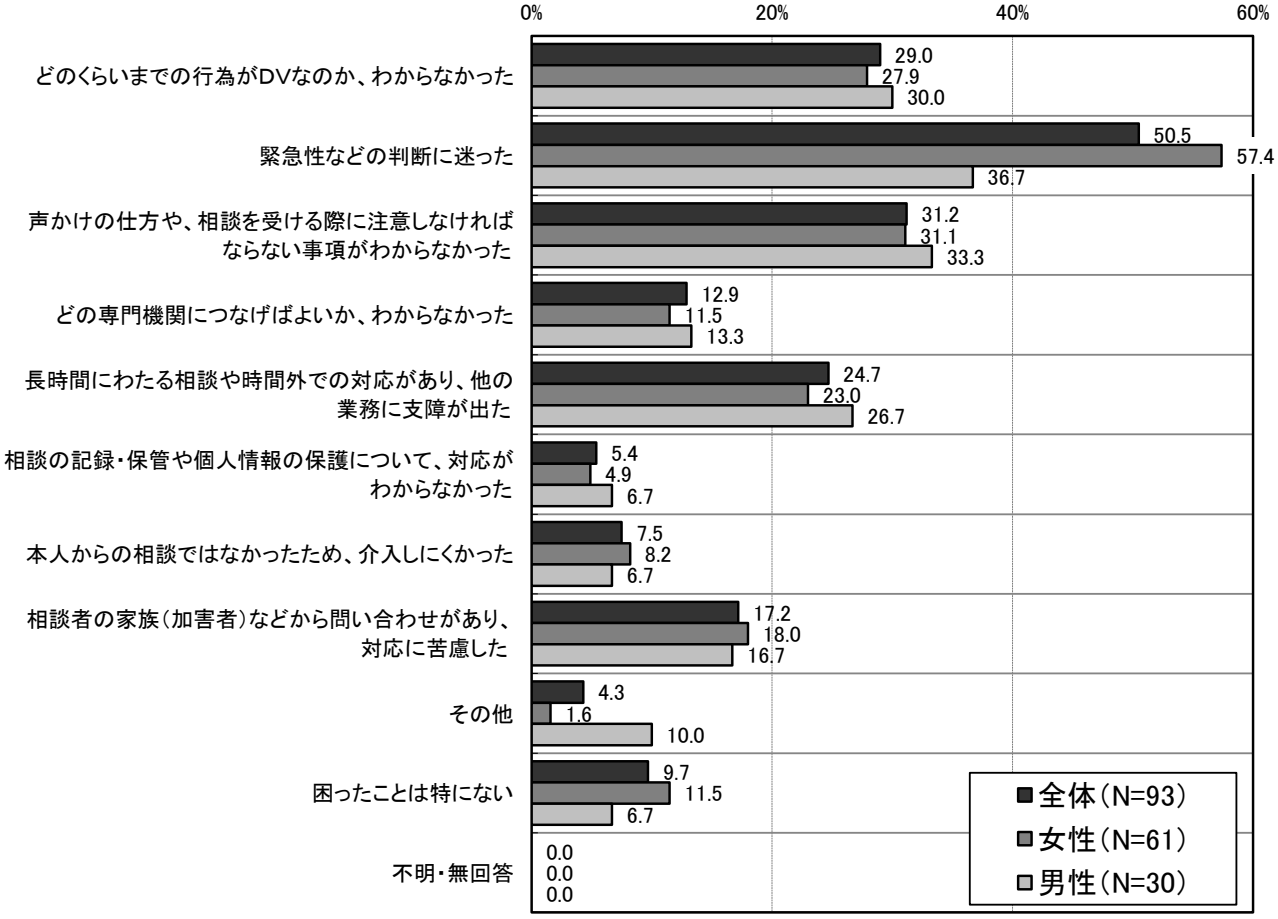


＜職務上、相談経験が「あった」方への質問＞

② 相談を受けた際に困ったこと（複数回答）

職務上、相談を受けた際に困ったことについてみると、全体では「緊急性などの判断に迷った」が50.5%と最も高く、次いで「声かけの仕方や、相談を受ける際に注意しなければならない事項がわからなかった」が31.2%となっています。

性別でみると、「緊急性などの判断に迷った」が女性で57.4%と、男性と比べて20.7ポイント高くなっています。男性では「長時間にわたる相談や時間外での対応があり、他の業務に支障が出た」が、女性と比べてやや高くなっています。



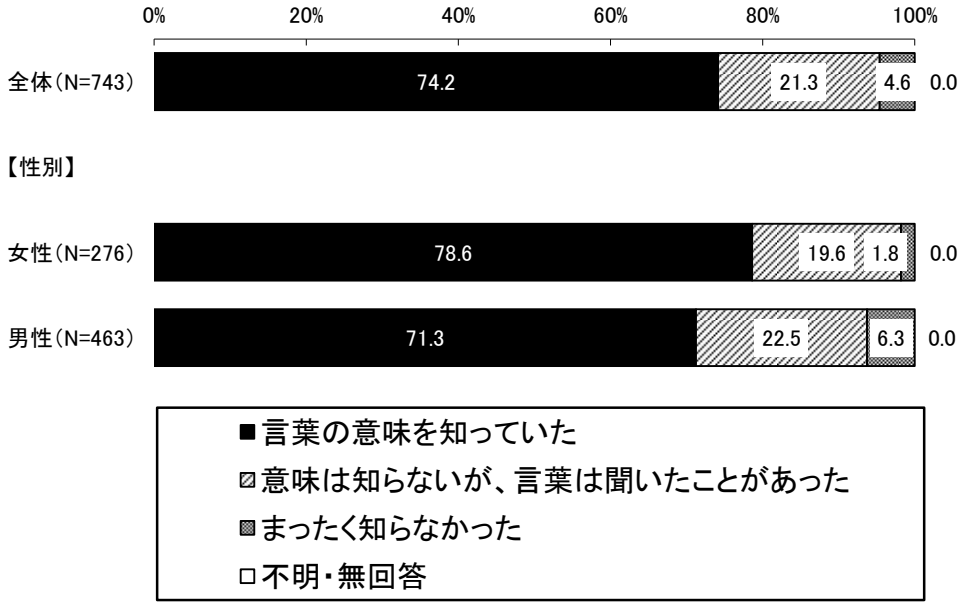
５　男女共同参画全般について

（1）男女共同参画の認知度

①　男女共同参画という言葉の認知度（単数回答）

男女共同参画という言葉の認知度についてみると、全体では「言葉の意味を知っていた」が 74.2%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 21.3%、「まったく知らなかった」が 4.6%となっています。

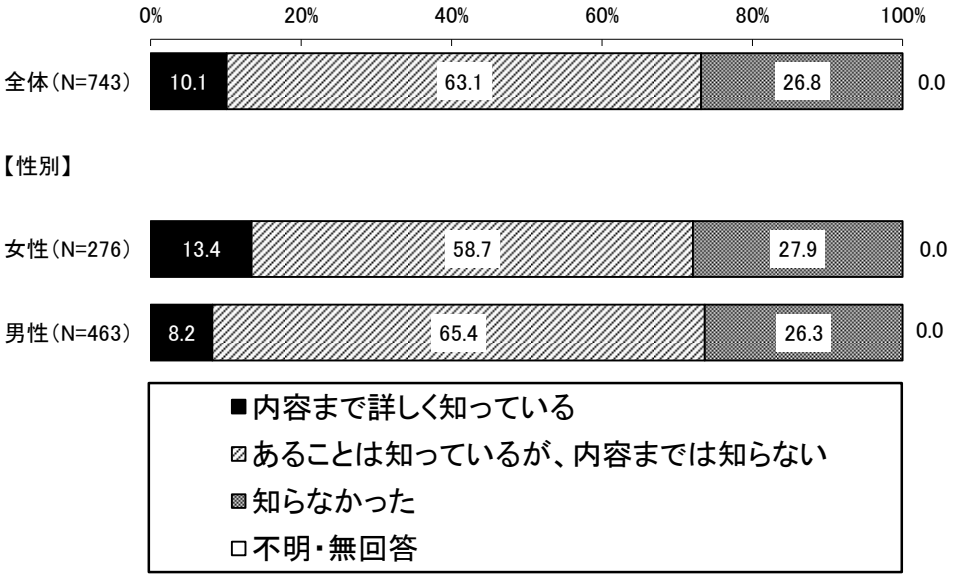
性別でみると、「言葉の意味を知っていた」が女性で 78.6%と、男性と比べて 7.3 ポイント高くなっています。



②「第2次西尾市男女共同参画プラン」の認知度（単数回答）

「第２次西尾市男女共同参画プラン」の認知度についてみると、全体では「内容まで詳しく知っている」が 10.1%、「あることは知っているが、内容までは知らない」が 63.1%、「知らなかった」が 26.8%となっています。

性別でみると、「内容まで詳しく知っている」が女性で 13.4%と、男性と比べて 5.2 ポイント高くなっています。男性では「あることは知っているが、内容まで知らない」が 65.4%と、女性と比べて 6.7 ポイント高くなっています。



（2）男女共同参画の推進状況

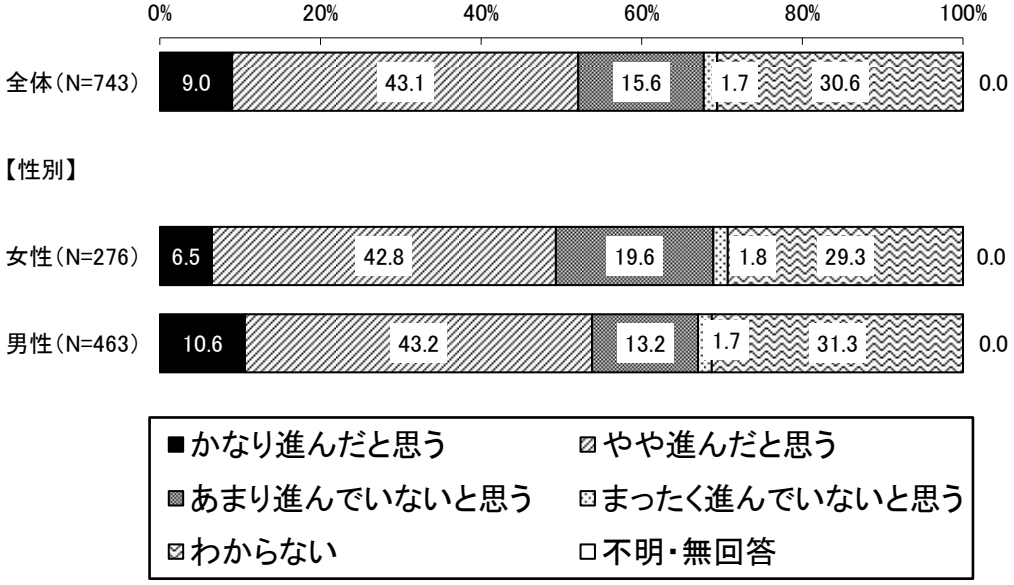
※選択肢の表現は、以下のように区分しています。

○『進んだ』…「かなり進んだと思う」と「やや進んだと思う」を合わせたもの
○『進んでいない』…「あまり進んでいないと思う」と「まったく進んでいないと思う」を合わせたもの

① この5年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思うか（単数回答）

この５年間で男女共同参画は進んだと思うかについてみると、全体では『進んだ』が 52.1%、『進んでいない』が 17.3%、「わからない」が 30.6%となっています。

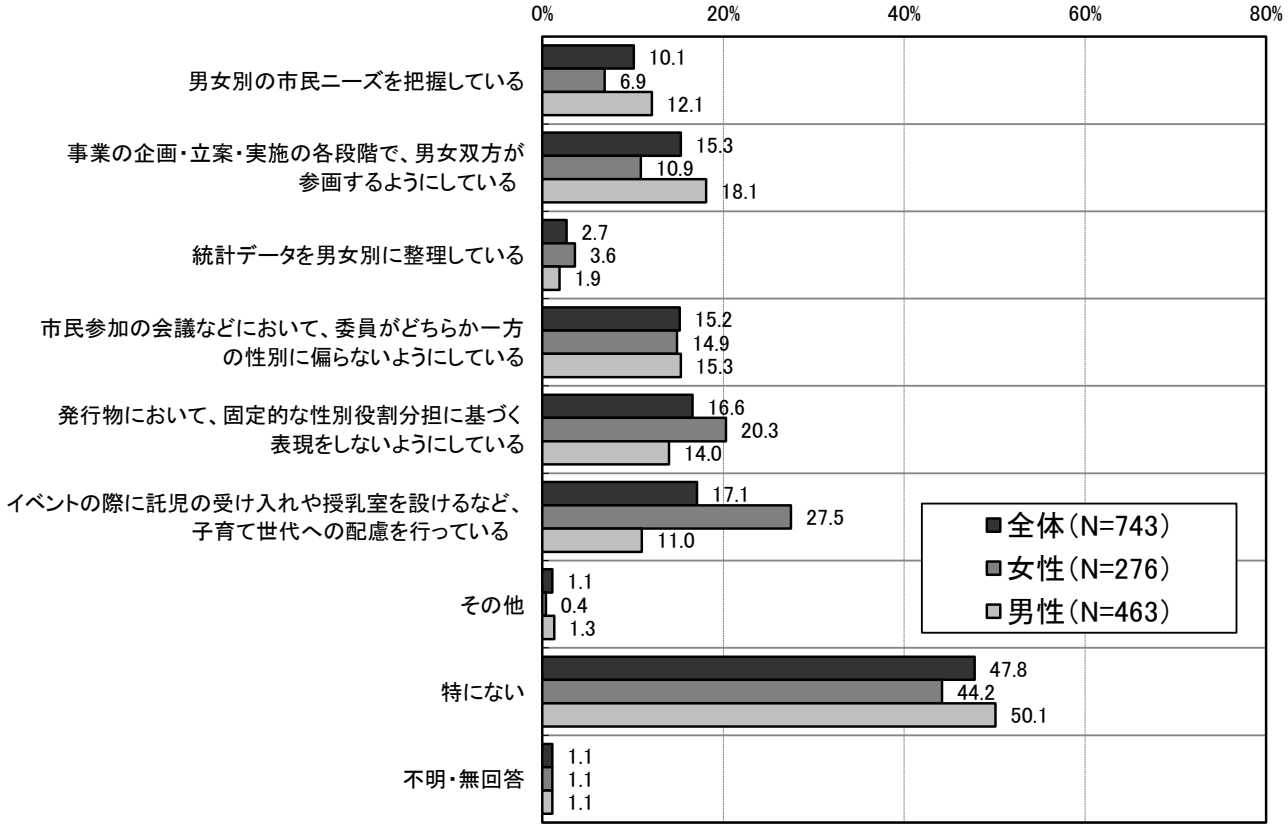
性別でみると、『進んだ』は女性で 49.3%、男性で 53.8%、『進んでいない』は女性で 21.4%、男性で 14.9%となっています。



② 業務の中で、男女共同参画の視点から気をつけていること（複数回答）

業務の中で、男女共同参画の視点から気をつけていることについてみると、全体では「特にない」を除くと、「イベントの際に託児の受け入れや授乳室を設けるなど、子育て世代への配慮を行っている」が 17.1％と最も高く、次いで「発行物において、固定的な性別役割分担に基づく表現をしないようにしている」が 16.6％となっています。

性別でみると、「イベントの際に託児の受け入れや授乳室を設けるなど、子育て世代への配慮を行っている」が女性で 27.5％と、男性と比べて 16.5 ポイント高くなっています。

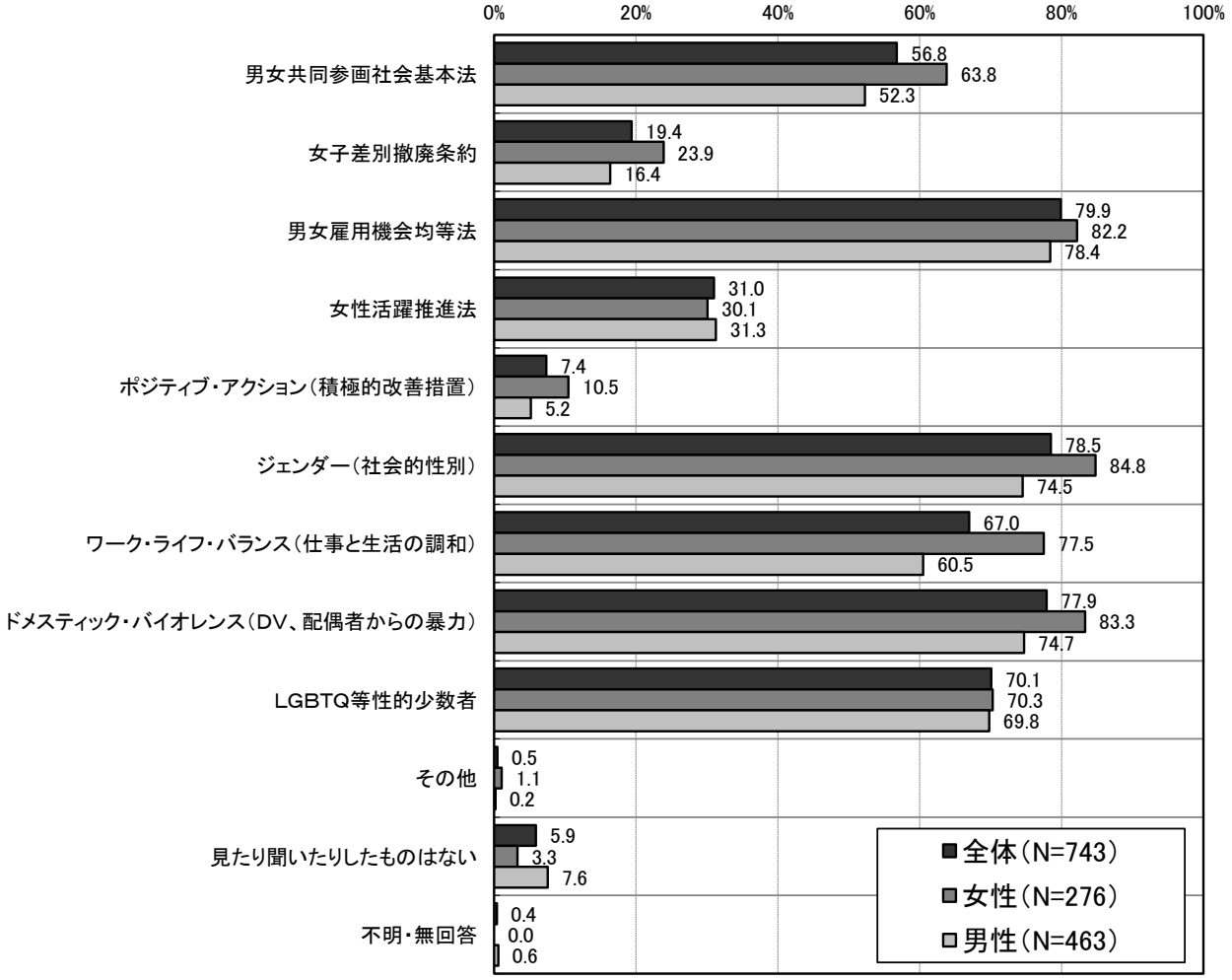


（3）用語の認知度

① 男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの（複数回答）

男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものについてみると、全体では「男女雇用均等法」が 79.9％と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」が 78.5％となっています。

性別でみると、ほとんどの項目で男性と比べて女性で認知度が高くなってます。男性では「女性活躍推進法」「見たり聞いたりしたものはない」が女性と比べてやや高くなっています。

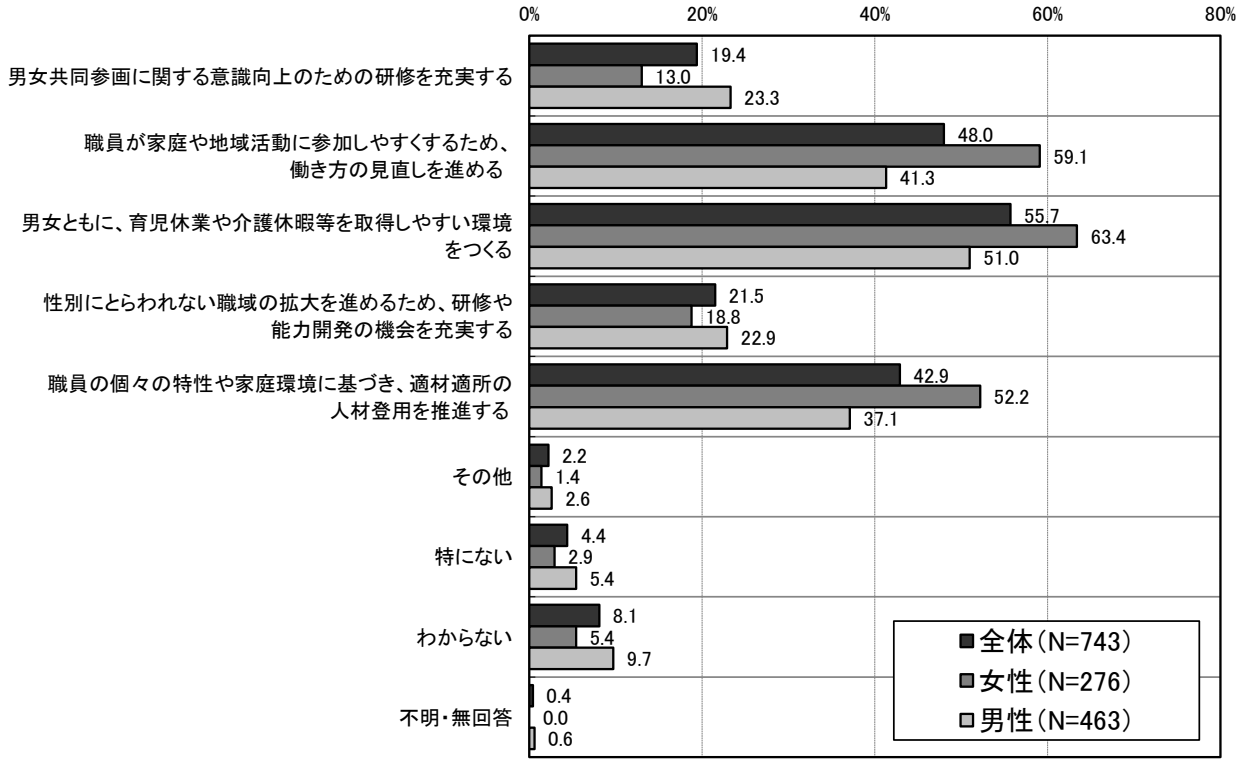


（4）男女共同参画社会実現のために必要な職場での取組

① 男女共同参画社会を実現するために、職場において注力すべきだと思うこと（複数回答）

男女共同参画社会を実現するために、職場において注力すべきことについてみると、全体では「男女ともに、育児休業や介護休暇等を取得しやすい環境をつくる」が 55.7％と最も高く、次いで「職員が家庭や地域活動に参加しやすくするため、働き方の見直しを進める」が 48.0％となっています。

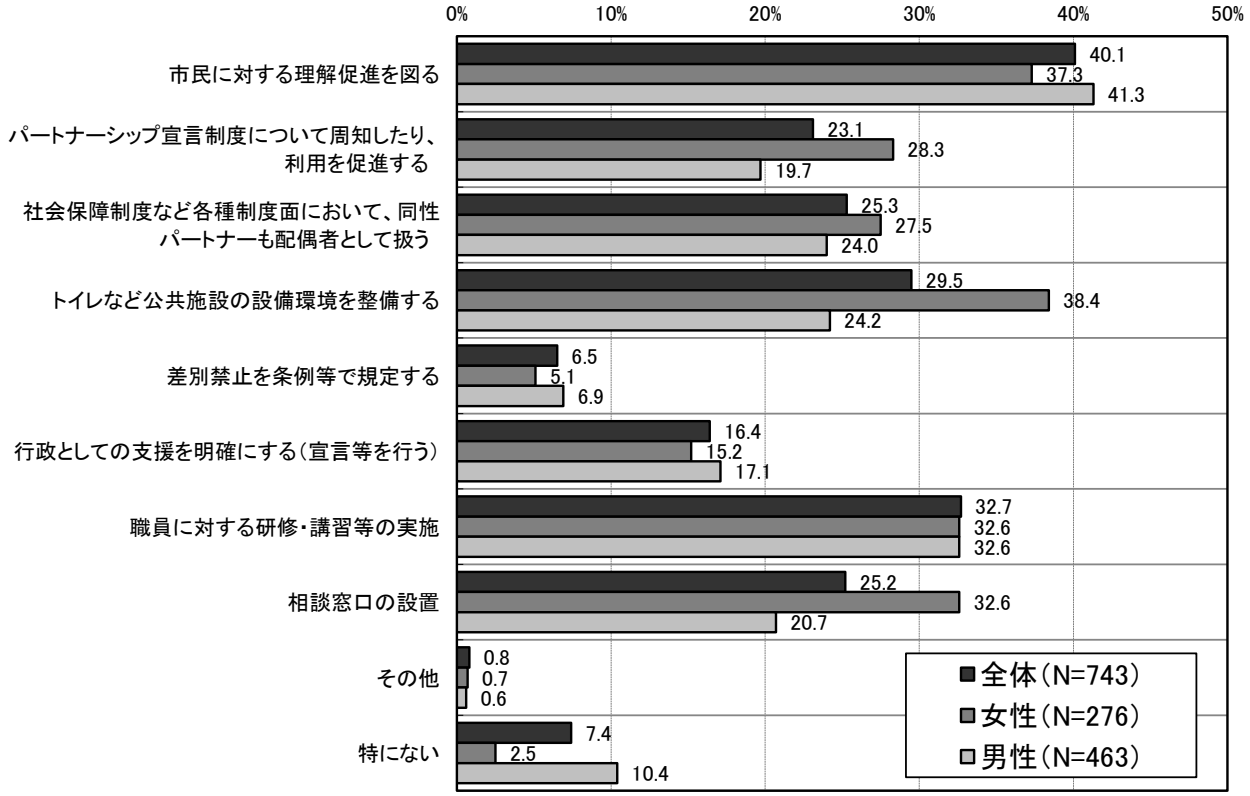
性別でみると、「職員が家庭や地域活動に参加しやすくするため、働き方の見直しを進める」が女性で 59.1％と、男性と比べて 17.8 ポイント高くなっています。



② 行政として、LGBT等性的少数者への対応をどう行っていくべきだと思うか（複数回答）

行政として、ＬＧＢＴ等性的少数者への対応をどう行っていくべきだと思うかについてみると、全体では「職員に対する研修・講習等の実施」が 40.1％と最も高く、次いで「職員に対する研修・講習等の実施」が 32.7％となっています。

性別でみると、「トイレなど公共施設の設備環境を整備する」「相談窓口の設置」が女性で 38.4％、32.6％と、男性と比べてそれぞれ 14.2 ポイント、11.9 ポイント高くなっています。



Ⅶ　年齢別比較（参考）

1　男女の地位に関する意識について

（1）男女の地位の平等感

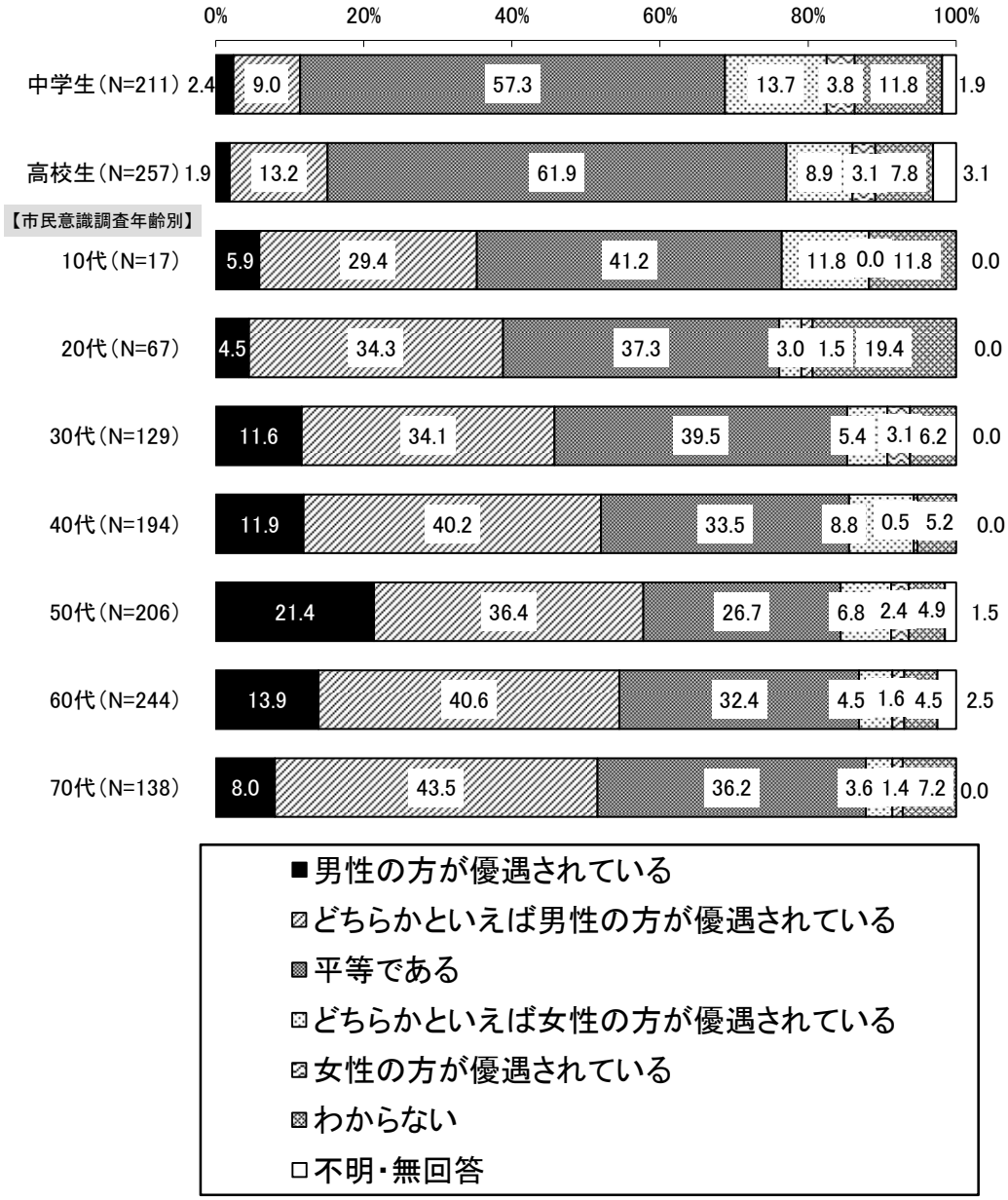
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
○『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

A　家庭生活（単数回答）

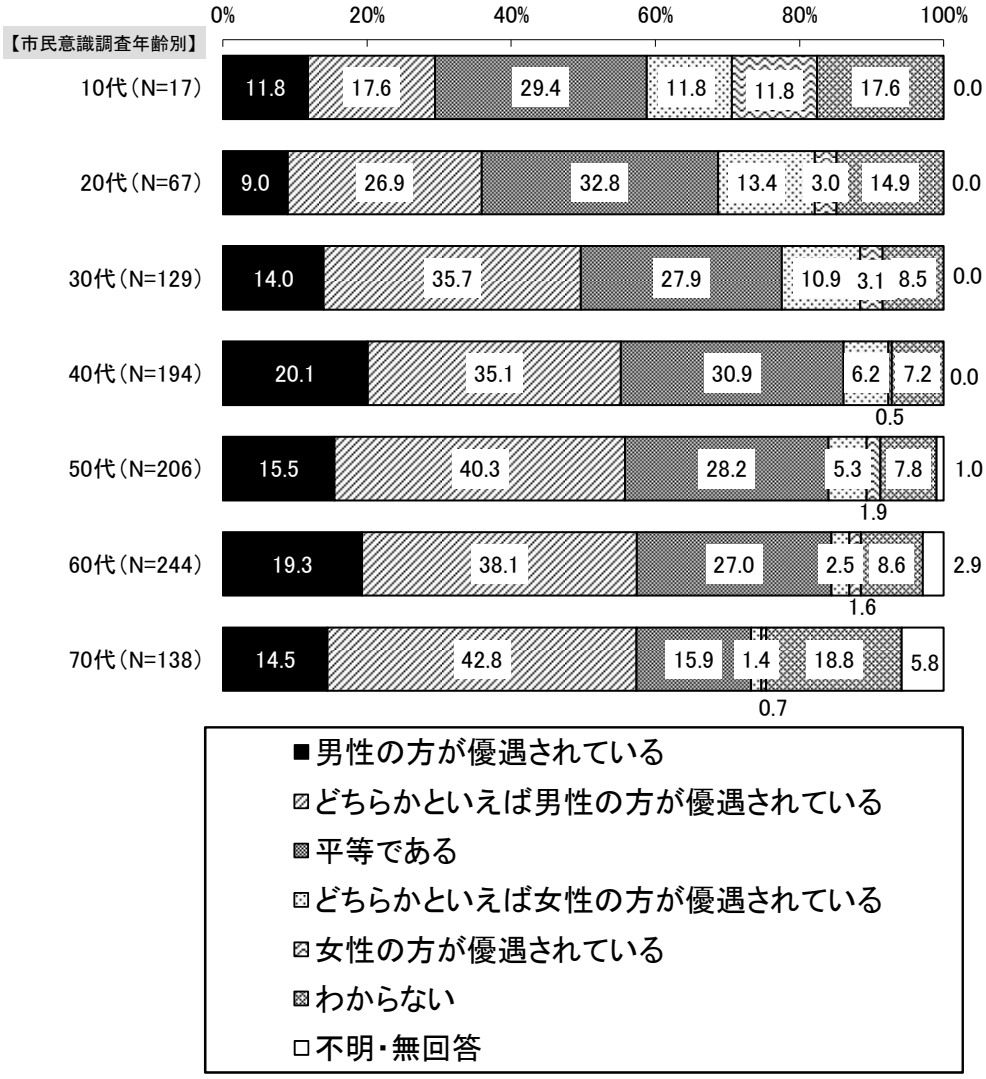
家庭生活における平等感についてみると、「平等である」が中学生で 57.3%、高校生で 61.9%となっています。

市民意識調査年齢別でみると、『男性優遇』が 40 代以上で 50%を超えて高くなっています。



B 職場（単数回答）

職場における平等感についてみると、10 代から 60 代まで年齢が上がるにつれ、『男性優遇』が高くなる傾向にあります。

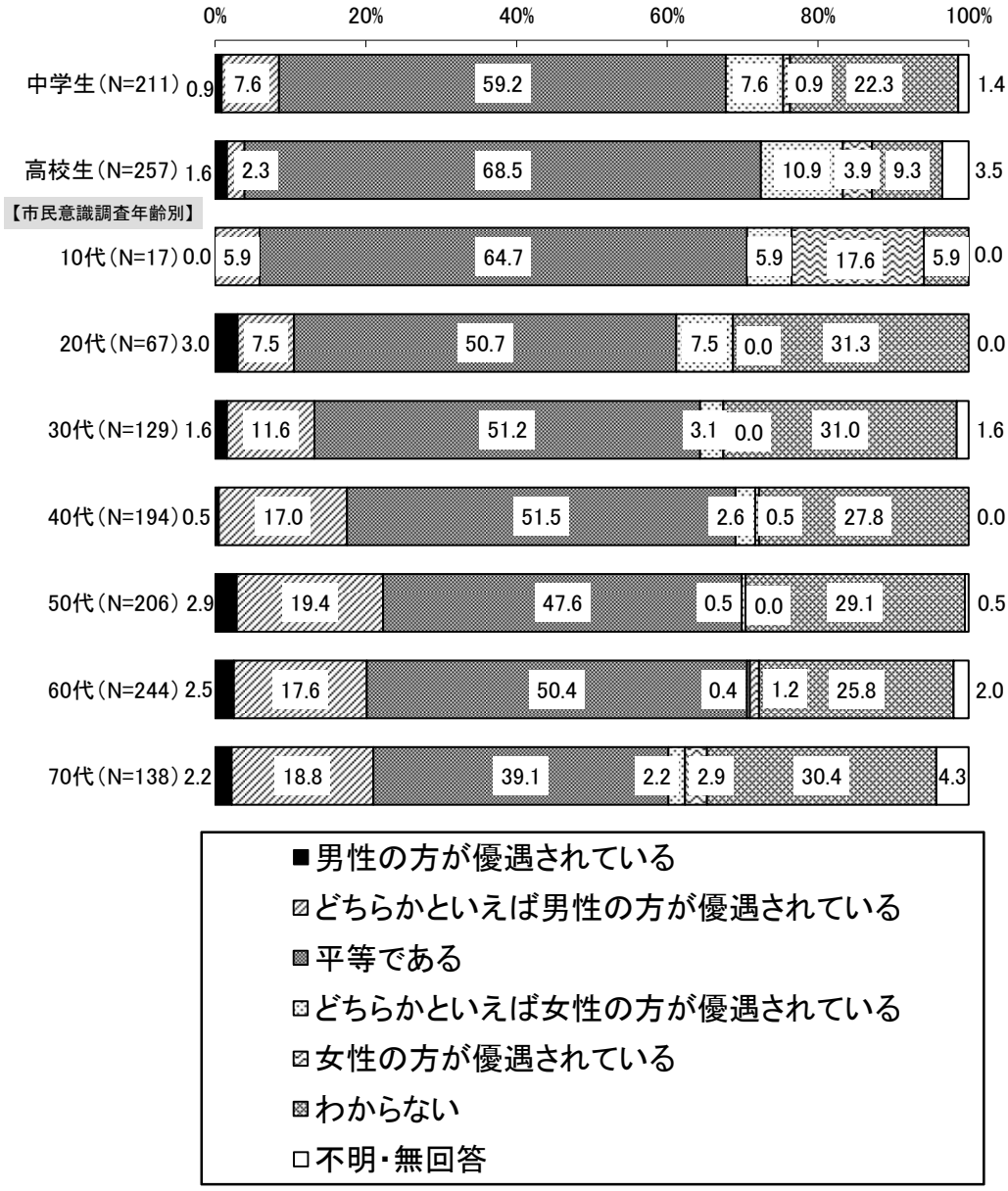


※市民意識調査のみの設問（若年者調査では設定していない質問）

C 学校教育の場（単数回答）

学校教育の場における平等感についてみると、「平等である」が中学生で 59.2%、高校生で 68.5%と最も高くなっています。

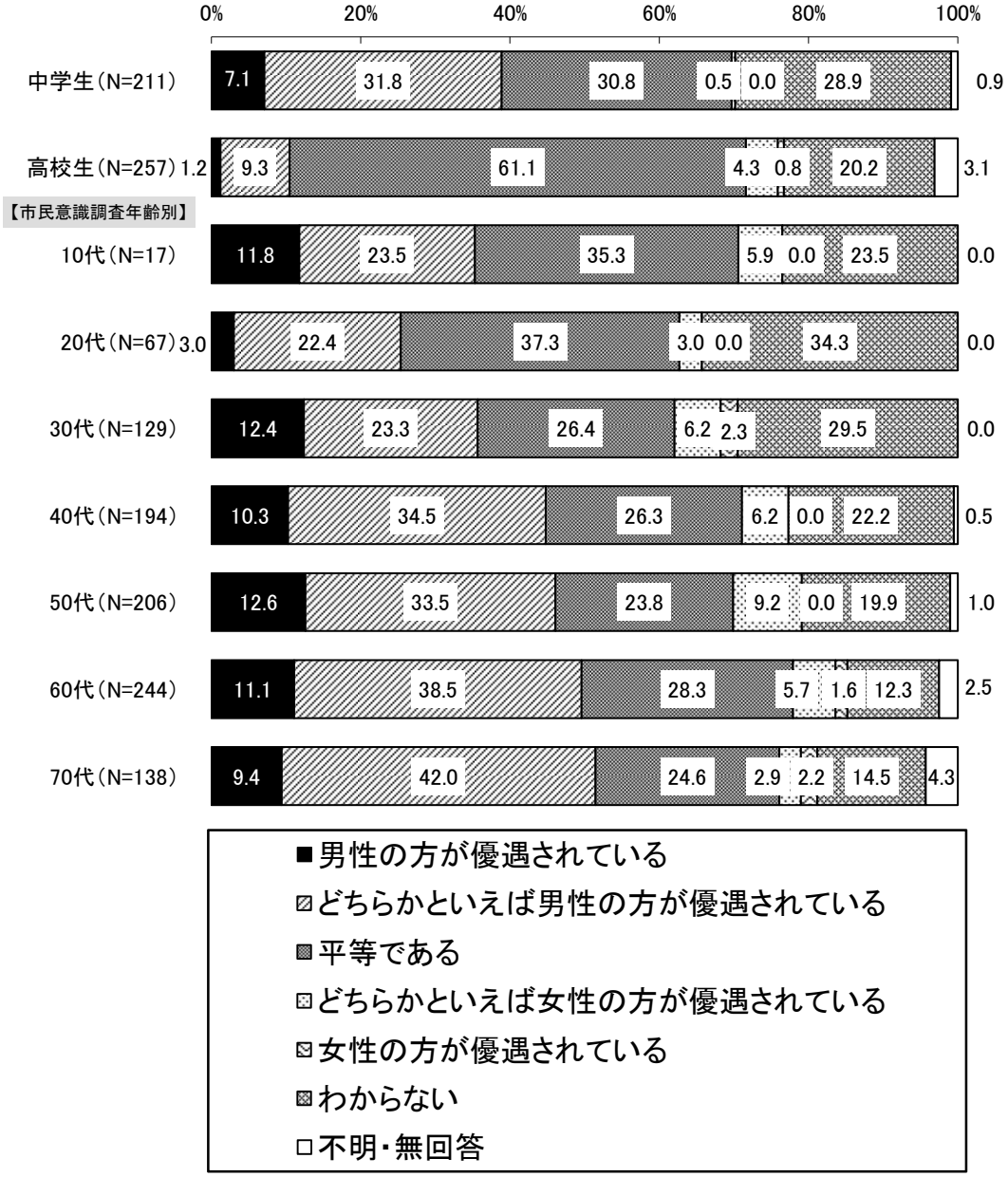
市民意識調査年齢別でみると、40 代以上で『男性優遇』がおよそ 20%と高くなっています。



D　地域活動の場（単数回答）

地域活動の場における平等感についてみると、「平等である」が高校生で 61.1％と最も高くなっています。中学生では『男性優遇』が 38.9％と最も高くなっています。

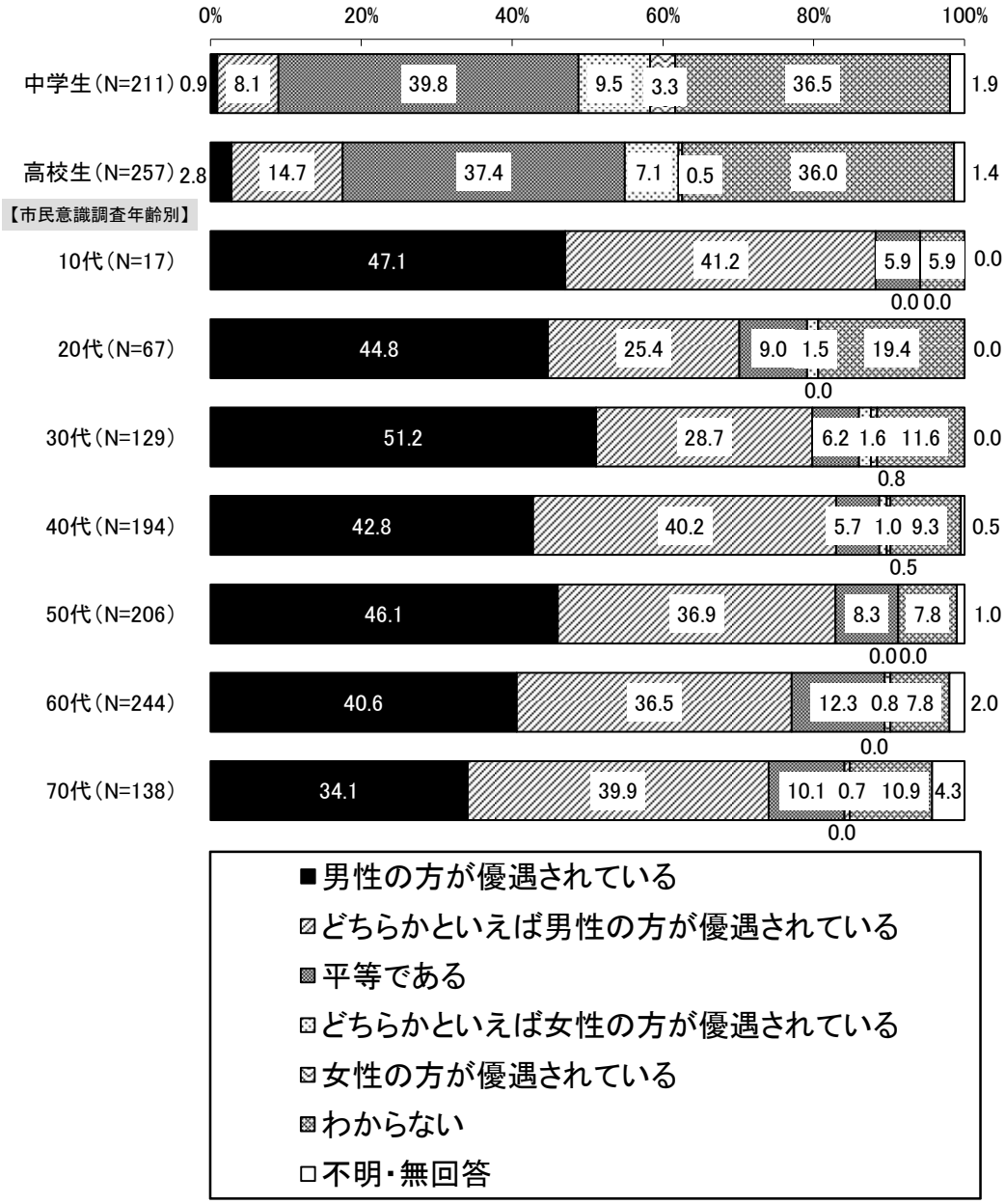
市民意識調査の年齢別でみると、20 代から年齢が上がるにつれ、『男性優遇』が高くなる傾向にあります。



E 政治の場（単数回答）

政治の場における平等感についてみると、「平等である」が中学生で 39.8%、高校生で 37.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

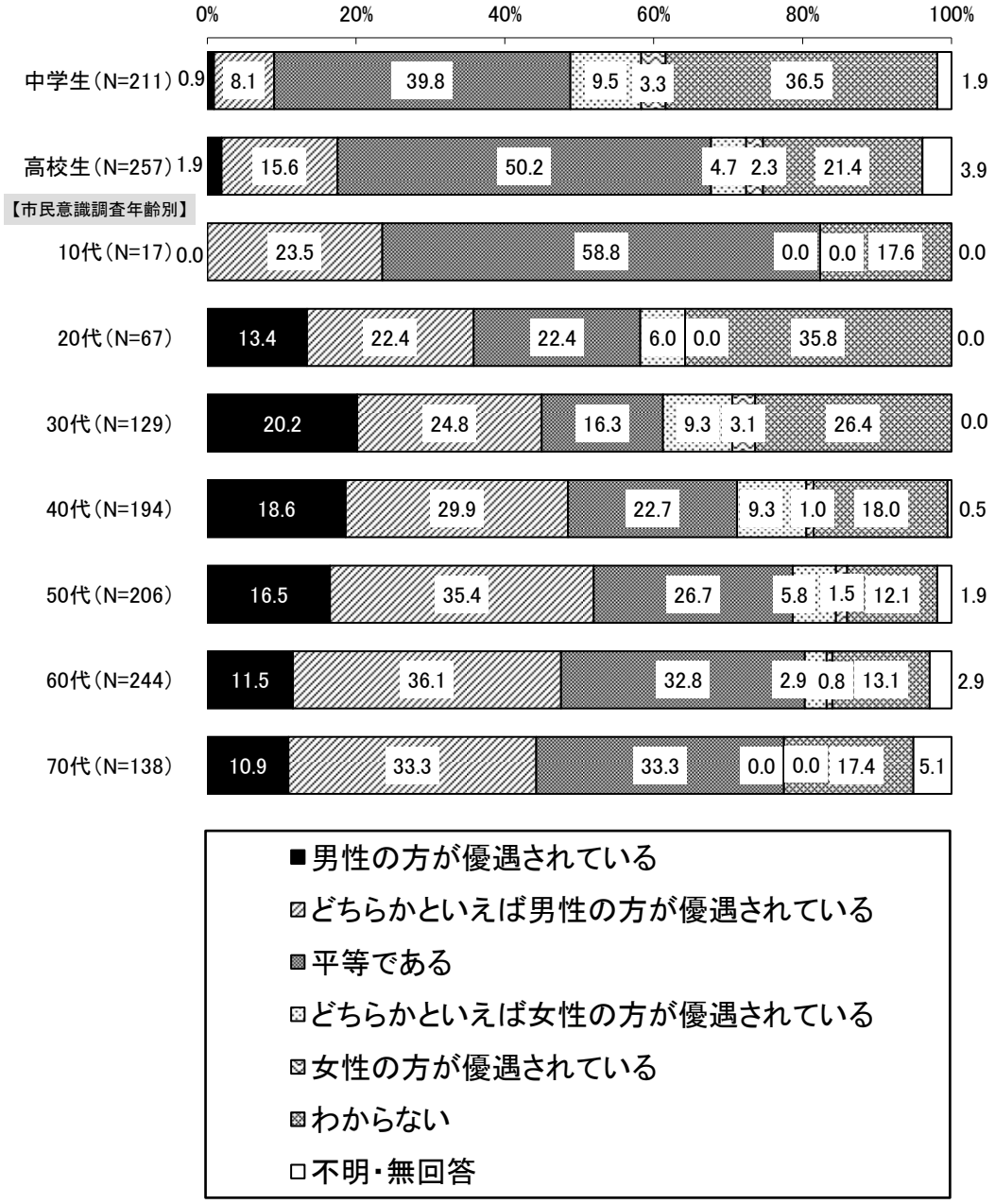
市民意識調査の年齢別でみると、いずれの年代も『男性優遇』が 70%を超えて高くなっています。



F　法律や制度の上（単数回答）

法律や制度の上における平等感についてみると、「平等である」が中学生で 39.8%、高校生で 50.2%となっています。

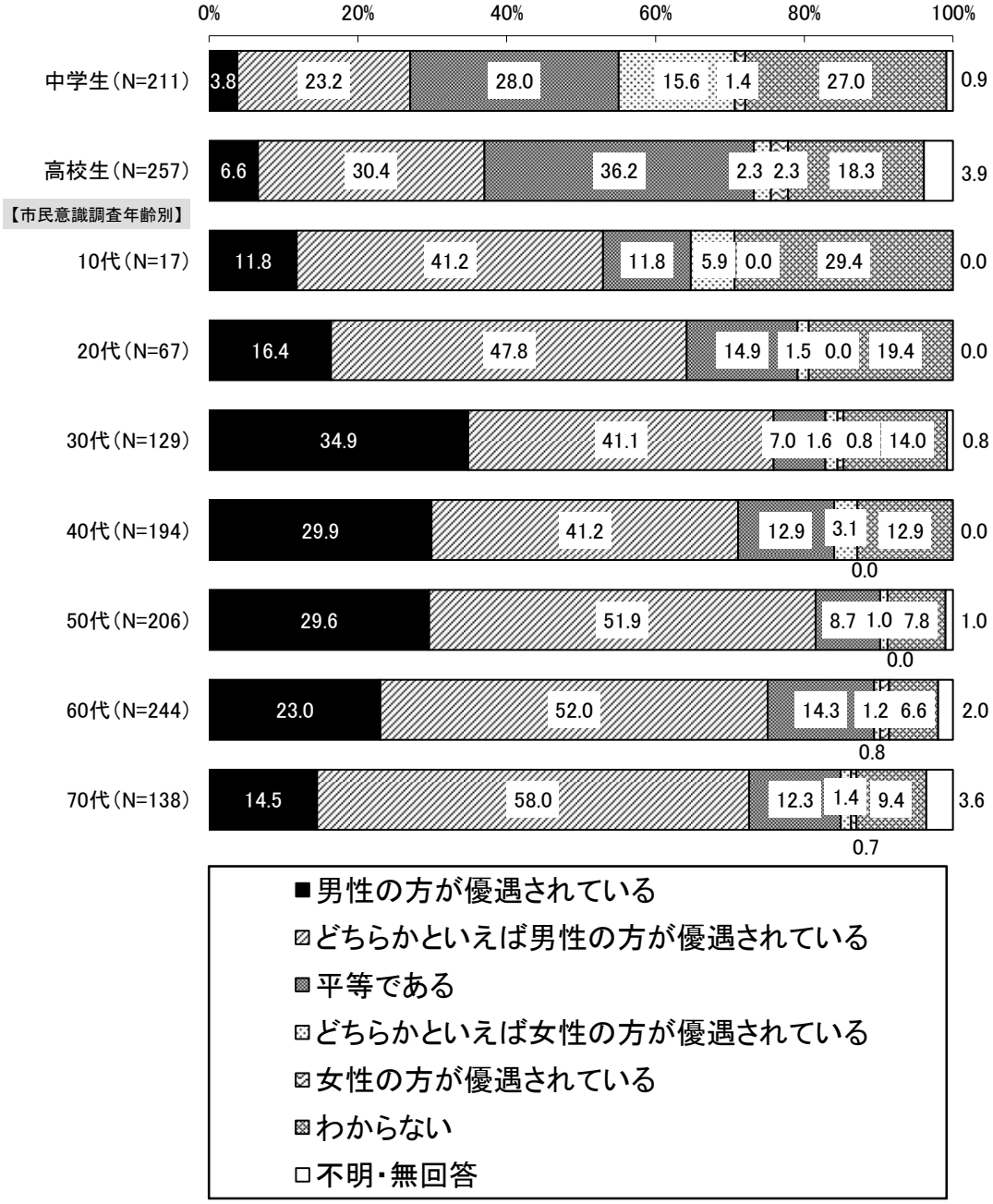
市民意識調査の年齢別でみると、30 代以上で『男性優遇』が 40%を超えて高くなっています。50 代では『男性優遇』が 51.9%と最も高くなっています。



G 社会通念・慣習・しきたりなど（単数回答）

社会通念・慣習・しきたりなどにおける平等感についてみると、「平等である」が中学生で 28.0%、高校生で 36.2%となっています。

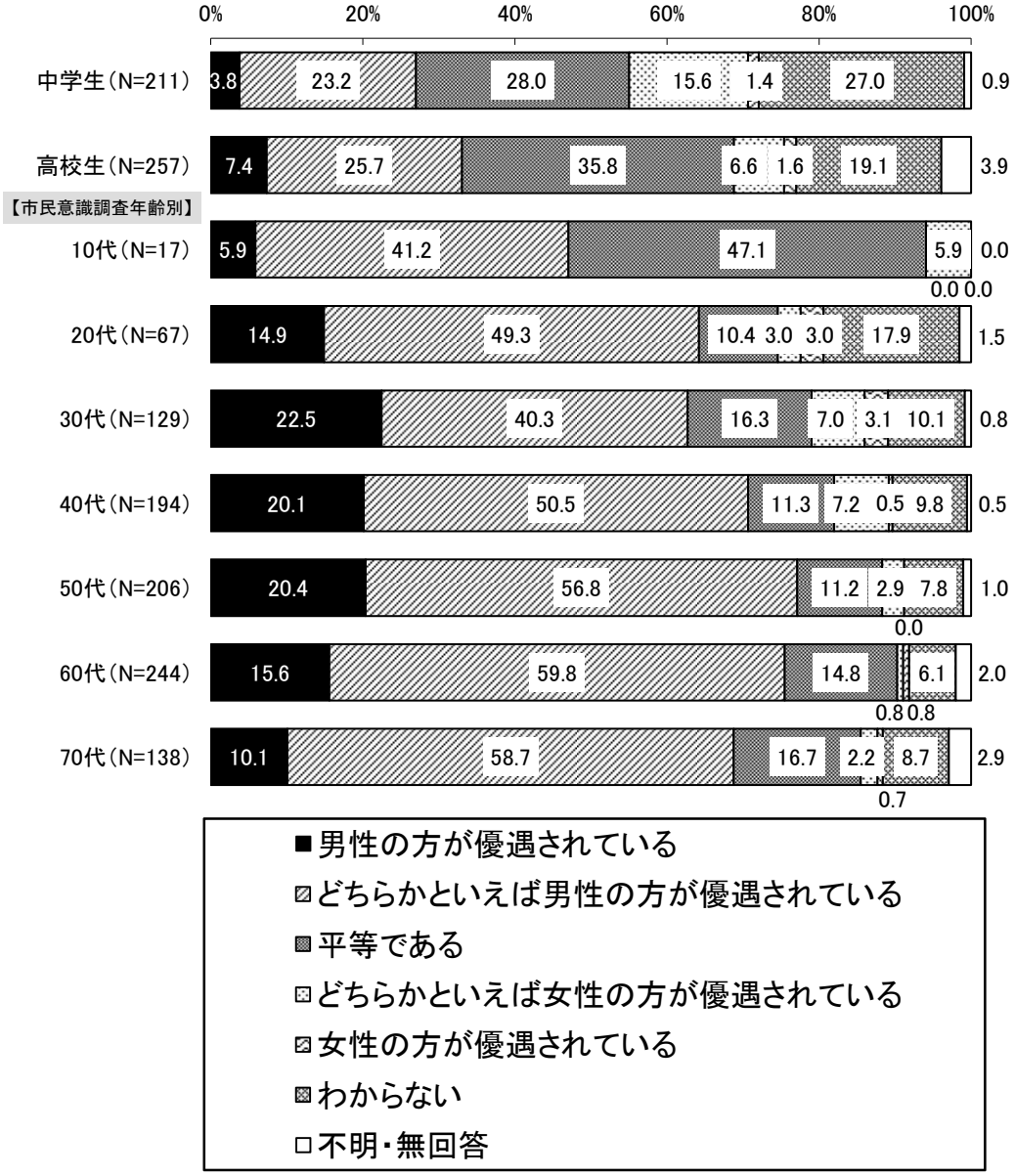
市民意識調査の年齢別でみると、20 代以上で『男性優遇』が 60%を超えて高くなっています。



Ｈ　社会全体として（単数回答）

社会全体としての平等感についてみると、「平等である」が中学生で 28.0%、高校生で 35.8%となっています。

市民意識調査の年齢別でみると、20 代以上で『男性優遇』が 60%を超えて高くなっています。



２　職業・職場環境について

（1）仕事に対する考え方について

①　管理職以上に昇進することへのイメージ（複数回答）

昇進することについてのイメージについてみると、「責任が重くなる」が中学生で 76.8%、高校生で「給料が上がる」が 72.8%と最も高くなっています。

市民意識調査の年齢別でみると、すべての年代で「責任が重くなる」が最も高くなっています。20 代から 40 代では「仕事と家庭生活の両立が困難になる」が 30%を超えています。

■クロス集計集　（単位：%）

区分		やりがいのある仕事ができる	給料が上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	ねたみや嫉妬で足を引っ張られる	仕事と家庭生活の両立が困難になる	その他	特にない	わからない	不明・無回答
中学生（N=211）		34.6	67.8	54.0	20.9	26.5	48.3	76.8	7.6	18.0	0.0	0.5	3.3	0.5
高校生（N=257）		23.3	72.8	47.9	15.2	21.0	40.5	71.6	8.6	15.2	0.0	0.0	1.6	1.2
市民意識調査年齢別	10 代（N=17）	5.9	64.7	35.3	5.9	11.8	41.2	70.6	11.8	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
	20 代（N=67）	17.9	58.2	32.8	3.0	16.4	50.7	74.6	4.5	37.3	3.0	0.0	3.0	1.5
	30 代（N=129）	18.6	58.9	31.8	5.4	18.6	64.3	79.8	15.5	37.2	0.8	0.8	0.8	1.6
	40 代（N=194）	17.5	49.5	40.7	8.8	17.5	49.0	75.8	8.2	35.1	1.0	0.0	0.0	2.1
	50 代（N=206）	24.8	51.5	39.3	8.3	26.2	39.3	79.6	9.2	25.7	1.0	1.0	1.5	1.9
	60 代（N=244）	17.6	47.1	37.3	8.2	21.7	35.2	75.0	10.2	28.3	0.8	4.5	3.3	1.6
	70 代（N=133）	26.1	37.7	34.8	11.6	19.6	28.3	65.2	10.9	25.4	0.0	4.3	8.7	2.2

３　家庭生活について

（1）結婚、離婚などに関する考え方について

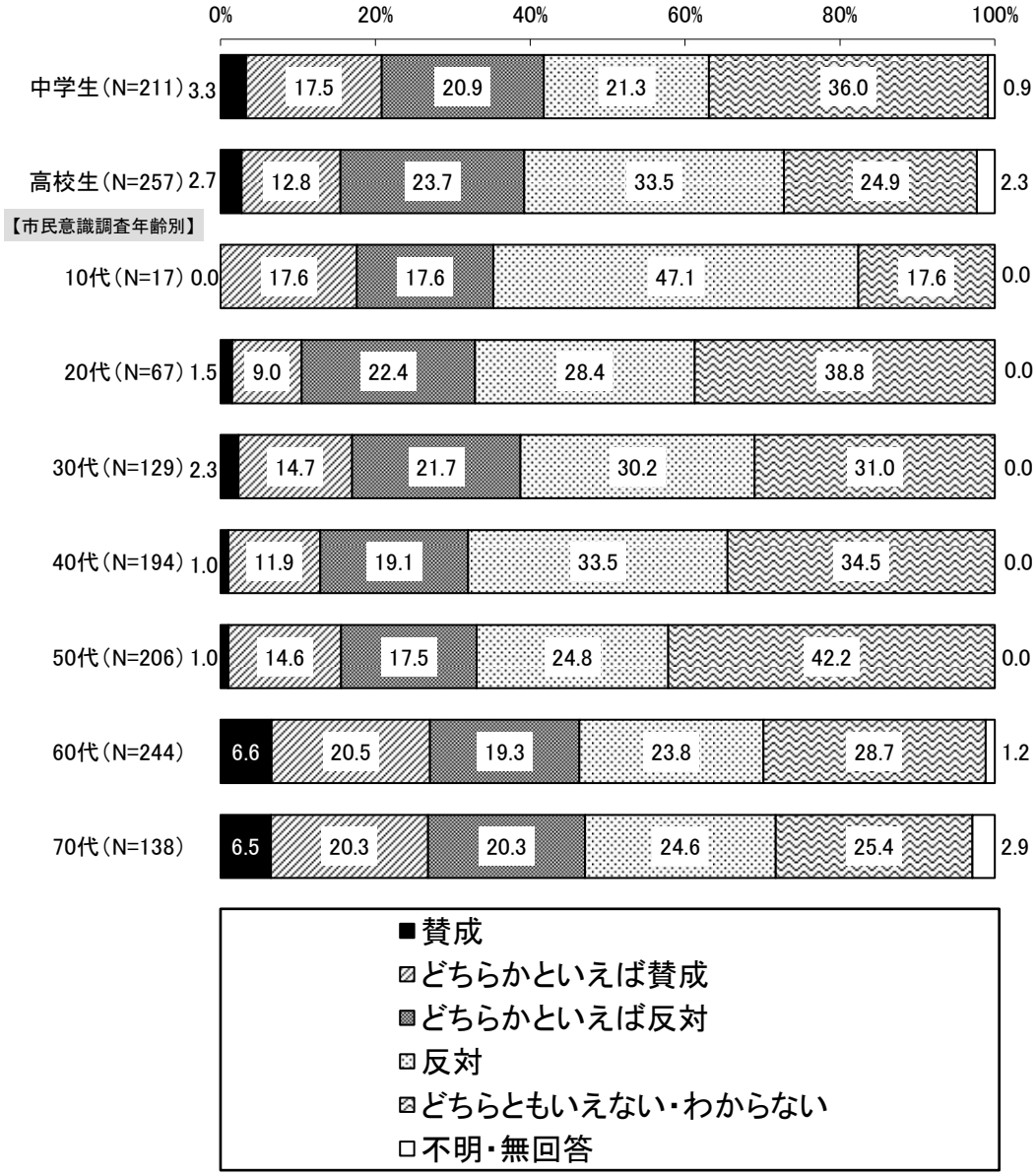
※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

○『賛成派』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの
○『反対派』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

①　夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（単数回答）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方についてみると、『賛成派』が中学生で 20.8%、高校生で 15.5%となっています。

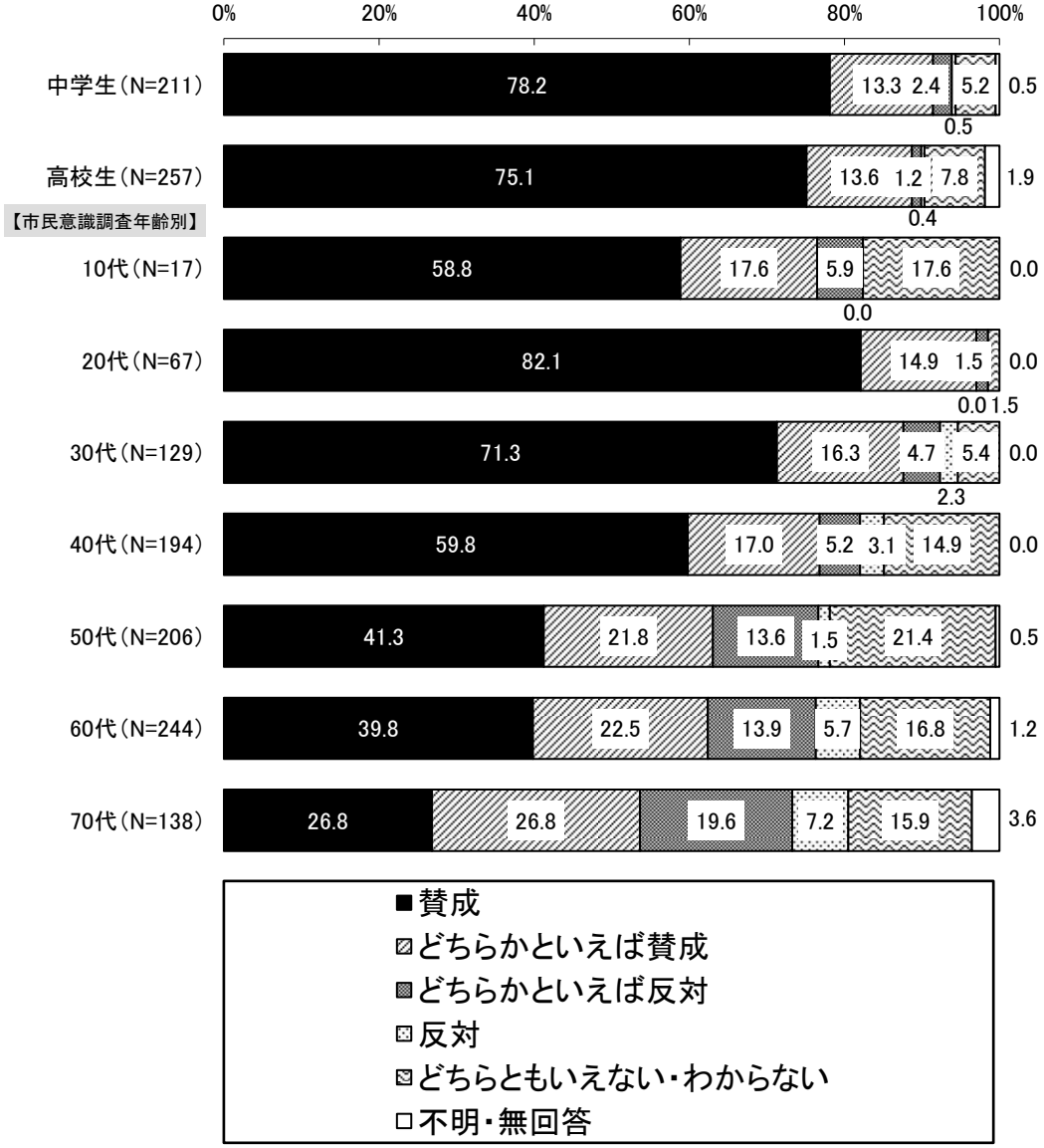
市民意識調査の年齢別でみると、60 代、70 代で『賛成派』が 25%を超えて高くなっています。



② 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい（単数回答）

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよいという考え方についてみると、『賛成派』が中学生で 91.5%、高校生で 88.7%となっています。

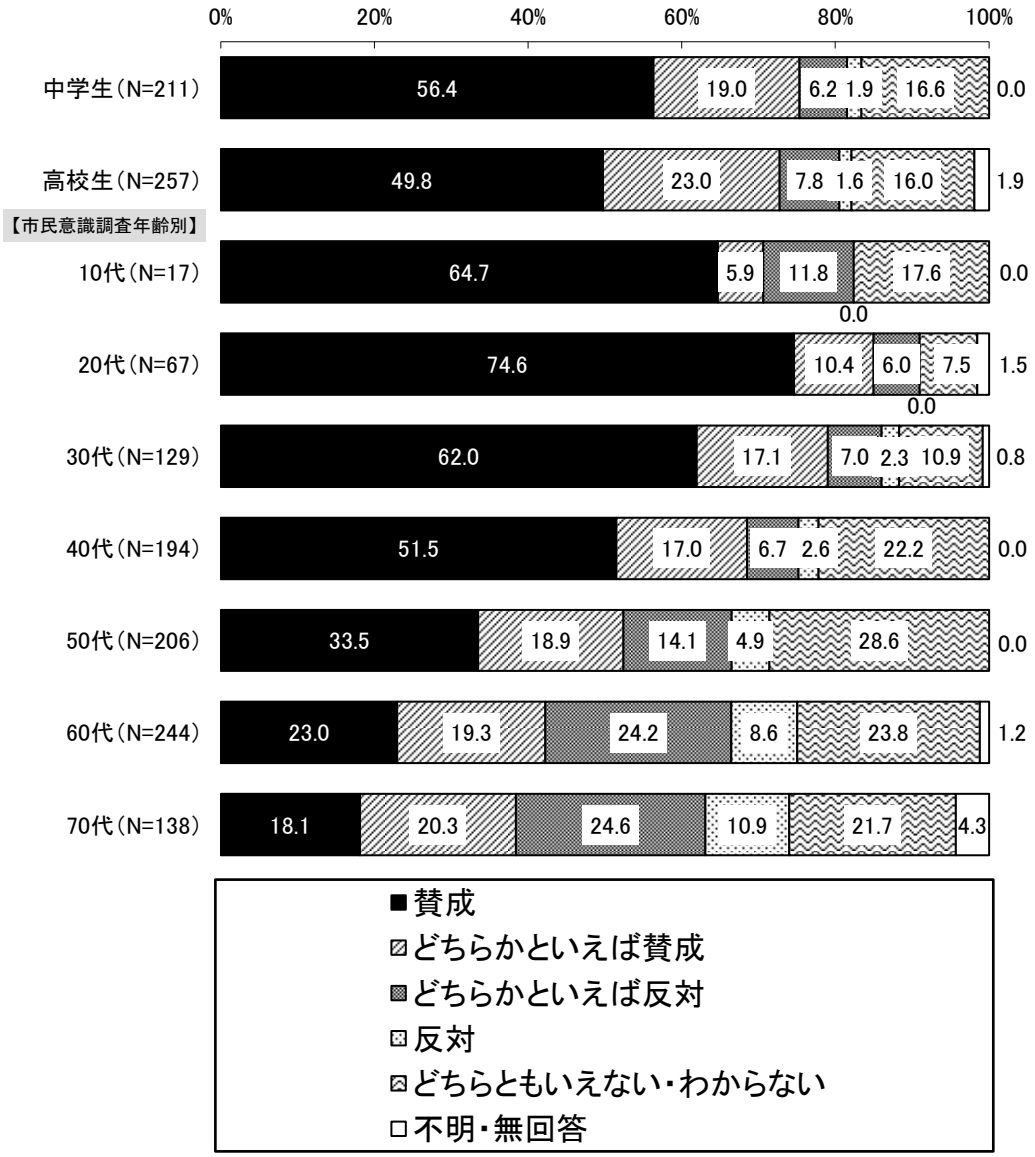
市民意識調査の年齢別でみると、20 代から年齢が上がるにつれ、『賛成派』が低くなっています。



③ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない（単数回答）

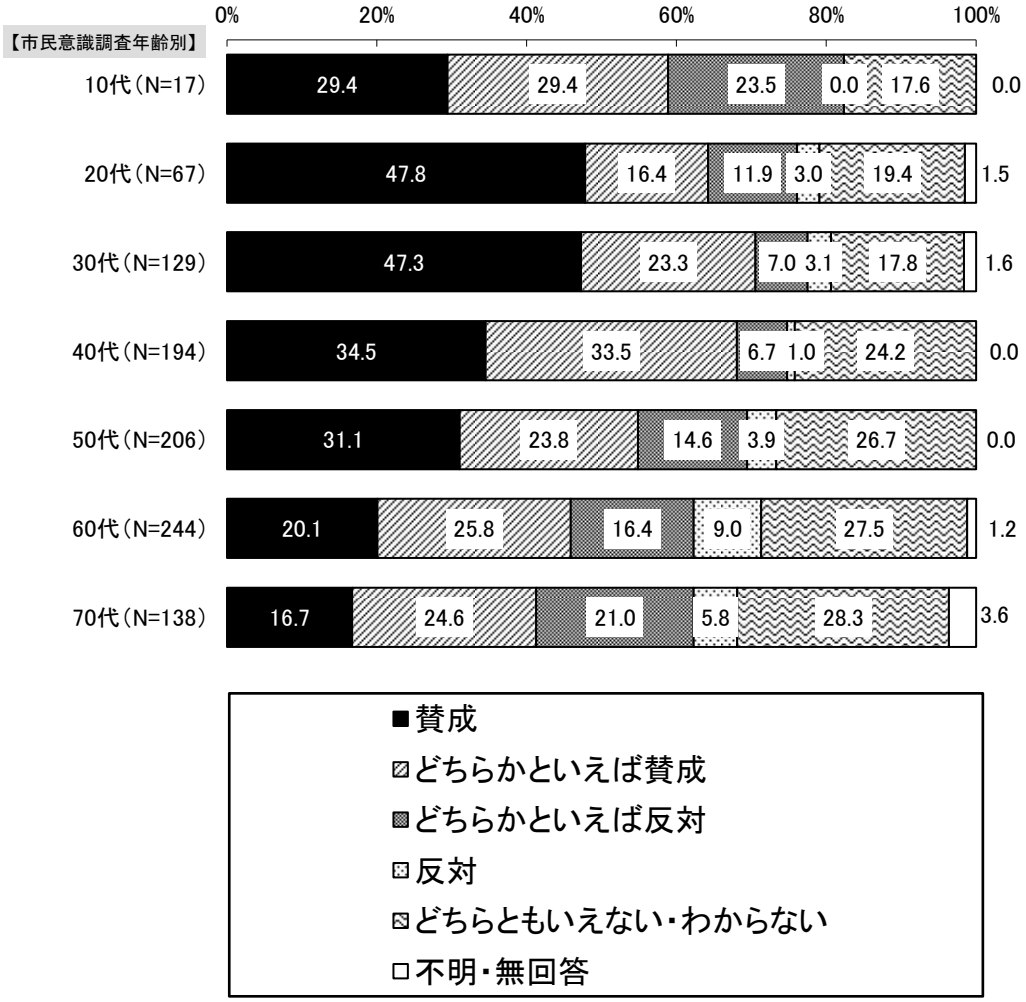
結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないという考え方についてみると、『賛成派』が中学生で75.4%、高校生で72.8%となっています。

市民意識調査の年齢別でみると、20代から年齢が上がるにつれ、『賛成派』が低くなっています。



④ 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（単数回答）

結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいという考え方についてみると、すべての年代で『賛成派』が『反対派』を上回っています。特に 30 代で『賛成派』が 70.6％と最も高くなっています。



※市民意識調査のみの設問（若年者調査では設定していない質問）

（2）仕事と家庭生活との両立について

① 理想とする家庭の姿（単数回答）

理想とする家庭の姿についてみると、すべての年代で「夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭」が最も高く、次いで「夫婦がともに働くが、母親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭」となっています。

年齢別でみると、中学生、高校生及び市民の 60 代、70 代で「父親が仕事に、母親が家事・育児に専念できる家庭」が、市民の 40 代、60 代以上で「３世代世帯同居や近居などで、子育てや介護を相互に協力し合える家庭」が 10%を超えて高くなっています。中学生及び、30 代以上では「子どもが小さいうちは夫婦どちらかが家事・育児に専念し、子どもが成長したあとは父親と母親がともに仕事と家事・育児を協力し合う家庭」が 10%を超えて高くなっています。

■クロス集計集　（単位：%）

区分		夫婦がともに仕事も家事・育児も協力し合える家庭	父親が仕事に、母親が家事・育児に専念できる家庭	※母親が仕事に、父親が家事・育児に専念できる家庭	夫婦がともに働くが、母親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭	※夫婦がともに働くが、父親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭	3世代世帯同居や近居などで、子育てや介護を相互に協力し合える家庭	子どもが小さいうちは夫婦どちらかが家事・育児に専念し、子どもが成長したあとは父親と母親がともに仕事と家事・育児を協力し合う家庭	結婚をして子どもを持つという従来の家庭の在り方にとらわれたくない	その他	わからない	不明・無回答
中学生（N=211）		45.0	9.0	1.9	12.8	0.0	2.8	10.0	4.3	0.5	11.4	2.4
高校生（N=257）		55.6	3.5	0.8	11.3	0.0	3.1	6.2	6.2	0.4	9.7	3.1
市民意識調査年齢別	10 代（N=17）	58.8	5.9		17.6		0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0
	20 代（N=67）	53.7	0.0		25.4		4.5	6.0	4.5	1.5	3.0	1.5
	30 代（N=129）	47.3	3.9		20.9		2.3	15.5	5.4	2.3	2.3	0.0
	40 代（N=194）	44.3	4.1		19.6		10.3	17.5	2.6	0.5	0.5	0.5
	50 代（N=206）	47.6	3.4		17.5		8.7	11.7	3.9	0.5	4.9	1.9
	60 代（N=244）	37.7	5.3		23.0		13.1	11.5	0.4	1.2	2.5	5.3
	70 代（N=138）	32.6	2.2		22.5		15.9	13.0	2.9	0.7	5.1	5.1

※選択肢「母親が仕事に、父親が家事・育児に専念できる家庭」「夫婦がともに働くが、父親はパートなどでゆとりを持って家事・育児ができる家庭」については、中高生のみ。

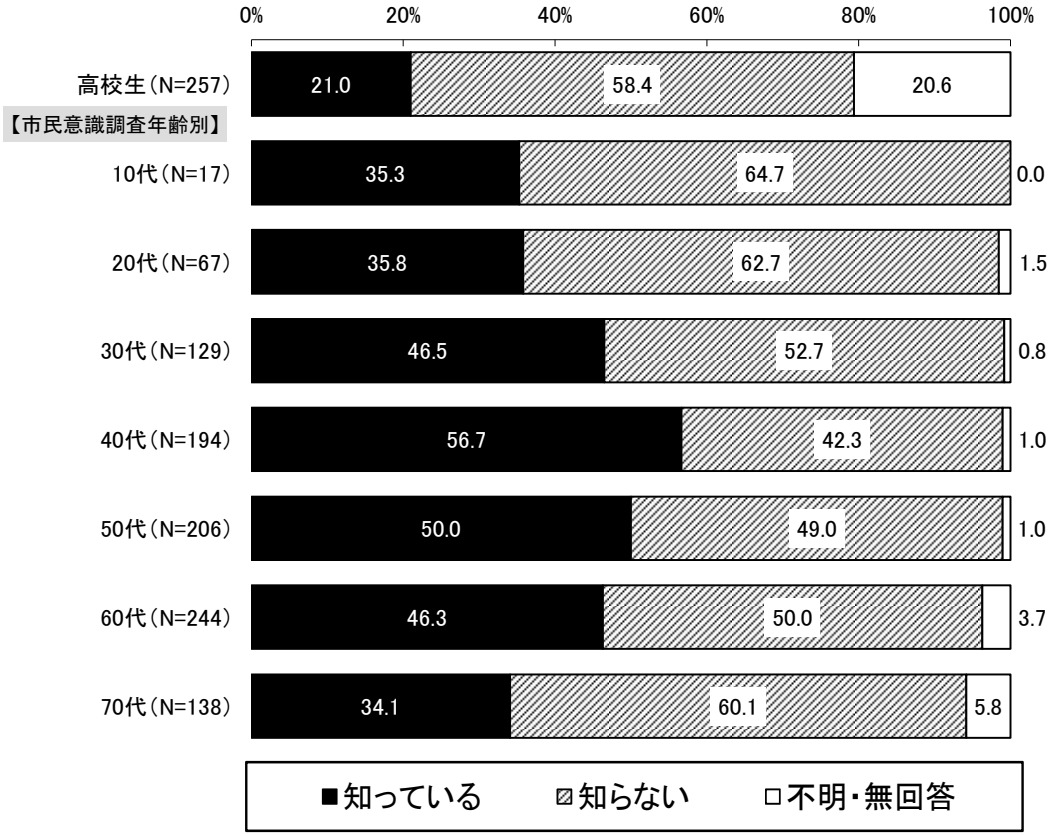
４　配偶者や恋人からの暴力について

（1）配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度

①　配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度（単数回答）

配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口の認知度についてみると、「知っている」が高校生で 21.0％となっています。

市民意識調査の年齢別でみると、すべての年代のうち、40 代で「知っている」が 56.7％と最も高くなっています。



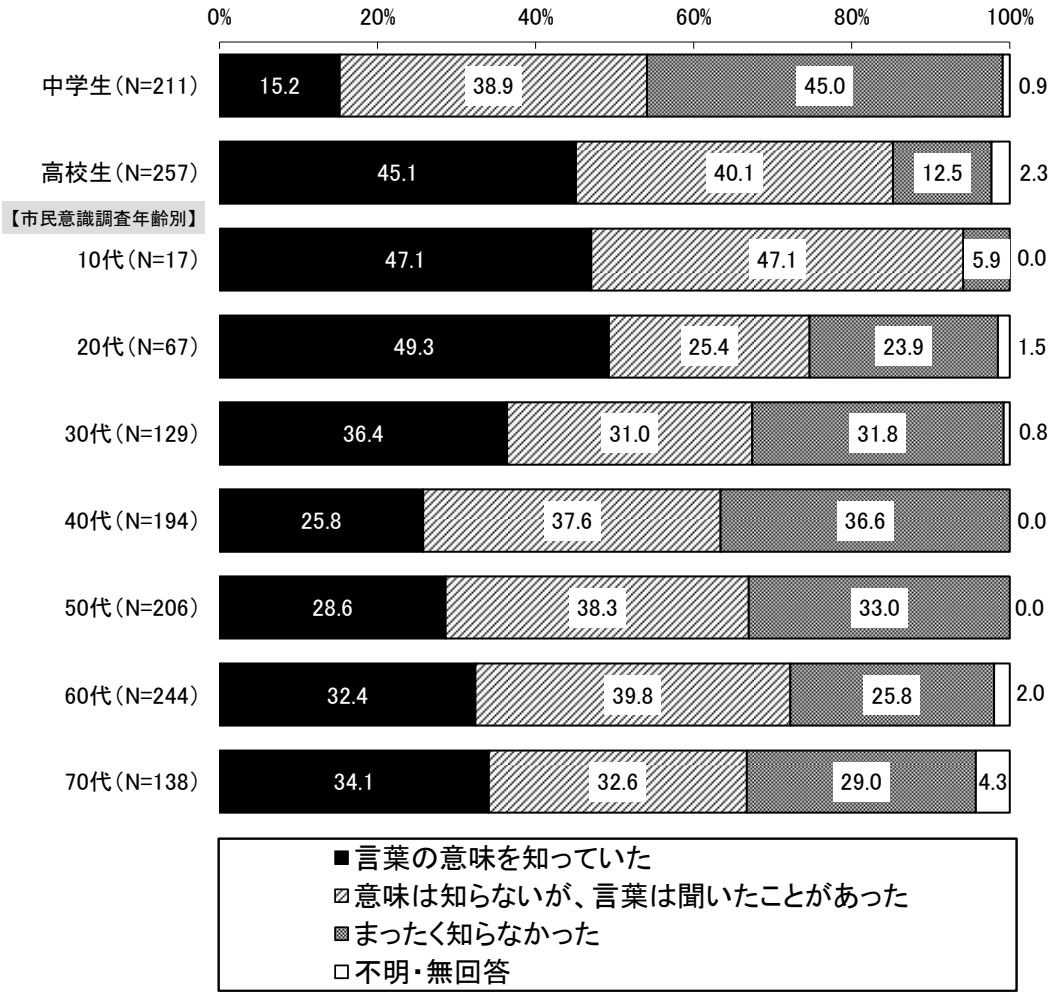
5　男女共同参画全般について

（1）男女共同参画の認知度

①　男女共同参画の認知度（単数回答）

男女共同参画の認知度についてみると、「言葉の意味を知っていた」が高校生から 20 代で 45%を超え、高くなっています。また、「まったく知らなかった」が中学生で 45.0%と、他の年代と比べて高くなっています。

市民意識調査年齢別でみると、すべての年代のうち、10 代で「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が 47.1%と最も高くなっています。



西尾市男女共同参画に関する意識調査
【調査結果報告書】

発行年月　令和５年３月
発　　行　西尾市
編　　集　市民部　地域つながり課
〒445-8501
愛知県西尾市寄住町下田 22 番地
TEL　0563-65-2178（直通）
FAX　0563-57-1314